

出セシムヘキニ付其利子ヲ協定シテ届出ヘキコトヲ達セラル
十月二十日官用ノ爲メ外國船舶ヲ購入スル時ハ約定確定前税關ニ通牒セシメ税關ヨリ大藏省ニ報告
スヘキコトヲ達セラル
十一月六日横濱税關ニ於テ各國商人ノ便利ヲ謀ランカ爲メ一港ニ於テ納税シタル輸出品ヲ船舶ノ
都合ニ依リ他港ニ陸揚スルノ場合ニ内則ヲ定メタルヲ以テ本關ニ於テモ之ニ準據シテ施行スヘキコ
トヲ達セラル

參照

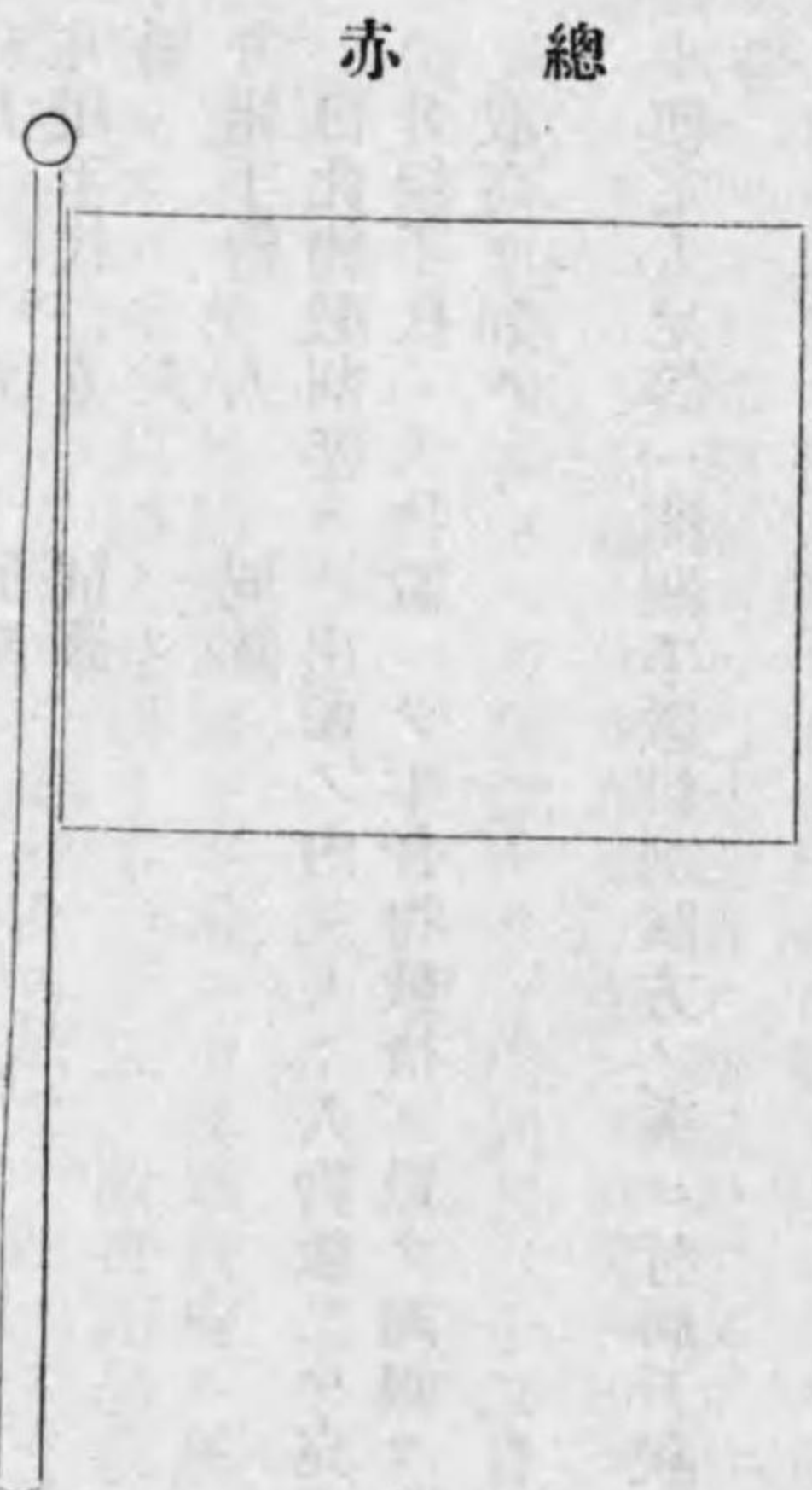
- 第一條 甲港ニ於テ税銀ヲ納濟ノ輸出品ヲ船舶ノ都合ニ依リ乙港ニ廻漕シ直チニ他船ニ積移
サスシテ一時之ヲ陸揚セント欲セハ再出スル時マテ其物品ヲ乙港ノ借庫ニ入置ク可シ
- 第二條 前條乙港ニ陸揚シタル輸出品ヲ借庫ニ入ル、ヲ欲セス或ハ一旦借庫ニ入ル、
トモ都合ニ依リ之ヲ再出セス更ニ引取ラント欲スル者ハ乙港ニ於テ甲港ノ輸出免狀ニ其旨
ヲ裏書シ之ヲ荷主ニ返與スヘシ
- 第三條 前條乙港ニ於テ裏書シタル免狀ハ各港遠近ノ別ナク裏書ノ日附ヨリ六十日以内ニ之ヲ
甲港ニ差出シ最前納置タル税銀ヲ請戻スヘシ但此期限ヲ過クレハ假令確證アリトモ其税銀
ヲ返與セサル可シ
- 第四條 前條ノ物品ヲ再出セント欲セハ更ニ其輸出税銀ヲ納ムル事勿論タルヘシ

○同月十一日内外金銀通貨古金地金ノ類外國輸出入ハ勿論内國各港ヘノ出人モ即日詳細本寮ヘ報告
スヘキコトヲ達セラル○同月十四日米麥粉ハ米麥ト等シク無税輸出ヲ許スヘキ旨達セラル

明治七年

一月十六日秘魯國ヨリ輸入スル鳥糞ハ無税タルヘキコトヲ達セラル○同月二十日各税關ノ事務大ニ
進歩シ諸般ノ紀律整頓シタルヲ以テ事務ノ往復税金贈收等ノ煩ヲ避ケンカ爲メ横濱税關ノ管轄ヲ解

キ各港税關ノ職制ヲ改メ長次官ヲ以テ税關長及副長ト稱シ最前ノ體裁ニ復シ租税寮ノ統轄ニ付ス
二月二十日日本關付屬小船ニ用フヘキ旗章ヲ左ノ如ク定ム



○同月二十三日從來税關ニ於テ徵收シタル二重税及積荷目録改謝金ハ過料雜税ノ區別判然タラサリ
シモ自今總テ過料ニ編入スヘキ旨達セラル
備考

條約ニ據リ積荷目録中ニ掲載セサル貨物ヲ陸揚シタルトキハ二重ノ運上ヲ日本役所ニ納メ又積
荷目録提出後二十四時間ヲ經テ訂正ヲ請フトキハ一定ノ科料ヲ日本役所ニ納ムルコト、定ム
○同月二十七日外國人民ヨリ西京博覽會ヘ出陳スル器物ハ税關ニ於テ特ニ定メタル手續ヲ了セシメ
無税通關セシムヘキコトヲ達セラル
三月十七日銅錢輸出ノ禁ヲ解キ金銀貨ト等シク無税輸出ヲ許スヘキ旨達セラル
四月十二日外國人ニ限リ銅錢ノ輸出ヲ禁スル旨達セラル○同月二十九日貿易定則ニ掲タル積荷目録

書改時限中ニハ休日ヲ算入セサルコト、定メラル
五月四日臨時開關手数料處分法ヲ定メ臨時勤勞者ニ配賦スヘキ旨達セララル
參照

函館 稅關
臨時開關處分ノ儀ニ付橫濱稅關同ヒ別紙之通及指令候條爲心得此旨相達候事
明治己午五月四日
租稅頭 松 方 正 義 印

(橫濱稅關伺文畧ス)

- 一 判任 一人 二ツ
 - 一 等外 一人 一ツ半
 - 一 目利人 一人 同斷
 - 一 三井組手代 一人 同斷
 - 一 付屬 一人 一ツ
 - 一 三井組手傳 一人 同斷
- 但此物數割警ヘハ出頭ノ内三人二人物數二ツ宛四ツ等外三人物數一ツ半ツ、四ツ半三井組手代一人物數一ツ半合物數拾ヲ以テ謝銀ヲ除シ一ツノ物數ヲ得各自ノ物數ヲ乘シ取高ヲ知ル

函館 稅關
其關備小使定人足等ヘ開關手数料割賦方ノ義ニ付神戶稅關同ヘ別紙ノ通指令及候條爲心得此旨相達候事
明治己午五月五日
租稅頭 松 方 正 義
(前略) 小使定人足等ヘ開關手数料割賦方ノ義ハ晝夜ヲ不論都而付屬ノモノ同様出頭ノ者一

(神戶稅關伺畧ス)

人ニ付物數一ツノ當リヲ以テ分與致サルヘク候事

○同月十二日外國人ヨリ日本銀地金ヲ改鑄ノ爲メ造幣寮ニ回漕センコトヲ甲港稅關ニ出願スルトキハ輸出禁制品内地回漕ノ例ニ倣ヒ適宜輸送日數ヲ限リ本人及領事(支那人ハ地方廳ノ奧書ヲ以テ領事ノ書面ニ代ユ)ヨリ其期限内ニ乙港稅關ノ陸揚證明書ヲ提出セサルニ於テハ現品相當ノ代價ヲ甲港稅關ニ納ムヘキコトヲ記載シタル證書ヲ徵シテ許可スルコト、シ内國人ノ出願ニ對シテハ本人及保證人ヨリ前記ノ證書ヲ徵スヘキ旨達セララル○同月二十二日外國公使其他官員ノ自用品竝公用品ノ輸取出取扱條例ヲ定メラル

參照

- 第一條 日本ニ在ル外國公使館ヘ供輸スル其國政府ニ屬スル品物或ハ公使並其書記官ノ自用品ヲ輸入スルルキハ其國ノ公使ノ手記ヲ以テ政府用品或ハ自用品ニ相違ナク決テ商品ニ非ル旨ノ證書照準スヘシ
- 第二條 日本ニ在ル外國公使館ヨリ輸出スル其國政府ニ屬スル品物或ハ公使並其書記官ノ自用品ハ之ヲ送ル其國ノ公使ノ手記ヲ以テ其國政府用或ハ自用品ニ相違ナク決テ商品ニ非ル旨ノ證書照準スヘシ
- 第三條 第一條第二條ノ手續ヲ爲サル時ハ一般ノ物品ト同様貿易規則ニ照準シ見改メノ上貿易品又ハ自用品ノ差別ヲ以テ取扱フヘシ

書式

余左件ヲ報知ス 我國政府用品
拙者自用品
者附屬書記官自用品
某

處誰某ヘ宛タル何印何號ノ荷物幾個某國某船ヨリ陸揚セント欲ス是レハ商買品ニアラサルカ故検査スルコトナク通關セラレンヲ希望イタシ候敬

具
年 月 日
某國公使姓名手記
某國代理書記官姓名手記
某國總領事兼デプロマチックキエゼント
税關長官誰

六月五日各税關ヨリ領事へ對スル書翰自今都テ日本文ヲ以テスヘキ旨達セラレ

參照

函館 税關

先般横濱税關ヨリ英國領事へ宛テ送タル書翰英文ヲ以テ致本書候儀ニ付同公使ヨリ異論有之外務卿共協議之末已來各税關ヨリ同國領事へ送ル書翰ハ日本文ヲ以テ認候様可致旨大藏卿ヨリ被相達候條得其意可被取計候此旨相達候事

明治七年六月五日

租税頭 松 方正 義

○同月二十日同一會社ノ所有船舶二艘以上同日同時ニ臨時開應ヲ出願シタルトキハ一艘分ノ手數料ヲ徵シ船舶ノ所有者ヲ異ニスル毎ニ一艘分ノ手數料ヲ徵スヘキ旨達セラレ七月二日丁鐵及角鐵ハ追テ外務省ト各國公使ト協議決定ニ至ルマテ百斤ニ付壹分銀〇三ト定ム〇同月三日開拓使所管箱館松蔭町四番地千參百貳拾七坪七分五厘ヲ大藏省官用地ニ編入ス

備考

同地所ハ開拓使所管ニ屬シタルモノナリシカ税關ト開拓使ト交渉ノ結果六月二十六日其筋ニ上請シ七月三日ニ至リ認可ヲ受ケタルモノナリ

○同月七日大藏省ヨリ鐵板等輸入税ニ關シ英獨兩公使ト外務當局者トノ協定事項ヲ通達セラレ

參照

運上目錄中ニ載タル熟鐵ト號スル辭ノ意味ニ付異存差起リ候處之ヲ解シカ爲メ下印ノ者協議及條約書中右一件ニ關スル條款改定相成右一件確ト取極メ候迄ハ日本國運上所ノ官員及品ヲ輸入スル英國人トモ次ニ記スル取極ヲ守ルヘキヲ同意セリ

熟鐵	大細	細	大	百斤ニ付
掉大細	子	バ	ロ	ス
釘	レ	ル	ツ	〇三
板	フ	ツ	ツ	〇三
薄板	シ	フ	ツ	〇三
繩鐵	フ	ツ	ツ	〇三
帶鐵	ベ	ツ	ツ	〇三
鐵塊	レ	ツ	ツ	〇三
鐵脚ニ用ル鐵	ビ	ツ	ツ	〇一五
船脚ニ用ル鐵	ケ	ツ	ツ	〇一五
鐵線	ソ	ツ	ツ	〇一六
鐵線	ソ	ツ	ツ	〇一八

右ノ分熟鐵諸類ハ邊形鉄及ヒ稜鉄ヲ除クノ外總テ「掲ケサル品物」ノ部分ト見做シ隨テ從價五分ノ税ヲ收ムヘシ邊形鉄及稜鉄百斤ニ付一分銀〇三ノ定額税ヨリ多ク收ムヘキ哉否ヤハ別段ニ商議スヘシ
帝國運上所ニテ前文ニ掲載スル税高ヨリ過分ニ收納セシ税ハ總テ輸入者ヨリ願出候時之ヲ差戻スヘキ也

千八百七十四年五月十日

寺 島 宗 則
バ ー ク ス

○同月十七日從來外國人居留地事務ハ税關係兼掌シタレモ爾來常事係ノ所管トス〇同月十九日外國人カ内地ニ於テ製造シタル汽船ヲ買入ル、ニ際シテハ噸税(船舶ノ噸數ニ應ジテ輸入税)ヲ徵セサルコト、

定メラル○同月二十八日輸出品本船へ運送ノ際途中ニテ沈没シタルトキハ輸出税全部ヲ貨主ニ返戻シ又非常ノ爲損傷ヲ生シ貨主ヨリ返税ヲ請求シタルトキハ検査ノ結果ニ依リ減税スルコト、シ本船ニ積載シタルトキヲ以テ輸出ノ期ト定メラル○同月二十九日再輸出品ニシテ曩ニ輸入シタルトキノ納税済證書ヲ提供セサルモノハ明カニ輸入品タルコトヲ知り得ルニ拘ラス再輸出ニ際シテ輸出税ヲ課シタリト雖モ自今其外國産タルコト明瞭ナルモノニ限り税済證書ヲ提供セサルモ無税輸出セシムヘキコト、定メラル

八月一日米麥ノ輸出ヲ禁セラル○同月二日各國商船出港手數濟ノ後荷役ヲ請求シタルトキハ其情狀ヲ調査シ已ムヲ得サルモノハ更ニ人出港手數料ヲ徵シ之ヲ許可スルコト、セラル○同月三日官廳ニ於テ外國船ヲ雇入不開港ニ回漕スルトキハ外務省ニ於テ該免狀ヲ附與スル際其寫シヲ税關ニ交附シ尙官廳ヨリ當該税關ニ通告スルコト、定メラル○同月二十二日內國産貨物ノ輸出シタルモノヲ再輸入スルニ方リ輸出證ヲ添へ内地開港へ積戻リタルトキハ其輸出セシ日ヨリ五ヶ年以内ニシテ數量及包裝ヲ變スルコトナク且其申告者ハ輸出當時ノ貨主若クハ其代理人ナルトキハ無税通關セシメ又申告者ニシテ輸出當時ノ貨主若クハ其代理人ニ非サルカ數量及包裝ヲ變シタルカ輸出證ヲ添へサルカ又ハ五ヶ年ヲ經過シタルトキハ新ニ輸入シタルモノト認メテ徵税スルコト、定メラル但外國産貨物ヲ輸入シ再ヒ輸出シテ更ニ輸入スルトキハ輸出證ヲ添フルモ尙前項ニ準シ徵税スルコト、定メタル旨達セラル○同月二十三日日本關附屬小船ニ用ユヘキ旗章ヲ左ノ如ク定ム

關 稅

地 白
字 黑

○同月外國人船舶ヲ購入シタルトキ領事不在ノ爲メ購入手續ヲ完了スル能ハスシテ出港免狀ノ下附ヲ出願シタルトキハ該船舶ハ舊所有者ノ船籍トシ其國ノ旗章ヲ掲ケシメ出港手數ヲナサシムヘキ旨ヲ達セラル

九月二十二日内地居留ノ外國人內國ノ木材ヲ以テ船舶ヲ製造シ貨物若クハ重リ砂ヲ積載シテ出帆スルモノハ其進水ノ日ヲ届出シメ之ヲ入港届ト看做シ入出港ノ手數料ヲ徵シ船舶ノ大小ヲ問ハス噸稅ヲ徵セサルコト、定メラル○同月同日舊金銀貨幣ノ價格ニ關シテハ曩ニ太政官布告第九十三號ヲ以テ公布セラレタレトモ稅關收稅ニ限リ内外人ノ別ナク從前ノ比較表ニ依リ收稅スヘキ旨達セラル○同月二十九日自今天災其他已ヲ得サル事情ニ由ルノ外輸入貨物ニ仕入書ヲ添付セサルモノハ輸入願書ヲ受理セサルコト、定ム又仕入書延着ノ場合ニハ貨物ノ價格五百弗未滿ノモノト雖モ其到着スルマテ該貨物ヲ稅關ノ借庫ニ預リ置キ若シ該貨物ニシテ破裂質ノモノナルトキハ從來ノ慣例ニ從ヒ特ニ設ケタル稅關ノ倉庫又ハ人民所有ノ倉庫ニ預リ置クヘシ但價格二百弗以下ノ貨物若クハ二層高價

ノ貨物ト雖モ腐敗ノ恐アルモノハ仕入書ヲ添付セサルモ稅關長ニ於テ其價格ヲ正當ト認ムルトキハ稅金ヲ徵收シテ通關ヲ許スヘキ旨達セラル

備考

明治二年己巳正月十九日改正借庫規則

第七條

元價五百弗以下ノ貨物ハ借庫ニ入ル、コトヲ許サス

第十八條

無稅ノ諸品建築ノ諸式火藥硝石製藥タル「ピッチ」種油水酸其他爆發ス可キモノ燃易キモノ或ハ危害ナルモノ等一切借庫ニ入ル、コトヲ許サス

十月十七日自今腐敗及消散ノ恐アル物品ヲ輸入スルニ方リ仕入書ヲ提出セサルトキハ豫メ其提出期限ヲ定メ該物品ニ對スル稅金ノ二倍ヲ提供セシメテ通關ヲ許スコト、シ但其際輸入者ヨリ領事ノ調印シタル證書ヲ出サシメ該證書ニハ若期限内ニ仕入書ヲ提出スルトキハ之ニ依リテ稅金ノ過不足ヲ算定シ提出セサルトキハ曩ニ提供シタル稅金ヲ還付セサルコトヲ記入セシムヘキ旨達セラル○同月二十三日定額稅ニ屬スル物品ノ損傷ニ關シテハ稅關ニ於テ鑑定役二人以上立會ノ上損傷ノ程度ヲ驗シ稅金ノ幾分ヲ減スルコト、定メラル

十一月十日國內回漕規則ヲ定メ八年二月一日ヨリ施行シ港内取締規則ハ同日ヨリ廢止ス

參照

第一條 商船甲港ヨリ乙港ヘ向ケ出帆ノ事

凡ソ諸商船日本形西洋形ニ不拘甲港^{定繫}ヨリ乙港ヘ出帆スル時ハ甲港ノ船改所或ハ其筋ノ役所^{定繫}ヘ第一號甲ノ書式ニ從テ記シタル願書ニ通ニ第二號ノ積荷目録ニ通ヲ添ヘテ差出スヘシ改所或ハ役所ニ於テ其積荷目録ニハ改濟ノ檢印ヲ捺シ願書ヘハ第一號乙ノ書式ニ從テ與書シ一通ハ役所ニ留メ置キ一通ハ船長ヘ下渡シ出帆可差許事

但甲港ノ船乙港ヘ入津シ其積荷ヲ揚陸シ更ニ他ノ物品ヲ積込兩港ヘ出帆シ又ハ甲港ニ歸帆

スルモ本文同様ノ手續タルヘシ尤定繫港ニ限リ碇泊稅相納ルニ不及事

第二條 商船甲港ヨリ乙港ヘ入津ノ事

凡ソ商船甲港ヨリ乙港ヘ入津セハ若後二十四時ニ其港船改所或ハ其筋ノ役所^{定繫}ヘ第三號甲ノ書式ニ從テ記シタル願書ニ通ニ船免狀或ハ船稅鑑札甲港ノ出帆免狀積荷目録ヲ添ヘ差出スヘシ改所或ハ役所ニ於テハ第三號乙ノ書式ニ從テ記シタル入港免狀下渡シ荷物揚陸可差許事

第三條 商船免狀船稅鑑札等所持セサル者及ハ入港屆等關ニスル者科料ノ事

船免狀或ハ船稅鑑札並ニ出帆甲港ノ免狀無之者或ハ入港屆等關ニ致シ候者等有之ニ於テハ船ノ大小ニ從ヒ船稅規則ノ割ヲ以テ第十五條ニ照準シ科料可申付事

第四條 商船他港ヨリ碇繫港ヘ歸着ノ事

凡ソ諸商船乙港ヨリ甲港^{定繫}ニ歸着セハ總テ第二條ニ準スヘシ但積荷無之節ハ第四號ノ書式ニ從テ記シタル願書ニ乙港ノ免狀及ヒ船免狀船稅鑑札ヲ差出スヘシ尤入港免狀ハ下ケ渡サ、ル事

第五條 免狀手數料ノ事

凡ソ諸商船出帆入港共免狀相渡候節ハ船ノ大小ニ拘ハラス免狀一通ニ付手數料トシテ貳錢宛可相納事

第六條

定繫船ヲ除クノ外諸商船港内ヘ碇泊セハ第十五條ノ通り碇泊稅可相納事

但五十石未滿ノ商船小廻船解魚船ノ類ハ碇泊稅ヲ納ムルニ不及ト雖モ無証印ノ船有之時ハ本年第二十一號布告ニ照準處分スヘキ事

第七條 商船風潮不順ニ依リ入港ノ事

凡ソ諸商船風潮ノ不順ニ依リ一時無餘儀入港シ二十四時間ニ出帆スルモノハ屆書ヲ差出シ碇泊稅ヲ納ムルニ不及ト雖モ右時間以上碇泊スルモノハ其港船改所或ハ其筋ノ役所^{定繫}ヘ第五號甲ノ書式ニ從テ記シタル願書ヲ差出シ且碇泊稅ヲ納ムヘシ改所或ハ役所ニ於テハ第五號乙ノ書式ニ從テ記シタル免狀可下渡事

第八條 商船避難ノ爲メ碇泊ノ積荷物賣買ノ事

諸商船一時避難ノタメ碇泊シ其船ノ都合ニ依リ其港ニ於テ積荷揚陸賣拂ヒ候節ハ通常入津ノ手續ヲ以テ第六號甲ノ書式ニ從テ記シタル届書ヲ差出シ且碇泊稅ヲ納ムヘシ改所或ハ役所ニ於テハ第五號乙ノ書式ニ從テ記シタル免狀可下渡事

但買入積込候節ハ第一條ノ通タルヘキ事

第九條

出入港相定メ候郵船ノ類手續料並碇泊稅ノ事

郵船ノ類甲乙兩港ノ間平生往來相定候分假令ハ東京ト横浜大坂ト神戸ト出入ノ毎度手續料碇泊稅取立候テハ時間相費營業ノ差支ニモ可相成ニ付右等ノ分願ノ上一ケ月分出入ノ度數ヲ計リ手續料碇泊稅共碇泊稅ハ碇繫ノ外都テ規則ノ割合半方宛半方前納候上ハ殘取纏毎月初旬中ヲ限リ第七號甲ノ書式ニ從テ記シタル手形ヲ以テ一時上納スルニ於テハ第七號乙ノ書式ニ從テ記シタル免狀可下渡事

第十條

港則違犯ノ事

凡ソ諸商船出入共開港場ハ勿論其他ノ港内ニ於テモ積荷或荷足品ヲ揚卸スル時ハ波戶場ノ順序等總テ其港ニ於テ定メタル規則ニ從フヘシ若シ之ヲ犯スモノハ第十五條ニ照準シ科料可申付事

第十一條

通船無之土地新規掘割口錢取立ノ事

從前通船無之土地ヲ願ノ上新タニ掘割運輸ノ便ヲ開キ候者掘割入費支消ノタメ年季ヲ定メ通船ヨリ口錢等取立候類ハ此規則ノ例ニアラサル事

第十二條

出帆願書其他諸書式ノ事

出帆願書其他ノ諸書式ハ雛形ノ通各府縣ニ於テ黒字ノ通上梓朱字ノ分其時々填書候様致シ置キ船改所或ハ其筋役所ニ於テ可下渡事

第十三條

輸出入品届書ノ事

出入港品ハ品名箇數尺度斤量元價並ニ其向ケ場仕出場等精細第八號第九號書式ノ通記載致シ月末毎ニ各府縣ヨリ租稅寮ヘ可差出事

第十四條

各港出入船舶届書ノ事

各港出入ノ船舶ハ管轄船舶形船名積高並ニ仕出場入港日仕向場出港日等精細第十號書式ノ通記載致シ各府縣ヨリ租稅寮ヘ可差出事

第十五條

碇泊稅並ニ諸科料等ハ都テ左ノ算則ニ照準可取立事

碇泊稅	五十石以上	每十石	壹錢
	二十石以上	每十石	七厘五毛
	五十石以上	每十石	五厘
船免狀船稅鑑札所持セサル者科料	每百石		金五圓
日本形 船	每百石		金七十五圓
西洋形汽 船	每百噸		金五十圓
西洋形帆走 船	每百噸		金四圓
日本形 船	每百石		金四圓
西洋形汽 船	每百噸		金六十圓
西洋形帆走 船	每百噸		金四十圓
日本形 船	每百石		金三圓
西洋形汽 船	每百噸		金四十五圓
西洋形帆走 船	每百噸		金三十圓
積荷無之船歸港届等閑ニスル者科料	每百石		金二圓
日本形 船	每百噸		金三十圓
西洋形汽 船	每百噸		金二十圓
西洋形帆走 船	每百噸		金壹圓
港則違犯ノ者科料	每百石		金壹圓

西洋形汽船 每百噸 金十五圓
西洋形帆走船 每百噸 金十圓
但西洋形汽船噸數ヲ以テ唱へ候分碇泊税ニ限リ壹屯ハ我六石七斗二升ノ割ヲ以テ石ニ直
シ可取立事 第十六條

五十石未滿ノ小船ハ碇泊税手数料等相納ルニ不及事

○同月二十四日昨年一月發布シタル臨時開關規則第二條ノ次ニ追加セラル

參照

臨時開關規則追加

開關時間中ニ手數既濟ノ輸出物ヲ休日々出後及ヒ^{休日}日沒後船積シ又ハ輸入品ヲ上屋ヨリ引取
又ハ本船ヨリ假ニ上屋へ陸揚シ且ツ積荷船移等セント願フ者ハ其時限ニ因テ次ノ割合ヲ以テ謝
金ヲ出スヘシ

休日々出後日沒迄ハ一時間毎ニ

壹弗宛

平日 日沒後日出迄ハ一時間毎ニ

壹弗五拾セント宛

○同月同日價格比較表中ニハ古壹分銀ト壹分銀トノ二種アリ而シテ内國人ヨリ徵收スル壹分銀ハ表
中ノ古壹分銀ニ非スシテ壹分銀ナルコトヲ達セラル○同月稅關ノ收稅ニハ内國人ヲ限リ太政官布告
第九十三號ニ依リテ徵收シ外國人ハ條約改定ニ至ルマテ從前ノ比較ヲ以テ收稅スヘキ旨ヲ達セラル
十二月十八日在外國我公使領事館備品其他各國政府へノ贈答品等都テ官用ニ屬スル物品ノ輸出手續
ヲ定メラル○同月臨時開關追加規則中積荷ヲ船移シスルトキ其時間ニ應シ定例ノ謝金ヲ徵スルコト
ヲ曩ニ通告シタルモ右ノ内甲郵船ヨリ乙郵船或ハ倉船ニ積載貨物ノ船移シヲナストキハ謝金ヲ徵セ
サルコト、シ郵船ヨリ商船ニ又ハ商船ヨリ郵船ニ船移スルトキハ定例ノ謝金ヲ徵スルコト、定メラル

ル

明治八年

二月五日函館稅關事務室模樣替許可セラル

備考

從來本關建物ノ内楮上ノ一室ヲ事務室ニ充テ其他ハ應接室物置等ニ用ヒ又楮下ハ宿直室人民扣
室及監吏詰室トシテ疊敷トセリ又外ニ白洲及牢獄ノ設ケアリテ稅法違犯者ヲ裁判シ又ハ投獄ス
ルノ仕組トナリ居リシカ此時ニ至テ楮下ニ事務室ヲ設ケ從來ノ疊敷ヲ撤シ白洲及牢獄ヲ廢シ楮
上ヲ長官室庶務室應接室ニ充テタリ

○同月七日布告第二十號ヲ以テ外國形日本船輸出入稅未納内外貨物回漕規則ヲ公布シ四月一日ヨリ
實施スルコト、定メラル

參照

外國形日本船輸出入稅未納内外貨物回漕規則

- 第一條 日本郵船會社其他日本船ニテ日本沿海回漕免許ヲ得タル外國船舶ニ限リ自今國內各
開港場ニ輸入稅未納ノ外國貨物並貨主外國人ニテ輸出稅未納ノ內國貨物回漕差許候就テ
ハ從來内外交涉密賣買ノ儀ハ嚴禁ノ處尙右ニ類スル所業有之候テハ不相濟儀ニ付回漕規
則ヲ設ルコト左ノ如シ
- 第二條 凡ソ外國形ノ日本船舶ハ都テ出入港手數並ニ諸貨物船積船卸共各開港場ニ於テハ稅
關ノ所轄トス
- 第三條 前條ノ船滯港中ハ稅關ヨリ監吏乗勤スヘシ
- 第四條 前條ノ船貨物ヲ船積シ或ハ船卸スルハ日出ヨリ日沒迄ニ限ルヘシ若シ夜中竊ニ貨物
ヲ積卸スル時ハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ
但日沒ヨリ日出迄ハ船中ノ艙口ヲ固封シ置ヘシ若シ勝手ニ開封スル時ハ其船長或ハ

- 第五條 其會社ニ金六十圓ノ罰金ヲ課スヘシ
 甲港ヨリ乙港ニ回漕スル前條ノ船ニ未納稅内外貨物ヲ積入シ乙港ニ輸送セント欲スル時ハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書各稅關ニ用フル積送差出書式ニ貨物ノ品種箇數記號番號元價等詳細相認メ積送ノ義稅關ヘ願出貨物檢査濟ノ上積送免狀ヲ受ケ積入ルヘシ若シ此手數ヲ經スシテ積入ル、時ハ其現品ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タル者ハ必ス右免狀ニ點視シ之ニ照シテ其品ヲ積入ルヘシ若シ無免狀ノ貨物ヲ船積セハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或ハ其船長ヘ其品價同價ノ罰金ヲ課スヘシ
- 第六條 甲港ニ碇泊スル外國船ヨリ都合ニヨリ直ニ貨物ヲ船移シ乙港ニ積送ラント欲スル時ハ其貨主或ハ其引受人ヨリ船移回送ノ差出書各稅關ニ用フル船移書式ニ貨物ノ品種箇數記號番號等詳細相認メ船移ノ儀稅關ヘ願出右免狀ヲ受ケ船移スヘキ儀ナレハ其船長或ハ會社タル者ハ右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ船移スヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移スル時ハ其現品ヲ沒收シ且其品價同價ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ
- 第七條 前條ノ船船ヨリ輸出稅未納內國貨物ノ外國船ヘ積移スルコトヲ許サス若シ密ニ之ヲ船移シ又ハ船移セント謀ラハ事ノ成否ヲ問ハス其貨物ヲ沒收シ且其會社或ハ其船長ニ其品價同價ノ罰金ヲ課スヘシ
- 第八條 前條船貨物積入レ甲港ヲ出港セント欲スル時ハ其船長或ハ其會社ヨリ第一號ノ如ク積送貨物ノ總目錄二枚一枚ハ甲港稅關ヘ置キ一枚ハ乙港稅關ヘ送達スヲ認メ稅關ヘ差出シ出港免狀ヲ受ケ出港スヘシ若シ手數ヲ經スシテ出港スル時ハ總目錄ニ記載スヘキ品價同價ノ罰金トシテ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ但汽船ハ出港前一時帆船ハ出港前二時汽船ハ出港前二時帆船ハ出港前二時
- 第九條 前條ノ船甲港ヨリ乙港ニ通航中風順ニヨリ不開港場ヘ入津スルル輸入稅未納ノ外國貨物或ハ貨主外國人ニシテ內國品ヲ船卸スヘカラス若シ船卸スル時ハ密商スルト否トヲ問ハス其現品ヲ沒收シ且其品價同價及金一千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ
- 第十條 前條ノ船乙港ニ入港セハ其稅關ヘ第二號書式ノ如ク未納稅内外貨物ノ輸入總目錄一通ヲ差出スヘシ尤此手數ハ入港下碇後休日ヲ除キ四十八時間ニ爲スヘシ此時間ヲ過ク時

- 第十一條 一日毎ニ金六十圓ノ罰金ヲ課スヘシ
 前條ノ輸入貨物總目錄中若シ誤脱アルヲ覺知セハ休日ヲ除キ二十四時間ニ更正スルコトヲ得ヘシ若シ期限ヲ過キ更正スル時ハ金拾五圓ノ罰金ヲ課スヘシ
- 第十二條 前條ノ輸入貨物總目錄ヲ甲港ヨリ已ニ回達アリシ積送貨物總目錄ニ照會シ過不足アル時ハ其事由ヲ糺明シ條理判然セサレハ不足ノ貨物ハ甲乙兩港間ニ於テ密商セシ者ト看做シ其品物同價ノ金額並ニ金一千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ若シ貨物過ナル時ハ其現品ヲ沒收シ且其品價同價ノ罰金トシテ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ
- 第十三條 前條ノ船入港手數ノ上未納稅内外貨物ヲ陸揚スル時ハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書各稅關ニ用フル積送差出書式ニ貨物ノ品種箇數記號番號元價等詳細相認メ陸揚ノ儀稅關ヘ願出貨物檢査濟ノ上陸揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸セハ事ノ成否ヲ問ハス其貨物ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タルモノハ右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ船卸スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸シ若シクハ船卸セント謀ラハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或ハ其船長ヘ其品價同價ノ罰金ヲ課スヘシ
- 第十四條 前條ノ船船便利ニヨリ此規則ニ關係スル貨物ヲ互ニ船移スル時ハ稅關ヘ願出免許ヲ受クヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移スル時ハ其現品ヲ沒收シ且其品價同價ノ罰金トシテ双方ノ會社ニ課スヘシ
- 第十五條 各港稅關ハ祝日祭日及日曜日ヲ除クノ外毎日午前十時ニ開キ午後四時ニ閉スヘシ故ニ此規則ニ揭示シタル時限ト稅關ノ開閉時限トヲ計リ以テ其期限ヲ愆ルヘカラス
- 第十六條 此他會社或ハ船長タル者貨主又ハ代人ニ與スルト否トヲ問ハス故ラニ稅金ヲ脱セント謀リ若クハ其他諸般ノ方略ヲ以テ脫稅ヲ謀ル者アレハ金一千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ課スヘシ若シ其事過失ニ出テ犯則ニ涉ル者アレハ此規則ニ照シテ罰スヘシ
- 第十七條 總テ事犯則ニ涉ル者其二犯俱發スル者ハ重キニ就テ處分スヘシ
- 第十八條 若シ此規則ヲ變更スルコトアレハ一箇月前之ヲ布告スヘシ

(書式略ス)

三月七日當港駐在伊太利國領事館廢セラレ橫濱駐在領事「カステリイ」本港領事ヲ兼ヌ○同月二十

二日本關取扱公文類上局檢印ヲ乞フモノト不乞モノト部分ヲ定ムルコト左ノ如シ

上局檢印ヲ乞フヘキ部

一 院省竝租稅寮各府縣へ往復公文之類

但常例收稅月表計算書租稅寮へ差立候類モ本條ニ同シ

一 長官伺届竝諸規則更正等ノ書類

在留各國領事及商人へ往復公文ノ類

但一時瑣末ノ儀ニテ本關主任ノ者ヨリ各國商會人等エ差出候分ハ此限ニ非ス

一 内外人民願伺届書類

但平常貨物積卸願賣買品届相場書等ノ如キ常式書類ハ此限ニ非ス

一 内外人民港則違犯之節罰金追徵等ノ件

外國船入出港上申書

以上右ニ類似スル書

一 上局檢印ヲ不乞本關限リ處分スヘキ部

當支廳諸課へ往復スル公文細事ニ屬スル書類

内外人民諸船へ貨物積卸願竝出港免狀願其他稅銀請取証出帆免狀下付等ノ諸務ニ關スル書類

但本條若シ例紀ヲ踐マス一時權宜ヲ以處分スル等ハ此限リニアラス

臨時開應願書

但許可ノ上其時々上申可致事

稅銀及手数料等租稅係へ引渡諸書類

定式臨時請取品仕出

以上右ニ類似スル書

以上

明治八年三月二十二日

稅關印

四月七日條約面中木綿ヨリ糸「卷眞ノ有無ニ不拘」ノ輸入稅賦課ニ關シテハ卷眞ヲ木綿糸ノ量ニ加フルモノト然ラサルモノトアリ各關同一ナラサリシカ爾來卷眞其ノ量目百斤ニ付七、ケ五ノ稅銀ヲ課スルコト、セラル○同月大藏省達ヲ以テ貨幣通用制限ヲ定メラル

摘要

海關稅其他外國ヨリ納ムル諸稅受取方ニ貿易銀(新舊トモ)ト本位金貨トノ價格比較ハ銀貨百枚

ニ付本位金貨百圓ノ割合タルヘシ

貿易銀ハ海關稅其他外國人ヨリ納ムル諸稅及ヒ日本人外國人ト通商ノ取引ニ用ヒ又コレヲ内地

ノ諸稅納方等其他公私一般ノ拂方ニモ用ヒ其高ニ制限アルコトナシ

五月九日解船及客船ノ取締ハ從來稅關ノ所轄タリシカ自今ハ地方廳へ引繼クヘキ旨ヲ達セラル○同

月二十日函館稅關ノ東埠頭ヲ以テ本邦人外國船ニ上下スル場所ト定メ檢査ヲ受ケシム

七月十九日開拓使ト大藏省租稅寮トノ間ニ函館稅關ノ引繼ヲ了シ其旨各國領事へ通牒セリ○同月二

十九日從來本關ニテハ外國形日本船海外諸港へ航行ノ際出入港手数料ノ徵否一定セサリシカ橫濱長

崎兩稅關ノ慣行ニ習ヒ徵收スルコト、セリ○同月三十一日外國船ヲ以テ彼我人民内地物品ヲ甲ノ開

港場ヨリ乙ノ開港場へ回漕シタルトキハ(輸出禁制品共)乙港稅關ノ陸揚證書ヲ甲港稅關ニ提出ス

ル期限ハ各關一定セサリシカ自今獨逸國條約中貿易章程第三則並澳地利國條約第十一條ニ據リ内外人民ト乙港ノ遠近トヲ問ハス其期限ヲ六ヶ月ト定メラル
八月二日租稅寮七等出仕河野通獻函館稅關長ニ任セラル
備考

從前函館支廳長杉浦誠稅關事務ヲ統轄セリ

○同月十九日函館稅關章程及職制ヲ達セラル

函館稅關在勤ノ長ニ付與スル章程

第一章

一 各港稅關ハ恒ニ本寮ト氣脈ヲ通シ凡百ノ事務難決事件ハ本寮ヘ申立寮頭ノ示達ヲ請施行スヘシ

第二章

一 各港稅關ニ在勤スル長ハ定規制則ニ照準シ決行ノ權ヲ有ス
但本文定規制則トハ從前慣行法ニシテ本省ノ許可ヲ得シモノナリ

第三章

一 各港稅關諸規則中其港ニ定規ナキカ或ハ定規アリト雖モ之ヲ實際ニ施行シ難キカノトキハ之ヲ本寮頭ニ申出ツヘシ

第四章

一 各月領收ノ諸稅金手數料ハ翌月三日限取纏証券ヲ以テ本寮ヘ送納スヘシ

第五章

一 各港稅關輸出入物品其他出入港碇泊船表等從前ノ通り詳細取調直ニ本寮ヘ差出スヘシ

第六章

一 稅務ノ義ニ就キ外國人ニ關シ起レル議論ハ其事ノ結局ヲ埃タス其領事ヘ一往復毎ニ本寮ヘ可申出尤モ其結局ニ至リ議論ノ調否ヲ不論其顛末ノ書類悉皆相添ヘ詳細具狀寮頭ヘ申出ツヘシ

第七章

一 稅關中諸般ノ事務成規定例アルハ在勤ノ長決判シテ行フヘシト雖モ定額ノ外金銀出納ニ關係セル小事タリト雖モ本寮頭ヘ申達シ候上其筋ノ許可ヲ經サレハ施行スルヲ得ス

第八章

一 稅關ノ事務上ニ就キ本省ハ勿論其他諸官省ヘノ申達ハ一切本寮頭ヘ申出ツヘシ
但シ外國人ニ關シ至急事件ニテ外務省ヘノ申達ハ本文ノ例ニ非ラスト雖モ直チニ外務省ヘ申達セシ同時ニ本寮頭ヘ届出ツヘシ

第九章

一 各稅關在勤官員判任以下ノ勤惰ヲ監視シ黜陟ノ時ニ其者履歷書ヲ添ヘ顛末具狀シ寮頭ヘ届出ヘシ

右之通章程確定候條履行遵守其程限ヲ愆ル勿レ

月 日

大 藏 卿

函館稅關職制

一 稅關長 一員

長ハ其稅關事務ノ繁簡ニ依リ租稅助權助七等出仕所任ス

本港稅關中諸官員ノ首長ニシテ本港内外出入ノ租稅ヲ管理スルヲ掌ル、關中諸官員ノ處務ヲ指令シ各課ノ事ヲ幹理ス、關中諸般ノ事務成規定章程トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テ寮頭ニ對シ擔保ノ責任ヲ有ス

掌管ノ事務ニ於テ寮頭ニ對シ其當否ヲ論辨スルヲ得ル

諸課ヲ廢立シ規則ヲ更革スルハ寮頭ノ決判ヲ乞フテ之ヲ處置スヘシ

關中定額官員能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟スルハ寮頭ノ決判ヲ乞フヲ要セス然レモ奏任官及外國人ヲ進退シ及ヒ定額外ノ員ヲ増加スルニ到テハ審案具狀シテ寮頭ニ呈シ其決判ヲ請フヘシ

一 副長 職任長ニ亞ク

長欠員或ハ公務ニ依リ他港稅關へ出張シ及ヒ其他ノ事故ニヨリ欠席スル事アレハ一切長ノ職掌ヲ代理スルヲ得ル然レモ官員ノ進退黜陟ニ到テハ必ス寮頭ノ判ヲ乞フカ或ハ長ノ決ヲ受テ之ヲ處置スヘシ

以上之ヲ奏任トス

大屬

權大屬

中屬

權中屬

少屬

權少屬

十四等

十五等

譯官

監吏總長

監吏副總長

監吏長

監吏副長

長副長ノ指令ニ從テ各分課ニ就キ從事スヘシ

以上之ヲ判任官トス判任官ハ右定員ヲ目的トシ大屬一員ヲ廢シ少屬兩員ヲ置ク等ハ長ノ權ニ附ス

大監吏

中監吏

少監吏

長副長竝ニ監吏總長及監吏長ノ指令ニ從事スヘシ

以上之ヲ雇勤士官トス

檢査課

貨物眞僞ヲ精閲シ度量ノ虛實ヲ詳檢シ差出書積荷目錄ヲ對較シ原價原直ヲ會照シ姦詐ヲ觀破

發摘スルノ事務ヲ總管ス

收稅課

出入及其他ノ願書ヲ受ケ免狀ヲ付シ船舶ノ手數料物品ノ運上金竝ニ各項ノ收納金ヲ收領シ且

物品買上代ヲ賣主ニ付與スル等ノ事務ヲ總管ス

倉庫課

火災請合貨物ノ出入借庫ノ開閉上屋ノ進退陸揚ノ檢査等ノ事務ヲ總管ス

文書課

内外往復ノ申牒關中例則ノ編纂及簿記書籍新聞紙等出入ノ事務ヲ總管ス

諸務課

關中一切ノ雜務ヲ幹理シ及ヒ檢印ヲ免狀ニ捺印シ税金ヲ本帳ニ回送シ其他金銀ノ出納用度ノ付給館柵ノ營繕官員ノ月給等ノ事務ヲ總管ス

監吏課

本課ハ監吏章程及ヒ心得書ニ照シ從事スヘシ

○同月同日海外ヨリ渡來ノ遊船ハ普通商船ニ準シテ手数料ヲ徵收スヘキ旨達セラル○同月二十日各官廳ニ於テ外國ヘ注文ノ官用品ヲ輸入スルトキハ本年九月一日ヨリ都テ定期ノ通り收稅スヘキ旨第百四十五號ヲ以テ公布セラル○同月同日外國人所持ノ船舶ニシテ海外ヨリ渡航セシモノハ貨物ヲ積載セシテ只近海遊航ノ用ニ供スルモノト雖トモ船舶ノ大小噸數ノ多寡ヲ問ハス普通商船ニ準シテ手数料ヲ徵收スヘキ旨達セラル○同月二十二日從來諸官省其他ノ雇外人ノ官用或ハ賜暇旅行中內國產物ヲ提携シ外國航行ノ船便ニテ開港間ヲ往復スルトキハ外國產物品ヲ外國航行船ニテ内地開港間ニ回漕スルト等シク相當ノ税金ヲ其仕出港ヘ假納シタルモ自今內國產品ヲ各開港間ニ回漕スルニハ前記ノ手續ヲ廢スヘキ旨達セラル

九月十二日函館稅關定員ヲ定メラル左ノ如シ

- 一 關長 一人
- 一 正 大屬ノ内 一人
- 一 中屬 一人
- 一 權中屬 一人
- 一 少屬 一人

- 一 權少屬 二人
- 一 十四等出仕 三人
- 一 十五等出仕 四人
- 一 大中少監吏 二十人
- 一 目利人 二人
- 一 水夫 八人
- 一 小使 四人
- 一 改品下使 三人

○同月同日海外航行ノ船舶ハ內國船ト雖モ外國船ト等シク手数料ヲ徵シ且内外船トモ所有者ノ國籍船ト見做シテ取扱ヘキ旨達セラル○同月二十五日稅關ノ休日ヲ左ノ如ク定メ各國領事廳ヘ通告セリ

- 新 年 一月一日
- 元 始 祭 一月三日
- 新 年 宴 會 一月五日
- 孝 明 大 皇 祭 一月三十日
- 紀 元 節 二月十一日
- 神 武 天 皇 祭 四月三日
- 鎮 守 祭 札幌神社祭 六月十五日
- 神 嘗 祭 九月十七日
- 天 長 節 十一月三日
- 新 嘗 祭 十一月二十三日

煤 拂
歲 末

十二月二十五日
十二月三十一日

十月三日從來積荷目録ニ記載漏ノ故ヲ以テ税金ト同額ノ罰金ヲ課スルニ方リ若シ從價税ノモノナルトキハ荷主申立ノ原價如何ニ拘ハラズ税關ノ定メタル課税價格ニ從テ罰金ヲ徵收シ來リシカ右ハ荷主カ税關ノ課税價格ニ服從シタル場合ニハ罰金トシテ其ト同額ヲ徵收スルハ勿論ナレトモ不服ニテ買上ヲ出願セシトキハ自今荷主ノ申立シ價格ヲ以テ買上ケ其ノ價格ニ從テ税金ト同額ノ罰金ヲ徵收スヘキ旨達セラル○同月七日函館税關在勤判任以下ノ官吏ニ對シ開拓使、裁判所ノ例ニ倣ヒ月給百分ノ七ノ増手當ヲ支給スルコトヲ認可セラル○同月十三日本寮及ヒ各税關一ケ年ノ經費ヲ定ム

參照

一金三拾七萬圓

內

金拾貳萬五千八百圓
金拾三萬八千六百圓
金六萬三千七百圓
金貳萬七千六百圓
金壹萬四千三百圓

本 濱 關 寮
橫 戶 稅 關
神 崎 稅 關
長 崎 稅 關
函 館 稅 關

○同月同日函館税關定員外更ニ三等乃至七等譯官貳名ヲ置クコトヲ認可セラル○同月十九日外國人ノ密商ニ係ル盜贓品ヲ摘發セシ場合ニ於テ豫メ貨主ヨリ届出アリタルトキハ之ヲ貨主ニ返附スルモ否ラサルトキハ成規ニ從ヒ沒收スヘク内國人ノ密商ニ係ル盜贓品モ亦之ニ準スル旨達セラル○同月二十三日内國人密商ヲ謀リタルトキハ外國人ト等シク貨物ヲ沒收スヘキ旨達セラル○同月二十五日外國形日本船ニシテ外國貨物ヲ回漕スルモノ臨時開關ヲ出願スルトキハ外國船ト等シク手数料ヲ徵

收スヘキ旨達セラル十一月八日布告第六十三號ヲ以テ西洋形日本船各開港場出入規則ヲ定ム十二月一日ヨリ施行シ同時ニ國內回漕規則ヲ廢ス

參照

明治七年十一月二十三號布告國內回漕規則來ル十二月一日ヨリ當分停止シ西洋形日本船各開港場出入規則別紙ノ通相定右同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

別紙

西洋形日本船各開港場出入規則

第一條 凡ソ西洋形日本船ハ蒸氣風帆ノ別ナク橫濱神戸大坂長崎箱館新瀉ノ六港ニ入津スルト

キハ其投錨時刻ヨリ十二時間ニ第一號書式ノ通其港税關へ届出ヘキ事

但風潮ノ不順等ニ因リ一時無餘儀入港シ十二時間ニ出港スルモノハ届書ヲ出スニ及

ハス

第二條 貨物ノ積卸ハ其港税關ノ免許ヲ受タル後ニ非サレハ一切相成ラサル事

第三條 輸入税未納ノ外國貨物及ヒ貨主外國人ニテ輸出税未納ノ内國貨物回漕ノ儀ハ本年第二

十號布告ニ照シ夫々手數致スヘキ事

第四條 出港セントスルキハ必ス二時前マテニ第二號書式ノ通税關ニ届出ヘキ事

第五條 出入港ノ届ヲ等閑ニスルモノハ左ノ通科料申付ヘキ事

蒸氣船 百噸迄 金拾五圓
百噸以上百噸コトニ拾五圓ヲ加フ
風帆船 百噸迄 金拾圓
百噸以上百噸コトニ拾圓ヲ加フ
(書式略ス)

○同月九日外國公使館用物品通關手續ニ關シ税關官吏心得書ヲ定メラル
參照

外國公使館用物品通關手續ニ付稅關官吏心得書

一 外國公使自携物品ハ其品類個數ヲ論セス無檢査通關之事

但公使ニ隨行スル書記官書記生通辨官公使館及從者ノ物品モ同様ノ事

一 外國公使館用物又ハ公使書記官自用ノ物品ハ其旨豫メ大藏卿ノ命アルモノハ無檢査通關ノ事

前條ノ手續ヲ經ス外國公使館又ハ公使等ノ品々タル旨ヲ以テ通關ヲ請求スル者アラハ公使

館又ハ公使ノ用品ナラサルト見做シ取押置其旨直ニ大藏卿並ニ外務卿ヘ報知シ大藏卿ノ命

ヲ待テ取扱可申事

但包箱上公使館用等ノ標記アルモノハ前條ノ手續ヲナスマテ取押置ト雖モ決テ粗暴ノ

取扱ヲナサ、ルハ無論タルヘシ

○同月十日樺太千島交換條約ヲ公布セラレ

○同月十五日各開港場ニ輸送シタル貨物ノ運賃停滯ノ爲メ該貨物ノ抑留ヲ要求スルモノアリタル場

合ニ於ケル規程ヲ定メラル

參照

第一條

凡ソ各開港場ニ於テ内外國人運輸ノ貨物揚陸船積ノ際運賃拂方相滯ニ付貨物引留方要

求候者ハ其事由ヲ書面ニ記載シ稅關長若クハ稅關ヘ宛差出スヘシ則荷物個數記號番號燒印

及荷主輸入人或ハ輸出人乃至引受人ノ名前右荷物運輸ノ船名(若又陸運ノ時ハ其荷車ノ種

類並ニ運輸ノ道筋)及仕出場所或ハ仕向場所或ハ荷物到着ノ月日及賃錢其他要求ノ金高等ヲ詳

記シ之ニ願人又ハ相當ノ代人記名シテ差出スヘシ

但内國人ナルキハ其願書ニ實印ヲ捺シ開港場府縣廳ノ奧印ヲ受ケテ差出スヘシ又其願

人外國人ナルキハ自國ノ領事ノ目前ニ於テ書面ノ趣相違無之旨ヲ誓詞シタルモノヲ以

テ出サシムヘシ其證書式左ノ如シ

別紙書面中ノ事柄ハ申立ノ通聊相違ノ筋無之就テハ右書面ヲ以テ願立候
 金高ハ畢竟拙者方へ受取ルヘキ筈ノ者ニ候間別紙書面中ノ荷物ハ稅關官
 員方ノ手へ相渡リ候節定法ノ通引留可相成筋ニ有之候仍テ如件

明 治 何 何 年 月 日 拙者ノ目前ニ於テ誓言(或ハ證書)シ畢
 千八百何十何年 何々港 何國 姓 名
 何國領事 姓 名

日本人ハ誓言ノ式ナシ故ニ實印ヲ調シタル願
 書ニテ足ル

第二條 稅關官員ハ都テ右願書類へ番號ヲ附テ之ヲ貯置且此一事ノ爲ニ帳簿ヲ備置詳細之ニ登

録スヘシ尤以呂波分ケノ見出ヲ附ケ荷主引受人輸入人或ハ輸出人ノ姓名並其船舶ノ名ヲ記

置ヘシ

第三條 稅關長ハ願人ヨリ差出タル書面ヲ落手スルノ後三十日間ハ其書面ニ記載セル荷物ヲ

抑留シテ之ヲ引渡サ、ルヲ得ヘシ

但願人荷主引受人等一同協議ノ上渡方ヲ請フカ若クハ此輩ヨリ申出タル訴訟ノ是非ヲ

判決スル相當ノ裁判所ヨリ其斷案ヲ申越セルキハ此例ニ非ス尤此訴訟ハ願人ノ方ヨリ

稅關ヘ荷物抑留シテ願出セル日ヨリ少クモ七日ノ間ニ其地ノ裁判所へ訴出ヘキモノト

ス裁判所ハ其訴訟ヲ受理スルカ否ハ右三十日間ニ判然スヘケレハ裁判所ニテ右訴訟

ヲ受理スル時ハ夫レヨリ以後ハ右訴訟裁斷ノ日迄荷物ハ稅關ヘ抑留シ置ヘシ

抑留中荷物ノ庫租及其他雜費ハ荷物引受人ヨリ差出スヘシ

第四條 稅關長ハ訴訟ニ係ル雙方ノ議論ヲ裁斷スルノ威權ヲ有セス且運賃事件ニ付荷物ヲ抑留

スルノ權アリト雖モ其他ノ事故ニ由リ荷物ヲ抑留スルヲ願出ルモ稅關ニ於テ之ヲ取リ上

クヘカラス 以上五款

○同月十八日自今領事ノ貨物ハ検査ヲ遂ケ有税品ハ税金ヲ徴收スヘキ旨達セラル○同月三十日西洋形日本船各開港出入規則中積荷目録ヲ提出セシムル明文ナシト雖モ本關ノ便宜ニ從ヒ提出セシムルヲ得ル旨達セラル(本關伺ニ對スル指令)

十二月九日從來從價買上品ハ無税ニテ拂下ケ來リタレトモ九年一月一日ヨリ五分ヲ納税セシメテ拂下クルコト、定メラル○同月二十日清國人密商脱税ヲ謀リ若クハ海關規則ニ違犯セルコトヲ發見シタルトキハ通商章程ニ照シ物品ヲ沒收シ罰金ヲ徴スル等都テ税關限リ處分シ若シ税關ニテ事實明白ナラサルカ又ハ税關ノ處分ニ服セサル者ハ地方廳ニ涉ラス直ニ裁判所ノ審判ニ付スヘキ旨達セラル

○同月二十八日從來輸入砂糖赤白ノ程度各關ノ鑑定區々ニ涉リタルヲ以テ本寮ヨリ見本二包ヲ交附シテ該品ニ準據徵稅セシム

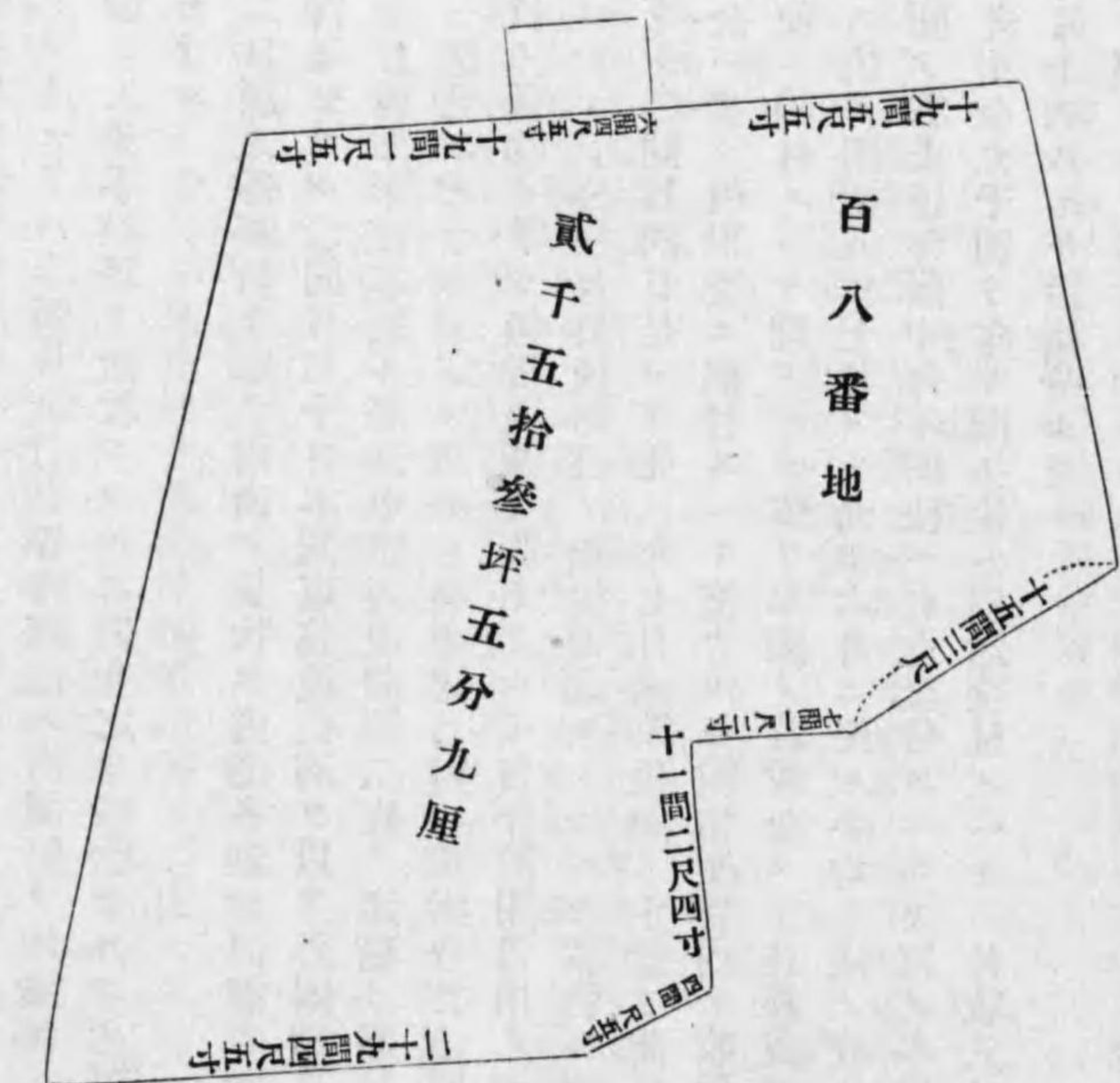
明治九年

一月二十一日外國領事館用品ハ特大藏卿ヨリ通達アル物品ヲ限リ無税無検査ニテ通關セシメ其他ハ普通ノ商品ト等シク處分スヘキコトヲ達セラル

二月十七日雇入外國船ニ對スル各港税關ノ取扱區々ニ涉ルノ嫌アレハ自今通常外國船ト同様取扱フコト、シ其特許ヲ受ケテ不開港ニ回漕スルトキハ取締ノ爲メ監吏ヲ乗船セシムヘキ旨達セラル○同月二十日運賃支拂方停滯ノトキ貨物抑留ニ關スル規則ヲ廢止セラル○同月二十七日輸入品收稅ノ際ハ從來日々ノ相場ヲ以テ本邦貨幣ニ換算シタレモ自今ハ貨幣條例備考卷末(貨幣條例備考トハ明治四年五月スル法令ヲ集輯セルモノナリ)ニ掲載セル外國貨幣ト本邦貨幣トノ比較表ニ基キテ換算スヘキコトヲ達セラル

三月九日二大區四小區中濱町百八番地本關地所二千五十三坪五分九厘ヲ開拓使ヨリ受領ス

參照



二大區四小區中濱町

ハ朱書

○同月二十日當港在留米國領事事務取扱「メルリマン、シー、ハルリス」米國副領事ニ任セラレタ

ル旨通知セラル

四月十三日當港英國領事「ユースデン」不在中英國商船入港ノ際ハ其證書類ヲ本關ニ預リ管理スヘキコトヲ達セラル○同月十七日各港碇泊ノ内國船ヲ外國人ニ於テ購入シタルトキハ之ヲ入港外國船ト見做シ入港手数料ヲ徵收シタルモ自今之ヲ徵收セスシテ單ニ從來ノ如ク届出シムルコト、シタル旨達セラル

五月二日雇入外國船ヲ以テ内商ノ貨物ヲ内地各港ニ回漕スルトキハ總テ税金ヲ預リ置キ通關ヲ許スヘキ旨達セラル○同月二十日日本關東脇波止場ヲ以テ外國船及日本船ヘ交通ノ場所ト定メラル

六月一日西洋形日本船各開港場出入規則第二條ノ違犯ニ關シテハ別ニ罰則ノ掲載ナキニヨリ地方裁判所ヘ送致スルコト、定メラル（本關伺ニ對スル指令）○同月六日外國領事館用品ハ從來公使及公使館員ノ貨物ニ準シ無稅通關ヲ許シタルモ自今館用自用ノ別ナク凡テ一般ノ定則ニ依リ税金ヲ徵收スルコト、シ公使及公使館員ノ無稅通關セシムヘキ貨物ニ對シテハ特ニ外務省ヨリ通牒スルコトニ定メラル○同月同日是ヨリ先八年七月函館稅關ノ主管ヲ開拓使ヨリ租稅寮ニ轉シタルヲ以テ本關ノ收税金ハ悉ク租稅寮ニ納付スヘキ筈ナルモ開拓使管内ノ收税金ハ太政官ヨリ同使ヘノ委任條件アリテ同使ニ納付スヘキ理アルニ依リ本關ノ收税金ヨリ其經費ヲ引去リタル殘額ハ之ヲ同使ニ交付スルヲ要ス依テ明治八年七月ヨリ九年六月ニ至ル平均一歲ノ收入貳萬四千圓經費壹萬五千圓ト定メ差引九千圓ヲ右委任年限中毎年同使ヘ別途交付スヘキヤ否ノ本關ヨリ伺ニ對シ租稅權頭ヨリ右計算ノ如ク差引金九千圓ヲ年々開拓使ヘ別途交付スヘキニ付收入ノ金額ハ直ニ本寮ヘ上納可致旨且ツ自今ハ毎月上納スヘキ旨指令セラル

參照

函館稅關收税金ノ義ニ付兼テ御協議ノ上一歲ノ收額貳萬四千圓經費壹萬五千圓ト定メ差引金九

千圓ハ御委任ノ年限中每歲御使ヘ別途御渡相成度旨正院ヘ上申候處許可相成候ニ付客歲七月ヨリ本年六月迄一ケ年分則金九千圓此節御渡可申尤以來ハ六月十二月兩度ニ割合御渡シ可申候條左様御承知有之度此段及御照會候也

大藏卿

開拓長官

○同月十日漁業ノ爲メ樺太島ヘ渡航スル船舶ノ漁業必要品及捕獲ノ魚類等ハ輸出入トモ無稅トスル旨達セラル（本關伺ニ對スル指令）

參照

第四百十九號

露西亞國領樺太貿易ノ儀當分ノ内内國產物内地運送同様諸船舶出入港手数料及ヒ輸出入物品稅免除候條明治八年^{十一月}第三百六十三號及本年^{三月}第二十九號布告ノ通船舶出入港及物品輸出入候其都度開港場稅關ヘ可届出此旨布告候事

但樺太島ヘ渡航スル船舶ハ必ス内地開港場ヨリ出船シ歸着スルモ同様可心得事

○同月三十日從來官金ヲ取扱ヒタル三井組ハ三井銀行ト改稱シ本年七月一日ヨリ官金ノ取扱ヲ許可セラル

七月六日回漕營業ノ内國人ヨリ外國人ノ貨物ヲ内地ニ回漕センコトヲ出願シタルトキハ貨主ノ姓名ヲ記載セシメ若六ヶ月ヲ經テ回漕先陸揚證書ヲ提出セサルトキハ外國人ヨリ納ムヘキ相當ノ税金ヲ依託人ヨリ納ムヘキコトヲ記シタル證書ヲ徵シ通關セシムヘキ旨達セラル○同月十六日午後二時天皇陛下青森ヨリ本港ヘ御着艦即刻御上陸本關ニテ暫時御休憩ノ上行在所ヘ御發輦アラセラレタリ午後稅關長河野通猷ハ天機伺ノ爲メ參内シ本關收稅概表ヲ捧呈シ關務ニ付テ奏上ス

參照

今茲明治九年七月

聖上本港ニ御巡幸ノ命アリ此僻遠遐陬ノ人民親シク鳳輦ノ通御ヲ拜スルヲ歡ヒ上下覬勉競フテ
 道路橋梁ヲ修繕シ踴躍以テ奉侍ス微臣通猷伏テ惟ミルニ維新以來海外御交際ノ道大ニ開ケ邊隅ノ
 一小港ト雖モ亦各國官吏商賈ノ來駐スル處トナリ加之當道出產ノ品種歲ニ増シ月ニ加フル故ニ
 彼我人民互ニ貿易シテ生業ヲ營ム者亦尠シトセス
 陛下今親シク此實境ニ濯マセラル、コト昭代ノ盛事ト云フ可シ通猷此隆運ニ遭遇シ微軀ノ餘榮
 何ノ幸福カ之ニ如カム
 陛下一タヒ此盛事ヲ行ハセラレシヨリ果シテ知ル億兆ノ人民 聖旨ヲ體認シ益々陸續移住シ
 テ當道ノ荒蕪ヲ開拓シ海濱漁業ヲ盛大ニシ漸次貿易隆盛ノ地トナラムコト期シテ埃ツヘキナリ
 本關昨明治八年七月本寮ノ所轄ニ歸シ通猷始メテ任ヲ該地ニ奉シテ以降本年六月末ニ至ル迄ノ
 收稅金額併セテ出入港ノ内外船數^{大和形船}輸出入品物等ノ概表ヲ編纂シ謹而叡覽ニ供ス仰キ願ク
 ハ即今貿易ノ景况 御神察アラ^{テ除ク}ランコトヲ 通猷誠惶誠恐以聞
 明治九年七月十六日 函館稅關長 租稅寮七等出仕 河野通猷

項		數		量	
收	稅	稅	稅	稅	稅
輸	入	輸	入	輸	入
出	出	出	出	出	出
稅	稅	稅	稅	稅	稅
金	金	金	金	金	金
一八、六一、八八五		一六、七八七、九八八		一、一三九、九九九	
		五四二、六三五		一四一、二六三	
出入港手數料及雜稅					
內國船稅及料					

自明治八年七月十九日函館稅關收稅概表

內國船		外國船		外國船	
入	出	入	出	入	出
汽	帆	帆	汽	帆	汽
帆	帆	帆	汽	帆	帆
數	數	數	數	數	數
五二一	二一一	四四	二一八	四七	四六
二二一	二二	四六	二	二	二
二	二				
輸出總價	輸入總價	輸出總價	輸入總價	輸出總價	輸入總價
四九五、七六六、九〇三	二一、一〇七	二、七〇四、八〇七			

○同月十七日更ニ稅關長ヲ行在所ニ召サレ本關在勤者ニ酒饌料ヲ賜ハル當時本關在勤者ハ奏任一人
 判任十一人監吏十五人等外及御用掛御雇五人トス○同月十九日本關定額常費本年七月ヨリ來ル十年
 六月マテ壹萬參千六百八拾四圓九拾參錢壹厘ヲ配賦セラル八月二日是ヨリ先樺太航行大和形船發着
 處分ニ關シ上請スル再三本日復事狀ヲ具シテ上請シタレトモ容レラレス

參照

本年第八拾五號同六號ヲ以テ樺太航行大和形船着發處分^{之義ニ付}相伺候處第六十三號同五號ヲ
 以テ入出港手數料並漁業必用ノ品及捕獲之魚類等ハ追テ御指令有之候迄輸出入共稅金徵收不致
 義ト可相心得旨敬承致候併シ同島從前本邦ノ所轄ニシテ舊政府ノ末マテハ同島ヨリ諸產物ヲ輸
 出スルニ必ス輸出稅ヲ課ス御維新後開拓使所轄ニ歸シ開拓之主意ニ基キ輸出稅ヲ廢セシカトモ
 當港へ輸入スルトキハ出港稅ヲ課スル事ニ相成居候處先般魯領へ御交換相成候上ハ最早本邦ニ

於テ前條ノ主意ニ關涉無之ハ勿論從前本邦ノ所轄タリシトキヌラ課稅致候者現今外國ノ所轄ナ
リシニ免稅致候ハ謂レナキ事ト相考候且同島ヨリ年々捕獲ノ魚類平均凡壹万五千石余殊ニ本年
ハ貳万石餘モ可有之見込之由左候トキハ輸入稅金凡壹万圓ニ相成申ヘク些少之金額ニモ無之
加之更革之初年免稅ニテ後年ニ至リ課稅致候様ニテハ却テ御不都合ニモ可有之旁以テ是非外各
國ヨリ輸入品同様稅金徵收致度既ニ先般佐山權大屬出京中實地ノ都合等委細第一課ヘ示談爲致
置候處右ニ付當時開拓使ヘ御照會中ノ趣ニモ承知致候ヘ共當時同使ノ所轄ハ勿論本邦ノ所轄ニ
スラ無之上ハ從前當道出港稅規則中如何之明文有之候共更ニ同使ニ於テ關係致候義無之様相考
候將又右漁業ニ渡航致候船ノ義ハ尋常漁船ト違ヒ何レモ貳參百石以上ノ船舶ニテ且年々莫大之
利益モ有之趣ニ付海外ヨリ渡航ノ五噸以下ノ船ニ入出港手數料ヲ課候比較ヲ以テスルトキハ金
額徵收致候共敢テ苛酷ニ涉リ申間敷且半額ヲ減シ候トキハ決シテ迷惑ノ義有之間敷ト存候尤本
月下旬ニモ相成候ハ、追々歸港可致旁以兩様共徵收致候様至急御指令被下度此段相伺候也
明治九年八月二日
函館稅關長
租稅寮七等出仕 河野通猷

租稅寮七等出仕 河野通猷

租稅權頭 吉原重俊 殿

追テ御指令之趣ニ依リ先般預リ置候出港手數料ハ半額下付可致積ニ候也

○同月三日西洋形内國船國館港ニ來着スル者ハ稅關ノ許可ヲ得タル後船改所ノ埠頭ニ於テ貨物ノ揚
卸ヲ爲サシムルコト、ス○同月七日獨逸商船「ウエチズユラ」號免許ヲ受ケスシテ物品ヲ船卸セシ
モノアリテ獨逸條約書貿易章程中第二則ノ明文ニ據リ該品ヲ沒收スルコトニ獨逸領事ニ於テ判決セ
シヲ以テ本關ヨリ同第九節末文ニ由リ船移ノ廉ヲ以テ尙六拾弗ノ罰金ヲモ徵收スヘキモノト抗議シ
同領事ニ於テハ該物品ハ貨物ニシテ船貨ニアラサルヲ以テ罰金ヲ徵シ得ヘキモノニアラスト主張シ
固ク執テ動カス相互ノ間ニ數回ノ應答ヲ重キタリ右ニ關シ本關伺ニ對シ租稅寮ハ船貨ト貨物トハ其
區別アルコトナク將又澳國貿易章程第二則第九節ノ原文ニ據ルモ船移ヲ仕遂ケスト雖モ故意ヲ以テ

密ニ船卸セシモノニ罰金ヲ課スヘシトハ認メ難ク則同款中荷物ヲ船中ヨリ卸シ或ハ卸サント謀ルモ
ノトアルニ依リ其ノ品ヲ沒收スルヲ以テ當然ナリトスル旨指令セラレ茲ニ至リ事漸ク決ス

參照

以手紙致啓上候然者寫二葉御差越シ被下致落手候尙事理左ニ申述候
入港手數ヲ爲サ、ル船舶ヨリ貨物ノ積卸ナラサルコトハ無論ニ候處殊ニ港外ニ在テ入港手數ヲ
ナサス貨物ヲ船卸スル者ニ付其品ヲ沒收スルコトハ勿論ニ候事
稅關ノ免許ヲ得スシテ船移ヲ圖ル者ハ縱令其事遂ケスト雖モ貿易章程第二則掲載之通り罰金
ヲ課スヘキハ當然ニ候事
稅關官吏ハ疑惑アル品ヲ見認ルキ是ヲ取押ヘル權理アルコトハ貿易章程第三則中明文有之候事
該船退去ノ遲引セルハ當關ニ於テ其責ニ任セス其故ハ當方ヨリ拘留セシニハアラス
前條ノ次第ナルニ付貿易章程ニ照準シ物品沒收ハ勿論至當ノ罰金御取立有之度此段得貴意候敬
具

明治九年七月十一日

函館稅關長 河野通猷

獨逸國代辦領事アルユーステン貴下

入港手數ヲ稅關ニ於テ歷サル船ノ荷物則チ包物ヲ彼處此處ニ運搬セシヲ取押タル件ニ付稅關
ヨリ獨逸帆走船ウエチズユラ號船長クルク、ハ係ル判決
拙者右ノ件ニ付口供及ヒ稅關於テ貨物ヲ沒收スルコト並ニ過料ヲ課スルコトノ請求ヲ熟讀セリ稅關
於テ許可セサル船貨ヲ船移スル時ハ之ニ過料ヲ課スルコトハ貿易章程第二則ニ掲載セリ乍併獨國
條約書ノ右同則第七節日本文ノ方ニハ貨物ト讀ミ得ルト雖モ右條約書獨國文且其他各國條約書
ニハ悉ク船貨(カーゴ)船移ト記載アリテ貨物ト難認シ因テ過料ヲ課スルノ論ハ置テ不問乍
併貨物沒收スルニ付テハ右ト全ク反對セリ乃チ條約書附錄貿易章程中ニ定メタル通り稅關ニ於
テ手數ヲ不經シテ貨物ヲ船卸シ或ハ船卸セント謀ル可カラサル盟文ヲ被告ニ於テハ守ラサル時
ハ貨物ヲ取押ヘ且沒收スルノ簡條ヲ輕視セルナリ將又包ハ見本物ト記シアルト雖モ其中ニハ毛

皮並ニ鼈甲等ノ商品アリ故ニ其包中ハ商品ナリ
被告名代人ウオルトシューブルクハ税關ニ於テ無檢査ノ包物ヲ船積難成キヲ告ケラレシ時其
手續ヲ爲サスシテ却テウエチシユラ號船ト取返ル品ト答ヘ直チニ持去ラントセシハ之レ被告ニ
於テ防拒スル條理ナキカ所以ナリ如何トナレハ何品ナリ凡稅關ノ手續ヲ經スシテ船積致カタキ
故ニ條約書附録ヲ輕視スルノ科ヲ免シ能ハサルナリ
因テ包物ヲ沒收スルハ至當ナレ凡稅關ノ課スルニ及ハサルコトニ判決セリ
該船ヲ差留一日毎ニ五拾弗ツ、船長ノ請求スル所ハ受理シカタシ其故ハ自己ニ對シテノ訴訟ヲ
辨駁スル爲メ滯留シ且其條理相立タサレハナリ

獨國代辨領事 アルユーステン 手記

眞寫 アルユーステン

拜啓陳者貴下ノ判決後ニハ候得共左ノ條理ニヨツテ被告人へ過料ヲ課スルハ至當ノ義ト被存候
抑船貨ト申ハ船主其外旅客等ノ自用品ヲ除ノ外諸貨物一般ノ稱名ニシテ如何ナル捆物或ハ包物
ト雖凡皆船貨ノ一部分タルハ勿論ノ事ニ御座候且又沒收致候包ノ如キハ長崎寄留ノ人へ向ケ送
ルヘキ貨物ニシテ元來賣買ノ爲ニウエチシユラ號船へ積入ノ事明白ニ御座候右ノ譯故過料ヲ課
スルハ至當ノ義ト被存候若又貴下ニ於テ御不同意ニ有之候ハ、其旨東京租稅寮へ上申ノ上否可
申進ト存候敬具

明治九年七月十四日

函館稅關長 河野通猷

獨逸國代辨領事アルユーステン貴下

無免許船移ヲ謀ル者ノ貨物取押之義ニ付キ上申

函館稅關

獨逸國帆走船ウチシユラ號港外ニ碇泊致居二十日餘相立候得共入港手數モ不致右様無謂港外ニ
碇泊之義不審ニ付一層監吏へ注意爲致置候處本月八日同船附屬ノ小船ヲ以テ小ナル包物壹箱長
行見本鹿 港内運送致候趣ヲ以テ該品取押監吏對馬榮豐原誠ヨリ別紙寫シ第一號之通届出候然ルニ
皮在中

其頃已ニ三時過キ退關時刻間際ニモ相成候ニ付不取敢同國代辨領事へ通知致置翌日休暇ニ付十
日書簡ヲ以テ可掛合積リ之處同日朝同領事ヨリ右事件取調候ニ付本關官員出席之義第二號ノ通
リ申越權中屬栗田高樹其外關係之者差出候處領事於テ取調第三號口供廻シ越候ニ付第四號之通
リ條理ヲ以辨駁及ビ置未ダ右返答ハ無之候尙追々上申可致候得共不取敢書類原譯寫相添此段上
申候也

明治九年七月十二日

函館稅關長

租稅寮七等出仕 河野通猷

租稅權頭 吉原重俊 殿

上申之趣貿易章程第二則中船移ヲ謀リシ者ニ罰金ヲ課スヘキ之明文無之候ニ付物品沒收ノ外罰
金徵收ニ不及因テ最後該領事へノ掛合ハ取消可被申候事

明治九年七月卅一日

租稅權頭 吉原重俊

獨逸國船々移違犯之義ニ付再度伺

函館稅關

第百貳壹號ヲ以テ上申致候獨逸國船違犯之義ニ付第拾號ヲ以御指令之趣致敬承候而領事裁決之如
ク貨物沒收丈ケニテ此度ハ同意致シ別紙寫シノ通回答致シ置申候乍併澳國貿易章程第二則中
文ハ兎モ角第九節ノ終ニ (A fine of Sixty dollars shall be paid for any infraction of this rule) ト有
之候上ハ假令船移ヲ仕遂ケスト雖モ船移免狀ヲ乞ハス船移ノ爲メ貨物密ニ本船ヨリ卸セシ事ナ
レハ (any infraction of this rule) 之廉ヲ以テ罰金ヲ課スヘキハ至當ト存候尤モ第百三拾號同ト
附屬シ乙號(獨逸領事ヨリ)船貨ト貨物ノ區別ニ拘リ船貨ナレハ領事ニ於テ罰金課スヘキノ存慮ナ
ル事ハ明白致居候併シ領事ニ於テハ今般ノ如キ包物ハ貨物ニテ船貨ニアラズ本關ニ於テハ船貨
トハ物ノ大小數ノ多少ニ不拘字書ニモ (The goods, merchandise, or whatever is conveyed in a ship)
ト有之候故惣テ船ニテ回漕スル爲メ積入アル者ハ船貨ニ相違無之義ト存候ニ付第百三十號ヲ以
テ兩說ハ何レカ至當ナルヤ且領事ヨリハ飽マテ右包物ハ船貨ナラサル旨主張致候ニ付處分ノ義
相伺候次第ナリ就テハ向後右同様之義有之候トモ船移ヲ仕遂ケサレハ物品沒收ノミニテ罰金ヲ

課スル事能ハサル儀ニ可有之哉且右船貨ト貨物ノ區分判然不相立候而ハ將來右等之事有之候度
每彼是論議相生シ不都合ニ存候間右兩條區分之致方至急御指令被下度此段相伺候也
明治九年八月八日
函館稅關長
租稅寮七等出仕 河野通猷

租稅權頭 吉原重俊殿

伺之趣船貨ト貨物トノ區別ハ別段無之船ニテ回漕スル貨物ハ船貨ト稱スルモ貨物ト稱スルモ同
様ノ義ニ有之將又澳國貿易章程第二則中第九節之原文ニ依ル共船移ヲ仕遂ケスト雖故意ヲ以テ
密ニ船卸セシモノニ付罰金ヲ課スヘキヲ至當ナリトハ看認難シ則チ同欸中ニアル荷物ヲ船中ヨ
リ卸シ或ハ卸サント謀レルモノニヨリ其品沒收スルハ當然ノ義ニ付其旨可被心得候事
九年八月十八日
租稅權頭 吉原重俊

○同月十二日太政大臣三條實美本關ヲ巡檢ス○同月三井銀行ニ出納金銀取扱ノ命令狀ヲ交付ス
參照

函館稅關金銀出納ノ事務ヲ三井銀行ニ命シ取扱ヲナサシムルニ付
右將來ノ手續出納規則共取設條件如左

第一條 函館稅關ニ内外國商人共ヨリ請取ヘキ金銀或租稅寮ニ納ムヘキ金銀ノ取扱ヲ函館三
井銀行出張店ニ命スルニ付該出張店ニ於テ明治六年第二百三十七號公布並第百八號大藏
省達シ府縣設爲替手續及切符規則明治八年第三百三十一號御達ニ照準シ官金取扱貳拾應以
上ノ割合ヲ以テ公債証書或確實ナル預ケ金貸出金ノ證券又ハ地券ノ類至正ノ實價ヲ積算
シ預ケ金高相當ノ抵當品ヲ東京三井銀行本店ヨリ東京本省ニ兼テ差出置クヘシ尤右抵當
品ノ實價昂低有之歟又ハ預ケ金貳拾應以上之比例ヨリ増減有之時ハ抵當増減シ或ハ品物
交換スルコトアル可キ事

但シ抵當ニ差出ス公債証書價格ノ儀ハ明治七年第二十八號大藏省達ニ照準可致事
第二條 函館稅關ヨリ三井銀行出張店ヘ預ケ金高一ヶ月凡貳千八百圓ト見做シ東京三井銀行

本店ニ於而第一條ニ基キ抵當品ヲ東京本省ニ差出置クヘシ尤他日預ケ金高變易スル時ハ
隨テ抵當品モ増減差出可申事

第三條 函館稅關ニ於而三井銀行出張店ニ多數ノ金銀ヲ取扱セ危險ノ請合ヲナサシメ且上納
金銀改賃包賃等ニ對シ外國人ヨリ諸收入金ハ其高ノ千分ノ一ヲ府縣設爲替手續第四條ニ
照準シ每年六月十二月兩度ニ拂渡スヘシ内外國商人共ヨリ預ケ税金ノ分ハ其戻シ金高ノ
百分ノ一ヲ府縣設爲替手續第四條ニ照準シ手數料トシテ是亦六月十二月兩度ニ拂渡スヘ
シ尤内國商人ヨリ收入金ノ儀ハ成規ノ通千分ノ一ヲ其納人ヨリ直ニ同銀行出張店ニ請取
可申且定額租稅寮ヨリ請取タル上ハ他ノ渡方ヲナサシムルニ付其現拂出金高ノ百分ノ
一ヲ府縣設爲替手續第四條ニ照準シ手數料トシテ前同斷六月十二月兩度ニ拂渡スヘシ右
ニ付名代並手代人エハ別段ノ手當ハ勿論其他心付ケ等ヲ與フル事ナカルヘシ尤東京、横
濱、大坂、神戸、長崎エ爲替差立候時ハ右賃金トシテ一口ノ金高五拾圓以上百圓未滿ナレ
ハ壹錢百圓以上ハ左ノ割合ヲ以テ六月十二月兩度ニ拂渡ス可キ事

- 東京 金五拾錢
- 横濱 金五拾錢
- 大坂 金六拾八錢
- 神戸 金六拾八錢
- 長崎 金九拾五錢

但シ爲替打歩ハ本文ノ如ク取極ムルト雖モ其時機ニ寄リ増減有之節ハ其時々稅關
ニ申立ヘシ若シ又現金ニテ運輸ノ節ハ相當ノ運賃ヲ拂渡ス可キ事

第四條 函館稅關ニテ三井銀行出張店エ爲替方申付候上ハ同銀行出張店ニ於而府縣設爲替手
續第八條ニ照準シ出納事務主任ノ名代並手代人ヲ命シ委任狀寫並名前印鑑共照會ノ爲前
以テ稅關エ届出置日日手代人稅關エ出勤セシメ事務差支エサル様注意スヘシ尤右名代及
手代不都合ノ事ヲナスコトアルモ都而同銀行出張店ニ於而之ヲ引請ケ可申事

第五條 函館稅關ヘ出勤ノ同銀行出張店手代人諸稅金銀領收セシ上ハ不足或賤金等アルカ其

他盜難水火難等ノ損失アルモ府縣設爲替手續第二條ニ掲クル大藏省ト第一國立銀行トノ約定書第四條第十條ニ照準シ辨償スルハ勿論タル可キ事

但右金銀ノ内贖金有之節ハ明治八年百七拾七號御達之通り其贖金ノミ辨償可致且右贖金又ハ不足金等舊金銀ヲ以テ償方ニ差支候節者通貨代金ヲ以辨償可致事

第六條 函館稅關ニ出勤ノ同銀行出張店手代人ハ納人ヨリ税金ヲ請取其金額ノ過不足並金質ノ眞贋ヲ調査シ之ヲ領收シ毎日預リ証簿ニ記載證印ノ上出納掛エ差出スヘキ事

第七條 金銀爲替證券稅寮ヨリ到着スレハ稅關ヨリ之ヲ同銀行出張店エ差出置可申事而預リタル證トシテ其金高ヲ簿冊ニ記載シ調印ノ上出納掛エ差出置可申事

第八條 三井銀行出張店ハ稅關長ノ命アルニ非レハ一切金銀ヲ出納スヘカラス出納ノ都度必ス稅關長ノ檢印ヲ請置可申候若誤テ檢印ヲ不請他日損失出來候共同銀行ノ損亡ニシテ稅關ニ不致關係事

第九條 函館稅關ヨリ諸方渡金ハ日日其拂出高並請取主等ヲ詳細ニ記載シタル切符エ稅關長ノ檢印ヲ請ケ之ヲ出納掛ヨリ同店ヘ廻スヘシ同店ニ於テハ關長ノ檢印ヲ目當ニシテ第七條預リ簿冊ニ右拂出員數ヲ詳記シ差引殘リハ同店ノ証印ヲ捺シテ之ヲ其日ノ切符ト一同出納掛ヘ差出ス可キ事

第十條 稅關官員臨時同銀行出張店エ出張シ現金在高及簿冊ノ記載方等檢査シ同店ニ於テ萬一預リ金ヲ引負スルコトアレハ兼而指入置ル抵當品ハ勿論速ニ辨償ノ手續ヲナシ其引負ニ於而生スル損分ハ悉皆辨償セシムヘシ其上引負ノ次第取糺ノ上至當ノ處分ニ及フ可キ事

第十一條 本約ハ來ル十一年六月三十日ヲ限リトナス滿期ニ至リ預ケ金ノ決算ヲ爲シ有餘ノ金ハ悉皆完納スヘシ但シ年限中ト雖モ事故アルキハ何時ニテモ解約スルコトヲ得ヘシ又滿期ノ後チ再約スルキハ其節更ニ協議スヘシ

右之條々命令候條堅ク遵守可致者也

明治九年八月

函館稅關長

函館稅關長

九月二十七日上屋借庫新築ヲ認可セララル十月十七日新築工事ニ着手ス

參照

當關開拓使所轄中借庫上屋取設無之夫ガ爲メ事務取扱上各港ト異リ荷主隨意之場所ヨリ貨物陸揚船積トモ爲致其時ニ出張檢査致候慣行ニ有之候右ニテハ港内取締向不立立ハ勿論且檢査ノ前後積卸之際奸商如何様ノ欺罔ヲ企候哉モ難斗旁以テ漏稅等之掛念不尠候間本關引繼之際不取敢各港同様ニ改正可致見込ニハ候ヘ共畢竟當關ニ於テ新條約中ニモ掲載有之候上屋並借庫等ノ取設無之テハ自然彼等右ヲ口實トシ必ス苦情申立難被行候間現今ノ處ハ從前ノ通ニ致置候ヘ共右ニテハ脫稅豫防ノ方法難相立義ニ付奉務ノ官員痛心罷在候間是非右兩様御取設相成候様致度右整頓ノ上ハ各港同一ノ方法履行候トモ彼等ニ於テ苦情申立様無之且港内取締モ相立可申候間何卒諸費御減省ノ折柄ニハ候ヘ共不可欠建築ニ付至急御許可相成候様致度即別冊御入用書類相添此段相伺候也

明治八年十月十六日

函館稅關長

租稅寮七等出仕 河野通猷

松方租稅權頭代理

租稅權頭 吉原重俊 殿

同ノ趣尤ニ相開候得共現今非常御節儉之際殊ニ豫算外之儀ニ付難聞届候事

明治八年十一月八日

租稅權頭 吉原重俊

本關所屬上屋借庫新築之義ニ付第十七號ヲ以テ伺出候處第十一號ヲ以テ額外常費御渡不相成ニ付難聞届旨御指令相成候ヘ共右建築之義ハ當一月中拙者出京之上情狀逐一上申致候通實ニ當港第一ノ急務ニテ右建物無之ヨリ取締難相立甚タ心痛罷在候全体稅關本寮ヘ御受取相成候上ハ輸出入貨物取扱方ヲ始メ總テ取締向各港ノ振合ニ準シ相當規則可取設ハ勿論之筈然ルニ前條建築

四百二十五

無之ヨリ貨物点檢ノ際成規之手續モ施行難致其上動モスレハ外國人共貨物税關へ預度様種々難
題申出候義往々有之取扱上甚タ不都合ニ有之候就テハ前ニ上申致置候旨趣篤ト御熟察被下度今
一應御詮議之上是非特別ニ御許可相成候様致度此段重テ相伺候也
明治九年八月三十日 函館税關長

租稅權頭 吉原重俊殿
租稅寮七等出仕 河野通猷

伺之趣特別ノ僉議ヲ以テ開屆候條費額金八千七百七拾六圓三拾四錢壹厘ヲ目的トシ精々減額ニ
注意致シ着手之後内金受取方可被申出候事
但本文費額之儀本寮經費之内ヨリ差繰相渡候條其關額外費トシ精算可致儀ニ可被心得候事
明治九年九月二十七日

租稅權頭 吉原重俊

十一月二十二日函館港駐劄領事不在ノトキ其國商船入港ノ場合ニ於テ其船書類等ヲ本關ニ預ケ入出
港手數ヲ了シ且出港ノ際該積荷目錄及仕入書ニ奧書出願ニ對シ從來料銀ヲ徵收セサリシモ爾來ハ獨
逸貿易章程第六則ニ據リ書類一通ニ付洋銀一弗五十「セント」ヲ其船主或ハ會社ヨリ徵收スヘキ旨
達セラル(本關ノ伺ニ對スル指令)○同月二十八日各商船ヨリ船難報告及船難證書ノ手數ヲ出願ス
ル者アリタル場合ノ手續書ヲ達セラル

參照

船難報告 英語シツブスプロテスト
船難證書 英語エキステンテツブスプロテスト
船難報告ハ暴風雨其他ノ海難ニ由リ損害ヲ生セリト思察スルル豫メ其現實ヲ報告ス
ル迄ノモノトス故ニ危難請合社ニ向テ請合金ヲ要求スル充分ノ標據ト爲スニ足ラス
唯後日船難證書ヲ記スルニ必要ノ引証ニ供スルモノトス

船難證書ハ現ニ損害ノ多少ヲ確明シ得タルル其損害ノ原因及之ヲ生シタル月日場所
等ヲ詳細記載スヘキモノニシテ其記入ノ件々眞誠確實ナリト思推スルルルハ危難請合
社ニ向テ請合金ヲ要求スルニ充分ノ標據ト爲スヘキモノトス

授受手續

- 第一條 各商船ノ船長ヨリ遭難ノ實況ヲ届出ルルル其地ノ税關長或ハ領事其船長ノ申立ニ從ヒ
第一號書式ノ書面ヲ造リ船長ニ其名ヲ手書セシメ然ル後自ラ官名姓名ヲ手書シテ之ヲ公証
シ壹通ハ其廳ニ停メ置他ノ一通ハ船長ニ下ケ渡ス可シ
- 第二條 船難報告ハ着船ノ後二十四時ノ内ニ差出スヘシ若シ此期限後ニ至テ届出ル者アルルハ
其公認ヲ與ヘサルヘシ然レモ船長ヨリ其遲延ノ次第ヲ辨明シテ十分満足スヘキ道理アルルハ
ハ其次第ヲ報告書ニ記載シテ其公証ヲ與フヘシ
- 第三條 船難證書ハ大略第二號書式ニ從テ記スヘク而シテ船長運轉手及ヒ他ノ一名ノ海員ヲシ
テ税關長又ハ領事ノ目前ニ於テ同號甲ノ明告狀ヲ記サシメ且税關長又ハ領事ハ同號乙ノ奧
書ヲ以テ之ヲ公証スヘシ
- 第四條 船難證書ハ一航海中ニ遭遇シタル變難及ヒ生シタル損害ノ實況ヲ報告スルモノニ付航
海日誌其他公證ニ供スヘキ書類ニ因リ或ハ信任スヘキ海員ノ申立ニ從テ眞確ノ事實ヲ探蒐
記載セシム可シ
- 第五條 船難證書ハ必ス二通ニ記サシム可シ而シテ其一通ハ其廳ニ停メ置キ他ノ一通ハ船長ニ
下ケ渡スヘシ
- 第六條 税關又ハ領事館ニ於テ停メ置キタル船難證書ヲ一覽セント欲スルルカ又ハ其寫ヲ願受ン
ト請フモノアルトキハ其廳ノ公務時間中ハ何時ニテモ之ヲ聽ルル可シ但寫ヲ附與スルルハ
本書ト相違セサル様緊密ニ讀ミ合セ且第二號丙ノ書式ニ從テ奧書ヲナスヘシ
- 第七條 船長以下ノ者船難證書ヲ了解シ能ハサル者或ハ全ク讀ミ得サル者アレハ其明告狀ニ連
署ヲナサシムルノ以前ニ於テ丁寧ニ之ヲ讀ミ聞セ充分其意味ヲ了會セシムヘシ
- 第八條 船難報告及船難證書トモ國字ヲ原文英字ヲ譯文トナシ必ス原譯兩文ヲ以テ記スヘシ然レ

凡場合ニヨリ原文ノミヲ記シ又ハ譯文ノミヲ記スルコトアルヘシ
第九條 船難報告船難證書及其ノ寫ヲ附與スルキハ左ノ手数料ヲ收入スヘシ

船難報告 一通 金壹圓

船難證書 一通 二百語迄 金五圓

同二百語以上ハ每百語ニ付金五拾錢ヲ加フ

但シ別段ノ手数料ヲ收メスシテ寫一枚ヲ附與ス

同自餘ノ寫 一通 百語迄 金五拾錢

百語以上ハ每百語ニ付金拾錢ヲ加フ

第十條 第一號用紙ハ雛形ノ通り稅關又ハ領事館ノ費用ヲ以テ製造シ收入シタル手数料ハ每半

年分取束子大藏省へ上納スヘシ

但第二號用紙ハ適宜タルヘシ

(書式略ス)

○同月稅關長ヨリ寒風澤港或ハ其ノ近傍ニ監吏見張所ヲ設立セラレンコトヲ建言ス

參照

本年九月公務ヲ以テ出京ノ歸路寒風澤港ニ寄泊スルコト一日偶外國形船舶ノ數艘碇泊スルヲ目撃
ス依テ其土人ニ就テ近況ヲ諮問スルニ客歲以降外國形船舶ノ出入スル漸次ニ増加シ多キハ月ニ
十數回少キモ五六回ニ下ラス其出入スル貨物モ亦尠カラスト爾來案スルニ該地ハ橫濱、函館ノ
海線中央ニシテ奧羽地方ニ貨物ヲ輸送スル至便ノ地ナリ加之地勢灣曲ヲ爲シ風濤ヲ避クルノ良
港タリ故ニ通航ノ船舶大抵寄港セサルナシ唯タ恐ル稅未納内外貨物ヲ回漕スルノ船舶モ或ハ風
潮ニ託シ寄港スルコトアラシ且頃日三菱會社橫濱函館間前顯ノ貨物ヲ積載スル汽船ヲシテ寒風澤
宮古等ニ寄港スルノ許可ヲ申請セリ然リト雖モ公令條規ニ抵觸スルヲ以テ允許スルヲ得ス偶然
之ヲ聽サハ彼我奸商其間ニ投シ密商稅稅ヲ謀ルノ虞ナキヲ保シ難シ今之カ爲メ見張所ヲ設ケ便
宜ノ稅關ヨリ監吏若干名ヲ派出シ常ニ監視セシメハ其消費ハ僅少ニシテ密商ヲ豫防シ衆庶ノ便

益ヲ得ルハ許多ナラン是 通 猷ノ企望スル所ナリ近頃仄カニ聞ク政府新タニ石卷ヲ以テ彼我貿易
ノ爲メ開港スルノ舉アリト果シテ然ラハ亦何ヲカ云ハン(石卷ハ寒風澤石濱ト近接シタル金花
大灣中ノ一港ナリ)若シ訛傳ナラハ速ニ寒風澤或ハ石濱ニ監吏見張所ヲ設ケ稅未納内外貨物ヲ
積載スル船舶ト雖モ縱ニ寄港スルヲ聽サハ倍運輸ノ便ヲ起シ復タ將來大ニ勸商ノ効ヲ奏セン聊
カ鄙見ヲ陳ス幸ニ採擇アラントヲ

明治九年十一月

函館稅關長

租稅權頭 吉原重俊 殿

租稅寮七等出仕 河野通猷

○同月第四十號布告ヲ以テ自今朝鮮國貿易品ハ輸出入品トモ日本國內地ノ諸物品ヲ運送スルト同様
ニ取扱フヘキ旨公布セラル

十二月一日太政官布告ヲ以テ露領樺太島ニ對スル輸出入品ノ稅ヲ免シ且同地ニ往復スル船舶ノ出入
港手数料ヲ免ス但シ船舶ノ出入港及物品ノ輸出入トモ其都度稅關ニ届出テ且樺太島ニ渡航スル船舶
ハ必ス内地開港場ヨリ發着スヘキ旨ヲ達セラル

明治十年

一月十一日租稅寮ヲ廢シ租稅、關稅ノ二局ヲ置ク稅關ハ關稅局ニ屬シ章程職制舊ノ如シ○同月十六
日航海困難ノ故ニアラスシテ單ニ修覆ノ爲メ入港シタル商船ハ出入港手数料ヲ徵收スヘキ旨達セラ
ル

五月十五日臨時開關手数料ニ一項ヲ追加セラル

參照

平日開關前日出後ナレハ(前日ヨリノ引續キニアラス)貳拾弗

○同月二十六日第四十三號布告ヲ以テ大藏省中ニ監吏、監吏補ヲ置ク

六月一日監吏、監吏補ヲ置カレタルニヨリ従前ノ監吏總長以下判任官ハ監吏、大中小監吏ハ監吏補ト改稱シ且ツ監視課職制章程其ノ他該規則ヲ定メラレ左ノ件々ノ通心得ヘキ旨達セラレ

第一 従前ノ監吏課ハ監視課ト改稱相成候ニ付別冊職制章程ニ憑準可致事

第二 監吏服制ハ悉皆自辨タルヘキ事

第三 監吏補ノ制服ハ被服保存期限ニ照シ官費ヲ以テ支給可致事

第四 監吏補有功ノ者ヲ優待勸奨スル爲賞譽スルトキハ賞譽規則ニ照シ其關長限リ處分シ若シ非常ノ功勞アル者ニ五圓以上ノ賞譽ヲ與ヘント欲スルトキハ事實詳悉其ノ時々具狀可致事

第五 監吏補心得書ハ各港從來ノ慣行モ有之一定難致ニ付其長限リ制定ノ上可届出事

第六 監吏補職務上ノ過失ハ徵罰例ニ照シ其關長限リ處分可致事

第七 監吏補懲罰金ハ常ニ稅關ヘ積立置キ功勞アル監吏補ヘ五圓以下ノ賞金ヲ與フルトキハ右懲罰金積立置ノ内ヲ以テ支給シ尙金額不足スルトキハ其關常費内ニテ支拂可致事

第八 監吏補ヲ召募スルトキハ召募規則ニ憑準可致事

稅關監視課職制

一等監吏

二等監吏

事務ノ繁閑ニ因リ一等二等ノ内一員ヲ置ク本課ノ長ニシテ章程心得書及慣例ニ遵依シ稅關長ノ指令ヲ承ケ課中ノ事務ヲ管理スルヲ掌ル故ニ課中ニ生シタル過失及事務ノ擧ラサル等ニ於テ稅關長ニ對シ其擔保ノ責任ヲ有ス密商稅稅其他之ニ關スル規則ニ違犯スル者ヲ監視スルヲ首トシ其違犯ノ件ハ之ヲ稅關長ニ稟告スヘシ且姦詐ヲ看破スルニハ適宜處分スルヲ得ヘシ
密商稅稅違犯ノ者猥ニ強暴ヲ行ヒ若クハ固ク非理ヲ執ル時ハ臨機ノ處分ヲ施シ得ヘシ然レ其身

體ニ係リ其名譽ニ關スル等ノ事ハ直ニ之ヲ行フヲ得ス必ス稅關長ノ指令ヲ請フヘシ

章程心得書及懲罰則ノ條件並ニ慣例ノ事務等實際施行ノ上ニ就キ稅關長ニ對シ其當否ヲ論シ及

ヒ所見ヲ陳說スルヲ得ヘシ三等監吏以下ヲ督率指令シ又其陳述スル所ヲ取捨シ若クハ之ヲ關長

ニ開申スルヲ得ヘシ

監吏補ノ能否勤惰及ヒ欠員ノ補充等ヲ勘査視察シテ其所見ヲ付シ之ヲ稅關長ニ具申スルヲ得ヘシ

三等監吏

四等監吏

五等監吏

六等監吏

七等監吏

八等監吏

九等監吏

事務ノ繁閑ニ因リ之ヲ増減ス

章程心得書及慣例ニ遵依シ課長ノ指令ヲ承ケ事務ヲ執行シ監吏補ヲ監所ニ分配シ又諸船舶入着

セハ之ヲ尋問報告シ其他雜事ヲ掌ル

若シ事監所ニ起ル時ハ自ラ其地ニ至リ成規慣例上既ニ准許セル事件カ或ハ准許ナキモ規則ニ抵

觸セサル瑣末ノ事ハ便宜處分スルヲ得ヘシ成規慣例ニ准許ナク且規則ニ關スルモノハ必ス課長

ニ報告シ其決ヲ請フヘシ

實際施行スル所ノ本課ノ事務ニ就キ現ニ弊害ヲ著シ若クハ處置方法宜キヲ得スト察スルルハ之

レヲ課長ニ陳述スルヲ得又課長ノ商議ニ參シ兼テ所見ヲ開説スルヲ得ヘシ
常ニ監吏補ノ能否ヲ視察シ勉怠ヲ勸戒シ功勞過失アラハ詳查シテ之ヲ課長ニ具帖スヘシ
監吏補ノ質問ニ應答辨解シ及其陳述スル所ハ之ヲ取捨スヘシ然リト雖モ其陳述スル所ハ是非ヲ
問ハス必ス課長ニ申告スヘシ

一等監吏 二等監吏ヲ置カス若クハ公事又ハ歸省等ニ依テ其人不在ノ時ハ三等以下ノ監吏之ヲ代
理スルヲ得ヘシ
以上之ヲ判任官トス

- 一等監吏補
- 二等監吏補
- 三等監吏補
- 四等監吏補

配賦セラレタル船舶若クハ監所ニ至リ及海上陸上ヲ巡廻シ密商脫稅其他奸詐違犯ヲ監視禁遏シ
又艙口ヲ封鎖開披スルノ事ヲ掌ル等都テ監吏ノ指令ニ從フヘシ
本務上ニ就キ所見アラハ之ヲ三等以下ノ監吏ニ陳述スルヲ得ヘシ
以上之ヲ等外吏ニ準ス

稅關監視課章程

第一條 密商脫稅ヲ謀ル者或ハ謀ラントスル者或ハ之ニ關スル條約ノ明條ヲ違犯スル者並ニ稅關
ノ成規及慣法ニ抵觸スル者ヲ監視禁遏スルヲ

第二條 監視課ノ權限及職務ハ各港一定ヲ要シ此章程ヲ設クト雖モ慣行自ラ異ナルヲ以テ監吏以
下實際ノ勤方及心得ニ至テハ各港稅關長ニ之カ心得書ノ制定ヲ委ス故ニ右心得書ハ此章程ト同

一ニ遵守スヘキヲ

第三條 監吏ハ筐中ノ品ヲ檢閲スルノ權ヲ有セス然レモ奸詐ヲ發覺スルニ當リ若シ其品性ヲ知ラ
スシテ不都合ノ件アルモ其時機ニ應シ之ヲ檢閲スルヲ得ヘキヲ

第四條 監吏補ハ日課本務ノ定員ハ欠クヘカラサルヲ以テ若シ疾病或ハ事故アリテ出勤ヲ欠ク者
アラハ休憩ノ同僚ヲシテ代務セシメ其欠ヲ補ハシム故ニ欠勤者ヨリ別表ノ金額ヲ徴シ以テ代務
者ノ謝トシ之ヲ給セシムヘキヲ

但シ事故アリテ俸給額ヲ給セサル場合ニ於テハ此限ニアラス

欠勤償金表

		二等監吏補	三等監吏補
三日以下	每	貳拾錢	拾六錢
四日以上	每	拾五錢	拾貳錢
十一日以上	每	拾錢	八錢

參照

監吏補給與規則

第一條 俸給ハ滿一ヶ月ヲ以テ定ム拜辭轉免ノ月ハ在職ノ日割ヲ以テ給スヘシ

第二條 公事ニテ旅行スルモハ日數ヲ見込俸給二ヶ月分マテハ繰替給與スルモ妨ナシ尙滞在ヲ
要スルモ右ニ準シテ送致スルヲ得ヘシ

第三條 出張中又ハ願濟歸省中轉免スルモハ達書到着ノ日迄ヲ計算シテ支給スヘシ

第四條 免職ノ上奉職中ノ事ニ付滯留申付ルルハ手當トシテ其日數ヲ算シ舊俸ノ半額ヲ給スヘシ

第五條 但不正ノ事アルヲ以テ滯留申付ルルハ一切給セサルヘシ 病氣引又ハ父母看病及墓參等願ノ上休暇ヲ賜フモノ忌引ノモノハ一般ノ定則ニ依テ月俸ヲ給スヘシ

第六條 但病氣ノ者到底奉職ニ堪ヘサル見込アラハ日數ノ多寡ニ拘ハラズ退職セシムヘシ尤職務上ニ於テ傷ヲ被リ療養スルモノハ日數ノ長短ヲ問ハズ全額ヲ給スヘシ

第七條 公事失錯等ニテ糾問中ハ月給全額ヲ給ス私事ニ涉ル糾問或ハ預ケ中或ハ事故アリテ出仕差止ルモノト雖モ日數七日迄ハ全額ヲ給ス然レモ八日以上ニ及フハ月俸日割ノ五分ノ一ヲ給スヘシ其無罪ニ歸スルルハ其減額ヲ追給スヘシ

第八條 但處刑中ハ一切給セサルヘシ 免職スルルハ二ケ年以上勤續ノ者ヘハ成規ノ通滿年賜金相渡スヘシ

第九條 被服料支給ノ事 監吏補ノ被服ハ現品ヲ以テ別表保存期限ニ照シ給與スヘシ

第十條 但本條支給ノ分破損スト雖輒ク換與スルコトヲ許サス然レモ職務ニ關シ事情已ムヲ得サルモノハ檢査ノ上換與スルコトアルヘシ

第十一條 監吏補ノ被服渡濟ノ後別表保存期限中轉免スルルハ其現品ヲ返納セシムヘシ

第十二條 公事ニテ旅行スルルハ一般定則ノ旅費ヲ給スヘシ 但新募或ハ免職スルルハ總テ給セサルヘシ

被服保存期限
一ケ年
帽

夏	夏	夏	冬	冬	冬
雨	外	袴	上	上	上
衣	套	服	衣	服	衣
一	一	六	六	六	六
ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ
年	年	月	月	月	月

監吏補賞譽規則

監吏補其職務上ニ於テ勤勞アルモノハ事ノ大小難易ヲ量リ五圓以下ノ賞譽ヲ與フヘシ

第一條 職制章程及心得書ニ違背シ及怠慢失誤アルモノハ其情狀ヲ審按シ月給百分ノ一ヨリ少カラス一ケ月分ヨリ多カラサル懲罰金ヲ科シ輕キ者ハ呵責ニ止ム

第二條 凡犯狀ノ職務ヲ辱カシムルニ足ル者ハ免職ス

第三條 凡懲罰金未タ完納セサル中免職死去等ニ係ル者ハ追徴スルコトヲ免ス

第四條 凡懲罰金ハ毎月ノ俸金ヲ扣除シ完納セシム

但月俸ノ三分ノ一ヲ過クル事ヲ得ス

第五條 監吏召募規則

第一條 召募合格ノ者

- 一 普通讀書差支ナキ者
- 二 但可成外國ノ語學ニ通セシモノ
- 三 二ケ年以上勤續差支ナキ者
- 四 職務上ニ害アル疾病ナキ者

四 性質耐忍ニシテ酒癖ナキ者
五 保證人アル者
第二條 監吏補志願書式

監吏補志願書

私儀當港監吏補奉務仕度御檢査奉願候也

年月日

何府縣何郡何町或ハ何大區何小區何番地

某長男 次男 厄介

何寄留人 府縣何郡何町或ハ何大區何小區何番地寄

何肩書例何番地留

志願人

姓名 名 印 年 齡

保書式同前

前書願之趣相違無之候條與書如此候也

年月日

戶長 姓名 名 印

保書式同前

何港稅關長官姓名殿

第三條 監吏補奉職受書並保證書式

奉職受書式

今般御試檢相濟何等監吏補拜命仕候然ル上ハ御規則ヲ遵奉シ專
ラ職務精勤可仕候仍テ御受書如此候也

年月日

監吏補 姓名 名 印

右之者監吏補職志願ニ付御試檢之上何等監吏補拜命仕候然ル上
ハ御規則ヲ遵奉セシメ本人身上ニ付萬事引受可申候仍テ保證狀
如此候也

年月日

肩書前ニ同シ
保證人 姓名 名 印

宛名前ニ同シ

第四條 華士族平民ヲ論セス檢査ノ上合格之者ハ四等監吏補ニ充ツヘシ

八月二十日輸入馬ハ稅目第二種ニヨリ運送ノ用ニ供スルモノハ無論無稅ナルモ乘馬ハ何等明文ナキ
ヲ以テ從來有稅品ト看做シタルモ今後ハ稅目第二種ニ屬スルモノトシ無稅通關セシムルコト、ナリ
タル旨達セララル○同月三十日本關所屬ノ石庫上屋門棚落成ス其費額八千七百七拾壹圓七拾八錢七厘
トス九月二十日上屋內改品係詰所設置ノ認可ヲ受ク○同月本船ヨリ稅關へ輸送ノ際損傷シタル貨物
ハ檢査收稅以前ニ係ルトキハ海陸ノ差別ナク相當ノ減稅取計沈沒等ニテ貨物ノ現存セサル分ハ稅金
ヲ徵收セサル旨ヲ達セララル

十月十二日三井銀行ニ出納金銀ノ命令書ヲ下附ス
參照

命令書

東京府下第一大區五小區駿河町五番地

第一條

右函館稅關爲替方ヲ命シ金錢鑑定並ニ納拂ヲ爲取扱候ニ付諸規則左ニ
爲替方ハ東京府下駿河町五番地本店ヲ根據トナシ開拓使管下渡島國函館内洞町三十
四番地三井銀行支店ニ於テ當關ヘ内外國商人共ヨリ收納スヘキ金錢ノ鑑定及ヒ他ニ拂渡
スヘキ金錢ノ取扱ヲナサシムルニ付同店手代人日々當關ヘ出勤セシメ誠實ニ之ヲ勤ムヘ
シ

第二條

當關ヘ諸收納スル金錢ハ總テ爲替方ノ詰所ニ於テ眞贋鑑定ノ上之ヲ請取リ其員數事
由及ヒ納主ノ姓名等ヲ手帳ヘ記載シテ爲替方ニ於テ甲乙ノ兩帳簿ヲ設ケ置キ

甲 函館稅關收稅金 預ケ帳
乙 爲替方收稅金 預ケ帳

但預ケ口請取口共一帳ニシテ請拂ヲナスヘシ亦預ケ口上納口モ一帳ニシテ入出
ヲナスヘシ

其金員等ヲ兩帳簿ヘ一様ニ登記シ爲替方證印ノ上關長之ニ檢印シ甲ハ稅關ヘ領受シ乙ハ
爲替方ヘ下付スヘシ

第三條

當關定額金ハ東京本局ヨリ爲替證券回着次第直ニ三井銀行ヘ預ケ方ヲナシ當關ヨリ
諸方ヘ渡金ハ兼テ當關ニ設ケアル切符地紙ニ渡金ノ員數並ニ渡先ノ人名等ヲ記載シ之ヲ
請取主ニ渡ス請取主此切符ヲ持參スレハ爲替方ニ於テハ切符ヲ查閱シ直ニ現金ト交換ス
ヘシ而シテ此拂金ハ爲替方ヘ預ケ金ノ内ヲ當關ニ請出スモノナレハ是亦出納簿甲乙ノ二
帳ヲ設ケ置キ

甲 稅關定額金 預ケ帳

乙 爲替方定額金 預ケ帳

其金員等ヲ兩帳ヘ一様ニ登記シ證印調印等總テ前條ノ式ヲ了ヘ請取金ニ當リテハ當關ヨ
リ振出シタル切符ヲ返納スヘシ

第四條

但爲替方ヨリ直ニ當關ヘ請出スル此手續ニ從フヘシ且本文ノ切符現金ト交換ノ上
ハ三井銀行ニ於テ其表面ニ渡濟ノ印ヲ捺シテ再ヒ運用ヲ爲スヘカラス
預ケ金ハ毎月一度請拂ノ計算ヲナシ預ケ帳ト上納帳トヲ照查シ殘金ノ取調ヲナスヘ
シ尤當關ノ都合ニヨリテハ臨時計算ヲナサシムルコトアルヘシ

第五條

毎月一兩度亦ハ臨時ニ當關懸リ官員ヲ派出シ預ケ金ニ關スル諸帳簿ノ記載方出納ノ
順序及金錢ノ在高等ヲ精算スヘクニ付諸帳簿其外各種ノ貨幣内譯共常ニ錯乱セサル様注
意スヘシ

第六條

爲替方ニ於テ取扱フヘキ各種貨幣ノ内紙包スヘキモノハ其雛形並一種ノ封印ヲ刻シ
置キ當關ヘ差出シ置且封緘上ニ記載スル年月日及改人包人ノ姓名印鑑共能ク其位置ヲ定
メ置豫メ贋封ノ患ヲ防クコトニ注意シ必ス異様ノ封緘ヲナスヘカラス

第七條

但當關ノ外本文封緘ノ儘請渡ヲナスヲ許サス然レトモ請取主ニ於テ之ヲ信用シ其儘
受取ルハ格別ナリトス
改濟金錢ノ内若シ贋金或ハ不足金アルトキハ其贋金不足金ハ爲替方ニ於テ辨償スヘ
シ

第八條

但其贋金不足金古金銀ナルトキハ明治七年九月第九十三號布告金銀貨幣價格表ニ照シ
通貨ヲ以テ上納スヘシ
預金ノ現種類ニ拘ハラズ當關ノ都合ニ寄リ洋銀又ハ各種貨幣ノ交換ヲ命スルトキ外
國貨幣ハ時ノ相場ヲ以テ交換スヘシ尤其他ノ貨幣共總テ引換ニ付手数料等ハ下付セサル
ヘシ

第九條

爲替方ニ於テハ慥ナル名代人ヲ撰ミ其者ノ印鑑並金錢出納ニ用フル印影類ハ總テ當
關ヘ差出シ置クヘシ然ル上ハ當關ニ於テ右印鑑ヲ證憑トシテ請渡ヲナスヘシ若シ右ノ者
預ケ金ヲ引負スルカ又ハ其他ノ不都合アレハ其責メ全ク本店ニ歸シ不足金ハ勿論右ヨリ

生スル損失ハ總テ本店ヨリ辨償スヘシ

第十條

但當關主務ノ官員其外出納ニ關スル印鑑ハ爲替方ニ下付スヘシ
盜難又ハ水火難等アリテ預ケ金並爲替金ヲ紛失スルトモ總テ本店ノ請負タルヘシ
但非常ノ變災ニシテ防禦スヘカラサル證アルトキハ此限ニアラス

第十一條

當關預ケ金ニ對シ抵當トシテ公債證書 此公債證書ノ價格ハ當分秩祿公債證書ハ百圓ニ付百圓新又
ハ地券 此地券代價ハ券面代價ニ拘ハラズ 又ハ有抵當ノ貸金證書等 此貸金證書ハ公債證書地券建物等確實ナ
ハ證書面ノ實地買價ノ評價ヲ以テ積算ス 又ハ有抵當ノ貸金證書等 此貸金證書ハ公債證書地券建物等確實ナ
當品ノ價格其金高ヨリ高價ナルトキハ貸金高ヲ以テ積算スヘシ 至正ノ實價ヲ積算シ成規ノ手續ヲ經テ
之ヲ差出シ置クヘシ尤右抵當品ハ爲替方ノ都合ニ寄リ彼ト此ト交換スルコト許スヘシ
但本文彼ト此ト交換スルヲ許スト雖モ貸金證書又ハ建物ヲ以テ地券亦ハ公債證書ト
交換スルヲ許サス尤公債證書又ハ地券ヲ以テ貸金證書及建物ニ換ユルモ妨ケナシト

第十二條

預ケ金ハ常ニ壹ケ月凡貳千八百圓ヲ以テ極度ト見做シ故ニ前條ニ據リ右同額ノ抵當
品ニ明細書ヲ添ヘ本省ヘ兼テ差出シ置クヘシ然レモ此預ケ金極度ヨリ増減スルトキハ抵
當品モ亦隨テ増減スヘシ三井銀行ハ貳拾廳以上爲替方ヲ相勤ムルニ付三割迄ノ増減ハ其
儘差置クヘシ

第十三條

但預ケ金極度ヨリ増加シ増抵當品差出難キトキハ其増加ノ金員一時當關ヘ引揚ヘシ
内外國商人ヨリ假預ケ税ノ分ハ別ニ二帳簿ヲ設置キ
甲 假預税金 預ケ帳
乙 假預税金 上納帳
其金員ヲ兩帳簿ヘ一様ニ登記シ證印割印等總テ前條ノ式ノ如クスヘシ又甲ノ預ケ金錢ヲ
取出ス時モ前條式ノ如クス

第十四條

預ケ金ハ勿論假預ケ金ト雖モ爲替方ニ於テ自己ニ融通運用スルコトヲ許サス若シ之
ニ違背スルコトアレハ律ニ照シテ處分スヘシ

第十五條

爲替方ニ於テ若シ預ケ金ヲ引負スルコトアルトキハ兼テ差出シ置タル抵當品ヲ差押
ヘ速ニ辨償ノ手續ヲナサシムルハ勿論其引負ニ於テ生スル損失トモ悉皆辨償セシムヘシ

第十六條

爲替方ニ於テハ當關定額金及諸税金ノ請拂預ケ金爲替金ノ保險ヲナサシムル爲メ定
額金其他收税金及假預リ税共常ニ預ケ置ク處ノ金額 此金額ハ一月ヨリ六月迄七月ヨリ十二月迄各六
テ其一月ニ當ル金高ヲ常ニ預ケ置ク處ノ金額ニ應シ一ケ年百分ノ三ヲ保險料トシテ下渡スヘシ又外國人ヨリ取立
ニ預ケ置ク處ノモノト見做ス
候收税金ハ其金高千分ノ一ヲ改賃及包賃ノ手数料トシテ毎年六月十二月兩度ニ下渡スヘ
シ但内國人ヨリ取立候税金ハ手数料トシテ千分ノ一ヲ納主ヨリ直ニ請取ルヘシ之ニ依リ
本關ヘ出頭セシムル手代ノ給料等ハ別段給與セサルヘシ

第十七條

各地方ヘ爲替ヲ命シタルトキ無期限ノ分ハ爲替切符該地ヘ到達後三日限リ相納ムヘ
シ右手数料有期限無期限共一口金五十圓未滿ハ下渡サス五十圓以上百圓未滿ハ遠近ニ
拘ハラズ金壹錢百圓以上ハ百圓ニ付十里毎ニ金貳錢別ニ増手数料トシテ里程ニ拘ハラズ
五十圓以上五十圓毎ニ金壹錢ト定メ毎年六月十二月ニ拂渡スヘシ尤現金ヲ以テ送致シ候
節ハ相當ノ運賃ヲ拂渡スヘシ

第十八條

但金百圓以上ニシテ里程壹里以上十里未滿ノ端里數ハ壹錢五厘ト相定一里未滿及ヒ
十里以上端數ノ分ハ總テ勿拾ニスヘシ
此命令ハ明治十三年六月三十日迄ヲ限リトナス滿期ニ至レハ預ケ金ノ決算ヲ爲シ有
餘ノ金ハ悉皆上納スヘシ
但年限中ト雖モ若シ事故アルトキハ何時ニテモ放免シ預ケ金ノ決算ヲ爲サシムヘシ

右之條々堅ク遵守可致事

明治十年十月十二日

函館稅關長 河野通猷

十一月二十二日新築石庫ノ内壹戸ハ專ラ借庫ノ用ニ供シ外二戸ハ差支ヘサル時限中ハ庶庫ト兼用ス
コト、セリ

參照

庶庫規則

- 一 庶庫ハ火藥、硝石、石炭油、タール、ピッチ或ハ爆發スヘキモノ又ハ燃易キモノ等ヲ除クノ外其余ノ品ハ有稅無稅ニ關ハラス一切入庫スルヲ得ヘシ
- 一 壹棟或ハ一區ヲ借請ル後ハ外戸ノ鑰鍵ハ其借主ニ貸渡スヘシ
- 一 壹棟或ハ一區ヲ借請ケス唯其坪借ノ向ハ内外戸ノ鑰鍵共稅關ニ管シ且他ノ借主ノ貨物ト一區内ニ混入スルヲ以テ其借主ノ請求ニ應シ入庫セシ箇數ノ見届證書ハ稅關ヨリ付與スヘシ
- 一 最入庫ノ時包箱ノ外面聊カタリ共破損セルハ之ヲ調整シ又之ヲ固封スルニ非レハ其見届ケ證書ヲ付與セサルヘシ
- 一 入庫中貨物危難ノ請負ハ勿論損傷及紛失等ニ至ル迄一切其借主ノ引請ニシテ稅關ニテハ更ニ關係ナカルヘシ
- 一 庶庫ノ開閉ハ休日祭日ヲ除キ每日日出ヨリ日没ヲ以テ限トス其時間ニ貨物出入スルハ其借主ノ隨意タルヘシ
- 一 敷料ハ一ヶ月一坪ニ付 階下ハ金壹圓 階上ハ金五拾錢ノ割合ヲ以テ毎月末又ハ貨物悉皆出庫ノ時之ヲ納ムヘシ
- 一 但端日數ハ十五日内外ヲ以テ全月半月ヲ區分スヘシ
- 一 若シ稅關ニテ庶庫要用ノ事アラハ一ヶ月前ニ其旨借主報告スヘシ其期ニ至ラハ返却遲滯スヘカラス

拙者所有ノ左件ノ荷物ヲ貯藏スル爲メ 月ノ間稅關柵内ニ在ル
 ト記號サレタル庶庫 御貸渡シ被下度尤裏面ニ記載有之條件ハ堅ク
 相守可申候此段奉願候以上
 年 月 日 願主商
 稅關長官 貴下

○同月三十日本關波止場ヲ貨物船積陸揚ノ場所ニ確定シ來ル明治十一年一月一日ヨリ同所ニ於テ陸揚船積ノ都度檢査ス可キコトヲ各國領事ニ通達ス
 十二月十一日來ル十一月一日ヨリ施行ノ上屋規則ヲ各國領事ニ配付ス
 參照

函館稅關上屋規則

- 第一條 上屋ノ貨物ノ假入並ニ假入シタル貨物ノ引渡時間ハ日曜日及一般ノ休日ヲ除クノ外日出ヨリ日没ヲ限トス
- 第二條 第九條ノ物品ヲ除クノ外上屋ニ假入スル貨物ハ總テ上屋科ノ指示セル場所ニ差置クヘシ尤二十四時(一晝一夜)ヲ限リトス
- 第三條 前條二十四時以後ハ荷主又ハ引受人上屋科ノ許可ヲ得其貨物ヲ假庫ニ移入シ尙四十八時(二晝二夜)間之ヲ差置クコト妨ケナシ但此時限中ハ庫租ヲ納ムルニ及ハスト雖モ若シ其貨物災害ニ罹ルコトアラハ荷主又ハ引受人ノ損失タルヘシ
- 第四條 第二條ノ如ク二十四時間ニ上屋ヨリ引取ラサル貨物ハ稅關長第三條ノ如ク之ヲ假庫ニ移入ルヘシ尤其雜費ハ勿論貨物ノ損害等ハ荷主又ハ引受人ノ引請トス
- 第五條 但此時限以後ノ取扱ハ第五條ノ如シ
- 第六條 第三條ノ如ク四十八時間ニ假庫ヨリ引取ラサル貨物ハ稅關長更ニ借庫ニ移入シ其規則ニ照シテ之ヲ貯藏スヘシ
- 第六條 但此雜費モ亦荷主又ハ引受人ヨリ辨償スヘキコト當然タリ
- 第六條 當港ニ陸揚セシ後七十二時間(三晝三夜)引取ル者ナキ貨物ハ稅關長之ヲ無請求品ノ倉庫ニ移入シ一ヶ年間貯藏スヘシ尤其雜費ハ勿論其損害ノ如キモ總テ荷主又ハ引受人ノ引請トス

但此期限ヲ超ルトキハ明治二年己巳正月十九日(一千八百六十九年三月一日)頒行シタル借庫規則中第十四條ノ如ク取扱フヘシ

- 第七條 貨物陸揚以後七十二時間ハ日本政府敢テ其守衛ヲ爲サ、ルコトアラスト雖モ之ヲ借庫ニ貯藏スルコト能ハス
- 第八條 天氣或ハ稅關長ノ認許スヘキ事故アリテ實ニ第三條ノ如ク上屋ヨリ引取り難キ貨物ハ其時限ヲ緩フスヘシト雖モ決シテ(借庫ニ貯藏セシニアラサルヨリハ)七十二時ヨリ永ク差置クコトヲ許サス
- 第九條 借庫規則中第十八條ニ掲載シタル物品ハ一切上屋或ハ假庫ニ入ル、コトヲ許サス此品類ヲ陸揚スルトキハ速ニ之ヲ引取ルヘシ
- 第十條 前條物品荷主又ハ引受人其引取ヲ怠ルトキハ稅關長之ヲ海濱或ハ海上安全ナル場所ニ移シ置クコトヲ得ヘシ此運賃及貯藏ノ費用ハ假令高値ニ當ルト雖モ荷主又ハ引受人之ヲ辨償セサルコトヲ得ス
- 第十一條 一切ノ貨物稅關境內路上ニ差置クヘカラス馬或ハ車ノ如キモ其往來ヲ塞クヲ許サス
- 第十二條 上屋又ハ倉ノ內ニ於テ吹煙スルコトヲ嚴禁ス
- 第十三條 稅關境內ニ於テ爭鬪又ハ亂暴ヲ爲ス者ハ時宜ニ依リ之ヲ取押ヘ其領事ニ引渡スヘシ右之規則ノ條々ハ明治十一年一月一日(一千八百七十八年一月一日)ヨリ施行スル者也

明治十年十二月

函館稅關

○同月十三日疊ニ配付セル上屋規則施行ニ關シテ英國領事ハ米國及丁國領事ヲ代表シ書ヲ稅關長ニ寄セテ言フ様條約ニ據レハ港々ノ規則ハ各所ノ日本役人ト貌利太尼亞領事ト定ムヘシ若シ同意シ難キ時ハ其事件ヲ日本政府ト貌利太尼亞公使ニ示シ處置セシムヘシトアルヲ以テ該規則施行前各國領事ヲ集メテ商議スルヲ適當ナリト思考ス故ニ余ハ管下ノ居留外人ニ對シ該規則ヲ一月一日ヨリ施行スルコトヲ布達スルヲ得スト是ニ於テ稅關長ハ各國領事ノ意ヲ諒シ十七日ヲ以テ本關ニ各國領事ノ集合ヲ求メ上屋規則等ノ件ヲ協議シタルモ彼我意見ヲ異ニシテ決セス稅關長ヨリ事情ヲ具シテ關稅

局長ノ指揮ヲ請ヒタリシカ同局長ヨリ領事主張ノ如ク貨物揚卸ハ從前ノ慣例ニ依リ尙ホ取締上不都合ナキヲ期スヘキ旨達セラレ

參照

貨物揚卸場確定ノ儀在留各領事ト會議ノ末双方意見不相協ニ付同先般御指令ニ依テ本港貨物揚卸場確定ノ儀並ニ輸出入ノ都度稅關波止場ニ於テ改品可致儀在留各領事へ通達致候段第九十一號ヲ以テ上申致置候爾後本月十四日ニ至リ英領事ヨリ該事件施行ノ儀ハ英條約第三條ニ基キ在留各領事ト會議決定ノ上ナラテハ管下人民へ布達難致因テ一應在留各領事ト會議可致儀可爲當然旨回答有之候ニ付即日電信ヲ以テ英條約第十八條ニ基キ回答可致哉ノ旨相同候處翌十五日會議可致旨御指令有之右同時丁抹領事ヨリ同國條約第十條ニ基キ總テ規則制定ノ儀ハ在京同國公使ト日本政府協議ノ上ナラテハ決定施行難致儀ニ付本關ノ通達ニ難應因テ該事件ハ在京同國公使へ開申可致旨回答有之候得共前條ノ御指令ヲ體認シ各領事へ會議ノ儀屬官ヲ以テ申遣候然ル處英米領事ハ速ニ承諾致候へ共丁抹領事ヨリハ參會致候トモ同國條約第十條ノ明文アルヲ以テ協議調印スルノ權ナシ因テ參會スルモ其効ナカルヘシト相答候趣ノ處同國條約第三條ニ基キ協議調印スルノ權ヲ有スル段辨解ニ及途ニ參會ノ儀承諾致候ニ付更ニ本月十七日午前第十時ヨリ參會協議可致旨申遣候然ルニ本日英丁領事ハ第十時ヨリ出席正午十二時迄相待候へ共米領事出席無之不得止翌十八日午前第十時ヨリ再參會ノ儀ヲ英丁領事相約シ退散致候否米國領事出席致候ニ付明日參會ノ儀申聞十八日惣員參會正午十二時後迄會議致候へ共決定不致再ヒ翌十九日參會別紙問答書ノ始末ニテ退散致候就テハ先般六等屬鶴殿基照在京ノ砌詳細上申爲致候通甲乙間ノ道路ハ各領事申立ノ如クニハ無之候へ共貨物運輸ノ不便ナキニ非ス因テ本關ノ通達ニ難應旨彼此異論申立候時ハ商賣便利ノ爲メ到底乙地ニ一ヶ所ノ揚卸場ヲ局定シ輸出ノ貨物ハ該所ヨリ解ニ積ミ稅關波止場ニ寄セ改品濟ノ後本船へ運送爲致輸入ノ貨物モ本船ヨリ解ニ積ミ同樣稅關波止場へ寄セ改品濟ノ後乙地之揚卸場ヨリ陸揚爲致候ハ、不取締モ無之商賈ノ不便モ無之ト豫テノ見込ニ有之候然ル處別紙ノ問答書ノ始末ニ付甲乙兩所ニテ改

品致シ貨物ノ揚卸場確定不致舊慣ノ如ク致置候時ハ各領事ニ在テハ異論申立間敷候得共右ニテハ從前ノ如ク貨物檢査ノ爲メ官吏ヲ東西ニ派出スルコトナク又タ改品ノ際輕量ノ物ヲ檢査セシメ重量ノ物ヲ積入ル、等ノ弊習ヲ洗除スト雖モ貨物ノ揚卸場ヲ局定致サステハ自然不取締モ相生シ可申ト存候ニ付何分ノ御指令有之度此段相伺候也
明治十年十二月二十八日

函館稅關長 河野通 猷印

關稅局長 吉原重俊 殿

貨物揚卸波止場ノ義ニ付各國領事ト問答書

十二月十八日午前第十時各員本關へ出席シ英米丁三國領事ハ各其本國ノ領事官タルコト且ツ英丁領事ハ兼務ノ外國領事或ハ領事代理タルコトヲ明言シ次テ

丁領事發言シ曰ク 余輩本日出席ヲ爲スト雖モ調印スルノ權ナシ此段ハ兼テ斷リ置ク
答曰ク 同國條約第三條ニ據レハ協議同意ノ事件ハ調印スルノ權ナシト謂フ可カラス依テ

同國條約第三條ヲ示ス

同領事曰ク 函館ノ儀ハ開港以降物産ノ性質ト土地ノ便宜ニ依リ隨意ノ場所ヨリ貨物ヲ揚

卸スルヲ成規ト爲セリ今此レヲ更革スルハ商賈ノ便ヲ缺ク故ニ貨物揚卸場ヲ稅關

波止場ニ局定スルコトハ同意シ難シ寧ロ從前ノ如ク隨意ノ場所ヨリ揚卸ナシ輸出ノ貨

物ハ悉皆檢印ヲ捺シ乘勤官吏ヲシテ能ク監視セシメ萬一檢印ナキ貨物ヲ積出スルハ

悉ク沒收ナス可シ然ルハ余輩ト雖モ甘シテ其責罰ヲ受ク可シ斯クノ如クナルハ

商賈ノ便ヲ失ナハスシテ取締モ亦立ツ可シ

答曰ク 本港ノ商賈貨物ヲ隨意ノ場所ヨリ揚卸スルコトハ成規ニ非ス本港ノ如キ其他ノ開港

場同様疾ク揚卸ノ場所確定ス可キノ處是迄其備ヘ立タスシテ遲延セシヨリ斯クノ如

キ習慣ヲ來セルナリ然ルニ現今相當ノ備ヘ立チシ上ハ各港同様揚卸場ヲ局定セサル

ヲ得ス豈ニ物産ノ性質ニ從テ隨意ノ場所ヨリ積卸ヲ爲スノ理アラシヤ譬ヘハ本港ヨ

リ橫濱或ハ神戸ヘ向ケ昆布ヲ輸送シ該港ニ於テ更ニ之ヲ海外ヘ輸出スルニ當テ其性

質ノ異ナルヲ以テ貨主ノ請ヒニ任セ隨意ノ場所ヨリ船積スルコトヲ許可スルカ決シテ許サ、ルナリ且ツ貨物ニ檢印ヲ捺シ積入ノ際乘勤官吏ヲシテ監視セシムルハ本港ニ於テ從來既ニ施行セリ然レモ貨物ニ依テ捺印スルヲ得サルモノアリ昆布ノ如キ是ナリ且ツ他港ニ於テモ本港ノ如ク貨物ニ檢印ヲ捺スハ勿論確定ノ揚卸場アリ實ニ揚卸場ヲ確定スルハ密商稅ヲ豫防スルニ必要ノ方法ナレハナリ

同領事曰ク 橫濱神戸長崎ノ如キハ外人ノ居留地一方ニ局定シ且ツ揚卸場モ開港ノ初ヨリ

確定セルヲ以テ貨物モ亦隨テ便宜ノ地ニ貯藏セリ反之本港ノ如キハ外人ノ居所各地

ニ散在シ貨物ヲ貯藏スルノ地モ亦東西ニ懸隔セリ然ルニ今日揚卸場ヲ一所ニ局定ス

ルハ商賈ノ便ヲ妨害スル豈淺少ナランヤ

答曰ク 橫濱神戸長崎外人居留地ノ如キハ其幅員殆ント本港全市街ニ比ス可シ因テ外人ノ

各所ニ散在スル貨物ヲ東西ニ貯藏スル地ノ廣狹ヲ計較セハ何ソ不便ナルコトアラン

同領事曰ク 他港ノ如キハ道路廣濶平坦ニシテ貨物ヲ運輸スルノ勞少ナク加フルニ各三四

ヶ所ノ揚卸場アリ反之本港ハ道路狹隘ニシテ橋梁ハ貨車ノ運轉ニ適セス實ニ他港ノ

比ニアラス今道路橋梁ヲ修繕シ貨物運輸ノ便ヲ得セシムルカ或ハ稅關波止場ニ兩艘

ノ汽船ヲ兩側ニ繫ク可キ棧橋ヲ架設シテ解ノ勞ヲ省カシメハ一所ニ局定スルモ可ナ

リ

答曰ク 本港ノ貿易未タ他港ノ如ク盛大ナルニ至ラス本關一歲收入ノ金額ハ余輩官吏ノ俸

給其他諸費ヲ支消スルノ外未タ多額ノ贏餘アラズ豈ニ棧橋架設ヲ要ス可ケンヤ道路

橋梁ニ至テハ足下ノ言ノ如ク不便ナキニアラス然レモ地方ノ管スル所ニシテ今俄カ

ニ改良シ得サル所ナリ然リ而シテ到底足下等ハ從前ノ習慣ヲ固守スルノ論ナルカ實

ニ改品官吏ノ東西諸所ニ奔走スルノ煩勞ヲ察ス可シ而メ其煩勞ハ動モスレハ徒勞ニ

屬スルノ弊ナキヲ保シ難シ其故ハ一商賈ノ昆布ヲ輸出スルニ當テ甲乙ノ倉庫アリ甲

ノ庫内ニ重量ノ者ヲ置キ乙ノ庫内ニ輕量ノ者ヲ入ル官吏派出改品ノ際乙庫ノ昆布ヲ

改品シ官吏去テ後本船ニ甲庫ノ昆布ヲ積入ル、モ乗勤官吏ハ把數ヲ點視スルヲ得ル
ト雖其輕重ヲ檢シ得サルヲ以テ脱税ノ弊ヲ生スレハナリ且ツ此ノ弊害ヲ現ニ發摘
セシコアリト雖昨今日舊慣ヲ改良スルノ目途アルヲ以テ寬恕ニ附セリ若シ道路橋梁
ノ貨物ノ運轉スルニ便ナラサルヲ以テ乙ノ海岸ニ一ノ揚卸場ヲ局定シ乙地ノ商賈ハ
此ヨリ解ニテ輸出ノ貨物ヲ税關波止場ニ回シ改品濟ノ後本船ニ輸送シ輸入ノ貨物ハ
本船ヨリ直ニ税關波止場ニ寄セ該所ニ於テ改品濟ノ後乙地ノ揚卸場ヨリ陸揚スルコ
ヲ得足下等同意スルコト有ラント欲スルカ果シテ然ラハ余モ亦思慮スル所アラントス
同領事曰ク 足下ノ言ノ如ク改品官吏ノ煩勞ハ余輩實ニ然ルヲ疑ハサルナリ余輩去テ熟慮
ス可シ本日ハ時既ニ正午ヲ過ク因テ明十九日再ヒ參會ス可シト終テ退散セリ

十九日午前十時各員出席

同領事曰ク 乙地ニ於テ既ニ波止場アル朱線ノ場所ニ一ノ改品所ヲ設ケ甲乙兩所ノ商賈其
便宜ノ改品所ニ解ヲ以テ貨物ヲ回シ改品濟ノ後本船ニ積入レ而メ收稅等ノ諸手數ハ
甲地ノ本關ニ於テノミ爲ス可シ又貨物ノ揚卸ハ商賈便宜ノ場所ヨリ從前ノ如クナス
可シ然ルキハ商賈ノ苦情ヲ來タスコナク余輩モ亦同意ス可シ

答曰ク 到底足下等乙地ニ貨物揚卸場ヲ局定シ本關一所ニ於テ改品ヲ爲スノ議ニ同意セサ
ルカ

同領事曰ク 船舶多クハ丙ノ位置ニ碇泊ス故ニ乙地ノ商賈税關ニ貨物ヲ運送シ丙地ニ却回
スルハ徒勞ニ係ル殊ニ風雨ノ際迅速貨物ノ揚卸ヲ要スルニ當テハ商賈ノ困難ナルコ
察スヘシ

答曰ク 只管商賈ノ便ヲ謀ルキハ寧ロ從前ノ如クナルニ若カス然レモ密商脱稅ヲ豫防スル
ニハ相當ノ方法ヲ設ケサルヲ得ス其方法ヲ設ケタルニ當テハ多少ノ不便ヲ生スルヲ免
カレス彼ヲ省ミ此ヲ省ミ雙方ノ便宜ヲ謀リ互ニ瑣少ノ不便ヲ忍ヒ其中庸ヲ取テ初メ
テ方法ヲ立ツルヲ得ルナリ

同領事曰ク 然リト雖昨商賈ノ不便ナルカ故ニ余カ前說ノ如クナラサルキハ同意スルヲ得

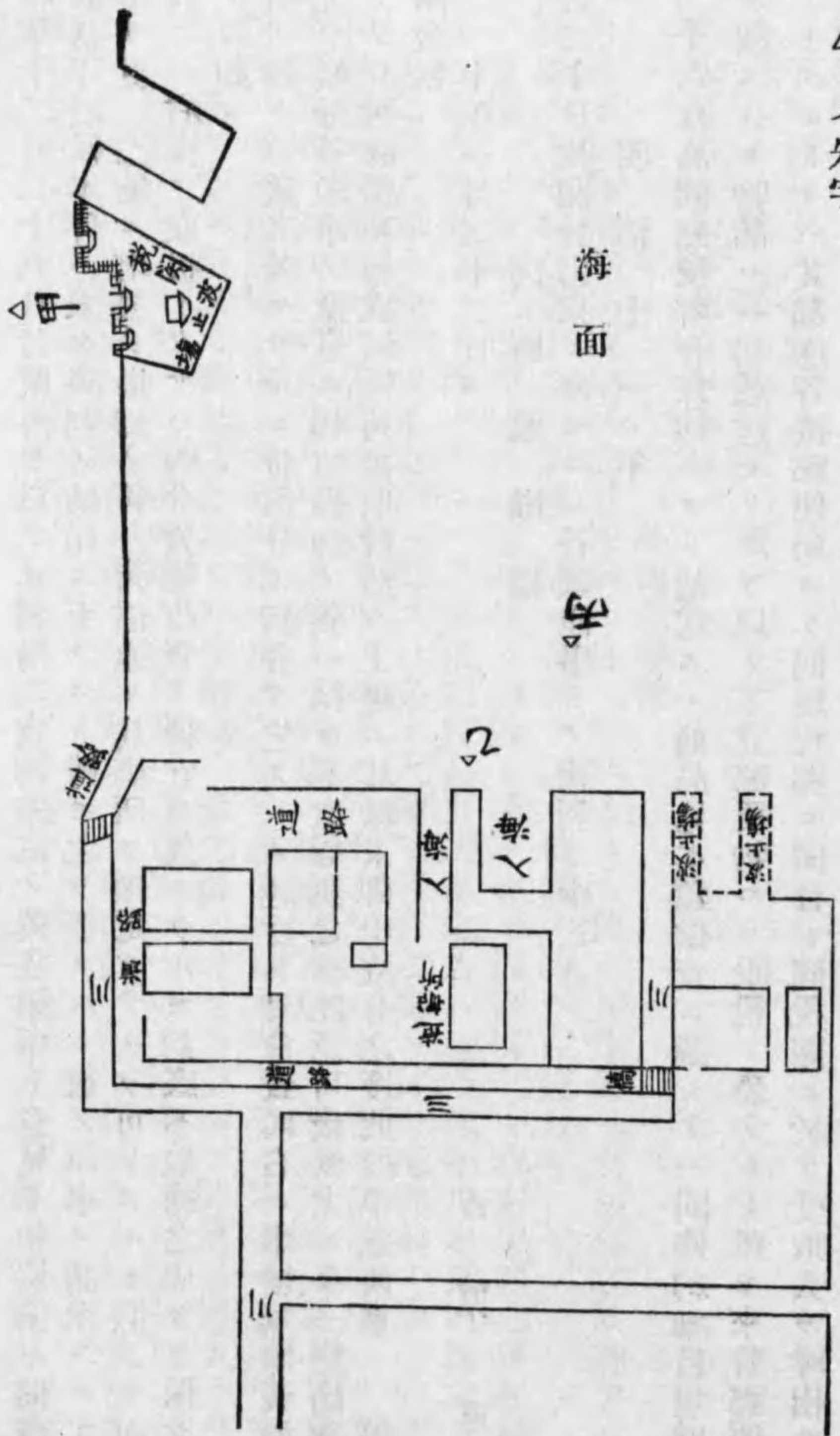
ス

答曰ク 然ラハ余モ亦熟考ノ後可否ヲ確答ス可シ

同領事曰ク 足下若シ余輩ノ議ニ同意セハ議案ヲ以テ之ヲ報ス可シ然ルキハ在留商賈ヲ集
會シテ商議確答スヘシ

英領事曰ク 余ノ役所ハ本月二十五日ヨリ事務ヲ取扱ハス然レモ足下若シ同意ノ上議案ヲ
年内ニ送致セハ特ニ一日役所ヲ開ク可シ

△…ハ朱字



昨年十二月二十八日付號外ヲ以テ其關揚卸貨物確定ノ義各領事ト意見不相協云々伺書御差出相成落手致候本件ハ未タ談判ノ結局ニ至ラスト雖モ之ヲ要スルニ彼ノ領事ノ請求スル主點ハ改品場ヲ更ニ乙地ニ増置シ揚卸ノ義ハ舊慣通り其場所ヲ豫定セサルヲ可トスルニ似タリ而テ其關ニ於テハ右様ノ取扱イタサハ假令貨物改查ノ便宜ヲ欠カサルモ到底不取締之ナキヲ保シ難シト言フカ如シ
斯ノ如ク協議決着セサルニ付何分ノ指令ヲ乞フトノ趣旨ト理會致候右ハ事情無餘義相聞ヘ候間先ツ當分各領事ノ意見ニ相協揚卸ノ義ハ精々不取締無之様注意可致候尤モ今一應商議懇談ヲ遂ケラレ可成便利相成候様可被取計然ル上更ニ其結末御申立有之度此段申進候也 但伺書ハ返附致候

十年一月二十二日

吉原重俊

○同月二十日稅關長出京ヲ命セラレ各國領事トノ談判ヲ中止ス

明治十一年

一月二十六日萬國郵便聯合條約ニヨリ遞送スル商品見本類検査ニ關シテハ同條約細目規則ニ依リ海關稅ヲ課スヘキ物品ハ一切遞送セサルヲ以テ差立郵便物ニハ脫稅ノ恐ナシト雖モ來着郵便物ノ内有稅品アリタルトキハ其都度各港郵便局ヨリ同地稅關ニ回付シ同稅關ニ於テ受取人ヲ呼出シ定規ノ通徵收シ且又信書中ニ有稅品ノ疑アルモノハ出發ノ分ハ差出人、來着ノ分ハ受取人ヲ呼出シ稅關員立會ノ上同局ニテ開封検査スルコト、シタル旨達セララル○同月三十一日在留各國領事招待用トシテ凡百九拾圓ヲ目途トシ西洋食器購入ヲ認可セラル
四月五日各國領事ニ通牒シテ客年商議シタル貨物揚卸場確定ノ件ニ關シ同月八日ヲ期シ領事ノ集會ヲ求メタルモ議亦決セス更ニ各領事ノ意見ヲ徵シタルモ應セサリシヲ以テ終ニ結果ヲ奏セスシテ輟ム

參照

今朝ノ貴翰披見致候陳者兼而商議云々一條何分條約書並ニ貿易章程中ニモ無之義ニ付尙御再考有之度候也

千八百七十八年五月四日

シエー、エイチ、デユース

河野通猷殿

昨日評議致候義ニ付未タ拙者之同僚ハ確ト決定不致候間拙者之說ニ於テ違變無之候得共書翰進呈難致候也

千八百七十八年五月八日

エムシーハリス

河野通猷殿

千八百七十八年五月十四日

英國領事館

拜啓陳者貨物揚卸場規則新設致候義ニ付「テユース」氏ハ其全面ニ異存有之候趣ナルカ故ヲ英國公使ニ上申候前貴下之御依頼ニ任セ書翰ヲ以テ拙者ノ說ヲ陳述致候
兼テ貴關ニテ會議之節申述候如第四條ヲ消除シ第三條ヲ節制候ハ、敢右規則之異存無之候ヘ共追々政府之貿易上ニ干渉スルニヨリ當港之貿易ハ衰微之方ニ趣後來進歩之見込無之且又「ハリ」氏之說ノ如ク條約改正之期ニ至ラハ必ス大變革可有之候ニ付夫迄從前ノ通り差置候方可然ト存候殊ニ稅關規則ハ密商稅等ヲ防ク爲メニ可有之然ルニ未タ曾テ當港領事ニテ其訴ヲ不聞及候間從前ノ方法ニテ完全ニ可有之然ラハ何故ニ從前ノ方法ヲ改革被致候哉更ニ了解難致候
函館港ハ他ノ開市場ト違ヒ候義ハ已ニ會議之節申述置候得共尙又爰ニ陳述可致候抑當港輸入品ハ殆ト無キ姿ニ相成又輸出品之如キハ昆布或ハ他ノ海產品ニテ密商ヲ防クニ難カラサルヘシ且又道路險惡ナルノミナラス居留外國人住居並ニ其倉庫ハ一町ニ散布致居候事故斯ノ如キ重大ノ物品ヲ運搬スルニ便ナラス候右ノ譯ニ候間東京ヘ上申候前何故ニ從前ノ方法ニ加改革候哉其理由御確報有之度 敬具

英國領事

○同月二十三日開拓使附屬船及雇船ニ限リ根室、岩内、室蘭、小樽ノ四港ヨリ海外直輸出ヲ許サレタルヲ以テ取締方法實地着手ノ爲メ關稅局ヨリ吏員二名本道ニ派ス○同月二十五日以上ノ輸出港ハ本關ノ管轄タルヘキコトヲ達セラレ同時ニ取締所設立ノ上ハ直輸出假規則並ニ處務例ニ依リ事務ヲ取扱フヘキ旨ヲ達セラル

參照

北海道諸產物海外直輸出假規則

- 北海道根室岩内室蘭小樽ノ四港ハ不開港場ノ處今般開拓使附屬船及雇船ニ限リ同所ニ於テ貨物積載海外ヘ直輸出ノ義特許相成リシニ付テハ左ノ規則ニ從テ取扱フヘシ
- 第一條 入港ノ船舶ハ投錨後四十八時中ニ船長ヨリ出張所ニ備ヘタル書式ニ從ヒ入港届ヲナシ且同時ニ右手數料ヲ納ムヘシ
- 第二條 船舶着港スルキハ出張所吏員ヲ乘監セシムヘシ故ニ雇船ノ義ハ雇證書ヲ右吏員ヘ差示スヘシ
- 第三條 輸出セントスル貨物ハ其個數斤量品名等ヲ出張所ニ備ヘタル書式ノ通記載シ檢査ヲ受ケ相當ノ税金ヲ納メ船積免狀ヲ與ヘタル後船積ヲナスヲ得ヘシ
- 第四條 出張所事務取扱並ニ輸出品積入ノ時間ハ日出ヨリ日没迄ニ限ルヘシ
- 第五條 出港セントスル船舶ハ出港届ヲナシ且ツ同時ニ右手數料ヲ納メシ上出港ナスヲ得ヘシ
- 第六條 輸出税ハ現今施行ノ輸出品税目ニ從テ收税スヘシ
- 第七條 入港手數料ハ金拾五圓出港手數料ハ金七圓トス

出張所在勤官吏處務事例

- 何某港ハ不開港ノ處今般何附屬船或ハ雇船ニ限リ貨物搭載海外ヘ直航ノ義特許相成候ニ付テハ檢査收税等殊ニ注意ヲ加ヘ脱税ナカラシムヲ要ス仍今般特ニ出張所ヲ置キ其處務事例ヲ設クルヲ左ノ如シ
 - 第一 出張所吏員ハ今般制定相成候海外直輸出規則ニ照準シテ税ヲ取扱フヘキ事
 - 第二 出張所ハ當分何稅關ノ所轄ニ付事例外ニテ決シ難キ事件及其他金銀出納共逐一同關ヘ具狀シ同關長ノ指令ニ據ル可キ事
 - 第三 船舶入港スレハ直チニ吏員ヲ遣リ入港ノ事由其他ノ條件ヲ細問シ何雇船或ハ附屬船タルヲ尋問シ第一號書式ニ記載セシムヘキ事
 - 第四 船長或ハ頭立タル者ヨリ入港手數ヲ願出タル節ハ入港手數料金拾五圓ヲ納ムル願書第二號書式ヲ出サセ然ル後入港手數ノ證書ニ出張所ノ印章ヲ捺シ願人ニ附スヘキ事
 - 第五 凡ソ貨物ヲ船積センコトヲ願フトキハ第三號書式之願書ヲ出サシメ品種及量目ヲ檢査ノ上税目ニ照シ其稅額ヲ納メシメ然ル後輸出品稅濟證書第四號書式ヲ願人ヘ附與スヘキ事
 - 第六 貨物積込之上第五號書式ヲ以テ出港手數ヲ願出ル時ハ手數料金七圓ヲ納メシメ第六號受取濟ノ證書ニ出張所ノ印章ヲ捺シ願人ニ附與スヘキ事
 - 第七 徵收シタル諸收入金ハ若シ證書ナレ總テ之ヲ本關ニ遞送スヘキ事
 - 第八 船舶滯留中違犯ノ義アレハ直チニ之ヲ本關ニ告知スヘキ事
- 以上條款遵守可致事

局長

五月三日小樽外三港取締所ニ於ケル收税ハ稅額ヲ記載シタル切符ヲ開拓使出張ノ役員ヨリ受領シ後日開拓使ニ於テ該切符ヲ正金ニ引換ユルコトヲ開拓使ト協定ス
六月十二日小樽出張所ニ岩内港取締ヲ命ス○同月十三日同出張所ヲ小樽色内村二十一番地ヘ設ケ同日ヨリ開廳ス(室蘭根室ハ開拓使ノ通牒ヲ待チテ本關ヨリ吏員ヲ派出セシムルコト、ス)○同月二

十四日當港第十四區一小區下松蔭町四番地故獨逸國人「ハーバ」所有ニ係ル板藏並ニ高石垣等ヲ
貳千六百八拾貳圓五拾錢ニテ買收ス○同月二十五日不開港へ寄港ノ船舶ニモ稅未納内外貨物積込ヲ
許スヘキ旨達セララル
七月二十三日小樽外三輸出港臨時開應手数料ヲ定メララル
參照

祭日祝日及日曜日開應手数料
日出ヨリ日沒迄 每一時間 金 壹圓
日沒ヨリ夜十二時迄 同 金壹圓五拾錢
平日閉應間開應手数料
日出ヨリ午前十時迄 每一時間 金 壹圓
午後四時ヨリ日沒迄 同
日沒ヨリ夜十二時迄 同 金壹圓五拾錢
祭日祝日及日曜日ニ於テ前日手數既濟ノ石炭船積手数料
日出ヨリ日沒迄 每一時間 金 五拾錢
日沒ヨリ夜十二時迄 同 金七拾五錢
平日閉應間ニ於テ開應中手數既濟ノ石炭船積手数料
日沒ヨリ夜十二時迄 每一時間 金七拾五錢
○同月二十七日小樽港ニ於テ色内村波止場ヲ以テ貨物船積ノ場所ト定メ同港ニ對スル直輸出假規則
ヲ左ノ如ク改訂シ室蘭、岩内、根室ノ三港ハ規則中波止場ノ件ヲ除キ都テ該則ニ準シ取扱フヘキ旨
達セララル
參照

北海道諸產物海外直輸出假規則

北海道小樽港ハ不開港ノ處今般開拓使附屬船及雇船ニ限リ同所ニ於テ貨物積載海外へ直輸出ノ
義特許相成リシニ付テハ左ノ規則ニ從テ取扱フヘシ

- 第一條 入港之船舶ハ投錨後四十八時中ニ其船長或ハ代理人ヨリ出張所ニ備ヘタル書式ニ
從ヒ入港届ヲナシ且ツ同時ニ右手數料ヲ納ムヘシ
- 第二條 船舶着港スルトキハ出張所吏員ヲ乘監セシムヘシ故ニ雇船ノ義ハ其船長或ハ代理
人ヨリ雇證書ヲ右吏員ヘ差示スヘシ
- 第三條 輸出セントスル物品ハ其個數斤量等ヲ出張所ニ備ヘタル書式ノ通記載シ檢査ヲ受
ケ相當ノ稅金ヲ納メ船積免狀ヲ與ヘタル後船積ヲナスヲ得ヘシ
- 第四條 日曜日其他祭日祝日ヲ除ク外出張所事務取扱ノ時間ハ午前十時ヨリ午後四時迄ニ
限ルヘシ
- 第五條 出張所事務取扱ノ時間ハ第四條ニ掲クル通りタリト雖モ諸手數濟ノ物品ハ第十一
條ニ掲クル通諸休日ヲ除ク外日出ヨリ日沒迄ノ間ハ船積ヲナスヲ得ヘシ
- 第六條 出港セントスル船舶ハ出港届ヲナシ且同時ニ右手數料ヲ納メシ上出港ヲナスヲ得
ヘシ
- 第七條 稅金ハ現今施行ノ輸出品稅目ニ從テ收稅スヘシ
- 第八條 入港手數料ハ金拾五圓出港手數料ハ金七圓トス
- 第九條 船舶滯留中ハ毎日日沒ヨリ日出マテノ間船中ノ艙口ヲ固封スヘシ
- 第十條 貨物船積場所ハ色内村ノ波止場ニ限ルヘシ
- 第十一條 年中出張所休日ハ左ノ通りタルヘシ

新年	一月一日	元始祭	一月三日
新年宴會	一月五日	孝明天皇祭	一月三十日
紀元節	二月十一日	神武天皇祭	四月三日
鎮守祭札幌神	六月十五日	神嘗祭	九月十七日
天長節	十一月三日	新嘗祭	十一月二十三日

煤拂
每月日曜日

十二月二十五日

歲末

十二月三十一日

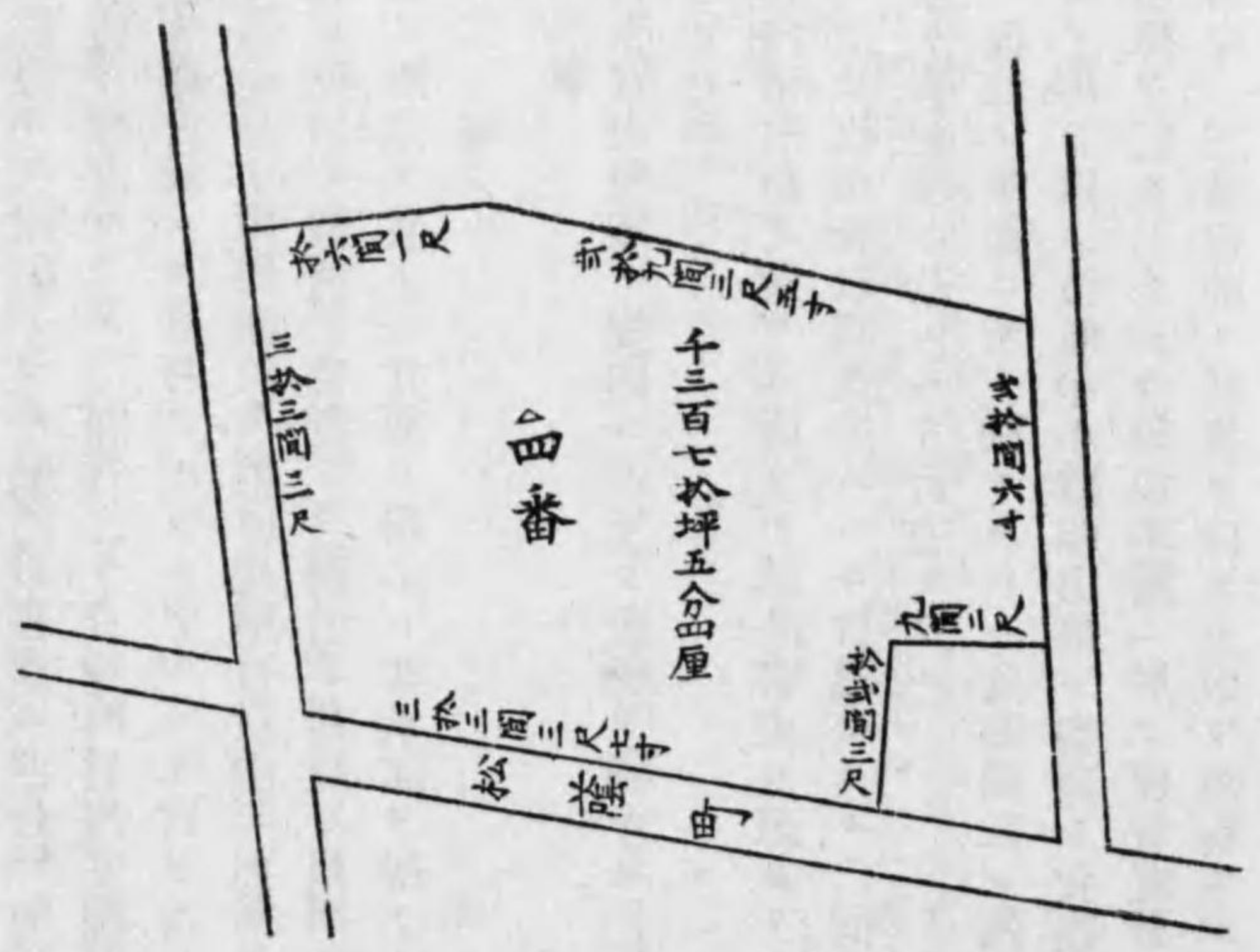
四百五十六

右之通相定候事
明治十一年七月二十四日
關稅局長 吉原重俊
八月二十三日當港第十四大區一小區下松蔭町四番地ノ地積千三百七十坪五分四厘ヲ本關附屬地トシテ開拓使ヨリ受領セリ

請取目錄
第十四大區一小區松蔭町四番地
一地坪 千三百七十坪五分四厘
表間口 三十三間三尺七寸
裏間口 四十五間四尺五寸
裏 行左三十三間三尺
行右長延四十一間五尺六寸
但書圖面壹葉添

右

△ハ朱書



○同月三十一日春秋ノ皇靈祭ハ本關休暇ノ旨ヲ各國領事ニ通牒ス
十月二十三日稅關ニ鑑定役及鑑定見習ヲ置カル○同月二十八日損傷修覆ノ爲メ積戻シタル物品ヲ六ヶ月以内ニ再輸入スルトキハ無稅通關セシムヘキ旨達セラル

四百五十七

十一月四日開拓使所屬船ニ限リ厚岸港ヨリ產物ヲ海外ニ直輸出スルヲ許サレタルヲ以テ時ニ臨ミ本關官吏ヲ派シ處分セシム○同月十六日內國人民外國船ヲ買入レタルトキハ從來內務省ヨリ下附ノ船免狀ト管轄廳ヨリ交付セル鑑札等ヲ證據トシ噸稅徵收ノ上國旗引換ヲ許シタルモ自今稅關ニテハ船免狀鑑札等ニ拘ハラズ彼國政府ヨリ附與シタル船籍證書面ニ照合シ噸稅ヲ徵收シテ賣買手數ヲ完了セシメ彼我國旗引換ヲ許スヘキ旨達セララル○同月二十日小樽岩內室蘭厚岸根室ノ五港ヨリ產物ヲ直輸出スルヲ廣業會社及三井物產會社ニモ許可スルコトアルヘキ旨ヲ達セララル
十二月二十三日麝香其他高價藥品ノ庫租徵收ハ借庫規則目錄中ニ照準スヘキ種類ナキヲ以テ庫租目錄第十八類末項ノ明文ニ從ヒ現品ノ價格ト重量トヲ斟酌シ其時々租額ヲ定メ又ハ適宜ノ部類ニ引付ケ徵收スヘク依テ入庫出願ノ際豫メ貨主ニ其額ヲ指示シ其承諾ヲ待テ入庫ヲ許スヘキ旨達セララル

明治十二年

一月一日稅關目利人ヲ廢セララル
四月九日官用品輸入ノ際出張官吏稅關ノ規則ニ違反シ脫稅ヲ圖ルモノアルトキハ內國商民ト等シク稅關ニ於テ處分スヘキ旨達セララル
五月三十日小樽出張所ノ岩內港取締ヲ解キ本關ヨリ臨時官吏ヲ派シテ事ヲ處辨セシム六月十九日毎月一旬毎ニ本港ノ輸出入元價及收稅金取調進達スヘキ旨達セララル○同月二十六日金錢出納簿ハ本年七月ヨリ計算簿記條例ニ依リ複記法ニ改ムヘキ旨達セララル
七月四日樺太島漁業船舶ハ渡航ノ季節ニ至リ動モスレハ食鹽拂底シ臨時他所ヨリ取寄セ運輸セントスルモ漁季ニ後ルハ恐レアルヲ以テ渡航中小樽福山等ニ寄港シ食鹽ヲ積載スルコトヲ許スニ當リ其都度電報ヲ以テ本省ノ指揮ヲ乞ヒタリシカ向後本關ニ於テ便宜處分スルコトヲ上請シテ認可セララル○同月九日本關構內東海岸ニ三菱會社ノ社費ヲ以テ上屋ヲ建築スルコトヲ認可シ命令書ヲ交付セ

參照

命令書

三菱會社

今回願ニ依リ本關構內東海岸地所ヘ其社々費ヲ以テ上屋建築爲致候ニ付左ノ條規ヲ設ク
第一條 上屋ノ建築ハ其社ノ社費ニ成ト雖モ建築竣成ノ上ハ總テ本關ニ於テ定ムル規則ヲ堅ク遵守致スヘキ事
第二條 人民一般ノ貨物ヲモ出入可爲致候事
第三條 上屋ノ修繕ハ其社ノ自費タルヘキ事
第四條 本關ノ都合ニ依リ上屋取拂ヲ命スルトキハ何時ニテモ違背致間敷事
右之條件堅ク遵守致ヘキ事

函館稅關長

官 姓 名 印

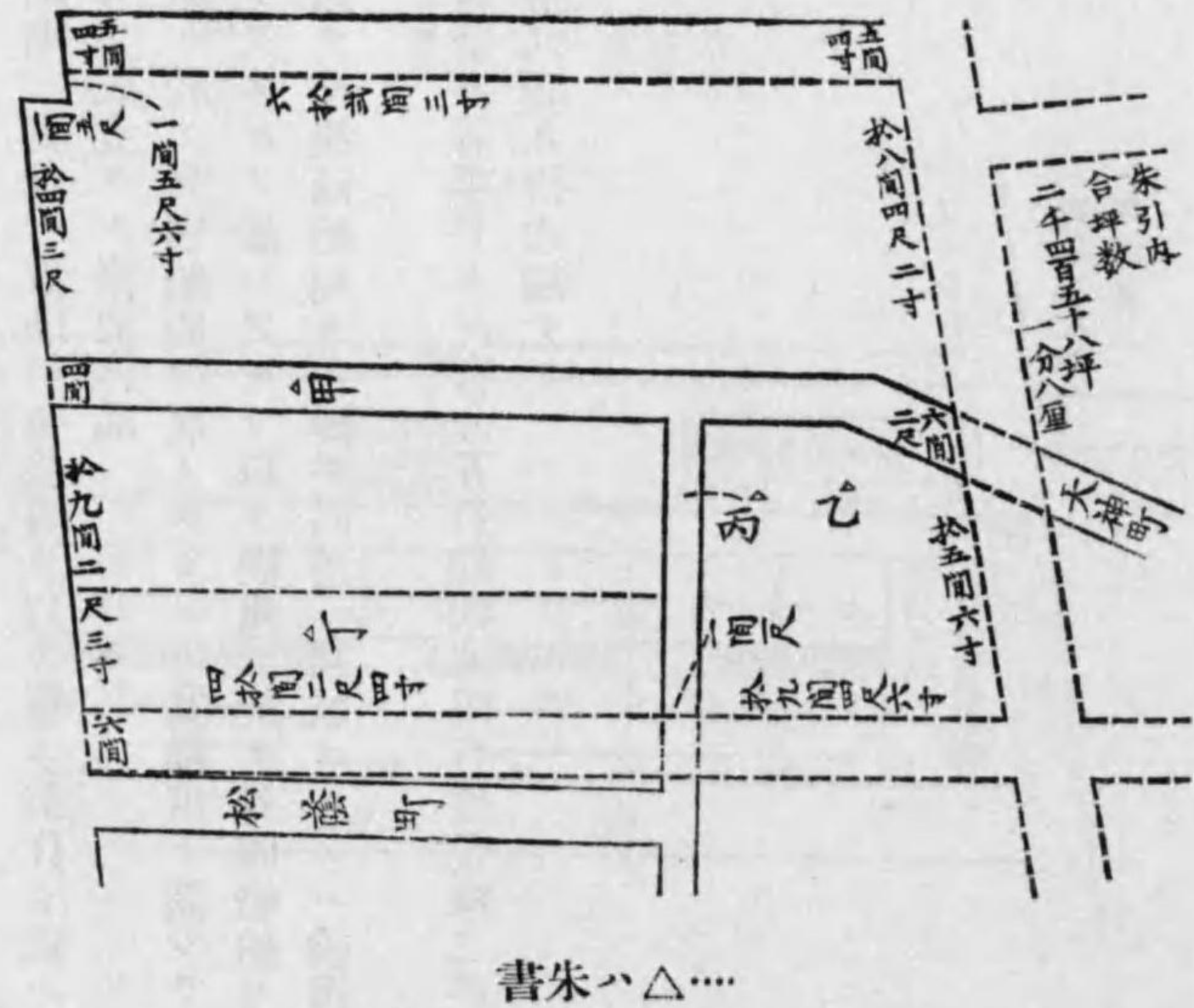
○同月十五日本關附屬松蔭町四番地ノ地所及建物ヲ開拓使所轄愛宕町八、十、十一番地ト交換ノ爲メ同使ヘ引渡セリ○同月二十八日三井銀行ヘ下付セシ命令書滿期ニ付更ニ本年七月一日ヨリ十四年六月三十日迄ノ命令書ヲ下付ス
十二月八日函館ニ大火アリ火本關外柵ニ及フ官吏以下ノ盡力ニ依リ辛フシテ廳舎ノ類燒ヲ免ル、ヲ得タリ此災本港ニ於ケル諸官衙會社銀行其他豪商等櫛比居住ノ場所ハ悉ク烏有ニ屬シ市街ハ恰モ原野ノ如ク一變セリ本關吏員以下類燒セシモノ四十餘戶此月在勤官吏以下罹災者ヘ月俸三ヶ月分ヲ貸與シ月賦返納ノコトヲ認可セララル

明治十三年

三月十六日本關官吏以下類燒者へ救助トシテ月俸一ヶ月分ヲ下賜セララル○同月十九日內國品積戻免稅例規ヲ改メ內國生産又ハ製造品ハ其輸出ノ時ノ性質或ハ模様ヲ變換スルコトナク輸出ノ日ヨリ五週年ヲ經過セス且ツ船積免狀ヲ附シ輸入人ニ於テ其日本生産又ハ製造タルコトヲ證明シ稅關長之ヲ満足スルトキハ無稅通關ヲ許スヘキ旨ヲ達セララル

四月八日密商シ又ハ密商セント謀リシニヨリ沒收シタル阿片ハ總テ稅關ヨリ直ニ內務省ニ送達シ其買取ヲ請求スヘシ尤モ船中ニ三斤以上ノ阿片ヲ所持シ其餘量ヲ押收シタルトキハ從來ノ如ク滅却シ阿片吸煙具ハ其形體ヲ潰シ地金ハ之ヲ賣却スヘキ旨ヲ達セララル○同月十九日本關附屬松蔭町四番地ト交換シタル開拓使所屬愛宕町八、十、十一番地ノ地積二千四百五十八坪一分八厘ヲ受領ス

參照



○是月官舎新築ニ着手ス
五月官舎敷地ニ柵竝ニ板屏下水新設ノ爲メ豫算千貳百拾參圓六拾四錢ヲ配付セララル

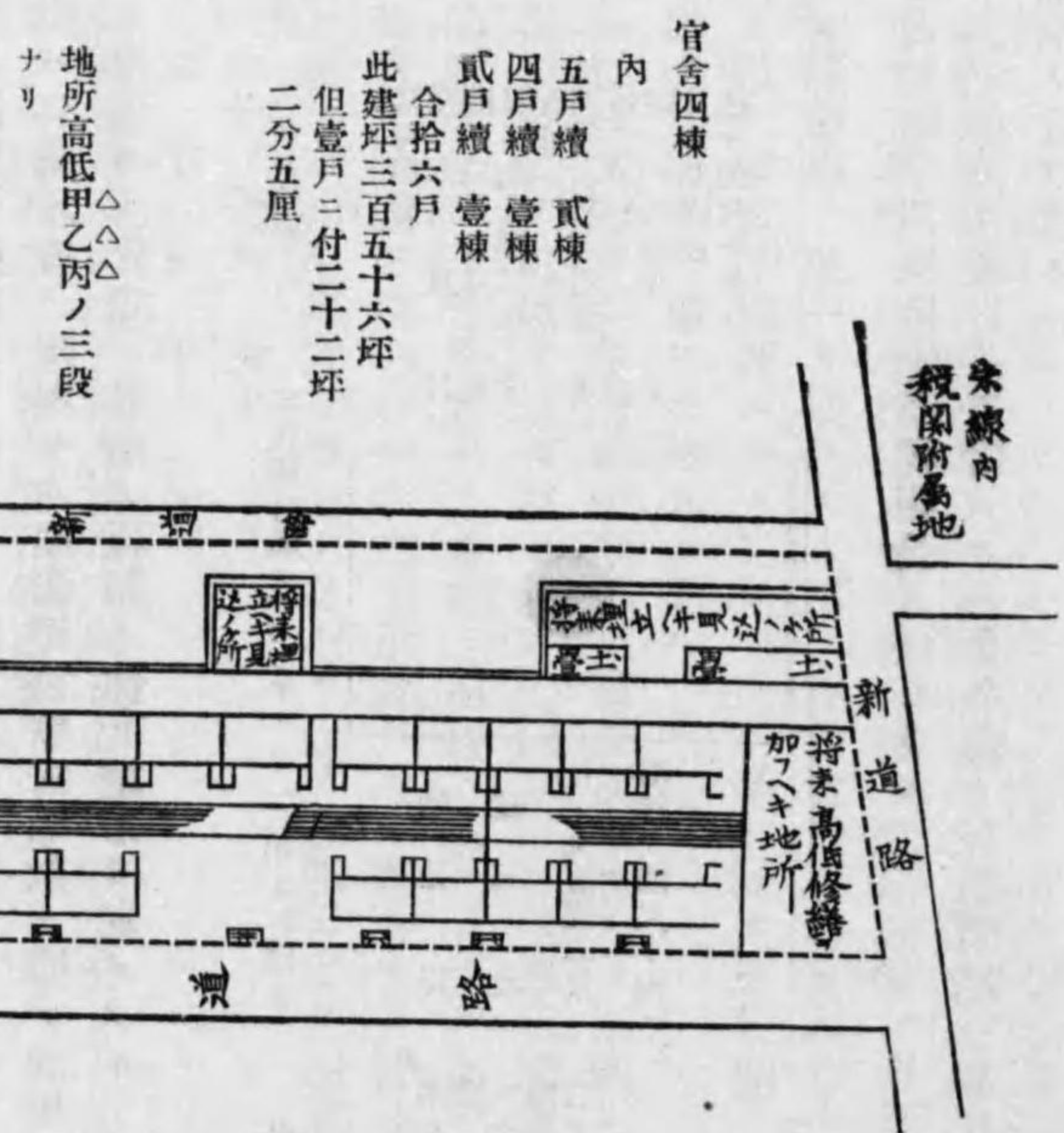
六月五日布告第二十九號ヲ以テ本年七月一日ヨリ左記物品ノ無稅輸出ヲ許ス（但課稅ノ際ハ二ヶ月
前ニ布告スヘキコト）

書、畫、草、寶石、石、木、土、藤、草、櫻欄、骨、角、甲貝、牙、皮革、蹄、羽、毛、紙、糸
織物、鯨鬚、琥珀、珊瑚、眞珠、玻璃、金屬等ヲ以テ單ニ製作シ或ハ相交テ製作シタル諸品竝ニ
右各種ト他ノ物質トヨリ成立タル諸製作品

七月二十二日從來開拓使ニ於テ外國船舶ヲ雇入ル、ニハ其都度上請シテ外務省ヨリ免狀ノ附與ヲ乞
ヒタルモ斯クテハ商機ヲ失スルノ恐レアルヲ以テ同使ニ於テ外國船舶ヲ雇入レタル後外務省ニ通牒
スルコト、ナリタルヲ以テ今後該船舶カ小樽外四港へ回航スルニハ函館港ヲ經由シ本關ノ認可ヲ受
クヘキ旨達セラレ

九月二十七日四月以後新築ニ着手シタル官舎五戸建貳棟四戸建壹棟二戸建壹棟落成ス總坪數三百五
十六坪建築費壹萬六百拾八圓九拾六錢ナリ

參照



字朱ハ△字朱ハ丙乙甲線朱ハ……中圖

十月十九日露領薩哥噠嶋出入船舶ニシテ船積或ハ船卸ニ際シ成規ニ違犯シタルトキハ八年第百六十

三號布告西洋形日本船各開港場出入規則第二條違犯トシテ其地裁判所ニ告訴スヘキ旨達セラル

明治十四年

一月三十一日小樽出張所ヲ廢止シ海外直輸出ノ產物アル時ニ及ンテ本關官吏ヲ派シテ處分セシムル
コト、ナル

二月九日函館稅關長河野通猷歸京ヲ命セラレ即日事務引繼ヲ了ス○同月十二日內國人外國船ヲ買入
レタルトキハ噸稅ハ外國政府ノ附與セル船籍證書登簿噸數ニ據テ課稅スヘキ旨達セラル○同月二十
三日稅關附屬船ニ掲揚スル旗章ハ其船ノ種類ニ從ヒ雛形ヲ定メラル

參照

各稅關付屬ノ小蒸氣船ニ用ユル旗章

各稅關付屬ノ「バッテリー」ニ用ユル旗章

各稅關附屬ノ日本形小形船ニ用ユル旗章



四月十九日權少書記官平川武柄函館稅關長ニ任セララル
六月三日去ル十二年中三井銀行へ下附シタル命令書ノ有効期限ハ本月三十日迄ナリシモ更ニ十六年
六月三十日迄延期ノ旨ヲ達ス

九月六日 天皇陛下 當地行在所ニ着御七日午前八時行在所御發輦御乘艦ノ際本關ニ御休憩稅關長
ニ謁見仰付ラレ本關在勤官吏ニ酒饌料ヲ賜ヒ同八時三十分軍艦迅鯨へ御乘艦アラレタリ此際稅關長
ハ明治元年度ヨリ十三年度ニ至ル輸出入收稅表及出入船舶表等ヲ奉呈セリ

十月六日各稅關會計事務ノ統一ヲ期スルカ爲メ各關會計事務ヲ本年十一月一日ヨリ大藏省會計局ニ
收メ同局派出員ヲ以テ事務ヲ整理スルコト、ナレリ是ニ於テカ稅關ノ經費及雜收入ニ關スル一切ノ
事務ハ會計局派出員ニ於テ掌理スルコト、ナル

十一月一日三井銀行へ下附セシ命令書中本關定額金及雜收入ノ出納ニ係ル條款ヲ取消シ更ニ右出納
事務ハ會計局派出員ニ於テ取扱フヘキ旨ヲ達ス○同月三日從來各國領事不在ノ際其事務ヲ他人ニ委
托シタルコトヲ通牒シ來ルモ外務省ヨリ承認ノ通達ヲ得ルニ至ル迄ハ公務上其ノ官職ヲ認メサリシ
ト雖モ自今ハ外務省ノ通達ヲ待タスシテ之ヲ承認スルモ差支ナキ旨達セラル

十二月二日清國ニ於テ本邦小銀貨ヲ價造シタルヲ以テ稅關ニ於テ注意スヘキコトヲ達セラル○同月
十五日稅關長官舍新築ノ認可ヲ受ク

明治十五年

三月二十九日日本關所屬地天神町七十四番地ニ延長九十六間五分ノ石垣竝ニ下水樋ヲ設ケ且ツ板塀建
設ノコトヲ認可セラル豫算參百四拾五圓八錢貳厘

關稅局織制並事務章程

關稅局ハ各港稅關ヲ統轄シ海關稅一切ノ事務ヲ掌管スル處ニシテ左ノ諸課ヲ置キ各其主務ヲ處辨
ス

議案課 統計課 審査課 洋文課

編輯課 庶務課

職制

長 一人

- 一、部下ノ官吏ヲ統率シ主管ノ事務ヲ總辨ス
- 一、部下判任官進退黜陟ハ之ヲ卿ニ具シ等外以下之ヲ專行ス

書記官

長ノ職務ヲ助ケ諸務ヲ幹理シ若クハ分掌ス長事故アツテ欠席スルトキハ其首席員之レカ代理タルヲ得

屬

各諸務ニ従事ス

事務章程

主管ノ事務左ニ列記スルモノハ長其意見ヲ卿ニ具シ決裁ヲ經テ施行ス其他ハ長之ヲ專行スル事ヲ得

主管ノ事務ヲ施行スルニ付テハ長皆其責ニ任ス

- 第一 條約ニ關シ疑義ニ涉ル事件ヲ處分スル事
- 第二 各稅關ノ慣行法ヲ變更スル事
- 第三 雇外國人ニ附與スル命令書ヲ制定變更スル事
- 第四 掌管ノ帳簿及表式ヲ定メ或ハ變正スル事
- 第五 成規定例アラサル事件ヲ處分スル事
- 第六 主管ノ事務ニ關スル法令規則ニ依リ其取扱ノ順序ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事

第七 本局及稅關ノ出張所並各課ヲ設置廢止シ其處務條款ヲ設定シ又ハ變更スル事

第八 新タニ書類ヲ刊行スル事

第九 故ラニ地方ヨリ東京橫濱地方官ヲ呼出ス事

第十 部下ノ官吏ヲ各地東京橫濱ニ派遣シ或ハ各地ヘ在勤セシムル事

第十一 部下官吏ノ勤勞ヲ按シ手當金又ハ褒賞ヲ給スル事

五月四日收稅ノ際賸造貨幣ヲ發見シタルトキハ納稅者内國人ナレハ明治九年第九十七號布告（賸造金銀銅貨紙幣等取扱規則）ニ依リ處分シ外國人ナレハ本品ヲ警察官署ニ送付シ同署ノ處分ニ讓リ又輸入ノ際ハ内外人ノ別ナク治罪法第九十六條ニ準據スヘキ旨ヲ達セラル

六月十五日稅關長官舍落成ス費額壹千七百六拾八圓〇同月二十日海關稅其他諸收入ノ取扱ハ從來本關ヨリ三井銀行ニ命シタルモ自今大藏卿ヨリ直チニ命スルコト、ナリタルヲ以テ三井銀行ヲ以テ大藏省爲替方トシ本關ノ海關稅其他諸收入ノ取扱ヲ命セラル〇同月同日日本關用地天神町七十四番地南隅接續ノ地三坪五分四厘ヲ函館縣ヨリ領收ス是ニ於テ同番地ニ於ケル本關用地ハ合計二千四百六十一坪七分二厘トナル

明治 十六年

二月二十三日煙草稅則第十條ニ「外國へ輸出スル煙草ニ限リ輸出ノ節稅關ニ於テ戻稅トシテ印稅相當ノ金額ヲ輸出人へ下付スヘシ」トアルヲ以テ右輸出人へハ内外人ヲ問ハス總テ戻稅スヘキコトヲ達セラル

三月九日稅關監視課職制中行文ノ件通達セラル

參 照

今般第九拾五號達稅關監視課職制中監吏ノ部ノ末行「以上之ヲ判任官トス」ノ九字並ニ監吏

補ノ部末行「以上之ヲ等外吏ニ準ス」ノ十字ハ全ク衍文ニ有之候條此段及御通達候也

明治十六年三月九日

少書記官 石川 有 幸

函館稅關長代理

佐山三等屬殿

四月十四日日本關應接所ヲ租稅局函館出張所ニ貸與スルコト、セリ○同月二十九日天神町七十四番地ニ官舎一棟三戸建ノ新築ニ着手ス

五月十一日雇入外國船不開港へ回漕ノ許可ヲ得タルモノハ外務省ヨリ本免狀ヲ附與スル迄ノ間一時地方廳ヨリ假免狀ヲ附與スヘキヲ以テ該假免狀ハ本免狀同一ノ効ヲ有スルモノト認定スヘキ旨達セラル

六月二十二日稅關監視課職制ヲ改正シ監視課章程中第四條ヲ改メ監吏補ノ疾病或ハ事故ニ依リ欠勤スルモノアルトキハ非番ノ者ヲシテ代務セシムルコト、シ償務金ノ徵否及其金額ノ多寡ハ本關ニ於テ適宜取調へ伺出ツ可ク又償務金ハ代務者ニ給與スヘキ旨達セラル○同月二十九日輸出煙草戻稅取扱方ヲ定メラル

參照

- 第一條 刻煙草ヲ海外ニ輸出セントスルトキハ輸出人ヨリ甲號ノ願書ヲ差出サシメ逐一檢査ヲ遂ケ全ク相違ナキニ於テハ其貼付シアル印紙ヲ消印シ該印稅相當ノ金額ヲ輸出人ニ下戻シ乙號ノ証書ヲ差出サセ候事
 - 第二條 煙草輸出人へ下戻スヘキ印稅現金ノ支出方ハ丙號ノ切符ヲ作り其一印ハ原符トシテ稅關ニ留メ置キ二印ハ輸出人ニ渡シ之ヲ其地所在ノ大藏省爲替方へ持參シ現金ト引換ヲ爲サシメ三印ハ其關ヨリ大藏省爲換方へ送付スヘク候事
- 但本文切符ヲ振出シタル都度其金高ヲ本局へ通知スヘク候事

明治十六年六月二十九日

(書式略ス)

關稅局長 中野 健 明

八月二十一日新築中ノ官舎一棟三戸建落成ス費額七百四拾五圓八拾錢

十月九日暴風アリ本關構内ニ於ケル水夫溜所竝ニ三菱會社ノ上屋共吹倒サレ其他本關上屋ノ如キモ屋瓦轉墜シ周圍ノ下見板等ハ激浪浸入ノ爲メ多ク脱落シ且三菱會社上屋番人狼狽シテ火ヲ失シ將ニ大事ニ至ラントシタルモ本關吏員其他ノ盡力ニヨリ幸ニ事ナキヲ得タリ○同月十一日小樽外四港ヨリ本道物産ノ海外直輸出ヲ農商務省ニ許可セラル○同月二十日曩ニ本關内ノ一室ヲ以テ租稅局函館出張所ノ廳舎ニ充テタルモ同出張所建築工事竣功ニ付本日移轉セリ○同月二十八日本省ヲ限リ試驗ノ爲メ物品會計法ヲ施行スルコト、ナリタルヲ以テ關稅局主管ノ物品ハ別ニ定メタル物品會計法規程草按ニ準シ取扱フヘキ旨達セラル

十二月七日布告第四十號ヲ以テ明治九年十月布告第百二十九號ヲ廢止シ朝鮮國トノ貿易ハ總テ他外國貿易ノ手續ニ依ルコト、ナレリ但當分ノ内嚴原下ノ關博多ノ三港ニ限リ朝鮮國貿易ニ關スル日本人所有ノ船舶ノ出入及貨物ノ積卸ヲ許シ日本形船舶ニ限リ出港手数料トシテ正金壹圓入港手数料トシテ正金貳圓ヲ徵收スルコト、定メラル

明治十七年

一月八日權少書記官平川武柄本關長ヲ免シ歸京申付ラル同日權少書記官野田鷹雄本關長ニ任セララル三月二十三日庶庫敷料ハ内國人ニ限リ通貨ヲ以テ徵收スルコト、シ倉庫一戶貸規則ヲ定ム

參照

倉庫一戶貸規則

第一條 本庫ハ第二條ニ明記セル貯藏禁制品及稅關手續未濟ノ外國品ヲ除クノ外内國產外國產

- ノ別ナク凡百ノ荷物ヲ貯藏スルヲ得ヘシ
- 第二條 火藥類硝石硫黃摺附木石腦油等ノ如キ危險質ノ品及庫内ヲ汚損ス可キ荷物ハ本庫ニ貯藏スルヲ禁ス
- 第三條 本庫ノ敷料ハ壹戸ニ付壹ケ月通貨何圓ト定メ其貸與シタル當日三ケ月分ヲ前納シ以後貸與期限中滿一ケ月ニ至ル毎ニ其翌日又一ケ月分ヲ上納スヘシ
但「期月」假令ハ一月十五日ヨリ貸與スレハ翌二月十四日ニ至リ滿一ケ月ト爲シ「期年」ハ假令ハ明治十七年一月十日ニ貸與スレハ翌十八年一月九日ニ至リ滿一ケ年ト爲スヘシ
- 第四條 倉庫外戸ノ鑰鍵ハ稅關ニ留メ置キ内戸ノ鑰鍵ハ其借主ニ貸渡スヘシ
- 第五條 何人ヲ論セス庫内ニ於テ吹烟スルコトヲ許サス又軍艦用ノ提燈ヲ除クノ外他ノ燈火ヲ使用スルヲ許ササルヘシ
- 第六條 稅關官吏ハ貯藏荷物ヲ点檢スル爲メ何時ヲ論セス庫内ニ出入スルヲ得ヘシ
- 第七條 本庫若シ破損シタルトキハ速カニ其旨ヲ稅關ニ申立其修繕ヲ需ムヘシト雖モ事若借主ノ不注意ニ係ラハ稅關ハ借主ヲシテ其元形ニ復セシムヘシ
- 第八條 本庫ハ稅關ノ休日ヲ除ク外毎日々出ヨリ日沒迄ノ間開披スルヲ得若此時間外ニ開披ヲ要スルトキハ之ヲ稅關ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 第九條 貸與期限中ト雖モ稅關ノ都合ニ依リ倉庫ヲ要スルトキハ一ケ月前借主ニ通知シ之ヲ返上セシムヘシ
- 四月九日日本年六月三十日限り稅關爲替方ヲ廢シ七月一日ヨリ該取扱事務ハ日本銀行ニ命セラレタル旨ヲ達セラシ
- 六月三日船見町所在舊租稅局出張所ノ建物ヲ本關ノ附屬トス(但シ豐川町所在舊租稅局出張所附屬倉庫ノ保管ハ函館縣へ委任セラシ)○同月三十日稅關經費取扱方ヲ達セラシ
- 七月二十一日曩ニ本關ノ附屬トシタル舊租稅局出張所ノ建物ヲ領收ス

八月二十六日貨物上屋入規則ヲ定ム

參照

- 貨物上屋入規則
- 第一條 內國人民ニシテ内地回漕貨物ノ上屋入ヲ願ヒ出ルトキ稅關ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ許可スヘシ
但貨物物品置場所ハ係官吏ノ差圖ヲ受クヘシ
- 第二條 火藥硝石硫黃タールビツチ石油ノ如キ危險物ヲ積入レ或ハ上屋内ヲ汚スヘキ質ノ物品ハ總テ貯入スルヲ禁ス
- 第三條 上屋内ニ於テ吸烟ハ勿論火其他發火シ易キモノハ一切使用スルヲ禁ス
- 第四條 上屋貨物ノ出入時間ハ稅關休日ヲ除キ毎日日出ヨリ日沒マテトス若此時間外ニ出入ヲ要スルトキハ之ヲ稅關ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 第五條 稅關官吏ハ貯入貨物ヲ點檢スルタメ何時ヲ論セス上屋内ヲ巡視スルコトアルヘシ
- 第六條 貯入貨物ニ天災若クハ盜難鼠喰其他ノ事故ニ依リ損害ヲ生スルモ稅關ニ於テ一切其ノ責ニ任セス
- 第七條 貯入貨物二日間迄ハ敷料相納ムルニ及ハスト雖モ三日以上ハ日數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ金額ヲ貨物引取ノ際ニ上納スヘシ
但日數ハ午前午後ヲ論セス總テ一日爲スヘシ上屋壹坪ニ付キ一日金壹錢
- 第八條 貨物貯入ハ三十日間ヲ以テ期限トス滿期ニ至リ猶引續キ貯入ヲ願フ貨主ハ前期敷料上納ノ後更ニ願書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ其滿期々日ニ至リ貨主之ヲ引取ラサルトキハ稅關ニ於テ之ヲ庶庫若クハ上屋外へ移シ該運搬ニ關スル諸費ハ一切貨主ヲシテ辨償セシムヘシ
- 第九條 但引續キ貯入ヲ願フモノハ其當日ヨリ敷料ヲ上納スヘシ
貸渡期限内ト雖モ稅關ニ於テ所要有之節ハ二日前ニ貨物ノ引取方ヲ達スヘシ若シ其

期日ニ至リ貨主之ヲ引取ラサルトキハ第八條ニ準シテ處分スヘシ
第十條 第八條第九條ノ場合ニ於テ庶庫ヘ引移シタル貨物ハ庶庫貸渡規則ニ依リ敷料ヲ徵收スヘシ

第十一條 前條々ノ如ク定ムルト雖モ稅關ノ都合有之節ハ追加又ハ改正等爲スコトアルヘシ
九月十八日稅關經費請求方區々ニ涉ルノ故ヲ以テ經費請求手續ヲ定メラル
十一月二十四日稅關長官舎ヘ既壹棟新築ノ認可ヲ受ク豫算百貳拾圓七拾錢七厘トス
十二月二十三日稅關經費取扱方ヲ更正セラル
此年樺太貿易ニ關シ意見ヲ上陳ス

參照

樺太貿易船ニ手数料ヲ賦シ樺太貿易品ニ關稅ヲ課スルノ利害ニ付テハ明治八年千島樺太交換條約公布ノ際當時ノ關長ヨリ屢々上請ノ次第有之候處遂ニ明治九年第四百十九號ヲ以テ樺太島貿易ノ儀當分ノ内國產物内地運送同様云々公布相成候ニ付爾來該公布ニ載スル所ノ明治八年第四百六十三號公布ハ沿海諸港ノ間ニ内國產物ヲ回漕スル船舶ノ爲メニ設立セル規則ニシテ寬嚴宜ヲ得ス船舶ノ出入届ヲ怠ルモノニ對シテハ處罰ノ法ヲ掲クルト雖モ貨物積卸ノ違犯ニ至テハ之ヲ罰スルノ法ナシ如斯規則ヲ以テ苟モ外國ニ航行スル船舶ニ適用スルハ不檢束ト云ハサル可カラス然レモ復々眼ヲ轉シテ明治八年乃チ千島樺太兩島交換ノ當時ヲ觀ルニ内國人ノ樺太島ニ渡航シテ漁業ヲ營メルト魯國政府ノ該漁業者ヲ遇スルト兩ナカラ從來ノ習慣ヲ因襲シ猶ホ兩島交換以前ノ有様ニ異ナラス其漁獲品ハ恰モ彼ノ沿海ニ於テ拾取シタルモノ、如ク尋常ノ貿易品ト固ヨリ其性質ヲ異ニシ從テ其漁獲品ヲ運輸シ若クハ該漁業ニ從事スル船舶モ尋常ノ貿易船ト同視スヘカラサルノ故ヲ以テ舊慣ニ依リ一時特例ノ保護ヲ與ヘラレシハ無據次第ト存候然ルニ現今ノ情况ハ全ク往時ト相反シ近來魯國政府ハ日本漁夫一人ニ付薪水トシテ三十錢ヲ徵收シ又本年四月以來漁業品一「フート」ニ付五「カペーキ」ノ稅ヲ課セリ
「フート」ハ凡我四貫三百二十目ニシテ「カペーキ」ハ我

銀貨五厘ニ當ルト聞ケハ漁獲品百頃日又一令ヲ發シ四十九度以北ニ在テハ日本人ノ漁業ヲ禁スト蓋シ石ニ付大凡ソ三十弗ノ割合ナリ該度以南ニ在ル漁場ハ徵々算スルニ足ラスト聞ケリ夫レ名ハ薪料ト稱シ漁獲稅ト唱フルモ畢竟漁業ニ關スル賦金ナレハ其實關稅ヲ課スルニ異ナラス况ンヤ日本人ノ漁業ヲ禁スルニ至テハ從來ノ習慣ハ全ク跡ヲ絶チシモノト云ハサルヘカラス然ラハ則自今彼島ニ往來スル船舶ハ魯國人ノ漁獲品ヲ買收スルモノナレハ從來ノ如ク自己ノ勞力ヲ以テ漁獲シタルモノト見做スヘカラサルナリ抑モ近來ノ輸出入品ヲ閱スルニ商賣品ト認ムヘキモノナキニ非ス已ニ昨年中歸航ノ船舶ニハ英商某ノ貨物ヲ積來リタル例モ有之殊ニ頃來屢々伺出シ如ク明治九年第四百十九號公布ニ違背シ不開港ニ入テ貨物ヲ積來ル船舶モ有之此有様ニシテ漠然放任セハ該布告ハ全ク其効力ヲ失スルノミナラス遂ニ進ンテ黑龍江若クハ浦潮斯德ニ廻航貿易スルニ至ラン果シテ然ルトキハ猶ホ昨十六年第四十號布告以前ニ於ケル朝鮮貿易ト同一ノ形勢ニ立至ルヘクト存候是ニ由テ之ヲ考フレハ自今樺太島ヲ以テ一般ノ外國ト同視シ船舶出入ノ手續及貨物積卸ノ取扱ニ至ル迄總テ外國貿易ノ規則ニ從ハシムルヲ至當ニシテ目下ノ取締將來ノ防害一舉兩全ト存候乍去樺太貿易ニ從事スル船舶ハ半ハ日本形船舶ナルニ依リ同船ニ限リ朝鮮貿易ニ從事スル船舶ト同額ノ手数料ヲ徵收スルトキハ彼此權衡ヲ得テ偏重偏輕ノ患無之ト存候前陳ノ次第厚ク御詮議ノ上至急御發令相成候様仕度此段及上請候也

明治十八年

三月本關構内ニ板藏壹棟新築ノ認可ヲ受ク豫算百八拾六圓貳拾六錢トス
四月二十二日官廳用品検査ノ爲メ定期外ノ波止場ヘ官吏ヲ出張セシメタルトキハ手数料ヲ徵セサル旨達セラル
五月稅關長官舎附屬既壹棟建坪十三坪七分五厘工費百貳拾圓ヲ以テ新築落成ス
六月八日自今遊船ハ總テ入港手数料ヲ免除スヘキ旨ヲ達セラル
○同月十八日官舎一棟三戸建増築ノ認可ヲ受ク豫算七百七拾貳圓參拾貳錢トス
○同月二十六日農商務省所管北海道物産小樽港ヨリ直輸出

ノ件ニ關シ收稅ハ都テ納金證書ヲ提供セシメ現金ハ本關ヘ回付セシムルコトハス
七月三日上屋壹棟新築認可ヲ受ク豫算九百八拾四圓四拾五錢六厘
九月二十四日曩ニ遊船出入港手數ヲ免除シタルヲ以テ追テ該船ニ對スル規則ヲ制定スルニ至ルマテ
取扱フヘキ手續書案ヲ定メラル

參照

遊船取扱手續書案

- 一 遊船入港セハ監吏出張船司若クハ士官ニ面會シ其國名船名噸數乘組人員船司ノ名乘組紳士ノ名商品ノ有無遊船ノ資格(例ヘハ「ロヤルスクワダレン」或ハ「ロヤルヨットクラツプ」所屬船或ハ尋常遊船ノ類)等ヲ尋問シ之ヲ尋問簿ニ記載シ船司若クハ士官ニ記名セシメ然ル後遊船タルヲ證明セル其國領事ノ書面ヲ差出サシムル事
- 但一回入港シタルコトアル遊船ニテ再後商船ニ變シタルヤノ疑ナキ者ハ領事ノ證明書ヲ出サシムルニ及ハス
- 一 監吏ハ何時ヲ論セス船内ニ臨檢スルヲ得ル事
- 一 遊船出港ノ節ハ出港ノ時日及ヒ其仕向先ヲ届出サシムル事
- 一 前記諸項ニ違背スルカ若クハ商品ヲ運搬スル者ハ遊船トシテ待セス貿易章程第一則及第四則ノ手數ヲ爲サシムヘキ事

九月二十六日從來正貨ハ時價ヲ以テ交換シ來リシカ自今收支トモ都テ並價ヲ以テ交換ノ旨達セラレ
十月二十八日農商務省所管本道物産小樽港ヨリ直輸出ノ節收稅金ハ總テ同省ヨリ直ニ本省ヘ回付ス
ヘキヲ以テ本關ヨリハ農商務省事務所ヨリ提供シタル納金證書ニ本關ノ上納證書ヲ添ヘ主稅局ニ提出スヘキ旨達セラレ○十月當關慣行方法ヲ編成ス

參照

當關慣行方法從來編製無之處明治十六年十月關稅局長ヨリ編製差出方達アリ即同年十二月編製
進達セシモ事勿々ニ出テ實際ト小異同ナキ能ハス且關務ニモ若干ノ更革アリ同十八年三月野田
關長ノ命ニ依リ各科ト逐條會議討論實際施行ノ通り訂正シ尙同年七月再會議ニ付シ決定ス編輯
体裁ハ專ラ關稅局達雛形ニ遵ヒ調製セシモノナリ

明治十八年十月

函館稅關慣行方法

外國船入港之事例

第一章

外國商船又ハ外國航行ノ内國船入港セハ直ニ監吏入港ノ事由ヲ尋問シ第壹號書式ニ從テ船司
ヘ其旨ヲ自記セシメ之ニ上監監吏補ヲ置キ上監監吏補ハ事務ノ繁閑ニ從ヒ一人若シクハ二人便宜ニ之ヲ置ク入港報知簿第二號書式
ニ登錄シテ之ヲ關長及ヒ各科ニ報告ス(書式略ス)

第二章

監視科ノ報告ニ應ジ目錄係檢査科ノ分係以下之ニ徴フ本船ノ條件ヲ出入船照查簿ニ登錄ス

第三章

船長若シクハ其代人入港届書(第三號書式)並ニ本船ノ輸入積荷目錄及其國領事ノ船籍書類
ヲ預リタル證書又ハ船籍書類其國領事ヲ添テ入港手數ヲ願ヒ出ル時ハ目錄係之ヲ出入船照查簿
ニ照シ期限 入港後休日ヲ除キ四十八時間ヲ過キサレハ入港届ノ日時ヲ出入船照查簿ニ記入シ届書ノ表面原文
ヲ譯記認印シ届書我國文ナレハ其儘檢査科ニ送り目錄ヘ本船ノ番號ヲ付シテ之ヲ留置ク
但本文届書期限ヲ過テ差出セシトキハ之ヲ本科ニ報告ス

第四章

檢査科入港届書ヲ檢査シ故障ノ件ナケレハ科長認印シテ之ヲ收稅科ニ送ル

第五章

商船着港後四十八時間ニ入港手數ヲ爲サレハ目錄係之ヲ本科長ニ報告ス本科長ハ其旨ヲ關
長ニ具申シテ指令ヲ待テ貿易章程第一則ニ從ヒ其怠リシ日毎ニ六十弗ノ罰金ヲ課スル手續ヲ

爲ス若シ承服セサルトキハ荷物ノ積卸ヲ許サ、ル旨ヲ達シ置キ之ヲ監視科ニ通知ス

但罰金取立ル時ハ先其罰金徴收書ヲ作り之ヲ收税科ニ廻ス同料罰金領收證ヲ作り一般ノ手續ヲ以テ官金取扱人ヲシテ金額ヲ受取ラシム

第六章

積荷ナキ船舶又ハ積荷ヲ卸サ、ル船舶タリト雖モ着港後四十八時間ヲ過テ猶入港手數ヲ爲サ、ルトキハ則前章ニ準シテ處分ス

第七章

軍艦游船「ヤット」船中用意品ノ爲メ入港ノ鯨漁船、困難船及條約未濟國ノ船舶ハ脱關ノ管轄ニ非スト雖モ事務モ稅務ニ涉レハ稅關ノ管掌スヘキモノトス故ニ鯨漁船困難船ノ如キハ積荷目録ヲ出サスト雖トモ若シ商品ヲ船積又ハ船卸センコトヲ出願セハ貿易章程第四則ニ從ヒ改メテ入港手數ヲ爲サシメ商船一般ノ取扱ヲ爲ス

第八章

輸入積荷目録ヲ差出シタル時ヨリ期限内休日ヲ除キ二十四時間ヲ云ニ該積荷目録中相違ノ廉アルヲ心付之ヲ書改メ或ハ書加ヲ爲サンコトヲ願出ルトキハ之ヲ許ス可シト雖トモ若シ此期限ヲ經過シテ之ヲ願出レハ縱令無稅品タリトモ貿易章程第一則ニ從ヒ墨銀拾五弗ノ罰金ヲ課スル手續ヲ爲ス但罰金取立ル時ハ先其罰金徴收書ヲ作り收税科ニ廻ス同料罰金ノ領收證ヲ作り一般ノ手續ヲ以テ官金取扱人ヲシテ金額ヲ受取ラシム

第九章

收税科監視科ノ報告ニ應シ本船ノ條件ヲ進口目録ニ登錄シ檢査科ヨリ入港届書並ニ其國領事ノ船籍書類ヲ預リタル證書又ハ船籍書類ヲ送付セハ之ヲ進口目録ニ照シ期限入港後休日ヲ除キ四十八時間ヲ過キサレハ紙尾ニ入港手數料ヲ記號シ稅簿係收税科ノ分係ニ送付シテ其領收ノ手續ヲ爲サシム領事ノ證書又ハ船籍書類ハ關長ノ命ニ依リ科長之ヲ預リ置ク但本文届書期限ヲ過テ差出セシ時ハ之ヲ檢査科ニ報告ス

第十章

稅簿係本科ヨリ入港届書ヲ送付セル時他ノ貨幣假令ハ墨銀十五弗ヲ納ムヘキナ船長又ハ其代人都合ヲ以テテ納ムル時ハ其交換價格ヲ計算シ更ニ其高ヲ届書ニ記シ之ヲ官金取扱人ヘ送付シテ其金高ヲ受取ラシム但當日差出セシ届書ノ金額ヲ合算シテ簿記ニ登錄ス

第十一章

官金取扱人稅簿係ノ達示ヲ得テ本書ノ金高ヲ受取リ之ヲ自家ノ帳簿ニ記入シ之ニ割印シテ其受取濟ヲ證シ稅簿係ヘ返ス稅簿係更ニ之ヲ捺印係文書科ノ分係ニ送ル

第十二章

捺印係入港届書ヲ稅簿係ヨリ送付セハ之ヲ檢査シ紙尾ニ番號ヲ付シ認印シテ更ニ領收證第一四號書式ヲ作り金員番號等ヲ記載認印シ且之ニ稅關及關長ノ印ヲ捺シ届書ト割印シ壹枚ハ係中ニ留置キ壹枚ハ收税科ヘ送ル但届書ハ一括シテ翌日之ヲ製表科ヘ送ル

第十三章

收税科領收證書ヲ捺印係ヨリ送付セハ之ヲ船長或ハ其代人ニ付與シ又入港船手數濟報知簿ニ記載シテ其手數濟タル旨ヲ監視科ニ報告ス

第十四章

游船ヤット船中用意品ノ爲メ入港ノ鯨漁船困難船及條約未濟國ノ船舶入港セハ監視科長直ニ其旨ヲ關長ニ具申ス

第十五章

内國船舶ニシテ外國航行ノ節ハ船書類稅關ニ預リ其他ノ取扱總テ外國船ニ同シ外國船滯港之事例

第一章

外國商船又ハ外國航行ノ内國船港内ニ碇泊スル間監視科之ヲ監視シ監吏並ニ監吏補ヲシテ間斷ナク巡廻又ハ上監セシメテ其船ノ密商稅ヲ豫防ス

第二章

各船ノ艙口ハ勿論其他ニ積荷アル入口ハ總テ監吏補ヲシテ毎日日没之ヲ鎖鑰或ハ封印ヲ爲シテ夜中貨物ノ積卸ヲ嚴禁シ日出ニ之ヲ開放シ監吏補ヲ上監セシム日曜日其他ノ休日ハ之ヲ開放セサルモノトス

第三章

本船ノ艙口其他積荷アル入口ノ鎖鑰又ハ封印ヲ安リニ取除キ或ハ破壊シテ貨物ヲ積卸スル時ハ海上巡廻監吏補ハ直ニ其貨物ノ積卸ヲ嚴禁スルハ勿論其事由ヲ糾問シ船長或ハ當務ノ士官ニ面會シ艙末書ヲ出サシメ速ニ監吏ニ申報ス

第四章

科長艙末書ヲ得テ其犯狀ヲ詳カニシ關長ヘ具申シ指令ヲ待テ貿易章程第二則ニ從ヒ其犯セル毎ニ墨銀六拾弗ノ罰金ヲ課スル手續ヲ爲ス
但罰金取立ル時ハ先ツ其罰金徵收書ヲ作り之ヲ收稅科ニ廻ス同科罰金領收證ヲ作り一般ノ手續ヲ以テ官金取扱人ヲシテ金額ヲ受取ラシム

外國船出港之事例

第一章

外國商船又ハ外國航行ノ内國船出港スルトキハ其拔錨時刻ヨリ二十四時前ニ船長若クハ其代人出港届書(第五號書式)ニ輸出積荷目錄ヲ添テ出港手數ヲ願出ルトキハ先其船ノ積荷本港へ輸入願差出シタル貨物悉皆陸揚濟ナルヤ否ヤヲ調査シ且輸出積荷目錄ト輸出願書ノ譯書ト照シ符合スレハ目錄係認印シ出入船照查簿ニ本船ノ仕向港並日時ヲ記入シ届書ノ表面原文ヲ譯記シ^{ナレハ其儘}之ヲ本科ニ送ル目錄ハ本船ノ番號ヲ付シテ係中ニ留置ク
但輸入願書中陸揚セサル貨物アルトキハ之ヲ糾問シテ其旨本科ニ報告ス

第二章

檢査科出港届書ヲ目錄係ヨリ送付セハ輸出願書ト輸出目錄ト相違ナケレハ科長認印シテ届書ヲ收稅科へ送ル若シ輸出目錄ト輸出貨物ト符合セサルカ又ハ輸入願書中船卸セサル貨物アル

トキハ其出港届ヲ留置キ先ツ貨物ノ手數ヲ爲サシム苟モ事曖昧ナルトキハ科長之ヲ糾問シ關長ニ具申指令ヲ待テ處分ス

第三章

出港手數濟ノ後貨物ノ積卸ヲ願出ルトキハ改メテ入出港ノ手數ヲ爲サシメ之ヲ許スモノトス尤モ些少ノ物品等ニシテ事情無餘義モノハ科長事情ヲ關長ニ具申シ指令ヲ待テ處分ス

第四章

收稅科出港届書ヲ檢査科ヨリ送付セハ其條件ヲ進口目錄ニ記入シ更ニ届書ノ紙尾へ出港手數料ノ金額ヲ記シ科長認印シテ之ヲ稅簿係送り領收ノ手續ヲ爲サシム

第五章

稅簿係出港届書ヲ本科ヨリ送付セル時ハ他ノ貨幣^{假令ハ墨銀七弗ヲ納ムヘキヲ船長又ハ其代人ニテ都合ヲ以テ納ムルトキハ}其交換價格ヲ計算シ更ニ其高ヲ届書ニ記シ之ヲ官金取扱人へ送付シテ領收セシム
但當日差出セシ届書ノ金ヲ合算シテ簿配ニ登録ス

第六章

官金取扱人稅簿係ノ達示ヲ得テ本書ノ金高ヲ受取之ヲ自家ノ帳簿ニ記入シ届書ト割印シテ其受取濟ヲ證シ稅簿係へ返ス稅簿係之ヲ捺印係へ送ル

第七章

捺印係出港届書ヲ稅簿係ヨリ送付セハ之ヲ檢査シ紙尾ニ認印シ更ニ領收證書(第六號書式)ヲ作り金員番號等ヲ記シ金員ノ下ニ認印シ且之ニ稅關及關長ノ印ヲ捺シ且領收證ノ番號ヲ届書ニ記シ割印シテ之ヲ收稅科へ送ル
但届書ハ一括シテ翌日製表科へ送ル

第八章

收稅科出港手數願出タル旨ヲ關長ヘ具申シ指令ヲ待テ科長ハ領事ノ證書或ハ船籍書類及領收證書ヲ船長又ハ其代人へ返付シ且出港手數濟報知簿ニ記入シテ其手數濟タル旨ヲ監視科へ報

告ス

第九章

監視科出港手數濟ノ旨ヲ收稅科ヨリ報告セハ直ニ之ヲ上監監吏補ニ通達シテ貨物ノ積卸ヲ許サス

但免狀ニ特許ノ文字記入シアル分ハ特ニ之ヲ許ス可シ
有稅品輸入之事例

第一章

願人貨物輸入願書(第七號第八號書式)並ニ貨物仕入書ヲ添テ差出ストキハ目錄係本船ノ輸入積荷目錄ニ照シ記號番號等相違ナク個數目錄ヨリ超過セサレハ之ヲ塗抹シ貨物引取人ノ姓名及貨物引渡ノ日月ヲ目錄ニ記入シ且願書ニ認印シテ翻譯係へ送ル

第二章

翻譯係貨物輸入願書並ニ貨物仕入書ヲ添テ目錄係ヨリ送付セハ之ヲ翻譯(第九號書式)認印シテ本科へ送ル

第三章

檢査科輸入願書ノ譯書ヲ翻譯係ヨリ送付セハ之ヲ檢査シ相違ナケレハ船卸證(第十號書式)ヲ作り譯書ト割印シテ之ヲ願主ニ付與ス而シテ譯書ハ改品係ニ送り仕入書ト願書ハ鑑定科ニ送ル

但輸入積荷目錄ニ漏レタル物品ノ陸揚ヲ願出ルトキ目錄係目錄外ナル旨ヲ願書ニ記入認印スヘシ

第四章

願主貨物ノ船卸ヲ爲セハ其船卸證ニ上監監吏補ノ裏書第十號書式裏面並ニ認印ヲ受ケ之ヲ改品係檢査科分係ニ出サシム

第五章

輸入積荷目錄ニ漏レタル歟或ハ誤記シタルヲ心付之カ更正ヲ願出ルトキハ定期入渡手數ノ休日ヲ除キ二十四時間

以內ナル時ハ之カ更正ヲ爲サシムト雖モ右期限後ナルトキハ關長ニ具申シ十五弗ノ罰金ヲ出サシメ之カ更正ヲ爲サシム

第六章

貨物仕入書ナキ有稅物ヲ輸入シテ陸揚ヲ願出ルトキハ仕出港ノ遠近ニ從ヒ其仕入書到着ノ期限ヲ約定シテ借庫ニ其貨物ヲ預ルヘシ此場合ニハ元價五百弗以下ノモノタリトモ妨ケナシ

但贈答品或ハ其他ノ貨物元價二百弗以下ノモノ又ハ貳百弗以上ナルモ廢廢スヘキ物品ナレハ仕入書ナクトモ鑑定科ニテ其價格相當ト看認ムル時ハ通常ノ手續ヲ以テ通關セシム

第七章

願書或ハ證書面ニ收稅ヲ掠メントシテ詐僞アルモノハ檢査科長其記名セル者ニ事情ヲ糺問シ直ニ之ヲ關長ニ具申シ指令ヲ待テ貿易章程第五則ニ從ヒ百二十五弗ノ罰金ヲ課スル手續ヲ爲ス

但罰金取立ル時ハ先ツ其罰金徵收書ヲ作り之ヲ收稅科ニ廻ス同科罰金領收證ヲ作り一般ノ手續ヲ以テ官金取扱人ヲシテ金額ヲ受取ラシム

第八章

鑑定科貨物輸入願書及仕入書ヲ檢査科ヨリ送付セハ其仕入書ノ當否ヲ按シ現品ヲ點檢シ元價不相當ト認ムル時ハ更ニ鑑定價格ヲ願書ニ朱書シ主務者及科長認印シテ檢査科へ送ル若シ從價品ニシテ貨主其價格ニ承服セサルトキハ條約書第八條ニ依リ増價(即鑑定價)ヲ以テ買上ヲ談シ其事由ヲ檢査科及收稅科へ通知ス

第九章

輸入貨物ニ損傷アリテ貨主ヨリ貿易章程第三則第四項ニアル手順ヲ以テ申出ル時ハ定額品ナレハ鑑定科其損傷幾分通ナル歟ヲ檢シ其度ヲ目安ト爲シ定稅ノ額上ヨリ幾分ヲ減シ其旨ヲ願書ニ朱書シ又從價品ナレハ相當減少ノ價格ヲ査定シ願書ニ朱書シ何レモ主務者及科長認印シテ之ヲ檢査科ニ送り現價ニ應シ納稅セシム貨主若シ右減額ニ承服セサル時ハ前章ニ準シテ處分ス

第十章

検査科貨物引受人又ハ會社ニ於テ貨主ノ依頼ヲ受ケ輸入シタル有税品ヲ陸揚願出ル時貨主不在ニシテ即時納税シ能ハサルトキ貨物ノ元價五百圓以上ナレハ借庫ニ預リ若シ元價不明ニシテ少許ノ品ナル時ハ引受人ヨリ相當ノ願書ヲ出サシメ借庫ニ預リ或ハ封印シテ貨主ニ預クル等臨機ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十一章

輸入貨物ノ包装又ハ箱籠等ノ中仕入書ニ載セサル高價ナル物品ヲ隱匿シ以テ收税ヲ減セント謀リタルモノハ検査科長其顛末ヲ關長ヘ具申シ指令ヲ待テ貿易章程第二則ニ從ヒ之ヲ沒收スルノ手續ヲ爲ス

第十二章

吸煙鴉片等ノ輸入ハ國禁タルカ故ニ若シ輸入貨物ノ包装其他ノ中ニ隱匿スルアレハ之ヲ留置キ前章ニ準シテ處分ス

但貿易章程第二則ニ從ヒ壹斤毎ニ墨銀拾五弗ノ罰金ヲ課ス尤壹斤未滿ナルトキハ罰ヲ論セズ罰金取立方手續ハ第七章但書ノ如シ

第十三章

改品係輸入願書ノ譯書ヲ本科ヨリ送付セハ直ニ貨物ノ所在ニ就キ願主ト立會ヒ貨物ノ記號番號ヲ照査シ小譯斤量尺度等ヲ點檢シ之ヲ精算シテ譯書ニ朱書認印シテ之ヲ上屋係ニ送ル

第十四章

上屋係倉庫科ノ分係改品係ヨリ輸入願書ノ譯書ヲ送付セハ尙該貨物ノ所在ニ就キ點檢ノ上差違ナケレハ每個黑色ノ毛判ヲ捺シ願書ノ譯書ハ検査科ヘ返ス

但毛判一月ヨリ三月迄ハ四角四月ヨリ六月迄ハ五角七月ヨリ九月迄ハ六角十月ヨリ十二月迄ハ七角ヲ用ヒテ區別ス以下之ニ倣フ

第十五章

検査科上屋係ヨリ輸入願書ノ譯書ヲ返付セハ更ニ之ヲ鑑定科ヘ送り同科之ト本書ニ鑑定價格ヲ

朱書シ主務者及科長認印シテ検査科ヘ返ス

第十六章

検査科鑑定科ヨリ右書類ヲ返付セハ尙其個數斤量等ヲ精算シ差違ナケレハ主務者認印シテ科長ニ差出ス科長其紙首ニ認印シテ收税科ニ送り仕入書ハ願主ニ返ス

但貨物仕入書ハ本科ニ備ヘアル帳簿ニ拔萃シテ毎月末ニ表ヲ作り文書科ヘ送ル

第十七章

收税科輸入願書及譯書ヲ検査科ヨリ送付セハ譯書ノ條件ヲ検査シ精算ノ上輸入願書及譯書ノ每件ニ其税額ヲ配記シ其税金高ノ通計ヲ紙尾ニ掲記シ科長認印シテ更ニ陸揚免狀(第十一號書式)ヲ作り捺印係ヘ送ル願書ハ税簿係ヘ送ル

第十八章

税簿係輸入願書ヲ本科ヨリ送附セハ之ヲ検査シ税銀ノ換算ヲナシ官金取扱人ヘ送り其税金高ヲ領收セシム

但毎日差出セシ願書ノ税金ヲ區別シ日記簿金種並ニ税名簿原簿等ニ登錄ス

第十九章

官金取扱人税簿係ノ達示ヲ得テ輸入願書面ノ税金高ヲ領收シ之ヲ自家ノ帳簿ニ記入シ輸入願書ト割印シテ其領收済ヲ證シ之ヲ税簿係ヘ返ス税簿係之ヲ捺印係ニ送ル

第二十章

捺印係輸入願書並ニ陸揚免狀ヲ收税科及税簿係ヨリ送付セハ之ヲ検査シ差違ナケレハ精算ノ上領收證書(第十二號書式)ヲ作り金員番號等ヲ記入シ金員ノ下ヘ認印シ且之ニ税關及關長ノ印ヲ捺シ又願書ト割印シテ共ニ之ヲ收税科ヘ返ス

但輸入願書及陸揚免狀ニハ領收證同一ノ番號ヲ記入ス

第二十一章

收税課輸入願書ニ輸入税領收證及陸揚免狀ヲ添テ捺印係ヨリ返付セハ陸揚免狀ニ税濟ノ印ヲ捺シ税金領收證ハ願主ニ付與シ輸入願書ニ番號ヲ付シ陸揚免狀ハ輸入願譯書ト共ニ上屋係ヘ

送ル

但願書ハ一括シテ翌日之ヲ製表科ニ送ル

第二十二章

上屋係輸入願ノ譯書及陸揚免狀ヲ收稅科ヨリ送付セハ之ヲ調査シ差違ナケレハ願書ノ譯書ト陸揚免狀ヘ(何日許)ノ文字ヲ朱書シ認印シテ願主ニ付與シ譯書ハ係中ニ留置ク

第二十三章

監視科輸入貨物船卸ノ際船卸證面ノ全數ヲ一次ニ船卸セシ時ハ本船上監ノ監吏補船卸證ニ裏書シ認印シテ貨主ニ返付シ若シ數次ニ船卸ヲ爲ストキハ初次ニ船卸證ヲ領置シ船卸ノ都度其卸セシ品名個數日月記號等ヲ證票(第十三號書式)ニ記載シ認印シテ貨主ニ付與シ之ヲ改品係ニ出サシム又惣數卸濟ノ後ハ船卸證裏書ノ合計ヲ記シ貨主ニ返付ス

第二十四章

吸烟鴉片等ハ輸入禁制品タルカ故ニ上監監吏補ニ於テ若シ本船ノ乗組人員中又ハ船客中ニ三斤以上ヲ貯藏スルモノヲ認ムルトキハ其餘量ヲ取押ヘ又之ヲ密賣シ或ハ密賣セント謀ル者アラハ三斤以内ト雖モ其全量ヲ取押ヘ監吏ニ報告ス

第二十五章

監視科上監監吏補ヨリ前章ノ報告アレハ科長其情狀ヲ審ニシ之ヲ關長ニ具申シ指令ヲ待テ貿易章程第二則ニ從ヒ其壹斤毎ニ拾五弗ノ罰金ヲ課スル手續ヲ爲ス

第一章

願人貨物輸入願書(第七號及第八號書式)有稅品願ノ書式同一ノモノ並ニ貨物仕入書ヲ添テ差出ス時ハ目錄係本船ノ輸入積荷目錄ニ照シ記號番號等相違ナク個數目錄ヨリ超過セサレハ之ヲ塗抹シ貨物引取人ノ姓名及貨物引渡ノ日月ヲ目錄ニ記入シ且願書ニ認印シテ翻譯書ヘ送ル

第二章

翻譯係貨物輸入願書並ニ貨物仕入書ヲ添ヘ或ハ單ニ願書ヲ目錄書ヨリ送付セハ之レヲ翻譯認

印シテ本科ヘ送ル

第三章

検査科輸入願書ノ翻譯書ヨリ送付セハ之ヲ検査シ差違ナケレハ船卸證ヲ作り譯書ト割印シテ之ヲ願主ニ付與ス而シテ譯書ハ改品係ニ送り仕入書ト願書ハ鑑定科ニ送ル

但輸入積荷目錄ニ漏レタル物品ノ陸揚ヲ願出ルトキハ目錄係目錄外ナル旨ヲ願書ニ記入認印スヘシ

第四章

願人貨物ノ船卸ヲ爲セハ其船卸證ニ上監監吏補ノ裏書並ニ認印ヲ受ケ之ヲ改品係ニ出サシム

第五章

輸入積荷目錄ニ漏レタル歟或ハ誤記シタルヲ心付キ之レカ更正ヲ願ヒ出ル時定期入港手數濟ノ後休日ヲ除キ二十四時以内ナル時ハ之カ更正ヲ爲サシムルト雖トモ右期限後ナルトキハ關長ニ具申シ十五弗ノ罰金ヲ出サシメ之カ更正ヲ爲サシム

第六章

無稅品ヲ輸入シテ陸揚ヲ願出ル時貨物仕入書ナクトモ鑑定科ニテ其價格相當ト認ムルトキハ通常ノ手續ヲ以テ通關セシム

第七章

改品係輸入願書ノ譯書ヲ本科ヨリ送付セハ直ニ貨物ノ所在ニ就キ願主ト立會ヒ貨物ノ記號番號ヲ照查シ小譯斤量尺度等ヲ點檢シ之ヲ精算シテ譯書ニ朱書認印シテ之ヲ上屋係ニ送ル

第八章

上屋係改品係ヨリ輸入願書ノ譯書ヲ送付セハ尙該貨物ノ所在ニ就キ點檢ノ上差違ナケレハ每個黑色ノ毛判ヲ捺シ願書ノ譯書ハ検査科ヘ返ス

第九章

検査科上屋係ヨリ輸入願ノ譯書ヲ返付セハ更ニ之ヲ鑑定科ヘ送り同科之ト本書ニ鑑定價格ヲ朱書シ主務者及科長認印シテ検査科ヘ返ス

第十章

検査科鑑定科ヨリ右書類ヲ返付セハ尙其個數斤量等ヲ精算シ差違ナケレハ主務者認印シテ科長ニ差出ス科長其紙首ニ認印シテ之ヲ收税科ニ送り仕入書ハ願主ニ返ス

但貨物仕入書ハ本科ニ備ヘアル帳簿ニ拔萃シテ毎月末ニ表ヲ作り之ヲ文書科ヘ送ル

第十一章

收税科輸入願書及譯書ヲ検査科ヨリ送付セハ輸入願書ニ無税ノ印ヲ捺シ科長之ニ認印シ更ニ陸揚免狀(第十四號書式)ヲ作り願書ニ添テ之ヲ捺印係ニ送ル

第十二章

捺印係輸入願書並ニ陸揚免狀ヲ收税科ヨリ送付セハ之ヲ検査シ陸揚免狀ニ税關ノ印ヲ捺シ又願書ト割印シテ之ヲ收税科ニ返ス

第十三章

收税科輸入願書ト陸揚免狀ヲ捺印係ヨリ返付セハ陸揚免狀ニ無税ノ印ヲ捺シ輸入願ノ譯書ト共ニ之ヲ上屋係ヘ送ル

但願書ハ一括シテ翌日之ヲ製表科ヘ送ル

第十四章

上屋係輸入願ノ譯書及陸揚免狀ヲ收税科ヨリ送附セハ之ヲ調査シ差違ナケレハ願書ノ譯書ト陸揚免狀ヘ(何日許)ノ文字ヲ朱書シ認印シテ願主ニ付與シ譯書ハ係中ニ留置ク

第十五章

監視科無税貨物船卸ノ際船卸證ニ裏書セル等ノ手續ハ惣テ有税品輸入ノ事例ニ異ナルコトナシ

有税品輸出之事例

第一章

願人貨物輸出願書(第十五號書式及第十六號書式)ヲ差出ストキハ翻譯係之ヲ翻譯シ認印シテ本科ヘ送ル

第二章

検査科貨物輸出願書ノ譯書(第十七號書式)ヲ添テ書類ヲ翻譯係ヨリ送付セハ之ヲ検査シ更ニ譯書ヘ科印ヲ捺シ之ヲ改品係ヘ送り願書ハ鑑定科ヘ送ル

第三章

鑑定科輸出願書ヲ検査科ヨリ送付セハ先ツ其書面ニ貨物ノ産所ヲ記入認印シ原價ノ當否ヲ按シ不相當ト認ムルトキハ貨主ト立會現貨物ニ就キ價格ヲ査定シテ願書ヘ朱書シ主務者及科長認印シテ検査科ヘ送ル又從價品ナル時ハ前文ノ如ク產地ヲ記入認印シ現貨物ニ就キ點檢價格不相當ナレハ更ニ相當ノ價ヲ付シ之レカ増價ヲ談ス貨主若シ其價格ニ承諾セサル時ハ貿易章程第八條ニ依リ買上ケノ手續ヲ爲ス

第四章

改品係輸出願書ノ譯書ヲ本科ヨリ送付セハ直ニ貨物ノ所在ニ就キ願主ト立會ヒ貨物ノ記號番號小譯斤量尺度等ヲ検査シ其斤量尺度願面ヨリ増ストキハ譯書ニ其改數量ヲ記入シ若シ減スルトキハ相當ト記シ認印シテ之ヲ上屋係ニ送ル

第五章

上屋係輸出願書ノ譯書ヲ改品係ヨリ送付セハ之レカ船積證(第十八號書式)ヲ作り認印シ且譯書ト割印シ貨物ニ赤色ノ毛判ヲ捺シ船積證ハ願主ニ付與シ願書ノ譯書ハ検査科ヘ返ス検査科之ヲ調査シ數量等ニ差違ナケレハ認印シテ科中ニ留置ク

第六章

願人貨物ヲ積出シ本船ニ至リ船積證ヲ上監監吏補ニ差出ス

第七章

上監監吏補個數ヲ船積證ニ照シ且貨物ノ毛判ヲ點檢シテ之ヲ積入シメ右船積證ノ全數ヲ一次ニ積入セシトキハ本船上監監吏補其條件ヲ裏書シ認印シテ貨主ニ返ス若シ數次ニ涉ルトキハ初次ニ船積證ヲ領置シ積入ノ都度其貨物記號個數及月日等ヲ詳細裏書シ認印シテ貨主ニ返付之ヲ検査科ニ納メシム

第八章

検査科上屋係ヨリ下付セシ船積證願主ヨリ差出ストキハ上監監吏補ノ裏書セシ個數ヲ調査シ願面通リノ員數ヲ積入ルモ改品係ノ改増斤量アル時ハ之ヲ朱書認印シ又實際積入高願面ヨリ減額スル時ハ其減額セシ員數ヲ船積證ニ改書シ又願書表裏並ニ譯書共員數斤量ヲ引直シ認印シ又個數斤量共ニ願面通リナレハ其儘認印シテ從價品ナレハ願書及譯書ヲ再ヒ鑑定科ニ送ル同科願書及譯書ニ元價増減ヲ朱書シ主務者及科長認印シテ検査科ニ返ス検査科即チ願書ノ紙首ニ科長認印シテ譯書ト共ニ之ヲ收税科へ送ル

第九章

收税科輸出願書並ニ譯書ヲ検査科ヨリ送付セハ之ヲ検査シ精算ノ上輸出願書及譯書ノ每件ニ其稅額ヲ配記シ其税金高ノ通計ヲ紙尾ニ掲記シ主務者及科長認印シテ更ニ船積免狀(第十九號書式)ヲ作り捺印係へ送り願書ハ稅簿係へ送ル

第十章

稅簿係輸出願書ヲ本科ヨリ送付セハ之ヲ検査シテ稅銀ノ換算ヲナシ其税金高ヲ稅簿ニ記入シ官金取扱人へ送付シテ之ヲ領收セシム
但當日差出セシ願書ノ税金ヲ區別シ日記簿金種並稅名簿等ニ登録ス

第十一章

官金取扱人稅簿係ノ達示ヲ得テ輸出願書ノ税金高ヲ領收シ之ヲ自家ノ帳簿ニ記入シ輸出願書ト割印シテ其領收濟ヲ證シ之ヲ稅簿係へ返ス

第十二章

稅簿係官金取扱人ヨリ返シタル書類ヲ更ニ捺印係へ送ル

第十三章

捺印係輸出願書及船積免狀等ノ書類ヲ收稅科及稅簿係ヨリ送付セハ之ヲ検査シ差違ナケレハ領收證(第二十號書式)ヲ作り金員番號等ヲ記入シ金員ノ下ニ認印シ且之ニ稅關及關長ノ印ヲ捺シ又願書ト割印シテ共ニ之ヲ收稅科ニ返ス

但輸出願書及船積免狀ニ領收證ト同一ノ番號ヲ記入ス

第十四章

收稅科領收證書ヲ添テ書類ヲ捺印係ヨリ返付セハ船積免狀ニ稅濟ノ印ヲ捺シ輸出稅領收證書ヲ願主ニ付與シ輸出願書ノ譯書ニ番號ヲ付シ船積免狀ト共ニ之ヲ上屋係へ送ル

但願書ハ翌日一括ニシテ製表科へ送ル

第十五章

上屋係願書ノ譯書及船積免狀ヲ收稅科ヨリ送付セハ之ヲ調査シ差違ナケレハ譯書及船積免狀ニ(何日許)ノ文字ヲ朱書シ認印シテ免狀ハ願主ニ返付シ譯書ハ本係ニ留置ク

第十六章

願書或ハ證書面ニ收稅ヲ掠メントシテ詐偽アルモノハ検査科長其記名セル者ニ事情ヲ糺問シ直ニ之ヲ關長ニ具申シ指令ヲ待テ貿易章程第五則ニ從ヒ百貳拾五弗ノ罰金ヲ課スル手續ヲ爲ス

但罰金取立ル時ハ先ツ其罰金徵收書ヲ作り之ヲ收稅科ニ廻ス同科罰金領收證ヲ作り一般ノ手續ヲ以テ官金取扱人ヲシテ金額ヲ受取ラシム

第十七章

無稅品輸出之事例
願人貨物輸出願書(第十五號書式及第十六號書式)有稅品書ヲ差出ストキハ翻譯係之ヲ翻譯シ認印シテ本科へ送ル

第十八章

検査科貨物輸出願書ノ譯書(第十七號書式)ヲ添テ書類ヲ翻譯係ヨリ送付セハ之ヲ検査シ更ニ譯書ニ科印ヲ捺シ之ヲ改品係へ送り願書ハ鑑定科へ送ル
但食用品其他些少ノ自用品又ハ贈答品ノ如キハ願書ヲ出スト否トニ拘ハラヌ検査科限リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十九章

第三章

米麥其他穀類ハ旅客或ハ船中乗組人員ノ多寡ニ從ヒ食料ニ充ルモノ又ハ積荷ノ間ニ用ユル敷木ノ如キハ検査ノ上相當ナルトキハ検査科直ニ之ヲ許シ船積證ヲ付與ス

第四章

鑑定科輸出願書ヲ検査科ヨリ送付セハ先ツ其書面ニ貨物ノ産所ヲ記入認印シ原價ノ當否ヲ按シ不相當ト認ムル時ハ相當ノ價ニ引直シ主務省及科長認印シテ検査科へ送ル

第五章

改品係輸出願書ノ譯書ヲ本科ヨリ送付セハ直ニ貨物ノ所在ニ就キ願主ト立會ヒ貨物ノ記號番號小譯斤量尺度等ヲ検査シ其斤量尺度願面ヨリ増ストキハ譯書ニ其改數量ヲ記入シ若シ減スルトキハ相當ト記シ認印シテ之ヲ上屋係へ送ル

第六章

上屋係輸出願書ノ譯書ヲ改品係ヨリ送付セハ之レカ船積證ヲ作り認印シ且譯書ト割印シ貨物ニ赤色ノ毛判ヲ捺シ船積證ハ願主ニ付與シ願書ノ譯書ハ検査科ニ返ス検査科之ヲ調査シ數量等ニ差違ナケレハ認印シテ科中ニ留置ク

第七章

願人貨物ヲ積出シ本船ニ至リ船積證ヲ上監監吏補ニ差出ス

第八章

上監監吏補個數ヲ船積證ニ照シ且貨物ノ毛判ヲ點檢シテ之ヲ積入シメ右船積證ノ全數ヲ一次ニ積入セシトキハ本船上監監吏補其條件ヲ裏書シ認印シテ貨主ニ返ス若シ積入數次ニ涉ルトキハ初次ニ船積證ヲ領置シ積入シ都度其貨物記號個數及月日等ヲ詳細裏書シ認印シテ貨主ニ返付シ之ヲ検査科へ納メシム

第九章

検査科上屋係ヨリ下付セシ船積證願主ヨリ差出ストキハ上監監吏補ノ裏書セシ個數ヲ調査シ願面通リノ員數ヲ積入ルモ改品係ノ改増斤量アルトキ之ヲ朱書認印シ又實際積入高願面ヨリ減額スルトキハ其減額セシ員數ヲ船積證ニ改書シ又願書表裏並ニ譯書共員數斤量ヲ引直シ認

印シ又個數斤量共ニ願面ノ通りナレハ其儘認印シテ從價品ナレハ願書及譯書ヲ再ヒ鑑定科ニ送ル同科願書及譯書ニ元價ノ増減ヲ朱書シ主務省及科長認印シテ検査科ニ返ス検査科即チ願書紙首ニ科長認印シテ譯書ト共ニ之ヲ收稅科へ送ル

第十章

收稅科輸出願書並ニ譯書ヲ検査科ヨリ送付セハ之ヲ検査シ輸出願書及譯書ニ無稅ノ印ヲ捺シ科長之ニ認印シ更ニ船積免狀ヲ作り願書ニ添テ之ヲ捺印係へ送ル

第十一章

捺印係輸出願書及船積免狀等ノ書類ヲ收稅科ヨリ送付セハ之ヲ検査シ差違ナケレハ船積免狀ニ稅關ノ印ヲ捺シ且願書ト割印シテ之ヲ收稅科へ返ス

第十二章

收稅科書類ヲ捺印係ヨリ返付セハ船積免狀ニ無稅ノ印ヲ捺シ願書ノ譯書船積免狀ト共ニ之ヲ上屋係ニ送ル

但願書ハ翌日一括シテ製表科ニ送ル

第十三章

上屋係願書ノ譯書及船積免狀ヲ收稅科ヨリ送付セハ之ヲ調査シ差違ナケレハ譯書及船積免狀ニ(何日許)ノ文字ヲ朱書シ認印シテ免狀ハ願主ニ返付シ譯書ハ本係ニ留置ク

第十四章

願人貨物ヲ港内ノ甲船ヨリ乙船へ積移スル時船移願書(第二十一號書式及第二十二號書式)ヲ差出サハ目錄ニ其旨並ニ日月願主ノ姓名ヲ記入シ願書ヲ翻譯係へ送ル

第十五章

翻譯係船移願書ヲ目錄係ヨリ送付セハ之ヲ翻譯(第二十三號書式)シ認印シテ共ニ之ヲ本科へ送ル

第三章

検査科船移願書ニ譯書ヲ添テ翻譯係ヨリ送付セハ之ヲ検査シ差違ナケレハ船移證(第二十四號書式)ヲ作り之ニ科印ヲ捺シ且譯書ト割印シテ之ヲ願主ニ付與シ願書ト譯書ハ本科ニ留置ク

第四章 願人船移證ヲ甲船上監監吏補ニ差出ス

第五節 甲船上監監吏補貨物記號番號個數等ヲ船移證ニ照シ貨物ヲ卸サシメ右證書ノ裏面ヘ船卸セシ個數記號品名日月等ヲ記載シ認印シテ之ヲ願主ニ返付ス

第六節 願人甲船上監監吏補ノ裏書セシ船移證ヲ乙船上監監吏補ヘ差出ス

第七節 乙船上監監吏補甲船上監監吏補ノ裏書セシ船移證ヲ願主差出ストキハ點檢ノ上證書ニ照シ積入シメ而シテ證書裏面甲船上監監吏補ノ裏書セシ餘白ヘ尙品名個數記號日月等ヲ記載認印シテ之ヲ願主ニ返付ス

第八章 願人甲乙船上監監吏補ノ裏書セシ船移證ヲ検査科ヘ返納ス

第九節 検査科船移證願主ヨリ差出ストキハ甲乙船上監監吏補ノ裏書等ヲ調査シ員數符合セハ其條件ヲ願書表面ニ謄寫シ譯書ト共ニ認印シ稅濟稅未納ノ文字ヲ記シ且紙首ニ科長認印シテ願書ハ之ヲ收稅科ニ送ル

第十章 收稅科船移願書ヲ検査科ヨリ送付セハ之ヲ調査シ更ニ船積免狀(第二十五號書式)ヲ作り稅濟又ハ稅未納ノ印ヲ捺シ之ニ願書ヲ添テ捺印係ヘ送ル

捺印係船移免狀ニ願書ヲ添テ收稅科ヨリ送付セハ之ヲ検査シ免狀ニ稅關ノ印ヲ捺シ且願書ト割印シテ之ヲ收稅科ヘ返ス

第十一章 收稅科捺印係ヨリ免狀ニ願書ヲ添テ返付セハ船移免狀ハ願主ニ付與シ願書ハ科中ニ留置ク

但願書ハ翌日一括シテ製表科ニ送ル

第十二章 免許ヲ得スシテ貨物ヲ船移スルヲ發摘セハ監視科貿易章程ニ從ヒ至當ノ罰ニ處スル手續ヲ爲ス

第十四章 乙船未タ入港セスト雖トモ近日入港ノ見込ヲ以テ貨主甲船ヨリ乙船ヘ荷物ノ船移ヲ願出ルトキハ先ツ通常藏入ノ手數ヲ爲サシメ乙船入港ノ節又通常藏出及庫租上納ノ手數ヲ爲サシメ船移ヲ許ス若シ其荷物借庫ニ入ル能ハサル品即チ火藥硝石製藥タルビツチ種油魚油鯨肉水錠其他爆發スヘキ物或ハ燃易キ物又ハ危險ナル物等ノ場合ニ於テハ豫メ荷物萬一紛失或ハ燒滅等ノ節其紛失或ハ燒滅シタル荷物ニ當ル稅銀上納スヘキ旨ヲ認メタル證書ヲ出サシメ荷主隨意ノ場所ニ貯藏セシメ乙船着港ノ節船移ヲ許ス

第一章 願人輸入貨物ヲ外國ニ積返シ或ハ内地各開港場ヘ積返スニハ積返願書第(第二十六號書式及第二十七號書式)ニ最前輸入セシ時下付セラレタル陸揚免狀ヲ添テ差出ストキハ翻譯係之ヲ翻譯認印シテ本科ヘ送ル

但願人右陸揚免狀ヲ差出サ、ル時ハ其事由ヲ糾問シテ之ヲ検査科ニ報告ス

第二章 検査科貨物積返願書ニ譯書(第二十八號書式)ヲ添テ翻譯係ヨリ送付セハ之ヲ検査シ更ニ譯書ヘ科印ヲ捺シ直ニ之ヲ改品係ヘ送ル

但輸入ノ節受領セシ陸揚免狀ナキモ外國品ニ相違ナシト認ムルモノハ通常ノ手續ニ依ル又物品ノ外國産ナルヤ否判然シ難キトキハ之ヲ鑑定科ニ廻シ同科ノ鑑定ニ據リ區分ス

第三章

改品係積返願譯書ヲ本科ヨリ送付セハ直ニ貨物ノ所在ニ就キ願主ト立會ヒ貨物ノ記號番號個數及陸揚ノ毛判ヲ點檢シ差違ナケレハ認印シテ之ヲ上屋係ニ送ル

第四章

上屋係積返願書ノ譯書ヲ改品係ヨリ送付セハ之カ船積證ヲ作り認印シ且貨物陸揚ノ毛判ヲ點檢シ差違ナケレハ其毛判ヲ消シ更ニ貨物赤色ノ毛判ヲ捺シ該船積證ト譯書ト割印シ願主ニ付與シ譯書ハ檢査科ニ返ス

第五章

願人貨物ヲ積出シ本船ニ至リ船積證ヲ上監監吏補ニ差出ス

第六章

上監監吏補個數ヲ船積證ニ照シ且貨物ノ毛判ヲ點檢シテ之ヲ積入シメ右船積證ノ全數ヲ一次ニ積入セントキハ本船上監監吏補其條件ヲ裏書シ認印シテ貨主ニ返ス若シ數次ニ涉ルトキハ初次ニ船積證ヲ領置シ積入ノ都度其貨物記號個數及月日等ヲ詳細裏書シ認印シテ貨主ニ返付之ヲ檢査科ニ納メシム

第七章

檢査科上屋係ヨリ下付セシ船積證願主ヨリ差出ストキハ上監監吏補ノ裏書セシ個數ヲ調査シ願面通りノ員數ヲ積入ルモ改品係ノ改増斤量アルトキハ之ヲ朱書認印シ又實際積入高願面ヨリ減額スルトキハ其減額セシ員數ヲ船積證ニ改書シ又願書裏並ニ譯書共員數斤量ヲ引直シ認印シ又個數斤量共ニ願面通ナレハ其儘認印シテ從價品ナレハ願書及譯書ヲ再ヒ鑑定科ニ送ル同科願書及譯書ニ元價増減ヲ朱書シ主務者及科長認印シテ檢査科ニ返ス檢査科即チ願書ノ紙首ニ科長認印シテ譯書ト共ニ之ヲ收稅科へ送ル

第八章

收稅科稅濟或ハ無稅ノ文字ヲ記入シタル願書ヲ檢査科ヨリ送付セハ更ニ積返免狀(第二十九號書式)ヲ作り稅濟或ハ無稅ノ印ヲ捺シ之レト願書ヲ捺印係へ送ル

第九章

捺印係收稅科ヨリ送付セシ書類ヲ檢査シ差違ナケレハ免狀ニ稅關ノ印ヲ捺シ且願書ト割印シテ之ヲ收稅科へ返ス

第十章

收稅科書類ヲ捺印係ヨリ返付セハ積返免狀及譯書ハ上屋係へ送ル

第十一章

上屋係積返免狀ト譯書ヲ收稅科ヨリ送付セハ之ヲ調査シ差違ナケレハ免狀及譯書ニ(何日許)ノ文字ヲ記入シ且之ニ認印シテ積返免狀ハ願主ニ返付シ譯書ハ本係ニ留置ク

第十二章

願人外國船ヲ以テ内地產物ヲ國內他ノ開港場ニ回漕スルニ積送願書(第三十號書式及第三十一號書式)差出ストキハ翻譯係之ヲ翻譯認印シテ本科ニ送ル

第十三章

檢査科積送願書ニ譯書(第三十三號書式)ヲ添テ翻譯係ヨリ送付セハ之ヲ檢査シ更ニ譯書ニ科印ヲ捺シ直ニ之ヲ改品係へ送り願書ハ鑑定科へ送ル

第十四章

鑑定科積送願書ヲ檢査科ヨリ送付セハ先ツ其書面ニ貨物ノ產所ヲ記入認印シ原價ノ當否ヲ案シ不相當ト認ムルトキハ貨主ト立會ヒ現貨物ニ就キ價格ヲ査定シテ願書へ朱書シ主務者及科長認印シテ檢査科へ送ル又從價品ナルトキハ前文ノ如ク產地ヲ記入認印シ現貨ニ就キ點檢價格不相當ナレハ更ニ相當ノ價ヲ付シ之レカ増價ヲ談ス貨主若シ其價格ニ承諾セサルトキハ貿易章程第八條ニ依リ買上ノ手續ヲ爲ス

第四章

改品係貨物積送願書ノ譯書ヲ本科ヨリ送付セハ直ニ貨物ノ所在ニ就キ願主ト立會ヒ貨物ノ記號番號小譯斤量尺度等ヲ検査シ其斤量尺度願面ヨリ増ストキハ譯書ニ其改數量ヲ記入シ若シ減ストキハ相當ト記シ認印シテ之ヲ上屋係ニ送ル

第五章

上屋係書類ヲ改品係ヨリ送付セハ之レカ船積證(第三十三號書式)ヲ作り認印シ且譯書ト割印シ貨物ニ赤色ノ毛判ヲ捺シ船積證ハ願主ニ付與シ願書ノ譯書ハ検査科ヘ返ス検査科之ヲ調査シ數量等ニ差違ナケレハ認印シテ科中ニ留置ク

第六章

願人貨物ヲ積出シ本船ニ至リ船積證ヲ上監監吏補ニ差出ス

第七章

上監監吏補個數ヲ船積證ニ照シ且貨物ノ毛判ヲ點檢シテ之ヲ積入シメ右船積證ノ全數ヲ一次ニ積入セシトキハ本船上監監吏補其條件ヲ裏書シ認印シテ貨主ニ返ス若シ數次ニ涉ルトキハ初次ニ船積證ヲ領置シ積入ノ都度其貨物記號個數及月日等ヲ詳細裏書シ認印シテ貨主ニ返付之ヲ検査科ニ納メシム

第八章

検査科上屋係ヨリ下付セシ船積證願主ヨリ差出ストキハ上監監吏補ノ裏書セシ個數ヲ調査シ願面通リノ員數ヲ積入ルモ改品係ノ改増斤量アルトキハ之ヲ朱書認印シ又實際積入高願書ヨリ減額スルトキハ其減額セシ員數ヲ船積證ニ改書シ又願書裏並ニ譯書共員數斤量ヲ引直シ認印シ又個數斤量共ニ願面通リナレハ其儘認印シテ從價品ナレハ願書及譯書ヲ再ヒ鑑定科ニ送ル同科願書及譯書ニ元價増減ヲ朱書シ主務者及科長認印シテ検査科ヘ返ス検査科即願書紙首ニ科長認印シテ譯書ト共ニ之ヲ收稅科ヘ送ル

第九章

收稅科積送願ノ書類ヲ検査科ヨリ送付セハ之ヲ検査シ差異ナケレハ願書及譯書ノ毎件ニ預稅

額ヲ配記シ通計ヲ紙尾ニ掲記シ主務者及科長認印シテ更ニ積送免狀(第三十四號書式)作り願書ト共ニ之ヲ稅簿係ヘ送ル

第十章

稅簿係願書及積送免狀ヲ本科ヨリ送付セハ之ヲ検査シ稅銀ノ換算ヲナシ預稅簿ニ登錄シ且積送免狀ニ番號ヲ記シ願書ヲ官金取扱人ヘ廻シ其稅金ヲ預ラシム

第十一章

官金取扱人稅簿係ヨリ回送セル願書ニ從ヒ稅金ヲ預リ其高ヲ自家ノ帳簿ニ記入シ且願書ト割印シテ其金ノ預リ濟ヲ證シ之ヲ稅簿係ヘ返ス

第十二章

稅簿係官金取扱人ヨリ返シタル願書ト積送免狀ヲ捺印係ヘ送ル

第十三章

捺印係稅簿係ヨリ送付セシ願書及積送免狀ヲ検査シ稅金精算シテ積送免狀ニ預稅額ヲ記入シ之ニ認印シ更ニ免狀ニ稅關及關長ノ印ヲ捺シ且願書ト割印シテ共ニ之ヲ收稅科ヘ送ル

第十四章

收稅科捺印係ヨリ返付セシ積送免狀ト譯書ヲ上屋係ニ送り願書ハ本科ニ留置ク

第十五章

上屋係收稅科ヨリ積送免狀及願書ノ譯書ヲ送付セハ之ヲ調査シ差違ナケレハ右免狀及譯書ニ(何日許)ノ文字ヲ朱書認印シテ免狀ハ願主ニ返付シ譯書ハ本科ニ留置ク

第十六章

願人貨物ヲ他港ヘ回漕シ本港ニテ受得タル免狀ニ該貨物陸揚セシ他港稅關ノ裏書ヲ得期限(六ヶ月)以内ニ之ヲ本港ノ收稅科ニ差出ストキハ検査ノ上條件差違ナケレハ曩ニ留置タル願書ニ返稅ノ旨ヲ朱書認印シテ之ヲ稅簿係ヘ送ル
但積送免狀面ノ全數陸揚セサルトキハ陸揚シタル丈ケノ返稅ヲ爲シ其餘ハ本稅ニ組入ノ手續ヲ爲ス

第十七章

稅簿係本科ヨリ願書及積送免狀ヲ送付セハ預稅簿ニ照シ差違ナケレハ稅簿ニ返稅ノ旨ヲ記入シ願書及積送免狀ヲ捺印係へ送ル

第十八章

捺印係願書ヲ稅簿係ヨリ送付セハ之ヲ檢査シ差違ナケレハ表面ノ割印ヲ塗抹シ官金取扱人ニ宛タル返稅切符(第三十五號書式)ヲ作り金員ノ下ニ認印シ且之ニ長官ノ印ヲ捺シ願書ト該切符ヲ收稅科ニ送ル

但願書ハ無稅願書ト一括シテ翌日製表科ニ送ル

第十九章

收稅科捺印係ヨリ送付セシ返稅切符ヲ願主ニ付與シ願書ハ官金取扱人へ送り返稅セシム

第二十章

官金取扱人願書ヲ收稅科ヨリ返稅切符ヲ願主ヨリ差出ストキハ自家ノ帳簿ニ照シ差違ナケレハ紙尾ノ割印ヲ消シ切符面ノ金額ヲ願主ニ返ス

第二十一章

收稅科若シ期限内中貨物回漕先稅關ノ裏書ヲ得タル免狀差出サ、レハ該品海外へ輸出セシモノト見做シ最前留置キタル積送願書ニ輸出ノ旨ヲ記入シ之ヲ稅簿係へ送ル

第二十二章

稅簿係願書ヲ本科ヨリ送付セハ之ヲ預稅簿ニ照シ差違ナケレハ期限過キタル旨ヲ記入シ更ニ本稅ニ組入願書ヲ官金取扱人へ送ル

第二十三章

官金取扱人稅簿係ヨリ送付セシ願書ヲ自家ノ帳簿ニ照シ差違ナケレハ更ニ本稅帳簿ニ記入シ願書ハ收稅科へ返ス

第二十四章

收稅科願書ヲ官金取扱人ヨリ返付セハ翌日之ヲ製表科へ送ル

第二十五章

内地各開港場間回漕ノ貨物積載ノ船若シ途中破船スル時ハ縱令他港稅關ノ裏書セシ免狀ナキモ一年以内何地ニテ破船シタル事ノ確證アルモノハ獨逸貿易章程第三則ニ從ヒ返稅ノ手續ヲ爲ス

第二十六章

輸出禁制ノ物品ヲ内地各開港場間回漕スルハ獨逸貿易章程第八則ニ從ヒ免許スルト雖トモ萬一輸出スル時ハ其品代價ヲ上納スヘキ旨ノ證書ヲ豫メ出サシメ六ヶ月ヲ過キ他港稅關ノ裏書セシ免狀ヲ出サ、レハ同第三則ニ依リ其貨物ノ代價全額ヲ上納セシム

第一章

願人外國船ヲ以テ他港ヨリ内地產物ヲ本港ニ回着シ之ヲ陸揚スルニハ輸入願書(第三十六號書式及第三十七號書式)並ニ貨物仕出港稅關ノ積送免狀ヲ添テ目錄係へ差出ストキハ之ヲ本船ノ輸入積荷目錄ニ照シ記號番號個數等符合セハ之ヲ塗抹シ貨物引取人ノ姓名及貨物引渡ノ日月ヲ目錄ニ記入シ且願書ニ認印シテ翻譯係へ送ル

第二章

翻譯係貨物輸入願書並ニ貨物仕出港稅關ノ積送免狀ヲ添テ目錄係ヨリ送付セハ書類ヲ檢査シ願書ヲ翻譯(第三十八號書式)シ書類ヲ本科へ送ル

第三章

檢査科譯書ヲ添テ書類ヲ翻譯係ヨリ送付セハ之ヲ檢査シ差違ナケレハ船卸證(第三十九號書式)ヲ作り譯書ト割印シテ之ヲ願主ニ付與シ譯書ヲ改品係ニ送ル

第四章

願人貨物ヲ積來シ本船ニ至リ船卸證ヲ上監監吏補ニ差出ス

第五章

上監監吏補願人ヨリ差出セシ船卸證ニ照シ船卸ヲ爲サシメ而シテ證書面貨物多數ナルトキハ

初次ニ證書ヲ領受シ船卸ノ都度其品名個數及記號日月等ヲ證票ニ記載認印シテ貨主ヘ付與シ之ヲ改品係ニ納メシム

第六章

願人全數船卸濟ノ後検査科ヨリ下付セシ船卸證ニ監吏補ノ裏書ヲ受ケ之ヲ改品係ヘ差出ス

第七章

改品係船卸證願人ヨリ差出ストキハ本科ヨリ送付セシ譯書ニ照シ且貨物ノ所在ニ就キ願主ト立會ヒ貨物ノ數量尺度個數等ヲ點檢シ差違ナケレハ譯書ニ認印シテ之ヲ上屋係ニ送ル

第八章

上屋係改品係ヨリ書類ヲ送付セハ該貨物ノ所在ニ就キ點檢ノ上差違ナケレハ每個黑色ノ毛判ヲ捺シ譯書ヲ検査科ヘ送ル

第九章

検査科上屋係ヨリ送付セシ譯書ヲ検査シ其條件ヲ願書ニ謄寫認印シ且紙首ニ科長認印シ譯書及積送免狀ヲ收稅科ヘ送ル

第十章

收稅科書類ヲ検査科ヨリ送付セハ之ヲ検査シ願書及譯書ニ依リ陸揚ノ高ヲ積送免狀ヘ裏書認印シテ書類ヲ捺印係ヘ送ル

第十一章

捺印係收稅科ヨリ送付セハ願書譯書及免狀トヲ照合シ差違ナケレハ免狀ニ稅關及關長ノ印ヲ捺シ且ツ願書ト割印シテ之ヲ收稅科ヘ返ス

第十二章

收稅科願書譯書及免狀ヲ捺印係ヨリ送付セハ検査ノ上上屋係ヘ送ル
但願書ハ翌日一括シテ製表科ニ送ル

第十三章

上屋係收稅科ヨリ免狀及譯書ヲ送付セハ之ニ(何日許)ノ文字ヲ記入シ免狀ハ願主ニ付與シ

譯書ハ係中ニ留置ク
荷物入庫之事例

第一章

願人荷物入庫願書(第四十號書式)差出ストキハ目錄係本船ノ輸入積荷目錄ニ照シ記號番號等差違ナケレハ之レニ入庫ノ旨ヲ記入シ且願書ニ認印シテ翻譯係ヘ送ル

第二章

翻譯係入庫願書ヲ目錄係ヨリ送付セハ之ヲ翻譯(第四十一號書式)シ認印シテ倉庫科ヘ送ル

第三章

倉庫科入庫願書及譯書ヲ翻譯係ヨリ送付セハ點檢入庫差支ナキ物品ナレハ願書表面ヘ譯文ヲ記載シ之ニ入庫ノ番號ヲ付シ且借庫ノ番號及書式料ト庫租ノ定額ヲ記シ之ヲ庫租元簿ト爲シ更ニ譯書ヲ上屋係ヘ送ル

第四章

上屋係本科ヨリ譯書ヲ送付セハ假入手簿ニ照シ更ニ願主ト立會ヒ荷物ノ記號番號個數ヲ點檢シ條件差違ナケレハ譯書ニ認印シ荷物ヲ願主ニ引渡シ譯書ハ守庫科ニ送ル

第五章

願人貨物ヲ借庫ニ運送ス

第六章

守庫係譯書ヲ上屋係ヨリ送付セハ荷物ノ記號番號個數等ヲ譯書ニ照シ條件差違ナケレハ指示ノ庫内ニ納レシメ更ニ譯書ニ皆入或ハ内入ノ文字ヲ記入シ且認印シテ之ヲ本科ニ返ス

但入庫ノ際每個損傷ノ有無ヲ注意シ若シ損傷アラハ貨主ニ其旨ヲ談シ譯書ニ其番號記號等ヲ記載シ之ヲ科長ニ報知ス別ニ入庫手簿ニ譯書同様寫取り之ヲ係中ニ備フ

第七章

倉庫科譯書ヲ守庫係ヨリ送付セハ検査ノ上貨物預證(第四十二號書式) 損傷品アルトキハ其旨庫租元簿及預リ證書ニ明細記入 認印ヲ作り之レニ入庫ノ番號ヲ付シ更ニ科長證印シテ之ヲ收稅科ニ送ル

第八章

收税科書類ヲ倉庫科ヨリ送付セハ之ヲ検査シ差違ナケレハ紙尾ニ謝金ノ高壹分銀壹個並書式料ヲ記載シ認印シテ入庫願書ト共ニ之ヲ税簿係へ送ル

第九章

税簿係書類ヲ本科ヨリ送付セハ検査ノ上謝金及書式料ヲ取立シ旨帳簿ニ登録シ貨物入庫願書及預證書ヲ官金取扱人へ送ル

第十章

官金取扱人税簿係ヨリ送付セシ貨物入庫願書及預證ニ從ヒ謝金書式料ヲ受取り之ヲ自家ノ帳簿ニ記入シ且割印シテ之ヲ税簿係へ返ス

第十一章

税簿係書類ヲ捺印係へ送ル

第十二章

捺印係書類ヲ税簿係ヨリ送付セハ之ヲ検査シ差違ナケレハ謝金及書式料領收證(第四十三號書式)ヲ作り金員ノ下ニ認印シ且之ニ税關及關長ノ印ヲ捺シ且貨物預證ニ税關ノ印ヲ捺シテ之ヲ收税科ニ送ル

第十三章

收税科書類ヲ捺印係ヨリ返付セハ預證ト領收證ト併セテ願主ニ付與ス
但貨物預證願主ニ渡シタル
同一控ノ分ナリ翌日之ヲ製表科ニ送ル

第十四章

製表科前章但書ノ貨物預證ヲ調査濟ノ後之ヲ倉庫科ニ送ル
荷物出庫之事例

第一章

願人貨物ヲ引取り或ハ積返ニ當リ出庫願書(第四十四號書式)ニ貨物預リ證ヲ添テ差出ス并ハ翻譯係之ヲ翻譯(第四十五號書式)認印シテ之ヲ倉庫科へ送ル

但同时ニ出庫願出タル旨目錄係ニ通知ス目錄係輸入積荷目錄ニ其旨ヲ記入ス

第二章

倉庫科出庫願書及譯書ヲ翻譯係ヨリ送付セハ元簿入庫願書ニ照シ差違ナケレハ之ニ出庫ノ番號ニ付シ更ニ月數ト租額ニ從テ庫租ヲ計算記載シ主務者及科長認印シ且庫租原簿ニ其旨ヲ記入シ之ヲ收税科ニ送ル

第三章

收税科書類ヲ倉庫科ヨリ送付セハ之ヲ精算シ差違ナケレハ紙尾ニ税金高及書式料ヲ記載認印シテ之ヲ税簿係へ送ル

第四章

税簿係書類ヲ本科ヨリ送付セハ検査ノ上庫租及書式料ヲ取立シ旨ヲ税簿ニ登録シ且願書ニ認印シテ官金取扱人へ送ル

第五章

官金取扱人税簿係ヨリ送付セシ出庫願書面ニ從ヒ庫租金高ヲ領收シ之ヲ自家ノ帳簿ニ記入シ紙尾ニ割印シテ其領收濟ヲ證シ之ヲ税簿係へ送ル

第六章

税簿係書類ヲ捺印係へ送ル

第七章

捺印係書類ヲ税簿係ヨリ送付セハ之ヲ検査シ差違ナケレハ庫租及書式料領收證(第四十六號書式)ヲ作り金員番號等ヲ記入金員ノ下ニ認印シ且税關及關長ノ印ヲ捺シ共ニ之ヲ收税科ニ返ス

第八章

收税科書類ヲ捺印係ヨリ送付セハ一覽ノ上領收證書ヲ願主ニ付與シ預證願書及譯書ハ倉庫科へ返ス

第九章

倉庫科願書並ニ預證ハ一括シテ翌日之ヲ製表科へ送ル

第十章

願人領收證及別ニ受得タル稅濟免狀或ハ稅未濟積返ノ免狀ヲ守庫係ニ差出ス

第十一章

守庫係書類ヲ願人ヨリ差出セハ入庫手簿ニ照シ條件差違ナケレハ免狀ニ其出庫シタル月日等ヲ記入シ且認印シテ之ヲ願主ニ返シ願主貨物ヲ引取り或ハ積返ル

但積返ハ上屋係ニ請フテ荷物ヲ積出シ本船上監ノ監吏補ニ免狀ヲ示シテ積入ル事積返事例ニ同シ

第十二章

製表科倉庫科ヨリ送付シタル願書及預證ハ調査濟ノ後之ヲ倉庫科ニ返付ス

雜庫敷料收納之事例

第一章

願人荷物ヲ庶庫ニ預クルニハ入庫願書(第四十七號書式及第四十八號書式)差出ストキハ翻譯係之ヲ翻譯又ハ複書(第四十九號書式)ヲ作り認印シテ倉庫科へ送ル

第二章

倉庫科入庫願書及譯書ヲ翻譯係ヨリ送付セハ檢査ノ上規則ニ從ヒ入庫差支ナキ貨物ナレハ願書ニ譯文ヲ記載シ且庶庫ノ番號ヲ付シ之ニ認印シテ守庫係へ送ル

但本文願書ハ元簿トシテ科中ニ備置ク

第三章

守庫係本科ヨリ送付セシ願書ニ從ヒ願主ト立會ヒ貨物ノ個數等點檢願書ニ照シテ之ヲ庫入セシメ且手簿ニ其旨ヲ記入シ庫入濟ノ後願書ヲ願主ニ認印シテ之ヲ本科へ返ス

但貨物入庫連日ニ涉ルトキハ日々假證書ヲ願主ニ付與シ入庫終リタル時本科ニ於テ本證書ヲ作り之ト引換フ

第四章

倉庫科入庫願書ノ譯書又ハ複書ヲ守庫係ヨリ返付セハ檢査ノ上見届證(第五十號書式)ヲ作リ品名個數日月等ヲ明記シ主務者及科長認印シ且科印ヲ捺シ之ヲ願主ニ付與ス

但見届證記載方一二三十ノ字ハ壹貳參拾ト記シ千百拾個ハ壹千百拾個ハ壹百零壹個等ノ如ク記載スヘシ

第五章

庫租ハ種類ニ依リ區別ス米麥等壹俵其量ニ從ヒ壹ケ月三十日金壹錢貳厘ヨリ金八厘迄酒壹樽四斗金貳錢長昆布等ノ如キハ百斤ニ付金壹錢其他坪貸ハ壹ケ月三十日壹坪壹圓トス又荷物容積巨大ナルモノハ立方尺ニ付金貳厘五毛ノ割ヲ以テ其敷料ヲ定ム

但租額ハ市中敷料ノ相場ヲ參酌シ時ニ増減ヲ爲ス

第六章

願人出庫願(第五十一號書式)ニ貨物見届證ヲ添エテ出庫願出ルルハ翻譯係之ヲ翻譯又ハ複書(第五十二號書式)ヲ作り認印シテ倉庫科へ送ル

第七章

倉庫科願書ヲ檢査シ譯書又ハ複書ト共庫租額ヲ記入シ認印シテ之ヲ收稅科ニ送ル

第八章

收稅科書類ヲ倉庫科ヨリ送付セハ之ヲ精算シ差違ナケレハ紙尾ニ庫租金高ヲ記シ認印シテ之ヲ稅簿係へ送ル

但計算法入庫當日ヨリ出庫當日迄日數十五日迄ハ半月分十六日以上三十日迄ハ壹ケ月分トス其余ハ之ニ準ス

第九章

稅簿係書類ヲ本科ヨリ送付セハ檢査ノ上帳簿ニ記入認印シテ願書ヲ官金取扱人ニ送ル

第十章

官金取扱人稅簿係ヨリノ達示ヲ得テ書載ノ雜庫敷料ヲ領收シ之ヲ自家ノ帳簿ニ記入シ割印シテ其領收濟ヲ證シ之ヲ稅簿係へ返ス

第十一章

稅簿係願書ヲ官金取扱人ヨリ送付セハ檢査ノ上之ヲ捺印係へ送ル

第十二章

捺印係書類ヲ稅簿係ヨリ送付セハ之ヲ檢査シ差違ナケレハ雜庫敷料領收證書(第五十三號書式)ヲ作り金員番號等ヲ記入シ金員ノ下ニ認印シ且之ニ稅關及關長ノ印ヲ捺シ割印シテ共ニ之ヲ收稅科ニ送ル

第十三章

收稅科書類ヲ捺印係ヨリ回送セハ領收證書ヲ願主ニ付與シ書類ヲ守庫係ニ送ル

第十四章

守庫係庫租領收證書ヲ差出シ庫出願出ルトキハ檢査ノ上貨物ヲ願主ニ引渡ス

但書類ハ翌日一括シテ製表科ニ送ル

第十五章

入庫貨物ノ内渡ヲ願出ツル時ハ其手續前條々ノ如シト雖凡願主ニ付與セル貨物見届證書ヲ假納セシメ其裏面及入庫願書へ内渡セシ品名個數日月等ヲ記入シ渡濟ノ印ヲ割印シ且主務者及科長認印シテ更ニ之ヲ願主ニ付與ス

十二月十八日主稅局所屬豐川町五十六番地二千三百三十九坪八分八厘ノ内五百九十六坪餘ハ北海道事業管理局所管幌內炭貯藏ノ爲農商務省へ貸與ノ目的ヲ以テ內務省へ引渡ヲ取計フヘキ旨ヲ達セラ
ル○同月二十五日當時不用ニ屬セル左記ノ本關官舎ヲ函館縣廳官舎ニ供センコトヲ同縣令ヨリ大藏卿ニ上請シタル結果該官舎ヲ一時內務省へ貸與スルコト、ナリタルヲ以テ該縣ノ照會ニ基キ引渡スヘキ旨ヲ達セラル

函館船見町稅關付屬舎
一建坪百十六坪七合五勺

(舊租稅局出張所)
但二階建

同斷

一建坪五十坪

同斷

一建坪十三坪五合

同斷

一建坪九坪

(一等官舎)
但同斷
(物置)
但平家建
(見張所)
但同斷

明治十九年

一月十三日監視課職制章程監吏補給與規則及監吏補召募規則ヲ廢止セラレ更ニ其規則ヲ達セララル

參照

一 舊監視課職制章程中掲載セル緊要ナル條項ハ之ヲ心得書中ニ編入シ稅關長限リ制定ノ上届出ヘシ

一 監吏補ニ給スル月俸旅費ノ給與法ハ總テ一般ノ規則ニ據ルヘシ

一 監吏補召募規則ハ主稅局官吏採用規程ニ準シ制定ノ上届出ヘシ

一 監吏補賞與規則同懲罰例ハ並ニ從前達ノ通心得ヘシ

○同月十八日本局ノ達ニ依リ本關附屬舎(舊租稅局出張所)ヲ函館縣へ引渡ヲ了セリ

二月十五日主稅官長達ニ基キ本關ニ於ケル主稅監吏補心得書並主稅監吏補召募規則ヲ定ム

參照

函館稅關主稅監吏及主稅監吏補心得書

第一章 總則

第一條 主稅監吏主稅監吏補職務ノ大綱ハ主稅局分掌規程ニ掲載アリト雖モ尙實際勤方ニ於テ其細則ヲ指示スル左ノ如シ

- 第二條 監視科ハ輸出入貨物ヲ監視スル所ニシテ苟モ茲ニ奉職從事スルモノハ締盟國條約並ニ貿易章程其他職務上ニ關スル諸規則ヲ熟知セサル可カラス
- 第三條 密商脫稅其他之ニ關スル規則ニ違犯スル者ヲ發摘禁遏スル爲メ船舶尋問艙口開鎖海陸巡廻等ノ事ヲ分任ス
- 第四條 犯法奸詐ヲ發覺セハ確證ヲ認メテ後平穩ニ處分スヘシ決シテ輕舉粗暴ノ處置ヲ爲ス可カラス
- 第五條 犯則者猥ニ強暴ヲ行ヒ若クハ固ク非理ヲ執ル時ハ臨機ノ處分ヲ施シ得ヘシ然レモ若シ犯者外國人ナル時ハ其身体ニ係リ其名譽ニ關スル等ノ事ハ直チニ之ヲ行フヲ得ス必ス稅關長ノ指令ヲ請フ可シ
- 第六條 犯則ノ事跡アリ或ハ事故アリテ外國人ノ家屋ニ入ラントスル時ハ先ツ家主ノ承諾ヲ得テ後立入ルヘシ縱令急劇ノ場合ト雖モ決シテ猥リニ立入ヘカラス
- 第七條 同僚中常ニ交誼ヲ厚フシ緩急互ニ相援ケ他ノ監所ニ事件起ルヲ聞知セハ海陸ヲ問ハス速ニ應援シ決シテ傍觀默止ス可カラス
- 第八條 主稅監吏主稅監吏補ハ包裝中ノ品ヲ檢閱スルノ權ナシ故ニ若シ其包裝中ニ嫌疑アル時ハ荷主ヲシテ之ヲ開披セシメ檢査ス可シ荷主之ヲ拒ム時ハ其荷物ヲ取押フ可シ
- 第九條 各國公使同書記官其他家族從者等ノ荷物ハ無免狀ナルモ積卸自由ナルモノトス
- 第十條 各國軍艦ニ出入スル物品ハ總テ稅關ノ關係外トス然レモ軍艦ヨリ商船ニ商船ヨリ軍艦ニ運搬スル物品ハ其積移證ナケレハ免許ス可カラス
- 第十一條 主稅監吏並ニ主稅監吏補ノ勤務ニ當直宿直ノ別アリ當直ナル者ハ每朝午前九時ニ出勤シ日沒退出ス宿直ナル者ハ午前九時ニ出勤シ翌朝同時ニ退出シ當日ヲ明番トス
- 第十二條 主稅監吏主稅監吏補ハ常ニ外國人ニ接スルカ故ニ服飾ヲ清潔ニシ言語動作ヲ慎ミ他ノ輕侮蔑視ヲ受ケサル様注意ス可シ
- 第十三條 以上主稅監吏主稅監吏補ノ心得トス

- 第十四條 各監所ニ於テ輸出入貨物及稅關監理ノ荷物ヲ竊盜セル者ヲ取押フル時ハ贓物ヲ添テ主稅監吏ニ申告スヘシ
 - 第十五條 港内通船ノ規則ヲ犯シ號旗號燈ヲ掲ケサル等ヲ發見セシ時ハ直ニ水上警察署ニ告知スヘシ
 - 第十六條 主稅監吏補ハ監視中吸煙讀書ハ勿論事務關係ノ外他人ト談話スルヲ禁ス
 - 第十七條 主稅監吏補ハ主稅監吏ノ認可ヲ得ルニ非サレハ私ニ勤務ヲ交換スルヲ得ス
 - 第十八條 主稅監吏補ハ休憩時間中タリトモ他出スル時ハ必ス主稅監吏ノ認可ヲ受ク可シ退關ノ時モ亦同シ
 - 第十九條 公務ノ事件ニ因テ服帽ヲ毀損シ或ハ遺失セシトキハ詳細其事由ヲ届出可シ
 - 第二十條 主稅監吏補ハ日課本務ノ定員缺ク可カラサルヲ以テ若シ病氣其他ノ事故ニ依リ勤務ヲ缺ク時ハ左表ニ照シ償金ヲ出サシメ當日明ケ番ノ者ヨリ點數ノ順次ヲ以テ代務セシム可シ
- 但事故アリテ俸給全額ヲ給セサル場合ニ於テハ此限ニ非ス

缺勤償金表

一四日	三日
以上	以內
金 八 錢	金 拾 六 錢

- 第二十一條 代務ニ當リタル者亦病氣其他ノ事故ニ依リ勤務ヲ辭スル時ハ前條ノ如ク償金ヲ出サシム可シ
- 第二十二條 主稅監吏補出務中發病ニ依リ主稅監吏ノ認可ヲ得テ退務スル時ハ即日醫師ノ診斷書ヲ出サシム又不得已事故ヲ以テ退務セントスル者ハ其事情ヲ載セタル證書ヲ以テ主稅監

吏ノ認可ヲ受ク可シ

第廿三條 但本條ノ場合ニハ第廿條ノ通り償金ヲ出サシム

主税監吏補ハ病氣其他ノ事故ニ因テ出務ナシ難キ時ハ出勤時限三十分前ニ書面ヲ以テ其旨届出ヘシ且病氣引三日ヲ過キ出務スルヲ得サル時ハ醫師ノ診断書ヲ添ヘ届出ツ可シ

第廿四條 但三日以上ハ七日毎ニ本條ノ手續ヲ爲ス可シ

本港ハ一歳中主税監吏補ノ勤務ニ甚シキ繁閑ノ別アリ改ニ繁ナル時ハ宿直明ケ番ノ者ヲシテ助勤セシメ本人當直ノ日ニ於テ閑ナル時ハ臨時休暇ヲ與ヘ曩ノ助勤ヲ償フ可シ

第廿五條 代務者ヘハ報酬トシテ病氣者ヨリ徴收スル償金ヲ付與ス

但廿一條ノ場合ニテ順次ヲ超ヘ代務セシ時ハ二名若クハ二名以上ヨリ出ス所ノ償金ヲ併セテ付與ス

以上主税監吏補ノ心得トス

第一章 科長心得

第一條 分掌規程及心得書慣例ニ遵據シ科中總テノ事務ヲ管理ス

第二條 主税監吏以下ヲ督率指令シ及其能否勤惰ヲ視察シ税關長ニ上申ス可シ

第三條 密商其他犯則ノ件アル時ハ詳細之カ調査ヲ遂ケ税關長ニ上申シ其指令ニ從フ可シ

第四條 犯則者強暴或ハ固ク非理ヲ執ル者アル時ハ其處分ヲ税關長ニ上申シ其指令ニ從フ可シ

第五條 條約未濟國ノ船或ハ遭難船入港シ主税監吏ノ申告ヲ得ル時ハ税關長ニ上申シテ其指令ニ從フ可シ

第六條 密商及姦詐ヲ發覺セントスルニ當リテハ臨機ノ處分ヲ爲スヲ得ヘシ然レモ其處分セシ事件ハ必ス税關長ニ上申ス可シ

第七條 臨時ニ各監所ヲ巡廻シ主税監吏補ノ勤惰ヲ巡視ス可シ

第八條 主税監吏補職務上功績或ハ過失アル時ハ本人ノ手續書ヲ取り能ク其事跡ヲ按シ賞罰

例ニ擬シ税關長ニ上申スヘシ

第九條 科中ノ諸務ニ付細則ヲ設ケ科中申合規則等ヲ草案シ税關長ノ認可ヲ受ケ施行スルヲ得可シ

第二章 主税監吏心得

第一條 分掌規程及心得書ニ遵據シ事務ヲ執行シ船舶ノ尋問報告及主税監吏補ヲ監所ニ分配シ又ハ巡廻ヲ命スル等ヲ掌ル

第二條 外國船及内國船(海外交通ノ船及輸出入貨物積載ノ船ヲ云フ)入港セハ直ニ尋問簿ヲ携ヒ海上主税監吏補ヲ伴ヒ該船ニ至リ船司或ハ其代理人ヲシテ尋問簿書式ニ從ヒ詳細自記セシメ船中事故ノ有無ヲ尋問シ船司心得書(初メテ入港ノ外國船ニ限ル)ヲ附與シ晝間ナレハ主税監吏補ヲ置き夜間並ニ休日ナレハ船口ヲ直ニ封鎖スヘシ

但着港時刻ノ誤記ナキ様殊ニ注意スヘシ

第三條 入港ノ船舶條約未濟國ニ屬スルカ或ハ遭難船ナル時ハ其事實ヲ速ニ科長ニ申告スヘシ

第四條 西洋形内國船(海外輸出入貨物積載ナキ船ヲ云フ)ニシテ國內諸港ヨリ入港スルモノハ尋問ニ止リ船口ヲ封鎖スル等ノ事ヲ爲スニ及ハス

第五條 外國船及内國船(貨物積載ノ船及輸出入貨物積載ノ船ヲ云フ)尋問ノ際船口及ヒ荷口ノ位置形狀ヲ一々臨檢シ歸科ノ上科中ニ備ヘアル船口簿ニ詳記シテ該船碇泊中船口封鎖主税監吏補ノ便ニ供ス可シ

第六條 船口封鎖ノ時刻ヲ監督シ又開封ノ後ハ封紐ノ員數等ヲ檢査ス可シ

第七條 尋問ノ手續ヲ畢ヘ歸科セハ直ニ入港船報知簿ニ登錄シ關長及各科ニ報告スヘシ然テ後科中ニ備ヘアル塗札ヘ船名及番號ヲ記載シ本碇泊ノ間之ヲ掲ケ置ク可シ

但第四條ニ掲ケル船舶ハ塗札ヲ掲クルノ外其他ノ手續ヲ爲スニ及ハス

第八條 外國船海外航通ノ内國船投碇後四十八時(休日ヲ除ク)ヲ過キ收税科ヨリ入港手數濟報知ヲ得サルトキハ檢査科ニ照會ヲ爲ス可シ

- 第九條 碇泊外國船及內國船(海、外、航、通、ノ、船、及、輸、出、入、)ニハ必ス日出ヨリ日沒迄監吏補一名或ハ二名交代上監セシム可シ
 - 第十條 休日並ニ夜中開關或ハ休日並ニ夜中荷役(手、數、既、濟、)ノ特許ヲ文書科ヨリ通知アル時ハ主稅監吏補ヲ上監セシム可シ
 - 第十一條 派遣ノ主稅監吏補歸科シ當務中見届タル貨物ノ數其他ヲ記シタル證票ヲ出サハ即チ積卸簿ニ其員數記號貨主ノ名等ヲ詳カニ登錄スヘシ
 - 第十二條 各監所ニ犯則ノ件アルキハ自ラ其地ニ至リ事ノ顛末ヲ審按シ所見ヲ科長ニ申告スヘシ
 - 第十三條 常ニ主稅監吏補ノ能否勤惰ヲ視察シ功勞過失アル時ハ詳查シ本人ノ手續書ヲ添ヘテ科長ニ申告スヘシ
 - 第十四條 主稅監吏ハ晝夜海陸主稅監吏補ノ勤惰ヲ巡視シ又休憩時間タリト雖モ不体裁ノ所爲アルモノハ之ヲ督責シ嚴然風儀ノ紊レサル様注意スヘシ
 - 第十五條 主稅監吏補ヲ各船ニ配付シ或ハ巡廻ヲ命シ其勤務ノ始終セル時刻ヲ日記ニ詳記ス可シ
 - 第十六條 陸監主稅監吏補心得第三條但書ノ報告ヲ得ル時開關中ハ改品係へ開關後ハ宿直へ直ニ報告ス可シ
- 第四章 海監主稅監吏補心得
- 第一條 分掌規程及心得書ニ遵據シ船口開鎖監船巡廻等ノ諸務ニ從事ス
 - 第二條 外國船及內國船(海、外、航、通、ノ、船、及、輸、出、入、)碇泊中休日ヲ除クノ外日出船口ヲ開封シ日沒之ヲ閉鎖ス可シ
 - 第三條 但特許ヲ得タル船舶ハ此限ニ非ス
 - 第四條 船口開鎖ニ出張スル時ハ先ツ本科ニ備ヘタル船口簿ヲ熟覽シ開鎖ノ際船長或ハ其代理人ヲ立合遺漏ナキ様注意ス可シ又其解封セシ封紐ハ持歸リ監吏ノ點檢ヲ受クヘシ
 - 第五條 船口開封ノ際封印並ニ封紐ヲ點檢シ若シ封印毀剝封紐截斷ノ模様アル時ハ船司或ハ

- 其代理人ヲシテ顛末ヲ自記セシメ速カニ主稅監吏ニ申告ス可シ
 - 第五條 船口開封ハ日出ヨリ遲カルヘカラス其閉鎖ハ日沒ヨリ早カル可カラス必ス此期ヲ愆ラサル様注意ス可シ
 - 第六條 但船口閉鎖ヲ爲スノ際船中積殘ノ貨物アリ暫時ノ猶豫ヲ乞フ時ハ斟酌シテ許スヲ得可シ然ル時ハ直ニ他船ノ船口閉鎖ニ從事スヘシ
 - 第七條 上監中密商脫稅ハ勿論例規ニ抵觸スル者ヲ發摘セシ時ハ貨物ヲ取押置キ速カニ主稅監吏ニ申告スヘシ
 - 第八條 上監中他所ニ手數未濟ノ疑ヒアル貨物ヲ運搬セル等ヲ發摘セシ時ハ臨機ノ手段ヲ以テ主稅監吏ニ申告ス可シ
 - 第九條 輸出入貨物ヲ積卸スル時ハ其貨種個數及記號番號等船積船卸證ニ比照シテ之ヲ許ス可シ
 - 第十條 但積卸證ナキ貨物及其證書外ノ貨物ハ如何様ノ事故アルモ之ヲ許スコトヲ得ス
 - 第十一條 輸出昆布ニ限リ船積證ヲ付與ス若シ船積證所持セルモ船中昆布悉ク無檢印ナル時ハ直ニ拘引シテ主稅監吏ニ申告ス可シ
 - 第十二條 輸出入貨物一度ニ證書面高ノ全數ヲ積卸セシ時ハ上監主稅監吏補其證書ニ裏書シ捺印ノ上貨主ニ返付スト雖モ若シ多數ニシテ數度ニ積卸セサルカ如キ場合ハ輸出貨物ハ積入ノ度毎ニ其積入レタル個數及記號日月等ヲ證書ニ裏書シテ捺印ノ上貨主ニ返付シ又輸入貨物ハ初メニ證書ヲ預リ船卸ノ度毎ニ其卸セシ個數及記號日月等ヲ證書ニ記シ捺印ノ上貨主ニ付與シ全數船卸濟ノ上船卸證ニ裏書シテ貨主ニ返付ス
 - 第十三條 貨物船積船卸セシ時ハ上監事故記ニ積卸セシ日時個數及記號番號等ヲ詳細ニ登錄シ交代ノ節引繼キ日沒歸科セシ者ヨリ主稅監吏ニ差出スヘシ
 - 第十四條 船中用ノ食料或ハ旅具等ハ無免狀ト雖モ上監主稅監吏補ニ於テ詳細檢査シテ許ス可シ
- 但シ多數ノモノニシテ船積船卸證ヲ要スヘキモノト認ムル時ハ此限ニ非ラス

- 第十三條 外國船及内國船(海外航通ノ船及輸出入ノ貨物積載ノ船ヲ云フ)ニ貨物ノ積卸ヲナスハ日出ヨリ日没迄ニ限ル日没ヨリ日出迄ハ手數濟ノ貨物タリトテ特許ヲ得サレハ積卸ヲ禁ス可シ
 - 第十四條 夜中ハ各船上監ナキカ故ニ殊ニ注意シ時々港内ヲ巡廻シ密商或ハ密運ノ監視ヲ爲ス可シ
 - 第十五條 上監中ハ貨物積卸場所或ハ船内見通シノ位置ニ立監シ職務上ノ外船室等ニ立入ルヲ禁ス
 - 第十六條 船舶ノ左右兩舷或ハ數ヶ所ヨリ貨物積卸ヲナシ點檢行届カサル時ハ助勤ヲ請求スヘシ
 - 第十七條 上監時間ヲ畢ヘ歸科スル時ハ上監中事故ノ有無又ハ見届シ貨物ノ員數記號貨主ノ名等ヲ記載シタル證票ヲ主稅監吏ヘ差出ス可シ又巡廻ヲ畢ヘ歸科スル時モ事故ノ有無ヲ主稅監吏ニ申告スヘシ
- 第五章 陸監主稅監吏補心得
- 第一條 分掌規程及心得書ニ遵據シ陸監及巡廻ノ事務ニ從事ス
 - 第二條 陸監ノ監區ハ沿岸一圓トス然シテ平生巡廻スル線路西ハ臺場ヨリ幸町東ハ船場町豊川町永室脇迄ノ海岸ヲ巡廻シ無免許或ハ無檢査ニテ海外輸出入貨物ヲ運搬或ハ積卸ヲ謀ラントシ或ハ謀リタル者ヲ發摘セハ該貨物ヲ拘留シテ主稅監吏ニ申告スヘシ
 - 第三條 改品濟ノ昆布解船ヘ積取り尙貨主ノ都合ニ依リ海岸ニ留メ置キ又ハ積戻リ等ノ節日中ハ其場ニ監守シ夜中ハ間斷ナク其最寄海岸ヲ巡視シ若シ該品ノ引換ヲ謀ラントシ或ハ謀リタル者ヲ發摘スル時ハ貨物ヲ拘留シテ主稅監吏ニ申告スヘシ
 - 第四條 但風雨等ニシテ解船積載ノ昆布其儘難閣場合ニテ一時藏入シ或ハ藏入セントシタル時ハ該免狀ヲ引揚ケ速カニ主稅監吏ニ申告スヘシ
 - 第五條 昆布積出シノ時改品係ヨリ報知ヲ得ハ時刻ヲ量リ其場ニ派出該解船ノ海岸ヲ離ル、迄之ヲ監守スヘシ
 - 第五條 外國及海外通航ノ内國船舶中船用ノ食料及旅具ニ限リ詳細檢査シ之ヲ許ス可シ

- 第六條 但多數ノモノニシテ船積船卸證ヲ要スヘキモノト認ムルトキハ此限ニ非ス本關構内一圓三十分毎ニ巡視シ手數未濟ノ貨物ヲ船積陸掲セントスルヲ發摘シ又諸般ノ犯則者ヲ認ムル時ハ之ヲ取押ヘ直ニ主稅監吏ニ申告ス可シ
 - 第七條 本關構内巡視中船舶ノ入港出港ニ注意シ其入出アル時ハ直ニ主稅監吏ニ申告スヘシ
 - 第八條 内外國人ノ妄リニ本關構内ニ出入シ或ハ通過スルヲ禁ス故ニ犯ス者アル時ハ之ヲ制止ス可シ
 - 第九條 巡廻又ハ監守ヲ畢ヘ歸科スル時ハ必ス事故ノ有無ヲ主稅監吏ニ申告スヘシ
- 右遵守可致事
明治十九年二月
- 函館稅關長
四等主稅官 野 田 鷹 雄

主稅監吏補賞罰例並表

賞 例

- 凡ソ密商脫稅ノ物品ヲ發摘シ其他勤務上諸般ノ功勞アルモノ例ニ照シテ賞譽スヘシ
賞譽ハ其功績ノ大小注意ノ精粗實際ノ難易等ヲ酌量シテ輕重ス可シ
三十日間賞譽ヲ受クル二回以上ニ及フモノハ本賞ニ一等ヲ加フ可シ
本例ニ記載シ盡サル功績ハ諸例ニ比擬シテ賞譽ス可シ
- 第一條 密商及脫稅又ハ手數未濟ノ荷物ヲ發摘押獲スルモノ
 - 第二條 輸出入禁制ノ物品ヲ押獲スルモノ
 - 第三條 有稅物品其他稅關管理ノ荷物ヲ竊取セシ者ヲ押獲スルモノ
 - 第四條 本關構内ニ失火アルヲ發見シ直ニ撲滅シ若クハ主稅監吏ニ報シテ大事ニ至ラシメサルモノ
 - 第五條 強暴ノ違犯者其他危急ノ場合アルニ當リ同僚ニ應援助力スルモノ
 - 第六條 勤務勉勵衆ニ超ユルモノ
 - 右賞各第十等ヨリ第一等ニ至ル

罰例

凡ソ心得書ニ違犯シ又ハ勤務上怠慢失誤アルモノハ例ニ照シテ懲罰ス可シ
 懲罰ハ其情狀ヲ審案シ以テ輕重ス可シ
 三十日間懲罰ヲ受クルニ及フモノハ本罰ニ一等ヲ加フ可シ
 事ノ未タ發見セサルニ悔悟自首スルモノハ本罰ヲ減シ或ハ免ス可シ
 本例ニ記載シ盡サルハ犯狀アル時ハ諸例ニ比擬シテ懲罰ス可シ

第一條 手順未済ノ荷物ヲ放許シ又ハ監視ヲ怠リ脱税ニ至ラシムルモノ
 第二條 故無クシテ監所ヲ離レ及巡廻ノ節脇途ヲ通り或ハ途中人家ニ立寄ルモノ
 第三條 自己ノ怠慢失誤ニ因リ關務ノ滯滞ヲ來スモノ
 第四條 監視不適當ノ地位ニ在ルモノ
 第五條 船口開鎖ノ時ヲ失シ船口開鎖ヲ遺脱シ船口開鎖ニ疎漏アルモノ
 第六條 主税監吏ノ命令ニ違フモノ
 第七條 公事ノ受授スルニ粗略或ハ遺漏アルモノ
 第八條 證書類又ハ官品ヲ遺失或ハ毀損スルモノ
 第九條 證書類ニ誤記セルモノ
 第十條 執務時間中不体裁ノ所爲アルモノ
 第十一條 病氣其他ノ事故ニ托シ缺勤スルモノ
 第十二條 監視中ノ事故有無ヲ報告セサルモノ
 第十三條 交代就務ニ遅期スルモノ或ハ交代者ノ至ラサルニ退去スルモノ
 右罰各第十等ヨリ第一等ニ至ル

第十四條 所勞届及出勤ノ定期ヲ遅ル、モノ
 第十五條 當直及宿直ヲ私ニ交換スルモノ
 第十六條 休憩時間中擅ニ他行スルモノ
 第十七條 主税監吏ニ告スシテ退關スルモノ

右罰各第十等ヨリ第六等ニ至ル

等級	賞金	罰金
一等	五圓	全月俸
二等	三圓五十錢	百分ノ五十
三等	二圓五十錢	百分ノ三十五
四等	二圓	百分ノ二十五
五等	一圓五十錢	百分ノ二十
六等	一圓	百分ノ十五
七等	七十五錢	百分ノ十
八等	五十五錢	百分ノ七、五
九等	三十五錢	百分ノ五
十等	二十五錢	百分ノ二、五
以上	十錢	百分ノ一

主税監吏補賞罰表

明治十九年二月

函館税關長

四等主税官 野田 鷹雄

函館税關主税監吏補召募規則

第一條 凡ソ主税監吏補ヲ採用スルハ本關監吏ノ介薦ニ依リ先ツ左ノ各項ニ適當スル者タルヲ要ス

第一項 年齡滿二十歲以上滿三十五歲以下ニシテ保證人ニ於テ徵兵免除ノモノト保證スルモノ

第二項 滿五年間奉職故障ナキモノ
 第三項 身體健壯ニシテ痼疾ナキモノ
 第二條 前條ノ各項ニ適當スルモノヲ得レハ介薦者ハ附錄第一號書式ノ保證書ニ第二號書式ノ履歷書ヲ添テ本關ニ差出スヘシ
 第三條 試驗ハ分テ本科別科トナス左ノ如シ

本科

- 第一項 寫字 楷行兩体
- 第二項 算術 洋算ハ分數比例
和算ハ四則雜類
- 第三項 和漢學 日本政記十八史略若クハ日本外史ノ讀方
普通ノ往復文但眞片假名交
- 第四項 作文 簡易ノ讀本會話篇等ノ讀方
- 第五項 洋學
- 第六項 体格

別科

- 第一項 算術 代數以上
- 第二項 作文 論文但片假名交
- 第三項 洋學 普通ノ歴史類譯讀

第四條 本科ノ試驗ハ各受験者必ス之ヲ經ルヲ要シ別科ノ試驗ハ其請ヒヲ俟テ之ヲ行フモノトス
 第五條 試驗評點ハ各項目ノ評點百點ヲ以テ滿點ト爲シ六十點以上ヲ以テ合格點ト爲ス
 第六條 本科試驗ノ及第者ハ四等主稅監吏補ニ採用シ別科試驗ノ及第者ハ直ニ三等主稅監吏補以上ニ採用スルコトアルヘシ
 (書式略ス)

○同月十七日農商務省ニ於テ本道物產ヲ小樽港ヨリ海外へ輸出スル事業ハ向後北海道廳ニテ繼續ス

ル旨達セラル○同月二十六日小樽出張所ヲ再設ス

參照

小樽出張所再設之義ニ付伺

函館稅關

去ル明治十一年中小樽港ヨリ當道物產海外直輸出之義特許相成候際同港へ當關出張所設置之處其後二年半餘ノ間僅カニ一回ノ輸出ニ止リ當時出張所存置ノ必要ヲ見ス候ニ付追テ頻々輸出有之候時運ニ際シ再ヒ開設ノ見込ヲ以テ十四年一月經伺ノ上一旦右出張所閉鎖致シ爾來輸出之都度本關官吏派出事務爲取扱候事ニ相成居候處近來幌內炭礦事業追隆盛ニ赴キ昨年七月以降右石炭ノ輸出既ニ數回ニ及ヒ尙引續キ輸出致候景况ニ相見候然ルニ小樽函館間ノ義ハ冬季ニ際シテハ海上險惡汽船之發着其定期ヲ踏ム能ハス而シテ陸路ハ積雪數尺時或往來梗塞ノ患ナキニ非ス故ヲ以テ輸出事件之傳達ヲ受クルヤ直ニ吏員ヲシテ勿々途ニ就カシムルモ其輸出船之着港ニ先テ其地ニ達シ得ヘキヤ否ヤヲ保シ難ク取締上甚タ懸念ニ不堪候加之先般農商務省雇入外國船ヲ以テ小樽函館橫濱間該石炭回漕特許之次第モ有之聞ク所ニ依レハ回漕ノ義ハ頻々往復致候趣ニ付旁以目下出張所再設ノ必要ヲ認メ候間右考按ヲ以テ開設費用取調候處別紙概算書ノ通り有之候尤モ同所在勤官吏ヨリ小使ニ至ル迄別ニ増員ヲ要セス當關人員ノ中ヲ以テ夫々繰合セ在勤爲致候積リニ付俸給等ノ費目ハ右出張所ヲ設立スルト否ニ拘ハラズ支出致候モノニ付之レカ爲メ聊カ費額ヲ加ヘス只一方ニ於テ應費等若干ノ費用相増シ候得共反テ一方ヲ顧ミレハ每回出張旅費ニ減少致候間差引増減相補可申計算ニ有之候依之右出張所費用之義本年度内ハ勿論來年度ニ於テモ別ニ支給ヲ仰カス總テ當關經費之内ヲ以テ支辨可致見込ニ有之候以上陳述候事實御洞察至急御許可相成度右御許可ノ上ハ在勤官吏處務事例並ニ直輸出假規則等總テ先年出張所開設候後繼續履行致來候處御達通遵守可致候此段相伺候也

明治十九年二月十五日

函館稅關長 野田 鷹雄

主稅官長 純 造 殿

三月十七日小樽出張所ヲ開廳セリ○同月二十五日稅關官制ヲ公布セラル○同月同日閣令第三號歲入歲出納規則ヲ定メラレタルヲ以テ關稅及稅關ノ諸收入取扱心得ヲ達セラレ
五月十五日臨時開廳規則ニ據リ又ハ派出檢査ノ爲メ收入スル手數料ハ二十年度以降之ヲ國庫ニ納付シ非常勤勞者手當ハ豫算條規第七條第三項ニ據リ其見込ヲ立テ二十年度以降經費豫算ニ編入開申スヘキ旨達セラレ○同月同日從前ノ海關稅取扱順序ヲ廢止シ更ニ關稅及稅關諸收入取扱手續ヲ日本銀行ニ達セラレ

參 照

十二月十六日勅令八十號ヲ以テ臘虎並臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則ヲ定メラル

第四條

前條當該官吏ノ檢印ナキ臘虎並臘肭獸ノ生皮ヲ帝國諸港ニ輸入シ若クハ船舶ニ積載シテ帝國諸港内ニ滯泊シ又ハ市場ニ販賣セントスル者ヲ發見スルトキハ稅關官吏又ハ警察官吏ニ於テ該物品ヲ取押ヘ直ニ告發スヘシ

但露西亞及北亞米利加合衆國所轄内ニ於テ其政府ノ免許ヲ得テ獵獲シタル臘虎並臘肭獸ノ生皮ニ於テハ船主又ハ船長タル者其國相當官吏ヨリ付與セシ證書若クハ本邦在留露國及合衆國領事ノ證明書ヲ差出シタル後該品ヲ帝國內ニ輸入スルコトヲ得

明治二十年

一月十七日各國公使所屬品輸出入無檢査通關達書用紙本年ヨリ改正ノ旨達セラレ

參 照

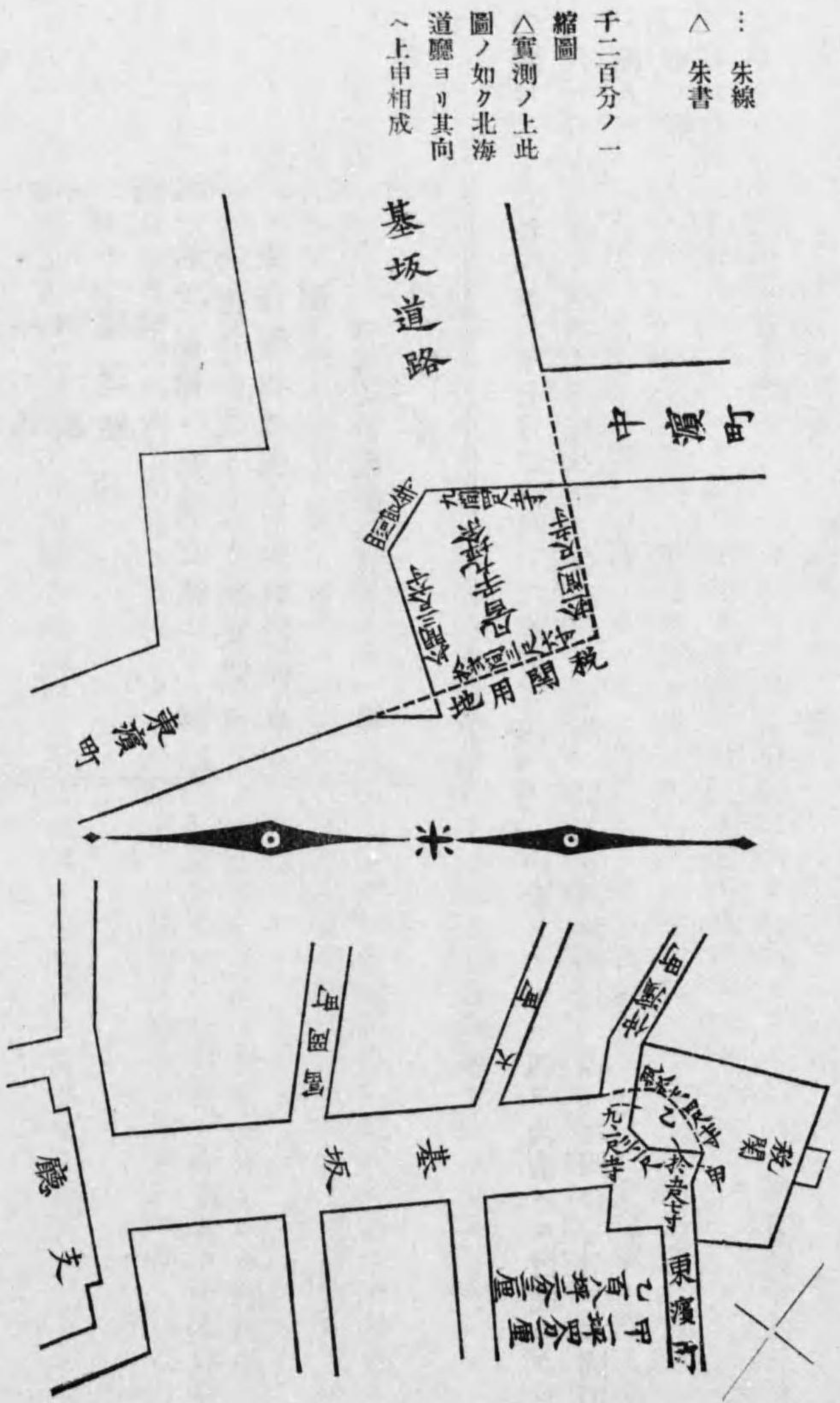
第 號

記

人 名	品 名	個 數	輸 送 船 名	輸 送 港 口	右之品輸 通關之儀	公使 氏ヨリ申出候間無	檢査無稅通關可被取計候也	明治二十年 月 日	外務大臣伯爵 井 上 馨	稅 關 長
-----	-----	-----	---------	---------	-----------	-------------	--------------	-----------	--------------	-------

○同月二十五日明治六年七月二百四十六號布告(米麥輸出)中米トアルハ粃ヲ含畜スル旨達セラレ
二月五日日本關廳舍敷地ノ内百八坪二合三勺ヲ道路ニ編入シ道路敷地ノ内一坪四合一勺ヲ本關用地内ニ編入ス

參 照



四月三日小樽出張所應舎トシテ高嶋郡色内町二十番地ニ建家一棟ヲ借ル借料一ヶ月四拾圓
五月二十三日日本年七月一日ヨリ食鹽ノ無稅輸出ヲ許サル○同月三十日曩ニ函館縣へ貸與シタル船見

町四十九番地ノ建物ヲ道廳ヨリノ返納ニ由リ領收ス
七月一日明治十九年勅令第八十號(臘虎並臘臘獸獵獲及
其生皮輸入販賣規則)ハ英國公使異議ヲ申出談判中ニ付當分ノ内外國
人ニハ適用セサル旨達セラレ○同月二十五日船見町四十九番地本關所屬ノ建物中一等官舎ヲ除キ廳
舎用家屋一棟百十六坪七合五勺門衛所一棟九坪物置一棟十五坪ヲ船舶司檢所ニ貸與ス
十一月十九日樺太貿易品ノ關稅及樺太貿易船ノ手數料等ニ關シ本關ノ意見ヲ上請ス

參照

樺太貿易ニ關スル明治九年第四百十九號公布改正相成度義ニ付去ル十七年別紙第二七九號ヲ以
テ舊主稅官長へ上請致置候處尙ホ頃來ニ至リ其改正ハ益緊急ト相成候様思考仕候者テ十七年ニ
於テハ該公布違犯ノモノ僅々二三艘ニ止リ候處本年ノ如キハ渡航及歸航ノ途中不開港へ寄港ス
ルモノ及ヒ不開港ヨリ直ニ發航スルモノ追々有之候右ハ蓋シ第四百十九號公布違犯ニ對スル制
裁ノ設コレナキニ由リシナルヘク候へ共抑モ本年勅令第六號北海道水產稅則ノ公布アリテヨ
リ從來北海道要港ニ設置シタル拾九ヶ所ノ船改所及其出張所ハ盡ク廢セラレ船舶出入ノ取締皆
無ニ屬シタルモノ其原因ノ多分ヲ占シナラン故ニ去ル十七年中大藏卿ヨリ舊北海道三縣へ内達
セラレタル第四百十九號公布ニ關スル訓令モ最早其効ヲ見ル能ハサルニ至レリ且夫樺太ハ大ニ
其觀ヲ改メ復舊時ノ樺太ニアラスト聞ク然ルニ尙ホ内國產物内地運送同様ノ規則ヲ以テ其貿易
ヲ管理スルハ内外國貿易ノ取締ニ對シ甚タ不論ノ嫌ナキヲ得ヌ旁以テ別紙上請ノ通改正相成候
ハ至當ノ義ト存候然レモ若シソレ右ノ上請ノ如ク行ハレ難キ事情有之候へハ特ニ船舶手數料ト物
品ノ積卸ニ至テハ總テ外國貿易ノ手續ヲ以テ取扱候様相成度若シ此儘措テ問ハサレハ他日如何
ナル弊害ヲ生スルニ至ルモ圖ル可カラスト存候但本年ハ漁業之期節モ過キ最早出入ノ船舶モ有
之間敷候へ共來二十一年ノ漁期乃チ四五五月頃ニ至ルマテニハ何レ共取締ノ方法相立候様御詮議
相成度此段再應上請仕候也

函館稅關長 野田 應雄

大藏大臣伯爵 松方正義 殿

○同月二十二日條約未濟國ノ船舶當港へ入津ノ節ハ各開港場間ニ船客及貨物ヲ回漕スルモノヲ除クノ外ハ地方廳ト協議ノ上渾テ條約諸國ノ船舶同様取扱フヘキ旨達セラレ

○同月函館區ニ於テ港内ニ流入セル龜田川ノ流域ヲ變シ大森濱ニ轉注セシム

十二月二十五日稅關官制中鑑定官ヲ追加ス此年當港貿易上ノ宿弊ヲ上書シテ條約改正ノ資ニ供ス

參照

函館港ノ義ハ種々ノ原因アリテ他港ト其成規慣例ヲ異ニシ我カ關務執行上ニ横ハル障礙タル實ニ浸潤多年幾ント不拔ノ勢ヲ爲シ到底外交ノ面目一變スルノ際ニアラサレハ芟除スル能ハサル義ト存候處目下條約改正會議御公開ノ好機ニ有之候間左ニ其弊害ノ大ナルモノ二三ヲ擧ケテ高覽ニ供ス願クハ條約改正完結ノ日同時ニ一掃ニ歸センコト切望仕候處ニ有之候

一 輸出入品揚卸場ノ局定セサル事

這ハ畢竟稅關開始ノ後上屋借庫ノ設久シク備ハラス道路泥濘橋梁粗弱舟車ノ便未タ普子カラス而シテ其貿易品ハ概テ輸出ニシテ其過半ハ重量粗大ナル昆布等ナルヲ以テ事情已ムヲ得ス貨主ヲシテ隨意ノ場所ヨリ揚卸ヲ爲サシメ漸ク馴致シテ今日ノ慣行ト相成候義ニ可有之現今港内拾余ヶ所ノ波止場有之而シテ百般ノ貨物内外人ヲ問ハス自由ニ其揚卸ヲ許スヲ以テ其不取締ナルコト名狀ス可カラス是レ實ニ函館港ノ一大缺典ニ有之候

一 改品場ノ一定セサル事

前項陳述ノ通夫レ既ニ波止場局定セサルヲ以テ改品場所モ亦一定スルヲ得ス故ニ貨物ヲ積卸スル毎ニ検査吏員貨主ノ倉庫家屋其他都テ貨物所在ノ地ニ出張シテ之レカ検査ヲ爲サ、ルヲ得サル慣行ニ有之候間收稅上ノ利害ハ暫ラク措キ我官衙ノ權理ヲ商民ニ讓ツル決シテ小少ナラス加之前項陳述ノ波止場タル本關ヲ距ルコト近キモ丁餘遠キハ七

八町ニ及ヘリ且貨主ノ倉庫モ所々ニ散在致居候間一人ニテ改メ得ラルヘキ貨物モ數人ヲ要シ検査ノ不便實ニ一方ニ無之殊ニ冬季互寒風雪ノ際ハ官吏ノ奔走勞苦容易ナラサル儀ニ有之候

一 船取締規則ノ制定ナキ事

函館港ニ於テハ客舟ニ關スル取締規則ハ略ホ規定有之候得共舢舨ニ至テハ未タ内國人ニタモ其設ケ嘗テ無之縱令ヒ復之ヲ設クルモ輸出入品ノ揚卸場局定セサルヲ以テ百害常ニ之ト相關連シテ其功用ヲ全クスル能ハサルヘシ實ニ不取締ノ至ニ有之候

一 港界ノ分明ナラサル事

函館港ノ位置タル東西二十一町南北一里餘深サ四尋乃至八尋東北ヨリ西南ニ迂曲シテ灣形ヲ爲シ我國第一ノ良港ト贊稱シ候然ルニ舊來確ト示定シタル港界線無之唯彼我ノ間ニ取結ハレタル港則ニ繫泊場ノ線ナルモノヲ指定セリ而シテ繫泊線内ハ全ク港心ニシテ其線ハ決シテ港界ニ無之然ルニ或ハ外國船之ヲ以テ全港ノ經界ト認メ其線路外接近ノ所ニ投錨シ入港手數ヲ忌避シテ連日滯泊スルモノ往々有之這ハ從前ヨリ默許ニ附シ稍々慣行ノ姿ヲ爲シ來リ候處或ハ右慣行ヲ奇貨トシ船用品ヲ積入レ或ハ乘組人上陸シテ積荷ノ有無運賃ノ高低等ヲ尋問シ公然憚ル所ナキカ如キハ甚タ不取締ニ有之候

一 以上數種ノ缺典ヨリ生スル稅ノ懸念

前陳ノ弊習ヨリシテ密商稅ノ點ニ於テハ最モ懸念ノ儀有之候設令ハ昆布ノ如キ輕量ノモノヲ以テ官吏ノ改品ヲ經了シ之ヲ船積スルニ當テ重量ノモノト引換ユル等ノ奸策決シテ無ヲ保シ難ク候況ンヤ近年内國汽船定期航路ヲ開キヨリ本港ニ於ケル海外輸出入ノ貨物ハ大抵之レニ捆載スルニ至リ候而シテ陸ニハ波止場ニ内外ノ區別ナク船ニハ外商内賣ノ貨物ヲ混載シ而シテ之ヲ運搬スル舢舨ニハ一ノ檢束法ナキカ如キニ至テハ取締上一層ノ困難ニ有之候

扱テ前陳ノ情况ナルニ因リ明治十年上屋借庫ノ建築新タニ落成シ稅關タルノ體裁既ニ準備セルヲ以テ是非トモ波止場ヲ局定セント當時ノ關長ヨリ在留各國領事ニ商議ニ及

候處或ハ道路狹隘ニシテ橋梁ハ貨車ノ運轉ニ適セス或ハ貨物ノ性質他港ト異ナルニ因リ他港ノ例ヲ以テ論スヘカラス等種々ノ口實ヲ設ケ何レニスルモ波止場ヲ一定スルニ商人ノ便利ヲ妨害スル容易ナラサル旨ヲ主張シ遂ニ其議不調ニ歸シ候
小官赴任以來現地ノ情况熟察候處波止場ノ局定セサルハ如何ニモ百弊ノ根源タルニ相違無之候得共積年ノ慣例一朝容易ニ着手難致乍去斯ク官吏ヲ奔走セシメタル上ニ脱稅等之候テハ不相濟義ニ付昨年中主稅官長へ上申ノ通從前ノ檢査法ヲ廢シ船積入ルハキヲ以テ檢査スルノ法ニ改メ毫モ假借セス綿密ヲ主トセシメタルニ果シテ從前ヨリ其斤量ヲ増加スルヲ貳割餘ニ至レリ乍併這ハ是レ單ニ收稅保護ノ點ヨリ出テシ方法ニシテ我權理ノ枉屈ニ至テハ依然トシテ從前ト毫モ異ナル處ナキハ遺憾ニ堪ヘス候
以上函館港ニ於テ關務執行上ニ横ハル障礙ト其沿革ノ概略ニ有之候然リ而シテ今ヤ當港モ道路廣濶橋梁堅牢全港一般其觀ヲ豹變シ亦舊時ノ函館ニ無之候間右等ノ弊害ハ條約改正完結ノ日ヲ期シテ斷然一掃相成候様仕度豫メ供高覽置候也

明治二十一年

五月四日はヨリ先キ樺太貿易ニ關シ本關ヨリ屢々意見ヲ上陳スル所アリシモ未タ採納ノ運ニ至ラス當分從前ノ通り擱クコトニ決議セル旨通牒セラル

參照

明治九年第四百九十九號公布改正ノ義ニ付客年第四百四十三號ヲ以テ再ヒ御上請相成候件ハ元來樺太島貿易ノ義ハ其輸出品ハ概シテ船用品ニシテ其輸入品ハ該島ニ於テ漁獲シタル魚類等ニ過キス候ヘハ今若シ他ノ外國貿易同様其出入船舶ヨリ手數料ヲ徵收シ其貿易品ニ課稅スルハ勢ヒ該島ノ貿易ニ從事スル者ヲシテ困難ナラシムルニ至リ可申左リトテ特ニ船舶出入港手數料ト物品稅ヲ免除シ止テ船舶ノ出入物品ノ積卸ノミ外國貿易ノ手續ニ照據セシムルハ他ノ外國貿易ノ手續ニ對シ不權衡ニ涉ルヲ免レス義ニ付當分其儘擱キ候事ニ決議相成候條右様御了知有之度

此段及御通牒候也

函館稅關長 野田 鷹雄 殿

關稅局長 中野 健明

六月九日明治九年二月第二十一號達輸入品元價換算方ハ本年九月三十日限り廢止シ本年十月一日ヨリハ輸入從價稅品元價ハ本年九月一日大藏省告示外國貨幣日本銀比較表ニ據リ換算スヘシ但該比較表ハ毎年三月六月九月十二月ノ四回ニ之ヲ改正告示ヘキ旨達セラル貨幣換算ニ關シ本省ノ定期告示ハ此時ニ始マレリ

七月三日舊炭礦鐵道會社附屬官舎ノ内合宿所ヲ小樽出張所應舎ニ借用ス○同月十七日勅令第五十四號ヲ以テ輸出酒類稅規則ヲ定メ九月一日ヨリ施行セラル

八月三日大藏省令第八號ヲ以テ輸出酒類稅規則施行細則ヲ定メラル

九月一日石炭無稅輸出ヲ許サル○同月三十日本關附屬官舎借用人ナキトキハ一時他官吏へ貸渡スコトヲ許可セラル

十二月十八日藥材其他ノ物品ハ來二十二年一月一日ヨリ無稅輸出ヲ許サル○同月二十二日午前二時稅關長官舎ヨリ出火シ厩ヲ除キ全燒ス

明治二十二年

二月二十三日本年一月以降輸出入品噸數表ヲ每年二期ニ關稅局へ報告スヘキ旨達セラル

五月三十一日昨年燒失シタル稅關長官舎ノ燒跡ニ船見町第二十一號官舎ヲ移シ工費參百七拾七圓五拾四錢ヲ以テ改築落成ス

七月法律第二十號ヲ以テ小樽港ヲ特別輸出港ト定ム

八月九日特別輸出港在勤稅關官吏事務章程ヲ定メラル

特別輸出港在勤稅關官吏事務章程

- 第一條 在勤官吏ハ特別輸出港規則及各國トノ貿易章程其他諸例規ニ照據シ其事務ヲ取扱フヘシ
- 第二條 諸收入金徵收納付等ノ手續ハ一般ノ例規ニ據リ取扱フヘシ
- 第三條 船長若クハ其代理人ヨリ休日或ハ平日閉廳後臨時閉廳ヲ願出若クハ相當ノ手數ヲ經タル貨物ノ船積ヲ願出事實已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ左記ノ手數料ヲ徵收シ之ヲ許スヘシ

臨時閉廳手數料

日出ヨリ日沒マテ	每一時間	金壹圓
日沒ヨリ日出マテ	同	金壹圓五拾錢
休日ニ於テ船積手數料	每一時間	金五拾錢
日出ヨリ日沒マテ	同	金七拾五錢
平日閉廳間ニ於テ船積手數料	每一時間	金七拾五錢

- 第四條 特別輸出港規則ニ據リ輸出事業ニ使用スル船舶ハ同規則第一條ノ輸出品ヲ船積スルノ外他ノ貨物ヲ船積シ若クハ陸揚スルコトヲ許サ、ルヘシ
- 第五條 港内ニ碇泊セル内國船特別輸出港規則ニ據リ輸出事業ニ使用センコトヲ出願スルトキハ船内ヲ検査シ貨物積載ナキモノハ之ヲ許スヘシ
- 第六條 特別輸出港規則第四條ニ違背スルモノアルトキハ治罪法第九十六條ニ據リ告發シ其旨ヲ所管稅關長ヘ具狀スヘシ
- 第七條 貿易章程ニ違背スルモノアルトキハ處分ノ上其旨ヲ所管稅關長ヘ具狀シ其指令ニ從フ

ヘシ

第八條 特別輸出港規則及貿易章程其他諸例規中執行上疑義ニ涉リ決シ難キ事件並金錢出納ニ關スル事項等ハ總テ之ヲ所管稅關長ヘ具申シ其指令ニ從フヘシ

十月天神町官舎第一號乃至第三號及第七、八、二十號官舎ニ水道給水管ヲ敷設ス○同月石庫近傍ヘ休憩所設置ヲ北海道共同商會ニ許可ス

十一月一日特別輸出港在勤官吏事務章程第三條三項平日ニ於テ日沒ヨリ日出マテ船積手數料每一時間金七拾五錢ト改正セラル

明治二十三年

二月二十九日關稅及稅關諸收入收納取扱順序ヲ定メ本年四月一日ヨリ施行セラル○同月同日從來外國人納稅ニ係ル壹分銀ハ國庫ニ納付ノ節内國人同様ノ換算ヲ以テ整理シ來リタルモ本年四月一日以後三百一十個ニ付百圓ノ割合ヲ以テ整理納付スヘキ旨達セラル

二月從前各關ヨリ直ニ國庫ニ差出シ來リタル關稅及稅關諸收入ノ豫算書歲入報告書決算報告書等調製方關稅局ノ主管ニ移サル

三月三日從來本邦駐在各國公使等所屬品輸出入ノ節其名稱數量元價等外務省ヨリ其都度達シ來リタルヲ今後右所屬品ノ内旅中用荷物ニ屬スヘキモノ若クハ些々タル物品ニシテ其所屬主タル公使等ニ於テモ豫テ荷包中ノ品名ヲ知悉セサルモノ或ハ品名ヲ知ルモ數量元價ニ至テハ精密ニ指定スル能ハサルモノハ其儘通關方ヲ外務省ヨリ通達シ別ニ其數量元價等ヲ通達セサル旨達セラル○同月五日旬日報告書ハ三月限ニテ廢止シ更ニ四月ヨリ上下半月ヲ以テ輸出入品價額表收稅表、輸出入貨幣並ニ地金表ヲ製シ毎月十六日及翌月一日ニ關稅局長ニ進達スヘキ旨達セラル○同月二十二日會計規則六十七條ニ掲クル検査ノ官吏ハ稅關長ニ於テ命スルコトヲ得ル旨達セラル

四月二十六日釧路出張所在勤ノ爲判任官二名増員ノ認可ヲ受ク
 六月勅令第六號ヲ以テ大藏省官制ヲ改正セラル
 七月三十一日税關分課規程ヲ定メラル○同月勅令第四百十二號ヲ以テ税關官制ヲ改正セラル○同月
 法律第二十號ヲ以テ特別輸出港規則ヲ公布セラル
 八月九日税關監吏監吏補試驗規則ヲ定メラル○同月二十六日監吏監吏補試驗規則第四條驅幹ノ制限
 ハ當分ノ内適用セサルモ妨ケナキ旨定メラル
 九月六日法律第八十號ヲ以テ税關法ヲ公布セラル○同月同日勅令第二百三號ヲ以テ税關規則ヲ定メ
 ラル○同月同日勅令第二百四號ヲ以テ税關管轄區域ヲ定メラル○同月十二日省令第二十二號ヲ以テ
 税關規則第九條及第四十八號ノ特許手数料ヲ定メラル○同月同日法律第八十二號ヲ以テ外國小包郵
 便物ノ關稅ヲ免除セラル○同月同日税關法及税關規則ノ執行上ニ關シ左ノ如ク大臣ヨリ達セラル

參照

税關規則第三十一條及第三十二條ノ入出港届書式並同規則第三十四條及第三十五條ノ入出港積
 荷目錄ノ書式ハ別紙ノ通タルヘシ (別紙略ス)
 税關規則第三十四條ニ據リ差出シタル出港積荷目錄二通ハ其一通ハ仕出港税關ニ留置シ他ノ一
 通ハ仕向港税關ニ送付スヘキモノトス税關規則第一條ニ據リ船長ヨリ差出スヘキ積荷目錄ノ書
 式ハ當分一定ノ書式ヲ要セス税關規則第十一條ニ據リ外國通航船若クハ沿海通航船ノ免狀ヲ付
 與シタル船舶更ニ其資格ノ變更ヲ申出沿海通航船若クハ外國通航船ノ免狀ヲ付與シタルトキハ
 前ニ付與シタル免狀ハ返納セシムヘシ
 朝鮮貿易ノ爲メ船舶ノ出入貨物ノ積卸ヲ許サレタル諸港及ヒ特別輸出港ニ於テ税關法及税關規
 則ノ違犯アリタルトキハ税關出張所長ヲシテ其船舶ノ出港ヲ止メ又ハ其貨物ヲ差押ヘ税關長ニ
 具狀シテ其指揮ヲ受ケシムヘシ

税關法第十三條ノ令狀及第十五條第二項ノ證票ハ豫テ税關出張所長ニ交付シ置クヘシ税關規則
 中第三十條及第四十三條ヲ除クノ外税關長ノ職權ハ税關出張所長ヲシテ執行セシムヘシ
 特別輸出港ニ於テ特別輸出港規則第四條ノ違犯者アリタルトキハ治罪法第九十六條ニ據リ告發
 セシムヘシ
 税關出張所在勤官吏ハ成規ニ照依シ其事務ヲ執行シ疑義ニ涉ル事項ハ總テ税關長ニ具狀シテ其
 指揮ヲ受ケシムヘシ
 朝鮮貿易取締所在勤官吏事務章程及特別輸出港在勤税關官吏事務章程ハ税關法及税關規則施行
 ノ日ヨリ廢止ス

明治二十三年九月十二日

大藏大臣 伯爵 松 方正 義

○同月二十九日勅令第二百十四號ヲ以テ税關監吏及税關監吏補制服ヲ改正セラル○同月税關監吏補
 制服ハ従前ノ履監吏ノ例ニ據リ官給ト爲ス旨達セラル
 十月三日監吏補ノ俸給ハ月俸拾參圓以上ヲ上給トシ拾貳圓以下ヲ下給トス旨達セラル○同月八日
 勅令第二百十八號ヲ以テ税關監吏補賞罰規則ヲ定メラル○同月十日税關監吏補賞罰規則ノ執行ヲ税
 關長ニ委任セラル○同月二十九日税關法第十三條ノ令狀及第十五條ノ證票書式ヲ定メラル
 十一月五日特別輸出港ヨリ朝鮮ニ往來スル二百石内外ノ小船ハ特別輸出港規則第三條ノ出入港手數
 料ヲ徵收セス十六年四十號布告但書ニ依リ入港貳圓出港壹圓ノ手数料ヲ徵收スヘキ旨達セラル○同
 月十四日租稅外諸收入取扱收入官吏異動届出書式ヲ定メラル
 十二月二十六日法律第七號ヲ以テ釧路港ヲ特別輸出港ニ加ヘラル

明治二十四年

一月關稅局ノ照會ニ依リ特別輸出港規則制定ノ爲メ貨主ニ於テ亭クル利便ヲ調査報告ス

參照

特別輸出港規則制定セラレ候ニ據リ船舶及貨主ニ於テ享クル所ノ利便取調之儀ニ付客歲十二月第三四五號ヲ以テ御照會之趣領承致候右ニ就キ輸出當業者北海道炭礦鐵道會社ヘ訊問候處幌内石炭ノ如キハ若シ該規則ノ設ケ無之シテ一旦函館迄運送シ而シテ海外ニ輸出スルニ於テハ別紙明細書ノ如ク壹噸ニ付少クモ貳圓ノ失費ヲ重子且ツ積卸シヲ爲スルハ自然粉炭ヲ増加シ價格ニ影響ヲ及ホス少カラサル趣答辨有之候而シテ今該會社昨年中ノ輸出額ハ(該會社ノ外ニ輸出者ナシ)九千四百五十噸(船用共)原價貳萬貳千貳百四拾三圓五拾錢ニ候間若シ之レヲ函館ヲ經輸出候ハ、壹萬八千九百圓ヲ増費シ原價ヲ四萬千四百拾三圓五拾錢ニ上ボスヘキ割合ニ候右ハ則チ費用ノ點ニ於ケル現實ノ利益ニシテ其他船舶ノ回漕等ニ付キ利便ヲ蒙ムルハ無論少クモ可被無之ト存候此段貴答候也

稅關長

關稅局長

拜啓陳者弊社採石炭海外輸出之義ニ付本月十八日第四四二號ヲ以テ御垂問ノ趣敬承仕候今假リニ特別輸出港規則ノ特許モ無之シテ一旦函館迄運送シ而シテ上海ニ輸出スルモノト假定セハ現今ノ如ク小樽港ヨリ直輸出スルモノニ比シ函館ヲ經過スル爲メ石炭壹噸ニ付少モ左記ノ通金貳圓ノ失費ヲ重子候割合ニ有之加之度々積卸シヲナスニ於テハ自然粉炭ヲ増加シ價格ノ點ニ於テモ亦不利不尠儀ニ御座候此段拜答仕候也

明治二十三年十二月三十日

北海道炭礦鐵道會社々長 堀

基

函館稅關長 野田 鷹雄 殿

記

一金貳圓也 內譯

金壹圓也

是ハ小樽港ヨリ函館迄石炭一噸ニ付廻送費

金卅六錢

函館ニテ石炭一噸ニ付水揚貨

金卅八錢

函館ニテ石炭一噸ニ付積込貨

金廿八錢

函館ニテ石炭一噸ニ付積卸ノタメ減價百分ノ七トシ及同所貯炭場等諸入費

但シ右ハ計算シ得ヘキ費用ニ有之候得共船線ノ都合其他實際取扱上ノ不便ハ不尠儀ニ有之候又函館ヨリスルモ小樽ヨリスルモ上海迄ノ運賃ハ殆ント同額ニ有之候

四月二十三日曩ニ船舶司檢所ニ貸與セル船見町ノ官舎ヲ受領ス

七月一日釧路港ニ特別輸出港規則ヲ施行セラル○同月同日釧路出張所ヲ置キ廳舎用トシテ同所米町

十一番地ニ木造家屋一棟建坪三十四坪ヲ月額拾圓ニ借入ル

十月十五日勅令第九十九號ヲ以テ大藏大臣ハ帝國臣民ニ限リ昆布、木材及ヒ板ノ三品ヲ不開港ヨ

リ輸出スル特許ヲ與フルコトヲ得ル旨定メラル○同月十九日大藏省令第二十四號ヲ以テ其手續ヲ定

十二月初メテ稅關監吏補試驗ヲ執行ス受験者十四人中合格者二名

明治二十五年

三月七日大藏省各廳間ニ四月一日ヨリ電信符合ヲ施行スル旨達セラル○同月十六日日本關定員ノ內壹名俸給ト共ニ橫濱稅關ヘ組替ノ認可ヲ受ク

四月十八日當港日本昆布會社カ昨年八月二十四日獨逸船ヲ以テ長切昆布二百〇七萬八千二百三十三斤及刻昆布一萬斤ヲ當港ヨリ橫濱ニ回漕シ稅關規則第二十六條第一項ニ規定スル期限經過後ニ至リ尙ホ回漕免狀ヲ返納セサルヲ以テ輸出稅金ヲ賦課シタルニ會社ハ海外貿易保護獎勵ノ政略ニ基キ事

情ヲ洞察シテ免稅セラレンコトヲ大藏大臣ニ訴願シ其要求ヲ却ケラルル六月九日更ニ會社ヨリ關稅取戻ノ訴ヲ地方裁判所ニ提起シ敗訴ス八月五日控訴シタルモ亦同會社ノ敗訴ニ歸セリ
五月十一日船見町四十七番地所在本關附屬舎ヲ左記ノ通り北海道廳地理課租稅檢査員派出所へ貸渡ヲ了ス

- 一、二階建木造應舎 一棟 二階共 百拾六坪七合五勺
- 一、附屬門衛所 一棟 總坪 拾一坪七合五勺
- 一、同物置 一棟 拾五坪

以上

十月二十一日本年十一月一日ヨリ施行スヘキ貨物積卸特許ニ關スル日出沒豫定時刻ヲ達セララルル同月第二回稅關監吏補試驗ヲ執行ス受験者十九人ノ中合格者五名
十一月二十四日當關監吏補賞罰例ヲ改定ス

參照

函館稅關監吏補賞罰例

監吏補其職務上勤勞アル者或ハ怠慢過失アル者ハ事ノ難易、情ノ輕重ヲ量リ各稅關監吏補賞罰規則ニ據リ處分ス左ニ其賞罰事項ヲ列舉シ其例外ニ係ルモノハ本例ニ比擬ス
一ヶ月間ニ賞或ハ罰ヲ受クルニ二回以上ニ及フモノハ本賞罰ヲ加重ス

賞例

- 一、輸出入禁制ノ物品ヲ押獲スルモノ
- 二、密商脫稅ヲ謀ルモノヲ摘發押獲スルモノ
- 三、定例ノ手順ヲ避ケント謀リ密運セル物品ヲ押獲セルモノ
- 四、稅關諸法規違反ノ者ヲ發摘スルモノ

稅關管理ノ物品ヲ竊取セシ者ヲ取押ヘシモノ
在關ノ諸貨物又ハ本關所屬ノ家屋倉庫等ニ失火アルヲ覺知シ大事ニ至ラシメサル者
強暴ノ違反者ニ對シ能ク其職ヲ盡クセシモノ
同僚ニ助力シテ功績アルモノ
勤務勉勵衆ニ超ユルモノ

罰例

- 一、禁制品ヲ通過セシメシモノ
- 二、手順未濟ノ荷物ヲ通過セシメ又ハ監視ヲ怠リ脫稅ニ至ラシメシモノ但シ其物品收稅ニ害ナシト雖モ本項ニ準ス
- 三、故ナクシテ監所ヲ離レ及巡回ノ節迂路ヲ通り或ハ途中人家ニ立寄ルモノ
- 四、船口開鎖ノ時ヲ失シ又ハ開鎖ノ箇處ヲ遺忘シ或ハ開鎖ノ方法ニ疎漏アルモノ
- 五、自己ノ怠慢過失ヨリ關務ニ滯滯ヲ來スモノ
- 六、監視不適當ノ地位ニ在ルモノ
- 七、監吏ノ命令ニ違フモノ
- 八、公務ヲ授受スルニ粗漏ナリシモノ
- 九、官物ヲ遺失或ハ毀損スルモノ
- 一〇、證書類ヲ遺失シ或ハ之ヲ誤記セルモノ
- 一一、公私ニ拘ハラス瀆職ノ行爲アリシモノ
- 一二、職務時間中不体裁ノ行爲アルモノ
- 一三、交代歸課シテ就務中事故ノ有無ヲ報セサルモノ
- 一四、所勞届及出勤ノ定期ヲ遅クルモノ
- 一五、當直及宿直ヲ私ニ交換スルモノ
- 一六、休憩時間中監吏ノ許ヲ得スシテ他行スルモノ
- 一七、監吏ニ告ケスシテ退關スルモノ

○同月同日當關監吏補服務規則ヲ改定ス

參照

- 第一條 函館稅關監吏補服務規則
 第一條 監視課ハ船舶ノ取締、海陸ノ巡察、旅人旅具ノ検査、門戸上屋ノ管守、貨物積卸ノ點檢及密商脫稅ノ監視ニ關スル事務ヲ掌ル處ナルヲ以テ監吏監吏補タルモノハ平素關稅ニ關スル諸法規及本港慣行ノ諸例規ヲ熟知スヘキハ勿論其職務ヲ行フニ方リテハ克ク本規則ノ指示スル處ヲ嚴守シ用意周到敢テ或ハ懈ルナキヲ要ス
- 第二條 課務ヲ區別シテ監吏ノ事務及監吏補ノ事務トナス
- 第三條 監吏補ニ監吏心得ヲ命シ以テ監吏ノ事務ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ但其功過ハ稅關監吏補賞罰規則ノ支配ヲ受クルモノトス
- 第四條 本規則中監吏ト稱スルハ監吏心得ノ監吏補ヲ含ムモノトス
- 第五條 監吏、監吏補ノ勤番ヲ分テ當直、宿直ト爲ス當直ナルモノハ毎朝日出ニ出勤シ日沒退出ス宿直ナルモノハ午前九時ニ出勤シ翌朝同時ニ退出シ當日ヲ明番トシ休暇セシム但シ船舶小數ニシテ宿直員ヲ以テ足レル時ハ當直者ハ午前九時迄ニ出勤スルヲ得シ日數ニ應シ閑ナルキニ於テ本人當直ノ日臨時休暇ヲ與フヘシ
- 第六條 繁務ナル時或ハ人員缺亡セル時ハ宿直明番ノ者ヲシテ助勤セシムヘシ尤モ右助勤セシ日數ニ應シ閑ナルキニ於テ本人當直ノ日臨時休暇ヲ與フヘシ
- 第七條 宿直ハ監吏壹名監吏補參名都合四名トシ貳名ツ、半夜交代スヘシ
- 第八條 乘監船多數アリテ夜中監視ノ爲メ必要ト認ムル時ハ監吏ノ見込ヲ以テ監吏補當直員ヲ夜勤セシムルコトアルヘシ
- 第九條 監吏補病氣其他ノ事故ニ依リテ勤務ヲ缺ク者(公務上負傷セシモノ、傳染病ニ罹リ又ハ家族ニ同中休暇、水火災其他例規ニ依リテ休職アリテ引籠リノモノ、忌引、父母ノ祭典、暑テ休暇ヲ與フルモノハ之ヲ除ク)ハ缺勤償金トシテ三日迄ハ缺勤一日毎ニ月俸百分ノ一、半四日以テ休職アリテ引籠リノモノハ之ヲ除ク
- 第十條 缺勤者ノ償金ハ毎月々末ニ至リ代務者ノ代務度數ニ應シ平均分與スヘシ

- 第十一條 代務或ハ助勤ヲ命スルハ順次ヲ以テス若シ其順次ニ當リ代務或ハ助勤ノ招令ヲ受ケ病氣其他ノ事故ニ因リテ應命セサルモノ(免除ノ場合ハ第九條ノ判注ニ同シ)ハ第九條ノ償金ヲ出スヘシ
- 第十二條 但シ本條ノ場合ニ於テハ末次應命セサルモノハ應命セサル先順ノ人員タケ代務度數ヲ了シタルモノト爲ス
- 第十三條 但シ本條ノ場合ニ於テ最後應命者ノ代務ハ前條但書ニ同シ
- 第十四條 監吏、監吏補病氣其他ノ事故ニ因テ出勤ナシ難キ時ハ出勤時間前ニ届出スヘシ
- 第十五條 監吏、監吏補所勞引七日以上ヲ過クルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出スヘシ
- 第十六條 監吏補ハ當直或ハ宿直私ニ交換スルヲ許サス
- 第十七條 監吏、監吏補ハ出勤退出ノ途中タリ厠制外ノ服帽ヲ着用スルヲ禁ス
- 第十八條 監吏、監吏補ハ常ニ外國人ニ接スルカ故ニ服飾ヲ清潔ニシ言語動作ヲ慎ミ他ノ蔑視輕侮ヲ受ケサル様注意スヘシ
- 第十九條 監吏補ハ就務中公用ノ外他人ト談話スルヲ禁ス
- 第二十條 監吏、監吏補ハ常ニ交誼ヲ厚フシ緩急互ニ相援ケ他ノ監所ニ事變アルヲ知ラハ海陸ヲ問ハス速ニ應援スヘシ
- 第二十一條 課中ハ常ニ清潔整肅ヲ專ラトシ休憩ノ監吏補ト雖モ漫リニ服飾ヲ脱シ容儀ヲ亂ル等ノ事アルヘカラス
- 第二十二條 都テ犯則奸詐ヲ發覺セル場合ニハ確證ヲ認メテ後平穩ニ處理スヘシ決シテ輕舉粗暴ノ處置ヲ爲スヘカラス
- 第二十三條 課中事務整理ノ爲メ細則ヲ設ケ稅關長ノ認可ヲ得之ヲ施行スルヲ得ヘシ
- 第二十四條 監吏補公務ニ因テ服帽ヲ毀損シ或ハ遺失セシキ其事由ヲ糺シ事實已ムヲ得サルト

- 認ムルキハ官費ヲ以テ補理調製スルコトアルヘシ
- 第二十五條 監吏補ノ本規則ニ違背シ及怠慢失誤アルモノ或ハ職務上勤勞アルモノハ其情狀ヲ審按シ税關監吏補賞罰規則ニ據リ處分ス
- 第二十六條 前條々ハ監吏並ニ監吏補一般ノ心得ヲ示メスモノニシテ尙ホ以下監吏及監吏補ノ職務ヲ條舉シ以テ各自專任スル所ノ事務ヲ明示ス
- 監吏ノ職務
- 第二十七條 本規則及慣例ニ遵依シ監吏補ヲ監督シテ課中ノ事務ヲ執行スヘシ
- 第二十八條 密商脱稅其他犯則ノ件及事變アルキハ監吏補其他關係人ノ報告等ヲ審案シ事件ノ顛末ヲ詳敘シテ税關長ニ具申スヘシ
- 第二十九條 事監所ニ起ルキハ直ニ現場ニ出張シ實地ノ事情ヲ審案シ犯則ノ如キハ成ル可ク確証ヲ得ルコトニ注意スヘシ
- 第三十條 監吏ハ商貨ノ包裝ヲ開披スルコトヲ得ス若シ其包裝中ニ嫌疑アルキハ貨主ヲシテ之ヲ開披セシメ檢査スルヲ得ヘシ貨主之ヲ拒ムキハ其貨物ヲ取押ヘ税關長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第三十一條 内外國船(軍艦ヲ除ク)入港スルキハ尋問簿ヲ携ヘ監吏補ヲ率ヒ投錨ヲ待テ直ニ該船ニ上リ船長或ハ當務ノ士官ニ面接シテ來意ヲ尋問簿ヲ出シ其書式ニ從ヒ詳細自記セシメ且ツ船中ノ模様載貨ノ有無ヲ點檢シ其海外貿易ニ關係ノ船舶ナルキハ乃チ監吏補ヲ上監セシムヘシ
- 但シ外國船ニシテ始メテ入港ノモノハ豫テ調製シアル船司心得書ヲ附與スヘシ
- 第三十二條 前條ノ船舶海外貿易ニ關係セルキハ詳細ヲ報知簿ニ登錄シテ之ヲ税關長及關係各課ヘ報告スヘシ
- 第三十三條 條約未濟國ノ船及遊船遭難船等凡テ例規外ノ船舶入港セルキハ詳ニ其顛末ヲ糾シ速ニ税關長及檢査課ニ報告スヘシ
- 第三十四條 海外貿易ニ關係船舶ノ船數及船口ノ位置形狀ヲ精密ニ臨檢シ置キ該船滯港中船口

- 開鎖ノコトヲ監督スヘシ
- 第三十五條 監吏補ヲ海陸各監所ニ配置シ其巡回交退、引上、方ヲ命令スヘシ
- 第三十六條 晝夜各時々海陸ヲ巡回シテ監吏補ノ勤惰ヲ監視スヘシ
- 第三十七條 監吏補本務ヲ了シ歸課スルキハ直ニ就務中職務ニ係ル事故ハ無論其他目撃セシ事故ノ有無ヲ尋問シ日誌ニ有無共登錄スヘシ
- 第三十八條 監吏補ノ能否、勤惰ヲ監督シ功勞或ハ過失アルキハ(過失ハ手續書ヲ徵シ)其事跡ヲ案シ賞罰ノ辭令案ヲ具ヒ文書課ノ合評ヲ經、税關長ニ上申スヘシ
- 第三十九條 沿海通航ノ西洋形内國船ノ諸届、船籍證書、船鑑札等ヲ受理シ之ヲ保管スヘシ但シ船舶ノ檢査賣買等ノ爲メ船長又ハ船主ヨリ一時其下附ヲ願出ルキハ願書ヲ取置キ許可スヘシ
- 第四十條 上監監吏補ヨリ各船積卸貨物ノ個數、記號、貨主ノ名等ヲ記シタル事故記ヲ出サハ右ヲ積卸簿ニ登錄シ後日ノ參考ニ備フヘシ
- 第四十一條 海外貿易ニ關係ノ船ト雖モ荷足ノミ積載又ハ全ク無載貨ノ分ハ乘監封印ヲ爲サ、ルコトアルヘシ
- 第四十二條 監吏補ノ宿直及乘監巡回時間等ハ其都度日誌ニ記載スヘシ
- 第四十三條 休日並ニ夜中、臨時開關或ハ通關特許ノ報告アルキハ船艙開披監吏補ノ配置等渾ヘテ平日ノ如ク取締ヲ爲スヘシ
- 第四十四條 毎月沿海通航内國船ノ出入表ヲ調製シ一部ヲ製表課ニ致スヘシ
- 監吏補海上ノ勤務
- 第四十五條 監吏ノ指揮ヲ受ケ海上ヲ巡回シ船舶ニ乘監シ税關諸法規違反ノ者ヲ發摘スヘシ
- 第四十六條 船積船卸ノ貨物ハ税關ヨリ貨主ヘ附與セル免狀ニ照シ記號相違ナキキハ該貨物ノ個數免狀面ノ數ニ充ツルマテハ之ヲ許可シ免狀ニ裏書シテ貨主ニ返附スヘシ多額ノ輸入貨物ハ初次ニ免狀ヲ領置シ船卸ノ都度卸セシ個數及斤量等ヲ船卸認證ナル用紙ニ記入捺印シテ附與シ檢査課ニ差出サシメ全數卸濟ノ際免狀ヲ貨主ニ返附スヘシ

- 第四十七條 各國軍艦ニ出入スル物品ハ渾テ税關ノ關係外トス然レモ軍艦ヨリ卸シタル貨物ヲ商船ニ船積スルト軍艦ニ移載スル爲商船ヨリ船卸スルキハ免狀ヲ要スルヲ以テ免狀ナキモノハ許スヘカラス
- 第四十八條 各國公使、同書記官其他家族從者ニ屬スル旅具及荷物ノ積卸ハ別段ノ例規ニ據ルヘシ
- 第四十九條 外國旅客ノ携帶セル旅具及外國船需要品ハ之ヲ検査シ不相當ト認ムルキハ制規ノ手數ヲ爲サシムヘシ
- 第五十條 乗監中認可セシ積卸貨物ノ箇數記號其他船中事故アルキハ無遺漏事故記ニ記載シ交代ノ節ハ交代者ヘ引繼キ當日最後歸課ノ者ヨリ監吏ヘ差出スヘシ
- 第五十一條 海外通航船及外國船ニハ日没船口封印ヲ爲シ日出之ヲ開披スヘシ右封印ノ節及開披ノ節ハ必ス船長或ハ代理人ヲシテ立合ハシムヘシ
- 但シ開封者ハ其開披セシ封印及封紐ヲ持チ歸リ監吏ニ差出スヘシ又封印者ハ閉鎖ヲナスノ際船中積殘ノ貨物アリ爲メニ暫時ノ猶豫ヲ乞フキハ斟酌シテ許スヘシ但シ他船ノ船口閉鎖ヲ遲滯スヘカラス
- 第五十二條 前條封印開披ノ際能ク之ヲ検査シ封印封紐等ニ異狀アルキハ船長或ハ其代理人ヲ糾問シ其顛末書ヲ取り速ニ監吏ニ報告スヘシ
- 第五十三條 交代歸課スル時ハ乗監中自己ノ取扱タル事件ヲ監吏ヘ報告スヘシ
- 監吏補陸上ノ職務
- 第五十四條 監吏ノ指揮ヲ受ケ日夜海岸ヲ巡回シ税關諸法規違反ノ者ヲ發摘スヘシ
- 第五十五條 改品濟ノ昆布ヲ載セタル船積貨主ノ都合ニヨリ海岸ニ留置キ又ハ右昆布積戻ノ船アルキハ晝夜間斷ナク之ヲ巡視スヘシ
- 但シ風雨等ニテ船積積載ノ昆布其儘難擱場合ニテ一時藏入セントシ或ハ藏入シタル時ハ其免狀ヲ引揚ケ監吏ヲ經テ検査課ニ送致スヘシ
- 第五十六條 外國旅客乗船上陸ノ際其携帶セル旅具及外國船ノ需要品ハ之ヲ検査シ不相當ト認

三月十日小樽港開港ニ關スル意見ヲ上申ス
參照

頃日小樽港人民ヨリ小樽港ニ於テ薩哈連島貿易ニ關スル船舶及貨物ノ出入ヲ許可相成候様出願候趣追テ其筋ヨリ本省ヘ稟議可相成ト存候右出願ノ趣意ハ小樽港ノ追々般賑ナルニ隨ヒ戸口ノ増殖ト船舶出入ノ頻繁ハ漁場ヲ迫縮シ魚族ヲ驅逐シ漁業家ノ營業自然立行キ難ク候ニ由リ進ンテ薩哈連島ニ出稼ヲ試ミントスルモ小樽港ヨリ直航スルニアラサレハ相應ノ利益ヲ得難キヲ以テ朝鮮貿易港ノ例ニ倣ヒ薩哈連島貿易ノタメ同港ヲ開放相成度ト云フニ有之候當今小樽ハ函館ニ亞クノ要港ニ位シ其繁昌進歩ノ疾カナル途ニ漁網事業ヲ容ル、ノ地ナキニ至ラントスルハ事實ニ可有之候而シテ同港ハ函館薩哈連島ノ中間ニ有之函館トノ距離二百二十一海里ニ候間現今ノ場合ニ於テ同港ヨリ同島ニ航セントスル者ハ一旦函館ニ廻航シ復タ北向シテ還駛シ往復ニ於テ四百四十海里ヲ迂航スル儀ニ候函館ヨリ年々薩哈連島ニ航行ノ船舶ハ五六十艘ニテ船形ハ西洋形大和形相半ハシ容三四十噸乃至百噸未滿ノ帆走船ニシテ大抵五六月ノ間ニ出帆シ八九月ノ頃歸航致シ候斯ノ如ク小形ノ帆走船ヲ以テ四五ヶ月ノ間ニ風浪險惡ノ北海ニ於テ漁業ト往復ノ航海ヲ爲ス儀ニ候處小樽港人民ノ此間ニ於テ尙函館ヘ同航ヲナシ而シテ漁業ノ期ニ遅レサラントスルハ頗ル困難事ニ相違無之ト相考候今若シ小樽港ヲ開放相成候ハ、右ノ困難ヲ拯フノミナラス當時ハ日本郵船會社ノ神戸、橫濱、函館間ノ定期郵船ノ航路ハ小樽迄延長致シ居候間薩哈連島ヨリ搭載ノ貨物ヲ小樽ヘ輸入シ該港ニ於テ直チニ之レヲ定期船ニ轉載シテ内地ニ漕送スルヲ得商機ヲ失スルノ憂ナク腐耗ノ損ヲ減スルヲ得惟小樽人民ノミナラス渾ヘテ薩哈連島漁業ニ關

係スル人民ノ便利ニ有之候尤モ費用ノ如キハ既ニ特別輸出ノタメ税關出張所ノ設有之候間更ニ支出ヲ要スルニ及ハス候右ハ此程小樽郡長來港ノ節親シク談示ノ趣モ有之候間此段聊卑見ヲ陳述候也

主税局長宛

税關長

四月二十八日臘虎並臘肭獸獵ニ關スル意見ヲ上申ス

參照

臘虎臘肭獸獵ノ儀ニ付テハ先年來政府ニ於テ追々施設セル、處有之候處兎角密獵船ハ横行ヲ極メ猶近來外國獵船ノ渡來著シク増加シ殊ニ米國其他ヨリハ一船隊ヲ嚮シ我領海ニ向テ遠征ヲ企テシモノアリトノ風説モ有之候凡ソ海獸ノ生育ハ限リアルヘク候ニ如此四方ヨリ簇集シ爭テ抄掠ヲ逞フシ候テハ數年ヲ出テスシテ其ノ類減候ハ顯然ニテ所詮渠等ハ獵サスンハ止マサルモノニ候願ニ明治十七年政府カ布告第十六號ヲ以テ北海道ニ於テ臘虎並臘肭獸ノ獵獲ヲ禁シ尋テ十九年勅令第八十號ヲ以テ其臘獲ニ付特許ノ件及其生肉輸入販賣規則ヲ定メラレ候目ノハ濫獵ヲ禁シ蕃殖ヲ計ルノ傍ラ或ル者ニ特許ヲ與ヘテ以テ外國船ノ密獵ヲ排逐セントセシニ可有之ト相考候而テ今日布告第十六號ノ但書ニ由リ特許ヲ有スル唯一ノ帝國水產株式會社カ果シテ幾許カ右目的ヲ達シ居ルヤニ考ルニ嘗テ該社獵船々員ノ報告ヲ看候ヘハ外國獵船ハ該社ノ船ニ先テ獵業ヲ爲シ恰モ社船ハ外船ノ跡ヲ追フテ巡獵セシ如ク偶マ邂逅候モ彼レ敢テ逃避スルノ色ナク其獵獲ノ場所航海ノ模様等ヲ問フモ茫然タル答ヲ爲セシ趣ニ候間彼等眼中ニハ會社ノ有無ヲ認メサル程ノ儀ト相見ヘ候斯ノ如キ始末ニテハ到底外國船驅斥ノ効ヲ見ンコト覺東ナシト相考候近ク昨年ノ實驗ニ就テ之ヲ視ルニ同年間ニ水產會社ノ獵獲セシ處ハ臘虎五十四頭臘肭獸三頭而シテ本港ニ入港セシ外國船ハ外國獵船ノ一部分ニ可有之候ヘ共其載スル處合計臘肭獸皮三千四百七十枚ニ有之候亦以テ如何ニ外國船カ獵利ヲ斷スルカノ一斑ヲ窺フニ足ルト存候切言候ヘハ今日ノ有様タル法令ハ一般ノ人民ニ禁獵ヲ命シテ蕃殖ヲ計リ而シテ外國船ハ法令アルカ爲ニ獨

リ密獵ヲ擅マニスルヲ得ルト言フモ過言ニ無之ト相考候故ニ内外ニ對シテ伴シク取締ヲ嚴重ニセサル以上ハ獸類ノ盡キサルニ及ンテ寧ロ内外人民ニ對スル法禁ヲ解キ彼等ト自由競争セシムルニ如カスト相考候乍併這ハ極端ノ議ニシテ固ヨリ實行ヲ望ム所ニ無之何卒政府ニテ今一層嚴勵ナル取締手段ヲ施行シ彼等ヲシテ遂ニ望ヲ我領海ニ絶ツニ至ラシメンコト切ニ望ム所ニ候外國獵船ノ屢々岩手縣下及厚岸邊ノ不開港ニ出入候ハ甲處ヨリ乙處マテ通航ノ途中ニ於テ船用品ノ缺亡ニ遭ヒシタメ無餘儀爲スニ非スシテ漁獵ノ都合ニ依リ或ハ洋中ニ出テ或ハ海岸ニ寄セ其ノ去テ又來ルハ實ニ不開港ヲ以テ船用品積取所ト爲スニ外ナラス候是亦タ最モ不都合ニシテ宜シク嚴重ノ措置ヲ施スヘキ一端ト存候

水產會社々員ノ談話ニ據ルニ臘肭獸ハ夏季ノ間千島ノ「ライコケ」島及薩哈連島近隣ナル「ロ一ブエン」島近海ニ棲息シ該島陸上ニ於テ兒ヲ産ス十月ニ至リ千島ノ寒候ニ入ル頃東海岸ノ噴火灣ヲ經テ金華山沖合ニ來ル翌年春季温潮ニ從ヒ漸次復タ千島ヘ北上候モノ、ヨシ昨今外國船ノ東海岸ニ出沒候ハ之ヲ途ニ要撃スル爲メニテ是レカ爲メ水產會社ノ千島ニ於ケル臘肭獸獵ハ近年不獵ノ結果ヲ免レスト

儲又外國船ニ雇使セラル、日本人ハ大ニ不開港ニ入港ノ媒助ヲ爲スモノニ有之隨テ後來密商ノ弊モ之レヨリ啓導セラルヘク相考候嘗テ外國獵船ヘ本邦人ヲ雇ヒ入レシメサル儀ニ付テハ外務大臣ヨリ外國公使ヘ照會有之公使ヨリハ領事ヘ内訓ヲ傳ヘ又外務大臣ヨリ神奈川縣知事ヘ訓示セラレシ處有之趣仄ニ聞及ヒ候處當地方官ニハ同大臣ヨリ別段訓示無之趣果シテ然ラハ更ニ各港一樣ニ御内訓有之度存候又右雇入禁止ノ一條ハ單ニ日本ノ地ニ於テ雇入ヲ禁スルニ止マルヤノ趣右ニテハ未タ隔靴ノ憾有之候既ニ頃日ビクトリヤヨリ當港ヘ入港セル英國獵船シテイ、ヲフ、サンデイアゴ號二、三名ノ日本人有之候處是等ハビクトリヤニテ雇入シ趣申立候ニ付英領事モ其儘ニ爲シ置キ候由右ハ事實ニ可有之候ヘ共畢竟外國獵船ニ日本人ノ乘組有之候ハ弊害ノ基ナルノミナラス狡猾ナル船長ハ竊ニ日本内地ニテ雇入レシヲ海外ニ於テ爲セシト偽告シテ目的ヲ達スルモノアルモ知レスト存候間尙一步ヲ進ミ外國ニ於テ雇入レシモノモ解雇セシムル様取極メ有之度ト相考候要スルニ此ノ天賦ノ國有海產ヲ保護シテ永ク無盡藏ナラシムルモ將タ

數年ノ内ニ遺類ナカラシムルモ目下ノ措置奈何ニ有之儀ト相考候且日常密獵船ノ開港ニ出入ヲ目撃候ハ恰モ偷兒ノ我門戸ヲ出入スルノ感アリ候ニ付事稍稅務外ニ涉リ候得共聊卑見ヲ上申候也

稅 關 長

大 臣 宛

五月九日領事ノ在留セサル諸國ニ輸入スルモノハ輸出醬油造石稅ノ返戻ヲ受クルヲ得サル旨達セラ

ル
七月六日帝國領事ノ在留セサル諸國ニ輸出シタル醬油等ハ戻稅ヲ受クルヲ得サル旨指令シタルモ右ハ輸入港最近地方ニ在留スル領事ノ檢印ヲ受ケタル證憑書類アルモノハ戻稅ヲ請フヲ得ル義ト心得ヘキ旨ヲ達セラ

ル
八月四日醬油戻稅等ノ證明書類ニ要スル檢印ハ領事ニ限ラス貿易事務官ニテモ差支ナキコトニ省議決定ノ旨通知セラ

ル
九月二十六日印度貨制改正ニ付同國ヨリ輸入スル從價稅品ハ來ル十月一日ヨリ其元價「ルービー」ヲ英貨十六「ペンス」ノ割合ヲ以テ本邦銀貨ニ換算シ徵稅スヘキ旨ヲ達セラ

ル
十月三十日勅令第三百三十八號ヲ以テ稅關官制ヲ公布セラ

ル
○同月同日勅令第三百三十九號ヲ以テ小樽函館稅關出張所及釧路函館稅關出張所ヲ設置セラ

ル
十一月十日稅關分課規程ヲ定メ

明治二十七年

三月六日來ル四月一日ヨリ澳國ヨリ輸入ノ物品ニシテ若シ「フロリン」銀貨ヲ以テ記載シタル仕入書ヲ本關ヘ差出ス場合ニ於テハ同國新貨幣法令第十條ニヨリ「ドルデン」即チ「フロリン」ハ「ク

ロー子」ノ割合ヲ以テ之ヲ金貨ニ換算シ而シテ本省告示ノ貨幣比較表ニヨリ更ニ銀貨ニ換算徵稅スヘキ旨達セラ

ル
四月三十日小樽出張所敷地トシテ高島郡南濱町海岸埋立地百五十二坪二合五勺ヲ北海道廳ヨリ領收ス

五月十五日日本關稅關監吏補制服給與規則ヲ定ム

參 照

函館稅關監吏補制服給與規則

第一條 制服ハ代金ヲ以テ給與ス但シ其品質ハ庶務課長及監視部長ノ檢定ヲ經ヘシ

第二條 制服使用期限ハ一ケ年トス

第三條 制服代金ハ一人ニ付一ケ年參拾圓トシ一ケ月貳圓五拾錢ツ、支給シ任免ノ月ハ日割ヲ以テ支給スヘシ

第四條 制服ノ調製ハ夏服ハ六月一日冬服ハ十月一日ト定ム

第五條 制服調製ノ期日ニ至リ調製セサルモノハ庶務課長及監視部長之ヲ督促スヘシ而シテ尙ホ之ヲ怠ル者ハ之ヲ稅關長ニ具狀シテ處分ヲ請フヘシ

第六條 制服調製ノ期日ニ至リ舊服ノ尙ホ一ケ年使用シ得ヘキモノハ庶務課長及監視部長檢査ノ上尙一期間着用スルヲ得セシムヘシ

第七條 明治二十三年六月制定ノ制服給與規則ヲ廢止シ本月ヨリ本規則ヲ施行ス

○同月二十一日法律第一號ヲ以テ室蘭港ヲ特別輸出港ト定メラレ第二號ヲ以テ小樽港ニ於テ露領沿海州薩哈連島及朝鮮貿易ニ關スル帝國臣民所有ノ船舶ノ出入及貨物ノ積卸ヲ爲スヲ許サル
六月十五日室蘭郡海岸町番外地ニ民屋ヲ借り室蘭出張所ヲ開應ス○同月二十九日本關定員中稅關屬壹名稅關監吏補壹名ヲ増加セラ

七月二十二日釧路出張所ニ兼務税關屬ヲ置キ郡書記ヲシテ兼務セシメ輸出アルニ臨ンテ本關ヨリ官吏ヲ派出スルコトヲ認可セラレ本日釧路出張所應舎ヲ郡役所内ニ移ス
九月十九日内地回漕ノ便利ヲ得セシムル爲メ當分ノ内海運營業者ニシテ外國船ヲ雇入レ内地諸港間ニ貨物ヲ回漕セント欲スルモノハ願書ヲ大藏大臣ニ提出スルハ詮議ノ上六ヶ月以内ヲ標準トシテ之ヲ特許シ特許證ヲ附與セラルヘキヲ以テ適宜其取締ヲナスヘキ旨ヲ達セラル

參照

- 第一 雇主ハ雇外國船航行中該船ニ乗込ムヘシ但シ雇主自ラ乗込ム能ハサルハ代人ヲシテ乗込マシムヘシ
- 第二 雇主特許ヲ得タル後始メテ其雇外國船ヲ回漕事業ニ使用セントスル時ハ開港ニ於テ税關官吏ノ船内檢査ヲ請ヒ雇外國船貨物回漕特許證ニ檢査濟ノ證明ヲ受クヘシ
特許期限滿ツルカ若クハ特許期限中外國船ノ解雇ヲ爲ストキ亦前項ニ同シ
- 第三 雇外國船開港又ハ税關出張所ヲ設置シタル港ニ入港スルトキハ其雇主ハ入港ノ時ヨリ二十四時内ニ税關又ハ税關出張所ニ書面ヲ以テ其旨ヲ届出ヘシ
前項ノ船泊出港セントスルハ其出港ノ時ヨリ四時前ニ届出ヘシ
- 第四 雇主ハ税關官吏又ハ地方官吏ノ要求ニ應シ何時ニテモ其船舶ノ積荷及雇外國船貨物回漕特許證ヲ提示シ又其質問ニ應答スヘシ
- 第五 税關ニ於テ必要ト認ムル時ハ本船ニ官吏ヲ乘監セシムルコトアルヘシ
- 第六 雇主ハ其雇外國船ヲシテ貨物ヲ回漕スル港ニ於テ船舶ニ對スル規則ヲ遵守セシムヘシ
- 第七 雇主ハ其雇外國船ヲ特許外ノ港ニ航行セシムヘカラス
- 第八 特許期限滿ツルカ若クハ特許期限中外國船ヲ解雇スルトキハ直ニ其雇外國船貨物回漕特許證ヲ返納スヘシ
(書式略ス)

十月十一日印度國ヨリ輸入スル從價税品ニ對シ徵稅ノ際其原價換算方ハ本年十一月一日ヨリ十二月三十一日マテハ壹「ルービー」ニ付本邦銀貨五拾壹錢四厘ノ比較ヲ以テ徵稅シ爾後ハ當省告示ノ外國貨幣日本銀貨比較表ニ掲クル壹「ルービー」ノ價格ヲ以テ換算スヘキ旨達セラル
十二月七日本關所屬船見町四十七番地ノ内參百八拾壹坪四合七勺同四十八番地ノ内貳百五拾六坪壹合六勺同四十九番地百九拾四坪五合九勺及天神町八十八番地ノ乙百五拾五坪壹合五勺船見町四十七番地應舎壹棟物置壹棟門衛所壹棟ヲ學校用トシテ函館區役所ヘ引渡セリ

明治二十八年

一月十九日占領地航行商賈取締規則ヲ定メラル因テ該地通航ノ特許ヲ得タル商船出入ニ際シテハ右規則ニ依リ取締ルヘキ旨ヲ達セラル
二月四日輸入從價税品中原價「ペセタ」ヲ以テ申告シタル物品ニ對シテハ本年四月一日ヨリ當省告示ノ外國貨幣日本銀貨比較表ニ掲クル「ペセタ」ノ價格ヲ以テ換算スヘキ旨達セラル
三月一日本關及本關出張所ニ輸出入品課稅原簿ヲ設備スヘキ旨ヲ達セラル○同月二十五日露領薩哈噠島貿易ニ從事スル條約國ノ船舶ニ搭載ノ輸出入貨物ハ内國貨物同様徵稅セサル旨ヲ達セラル○同月小樽出張所應舎新築及地所埋立等ニ關シ意見ヲ上陳ス

參照

小樽出張所ハ偏隅ノ位置ニ在リ露領ヘ出入ノ荷物ハ出張所ヲ距ル凡ソ拾四五丁ノ波止場ヨリ揚卸スルヲ以テ荷物ノ檢査取締上ニ於テ官民ノ不便一方ナラス殊ニ現今出張所ハ北海道廳所屬ノ建物ニシテ廿八年度限り同廳ヘ返納スヘキ約束アリ故ニ之ニ代フルニ應舎ヲ新營スルカ或ハ相當ノ民家ヲ借入ル、カ兩者其一ヲ擇ハサル可カラス然ルニ小樽ハ新開草創ナルヲ以テ沿岸相當ノ場所ニ於テ家屋ヲ借入ルコト到底出來得ヘカラス然ルニ幸ニシテ前陳波戶場ニ密接シテ百

五拾坪餘ノ稅關用地アルヲ以テ此ニ相當ノ廳舎ヲ新築シ出張所ト相定ムルノ外無之候
 小樽港昨二十七年海外通航船ハ入港三拾三艘出港二拾八艘ニシテ内露領沿海州及薩哈噠島貿易
 ニ係ルモノ入港拾二艘出六艘トシ(露領貿易ハ同年八月ヨリ開始)其他ハ特別輸出港ニ係ル船
 船ノ出入艘數トス蓋シ北海道沿海ノ漁業ハ近年汽船往來ノ頻繁ナルト其他種々ノ原因ニ依リ群
 魚ノ來集次第ニ減シ逐年薄漁ニ趣クノ傾向アルヲ以テ到底遠洋若クハ他邦沿海ニ向テ漁業ヲ企
 テサルヲ得サルヘシトハ一般水産家ノ定説タルニ似タリ而シテ小樽ノ位置タル露領沿海州若クハ
 薩哈噠島ニ航通スルニ最モ便利ナルヲ以テ漁業ノ爲メ出入スル船舶ノ年々増加スルニ至ルハ信
 シテ疑ハサル所ナリ又一面ニハ特別輸出品タル石炭ノ産額モ年々増加スルヲ以テ其輸出モ大ニ
 望ヲ屬スヘシト云フ然リ而シテ小樽其他ノ實況如何ヲ顧ミレハ長足ノ進歩ヲ爲スト實ニ驚クニ堪
 ヘタリト雖モ只其之ニ關連スル北海道全體ノ拓殖未タ半ナラス人烟未タ密ナラス製造品ニ農産
 品ニ一モ發達ヲ爲シタルモノナシ海外貿易ニ關シ需用供給兩ナカラ其品ニ乏シキハ固ヨリ故ナ
 キニアラス故ニ他日露貿易ノ關係ニ一變動ヲ生スルニ至ル迄ノ間ハ小樽港ハ特別輸出船ト漁
 業船ノ往來増加スルニ止マリ海外貿易全般ノ發達ヲ見ルハ尙ホ幾多ノ歲月ヲ要スルニ似タリ
 抑モ小樽ノ港灣タルヤ暴風怒濤頻リニ起リ沿岸石垣ノ如キモ屢々修メテ屢々壞ルハニ至ルハ當
 局者ノ大ニ苦慮スル所ナリト云フ故ニ現今稅關用地ニ突出シテ新タニ若干ノ水面ヲ理立ツル
 ハ目下官民ノ計畫シツ、アル所ノ港灣築堤ノ竣功ヲ告クルノ後ニアラサレハ到底其安全ヲ保ス
 ル能ハス

以上陳述セシ如ク同港海外貿易ノ景况彼ノ如ク港灣ノ形勢此ノ如シ而シテ現今ノ用地ノミニテ事
 務上不足ヲ告クルノ日ハ前途尙ホ頗ル遠キニ在リト信スルヲ以テ理立事業ノ議ハ暫ク他日ニ讓
 リ差向キ現在ノ地面ニ相應ノ廳舎ヲ建築スル爲メ廿九年度豫算ニ右新營費編入ノ儀希望スル所
 ニ候

明治二十八年三月

大藏次官 田尻稻次郎殿

函館稅關長 野田鷹雄

四月二十三日占領地航行商賈取締規則ヲ改正セラル
 五月二十九日函館天神町本關付屬地百八十一坪五合(間口拾壹間)將來本關ニ於テ必要ノ節何時タリ
 トモ復舊ノ條件ヲ以テ函館郵便電信局ヘ引渡ヲ了ス

參照

函館稅關

其關所屬函館區天神町七十四番地ノ内百八十壹坪五合今般遞信大臣ノ請求ニ依リ同省用地ニ使
 用移轉ノ件内務大臣ヘ協議濟ニ付右地所遞信省所管函館郵便電信局ヘ引渡方取計之ニ對スル受
 領證寫添其旨届出ヘシ
 但本文地所將來其關ニ於テ必要ノ節ハ何時ニテモ復舊ノ義遞信大臣ヘ協議濟ニ付此旨心得ヘ
 シ

明治二十八年五月二十一日

大藏大臣 伯爵 松方 正義

六月十五日戰沒敵國軍艦ノ銃砲機器其他諸種ノ物品ヲ人民ニ於テ採集シタル後其筋ヨリ本人ニ付與
 セラレタル物品等ヲ搬入スルトキハ輸入稅ヲ徵收スヘキ旨達セラル
 九月十四日日本關監吏補定員貳名本月十六日ヨリ減員ノ旨達セラル○同月二十六日日本邦產ノ絹布ヲ歐
 洲ヘ輸送シ歐洲ニ於テ之ヲ或ル模様ニ染メ上ケ再ヒ本邦ニ於テ之ニ加工シ手巾ニ製シテ更ニ外國ニ
 輸出セントスルモノアリ右再輸入ノ絹布ハ稅關規則第十六條ニ依リ免稅ノ限ニアラサル旨達セラ
 ル

十月三日外國通航船ヲ以テ内地ト臺灣トノ間ニ輸送スル貨物ニ對スル取扱方ヲ定メラル
 參照

第一 其港ヨリ帝國稅關ノ設アル臺灣島諸港ヘ輸送シ又ハ帝國稅關ノ設アル臺灣島諸港ヨリ其
 港ニ輸送シ來ル貨物ハ貨主内國人ナルトキハ稅關規則第二十五條第二十六條第二十七條

第二十八條及第二十九條ノ規定ニ貨主外國人ナルトキハ日澳條約第十一條ノ規定ニ照準シ總テ内地開港間貨物回漕同様取扱フヘシ

第二 帝國稅關ノ設アル臺灣島諸港ヨリ其港ニ輸送シ來ル貨物ハ稅關長ニ對シ臺灣島諸港ヨリ輸送セシモノナルコトヲ證明シタルモノニ限り前項同様取扱フヘシ

明治二十九年

二月二十日稅關事務監查規程ヲ達セララル

三月四日占領地航行商船商賈取締規則ヲ廢止セララル○同月九日雇外國船ヲ以テ内地諸港間貨物回漕特許ノ件本年二月限り廢止ノ旨達セララル○同月十六日收入官吏帳簿金櫃ノ檢査ニ係ル檢査員ノ任命ヲ稅關長ニ委任セララル○同月二十九日法律第五十七號ヲ以テ棉花輸入稅ヲ免除セララル○同月同日法律第五十八號ヲ以テ羊毛ノ輸入稅ヲ免除セララル

六月九日稅關分課規程ヲ改正セララル

九月二十四日小樽南濱町ニ新築工事中ノ小樽出張所廳舎及上屋落成ス工費壹千貳百四拾五圓參拾六錢四厘ナリ○同月二十五日新築廳舎ニ移轉ス

十月六日舊小樽出張所廳舎ヲ北海道廳ニ還付ス

十一月七日官吏死亡賜金及官吏退官一時賜金ノ給與ハ本關限り決行スヘキ旨達セララル

十二月二十二日臨時開港特許手數料第五項中ノ時限ヲ改正セラレタルヲ以テ日出時刻ハ明治二十五年十月第一七九六號達ノ貨物積卸特許ニ關スル日出沒豫定時刻表ニ依ルヘキ旨達セララル

此年郵便船取扱手續ヲ定ム

參照

郵便船取扱手續

- 一 郵便船入港セハ監視部ハ通常ノ船舶入港ノ取扱ニ毫モ異ナリタルヲナシト雖モ實際封印ヲ施シ難キ場合ハ船口ヲ封鎖セサルコトアルヘシ
- 一 郵便船入出港手數ヲ同時ニ爲サントスルトキハ檢査課ハ稅關規則第五條ニ憑リ又積荷目錄ニ關シテハ同規則第六條ノ通り取扱フヘシ
- 一 海外へ貨物ヲ輸出セントシ又ハ内國諸港へ回漕セントシ願書ヲ差出サハ檢査課、鑑定課、倉庫課ハ通常ノ海外通航船同様取扱フヘシト雖モ郵便船ハ同時ニ入出港ヲ爲シ船籍證書等ヲ預リ置カサルヲ以テ何時ニテモ出帆シ得ルモノナレハ貨物ニ對シ稅金假預リノ爲メ副書ヲ徵收課ニ送ル
- 一 徵收課ハ檢査課ヨリ送リタル副書ニ憑リ稅金假預リノ手續ヲ爲シ取扱濟ノ上ハ副書ヲ檢査課ニ返ス
- 一 貨物ニ積殘等有之場合ハ監視部ノ裏書ニ憑リ檢査課ハ徵收課ヨリ返シタル副書ヲ訂正シ願書モ同様訂正シテ更ニ之ヲ徵收課ニ送ル徵收課ハ這ニ於テ本稅徵收ノ手續ヲ爲スコト通常ノ取扱ニ同シ
- 一 開通關手數料ハ通常ノ海外通航船同様取立ツヘキモノトス
- 一 郵便船取扱手續追加
- 一 郵船ハ同時ニ出入港ノ手數ヲ爲シ何時ニテモ出港シ得ルモノナレハ貨物ニ對シ預稅ヲ爲スト同時ニ倉庫課ハ船積免狀徵收課ハ輸出免狀ヲ貨主ニ附與スヘシ右兩課ニ於テ免狀ヲ附與シタル時ヲ以テ手數料濟ノ期トス
- 一 貨主輸出免狀及船積免狀面ノ高ヨリ積殘リ不足ヲ生スルトキハ上監ノ監吏補ハ其不足ノ箇數ヲ兩免狀ニ裏書スヘシ尤モ權太貿易ニ從事スル船舶ニシテ監吏補ヲ上監セシメサル場合ハ貨物積卸ノ員數ハ貨主ノ申立ニ據ル
- 一 檢査、徵收、監視ノ二課一部ハ開關中(前十時ヨリ後四時マテ)ニ郵船ニ關スル書類ノ整理ヲ爲シ能ハサル時ハ開關ヲ願ハシムルニ及ハス翌日之ヲ整理スヘシ
- 一 右郵船浦潮斯德或ハ其他外國諸港ヨリ貨物ヲ搭載シ來リ該貨物ヲ船卸セス其儘權太島へ航

行スル場合ハ無論入出港手数料取立ツルト雖モ外國通航船ノ資格ニテ外國貨物ヲ搭載セス
入津シタル場合ニハ入港手数料ヲ納メ樺太貿易ニ從事致シ度旨願出ルニ於テハ左ノ願書ヲ
差出サセ船内検査ノ上普通樺太貿易ニ從事スル船舶ノ取扱ヲナスヘシ

明治三十年

三月二十六日法律第十四號ヲ以テ關稅定率法ヲ公布セラル(三十二年一月一日ヨリ施行) ○同月同日法律第十五號ヲ
以テ保稅倉庫法ヲ公布セラル(七月一日ヨリ施行)

四月六日勅令第七十七號ヲ以テ明治二十六年勅令第九十一號(稅關監吏及監吏補認用令) 第一條第二條ヲ改正ス

○同月二十一日大藏省官制改正ヲ公布セラル ○同月二十二日法律第四十八號ヲ以テ生絲直輸出獎勵
法ヲ公布セラル(三十一年四月一日ヨリ三十六年三月三十一日マテ五箇年間施行) ○同月二十三日各開港間ニ往來スル外國人所屬ノ小船取

扱方ニ付テハ各關區々ニ涉レルヲ以テ自今ハ外國ニ向ケ出港シ又ハ外國ヨリ入港シタル場合ノ外出

入港手数料ヲ徵收セサル旨達セラル ○同月二十七日大本營ノ許可ヲ得威海衛ニ沈没シタル清國軍艦

引揚人ニ於テ引揚タル物件ニシテ未タ人民ノ所有ニ歸セサルモノハ其輸入ノ際引揚品タルノ證書

類ヲ提出スルトキハ課稅ニ及ハサル旨達セラル

五月十二日外國人所屬小船ノ範圍ハ船種ノ如何ヲ問ハス船籍證書ヲ受有セサルモノハ小船トシテ取

扱フヘキ旨達セラル

六月十七日勅令第二百二號ヲ以テ稅關官制ヲ改正セラル ○同月同日勅令第二百五號ヲ以テ稅關監視

官特別任用令ヲ公布セラル ○同月同日勅令第二百六號ヲ以テ明治二十六年勅令第三百三十九號中「出

張所」ヲ「支署」ニ「派出所」ヲ「監視署」ニ改メラル ○同月二十一日外國軍艦ヘ交代水夫竝ニ軍器等輸

送ノ目的ヲ以テ外國政府ノ備入レタル船舶ハ軍艦付屬船ト見做シ入出港手数料ヲ免除スル旨達セラ

ル ○同月二十二日勅令第二百三十二號ヲ以テ稅關監視官服制ヲ定メラル ○同月二十三日大藏省令第十

九號ヲ以テ保稅倉庫法施行細則ヲ定メラル ○同月二十四日保稅倉庫法及同細則施行ニ付心得方ヲ達
セラル

參照

保稅倉庫法及同細則施行ニ付テハ左ノ通心得ヘシ此旨相達ス

保稅倉庫法施行細則第七條ノ回送願書式通ヲ受領スルトキハ其壹通ハ留メ置キ他ノ壹通ハ之
ヲ仕向地ノ稅關又ハ稅關支署ニ送付スヘシ

細則第二十一條第一項ノ届出アリタル預證券ヲ持參スル者アルトキハ届出人ニ通知スヘシ

左ノ場合ニ於テハ其都度關係書類ヲ添ヘ申報スヘシ

一 細則第二十六條第一項ノ届出アリタルトキ

一 同條第二項ノ供託物受戻ノ證明ヲナシタルトキ

一 私設保稅倉庫ノ改築、構造變更若クハ其増減ヲ認許シタルトキ

一 前項ニ依リ担保金額ヲ増減シタルトキ

一 細則第三十三條ノ營業廢止ノ届出アリタルトキ

左ノ場合ニ於テハ直ニ電報ヲ以テ申報シ尙ホ詳細書面ヲ以テ申出ヘシ

一 庫主死亡スルカ若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

一 保稅倉庫法第三十條ノ場合アリタルトキ

官設保稅倉庫ニ供スル倉庫ノ位置、構造、棟數、坪數ヲ詳記シ其圖面ヲ添ヘ主稅局ヘ報告ス

ヘシ其變更アリタルトキ亦同シ

保稅倉庫藏置貨物ノ出入ハ官私設ヲ別チ別紙甲乙兩號書式ノ通一ヶ月毎トニ取調翌月初旬主
稅局ヘ報告スヘシ

官設保稅倉庫敷料定率表ニ掲ケサル物品ニシテ表中類似物品ノ定率ヲ準用シタルトキハ其品
名、準用ノ定率及理由ヲ詳記シ其都度主稅局ヘ報告スヘシ

明治三十年六月二十四日

(書式畧ス)

○同月三十日遠洋漁業獎勵法施行細則發布ニ付遠洋漁業獎勵法施行ノ上ハ認許證書ヲ受有スル船舶ヨリ同細則第十條ニ依リ本關若クハ支署ヘ請求アルトキハ其發着ノ證明ヲ爲スヘキ旨達セララル○同月同日函館、新潟ヨリ浦鹽斯德及函館小樽ヨリ哥爾薩ニ至ル大阪府下大家七平ノ毎月一回定期航行スル内國船舶ニシテ郵便物ヲ搭載スルモノハ郵船ノ取扱ヲ爲スヘキ旨達セララル○同月同日稅關監吏監吏補試驗規則ヲ改正セラル
七月一日本關臨時勤勞手當支給規則ヲ定ム

參照

臨時勤勞手當支給規則

第一條 臨時勤勞手當ハ明治二十六年大藏省達第四百七十四號ノ臨時勤勞者每一時間手當金額表ニ照シ稅關官吏及稅關雇員、備員ノ臨時勤勞時間ニ應シテ之ヲ支給ス

稅關監吏補ニ對スル臨時勤勞手當ノ支給方ハ明治二十三年大藏省達第四百三十五號ニ依

第二條 臨時勤勞手當ノ支給ヲ受クヘキ者ハ左ノ各號ニ該當スルモノニ限ル

一 稅關官吏服務規程第四十五條及第四十七條ニ依リ臨時登關ヲ命セラレタル者

二 宿直ノ稅關監吏補ニシテ臨時船舶ニ上監シタル者

三 宿直ノ稅關小使及水夫

第三條 臨時勤勞手當ハ毎月始メニ於テ其前月ニ係ル分ヲ支給ス因テ該手當ヲ受ケントスル者

ハ課部ヲ經由シテ臨時出務調書及請求書ヲ提出スヘシ

前項臨時出務調書及請求書ノ書方ハ別紙様式ニ依ル

(様式略ス)

○同月同日當關監吏補賞罰規則施行内規ヲ定ム
參照

稅關監吏補賞罰規則施行内規

第一章 總則

第一條 凡ソ稅關監吏補ノ賞罰ハ本内規第二章ノ賞與例又ハ第三章ノ懲罰例ニ照依シ其範圍内

ニ於テ事實ノ輕重ヲ審按シテ稅關長其處分ヲ爲ス

第二條 前條ノ賞罰處分ニ付テハ其處分ヲ爲ス所以ノ理由ヲ記シタル辭令書ヲ本人ニ交付ス

第三條 監視部長ハ賞與例又ハ懲罰例ニ該當スル者アルトキハ其旨ヲ稅關長ニ内申ス

前項ノ内申書ニハ事實ノ顛末ヲ詳記シ及賞與例又ハ懲罰例ノ適用ヲ擬定スルノ外左ノ書類

ヲ添付スルコトヲ要ス

一 賞與例ニ該當スルトキハ本人ノ報告書又ハ事實取調書其他一切ノ關係書類

二 懲罰例ニ該當スルトキハ本人ノ手續書又ハ始末書

第四條 稅關長ハ事ノ賞與例又ハ懲罰例ニ該當セサルモ仍ホ比擬スルニ足ルヘシト考量スルト

キハ賞與例若ハ懲罰例ニ準シテ其處分ヲ爲スコトヲ得

第二章 賞與例

第五條 賞與ハ左ノ例ニ照シ第六條ノ賞與等級金額表ノ金額ヲ給ス

一 強暴ノ犯則者ニ對抗シテ職務ヲ完フシタルトキ 一等乃至三等

二 密商脫稅ニ係ル物品ニシテ輸入品ニ在テハ鑑定價格金五圓以上輸出品ニ在テハ鑑定價

格金拾圓以上ノ者ヲ輸入シ若ハ輸出セシコトヲ摘發シ又ハ該物品ヲ差押ヘタルトキ 一等乃至五等

三 前號ノ物品ニシテ輸入品ニ在テハ鑑定價格金五圓ニ上ラス輸出品ニ在テハ鑑定價格金

拾圓ニ上ラサルトキ 六等乃至九等

四 稅關法令ノ規定ニ違反シテ無稅物品ヲ私カニ輸入シ若ハ輸出センコトヲ摘發シ又ハ該

物品ヲ差押ヘタルトキ
 法令ノ規定ニ依リ輸入輸出ノ禁止ニ係ル物品ヲ密カニ輸入シ若ハ輸出シタルコトヲ摘
 發シ又ハ該物品ヲ差押ヘタルトキ
 三等乃至九等
 六等
 五
 稅關ノ管理ニ屬スル動産ヲ窃取シ若ハ窃取セントスル者ヲ取押ヘ又ハ稅關構内ノ倉庫
 上屋其他ノ建造物ニ火災アルヲ覺知シテ燒失ニ至ラシメサルトキ
 六等乃至十等
 七
 密カニ阿片ヲ輸入スルヲ摘發シ又ハ該物品ヲ差押ヘタルトキ其量一斤未滿ヲ五等トシ
 其以上一斤毎ニ一等ヲ加フ
 八
 同僚ニ助力シテ前各號ノ摘發若ハ差押ヲ有効ナラシメタルトキハ本人ニ一等ヲ減ス
 同僚ノ疾病其他ノ事故アルニ因リ非番ナルニ拘ハラヌ勤務ニ服シタルトキハ其事情ヲ
 酌量シ賞與ヲ行フコトアルヘシ但其金額ハ月俸三拾分ノ一ヲ打算シテ一日ニ充テ毎月
 五日分ヲ超ユルコトヲ得ス
 九
 前號ノ賞與ハ毎年七月及十二月ニ於テ之ヲ行フヲ例トス
 賞與等級金額表左ノ如シ

一 等	二 等	三 等	四 等	五 等
金 五 圓	金參圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金 貳 圓	金壹圓五拾錢
六 等	七 等	八 等	九 等	十 等
金 壹 圓	金八拾錢	金六拾錢	金四拾錢	金參拾錢

第七條 第三章 懲罰例
 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲アリタルトキハ譴責ニ付ス
 一 稅關官吏服務規程ニ反シテ所勞屆書ヲ提出セス若ハ登關時限ニ遅レテ登關シ又ハ病氣
 中規定ノ期間内ニ醫師ノ診斷書ヲ提出セサルトキ

第八條
 一 休憩時間中稅關監吏ノ認許ヲ經スシテ他行シ若ハ規定ノ時限ニ先チ退出シタルトキ
 二 稅關監吏タルノ證票ヲ携帯セスシテ任務ニ就キタルトキ
 三 船舶ノ監視又ハ水上陸地ノ巡察ヲ終リ歸關ノ後任務中ニ係ル事項ヲ監視部長又ハ稅關
 監吏ニ報告セサルトキ
 四 禮式服裝姿勢心得方ニ違反シタルトキ又ハ不體裁ノ行爲アリタルトキ
 五 左ノ各號ニ該當スル行爲アリタルトキハ罰俸ヲ科ス
 一 等乃至九等
 二 船舶ノ監視ヲ怠リ輸入輸出未済ノ貨物ヲ通過セシメタルトキ
 三 船舶ノ封緘若ハ其解除ヲ爲スニ方リ規定ノ時期ニ於テセス又ハ疎漏ノ封緘若ハ解除ヲ
 爲シタルトキ
 四 等乃至八等
 三 船舶監視中故ナク其船ヲ離レ又ハ陸地巡察ノ際迂路ヲ取り若ハ途次人家ニ立寄りタル
 トキ
 五 等
 四 輸入輸出禁止ニ係ル物品ノ通過スルヲ覺知セサルトキ
 六 等乃至十等
 五 稅關構内巡察ノ際倉庫上屋其他建造物ニ失火アルコトヲ覺知セサルトキ
 六 等
 六 船舶監視ノ任務ヲ終リ若ハ任務ニ就クノ際口授ヲ爲スヘキヲ爲サヌ又ハ書類ノ受授ヲ
 爲スヘキヲ爲サヌ爲メニ事務ノ澹滞ヲ來タシ又ハ來サシタルトキ
 六 等乃至九等
 七 船舶監視中適當ノ位置ニ居ラス又ハ横臥シ若ハ睡眠シタルトキ
 六 等乃至十等
 八 船舶監視中書類ヲ閱覽シタルトキ
 十 等
 九 陸地巡察又ハ日没後ノ水上巡察ノ任務ニ服スルニ方リ故ナク事故記ニ署名捺印セサル
 トキ
 十 等
 十 公文書ヲ遺失シタルトキ
 十一 密ニ阿片ヲ輸入スルヲ覺知セサルトキハ其量半斤未滿ハ九等トシ其以上一斤毎ニ一
 等ヲ加フ
 阿片吸具ノ輸入ヲ覺知セサルトキハ九等トス
 前條罰俸ニ該ル金額ハ第九條ニ掲記スル各等金額表ニ照シテ計算ス

第九條

罰俸ニ該ル各等金額表左ノ如シ

- 一等 月俸一箇月分乃至百分ノ四十五
- 二等 月俸百分ノ四十乃至百分ノ三十二
- 三等 月俸百分ノ二十七乃至百分ノ二十三
- 四等 月俸百分ノ二十一乃至百分ノ十八
- 五等 月俸百分ノ十六乃至百分ノ十三
- 六等 月俸百分ノ十一乃至百分ノ九
- 七等 月俸百分ノ八乃至百分ノ六
- 八等 月俸百分ノ五乃至百分ノ四半
- 九等 月俸百分ノ三乃至百分ノ二半
- 十等 月俸百分ノ二乃至百分ノ一半

第十條

左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其職ヲ免ス

- 一 職務上屢次ノ過失アリテ上官ノ訓誨ヲ用キサルトキ
- 二 刑事被告人ト成リタルトキ
- 三 浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲シ又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

○同月同日本關官吏服務規程ヲ左ノ通定ム
參照

稅關官吏服務規程

第一章 總則

- 第一條 稅關官吏ノ勤務ハ特別ノ場合ヲ除ク外午前十時ニ始マリ午後四時ニ終ル
- 第二條 稅關監吏及稅關監吏補ノ勤務時間ニ付テハ本規程第二章ヲ適用ス
- 第三條 各官吏ハ稅關長又ハ特ニ監督ノ任アル官吏ノ許可ヲ得ルニ非サレハ就務時限ニ遲

第三條

レテ登關シ又ハ勤務時間内ニ在テ退出スルコトヲ得ス疾病其他ノ事故ニ因リ勤務ヲ缺クトキハ就務時限マテニ届書ヲ提出シ其缺勤日數七日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スルヲ要ス

第四條

各官吏登關シタルトキハ出勤簿ニ捺印シテ登關ノ旨ヲ表ス

第五條

稅關監吏及稅關監吏補ハ監視部長ノ定ムル順位ニ從ヒ當直及宿直ヲ爲ス

第六條

宿直ニ該ル者翌日退出ノ後ハ明番トシテ其日ノ勤務ヲ除カルヲ例トス

第七條

監視事務ニ服セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ翌日其旨監視部長ニ報告ス

第八條

監視部長ハ豫メ稅關監吏ノ水上及陸地巡察計畫ヲ爲シ各自任務ニ就クノ順位ヲ定

第九條

稅關監吏ノ水上及陸地巡視計畫ハ左ノ標準ニ依ル

第十條

稅關監吏及稅關監吏ノ職務履行ノ任アル稅關監吏補ノ當直及宿直ノ順位ハ當直ヲ先ニシ宿直ヲ後ニシ順次交代セシム

第十一條

ニ充ツ又陸地ノ巡視ハ日出ヨリ午前九時ニ至ルノ間宿直者ヲシテ之ヲ行ハシム
税關監吏補ノ船舶監視及水上陸地巡察計畫ハ左ノ標準ニ依ル

- 一 船舶ノ監視
船舶内ニ留リテ監視スルヲ上監ト稱ス上監ハ午前九時ヨリ始メ其日ノ日没ニ至リ翌日ハ日出ヨリ始メ其日ノ午前九時ニ至ル乃チ之ヲ三次ニ分チ第一次ハ午前九時ヨリ午後一時若ハ一時半ニ至リ第二次ハ午後一時若ハ一時半ヨリ日没ニ至リ第三次ハ翌日日出ヨリ午前九時ニ至ル
- 二 税關監吏補ノ當直及宿直ノ順位ハ當直ヲ先ニシテ宿直ヲ後ニシ順次交代セシム
- 三 上監ハ宿直者三名中一名ヲ船舶ノ封緘及其解除ノ事ニ當ラシメ剩ス所ノ二名ヲ以テ上監者トシ每次交代セシム上監ノ順位ハ上監點數ノ少キ者ヲ先ニシ其多キ者ヲ後ニス
- 四 上監スヘキ船舶二隻ナルトキハ當直者ヲ第一次ノ上監ニ充テ宿直者ヲ第二次以後ノ上監ニ充ツ其三隻ニ及フトキハ當直者一名ヲ第二次ノ上監ニ充ツ
- 五 上監スヘキ船舶四隻以上ニ及フトキ若ハ船舶ノ兩舷ヨリ貨物ヲ積卸スル等ニ因リ別ニ上監者ヲ要スルトキハ明番者ヲ以テ補充シ仍ホ足ラサルトキハ毎船上監ヲ繼續セシムルコトヲ得
- 六 凡テ船舶ニ對シテ上監者ノ順位ヲ定ムルニハ船舶ノ異ナルニ從ヒ上監者ヲ異ニスルヲ例トス但前ニ或船舶ニ上監セシムルノ順位ヲ定メ第三次ノ上監ハ第二次ノ上監者ヲ以テ之ニ充ツ
- 七 船舶ヨリ貨物ヲ積卸スコト日没後ニ及フ場合ニ於テ其日没後一時間ナルトキハ第二次ノ上監者ヲシテ其勤務ヲ繼續セシメ二時間以下ハ上監者一名トシ其以上ハ二名トス但二名ナルトキハ上監時間ヲ折半シテ交代勤務セシム
- 八 宿直者中船艙ノ封緘及其解除ノ事ニ當ル者ハ上監スヘキ船舶多數ニシテ別ニ

二 水上及陸地ノ巡察

九 上監者ノ補充ヲ要スル場合ヲ除ク外上監セシメサルヲ例トス
疾病其他ノ事故ニ因リ欲勤日數七日以上ニ及ヒ再ヒ勤務ニ就ク者ハ當時宿直ニ當ルモノ、最少上監點數ト同視シ上監ノ順位ヲ定ム

- 一 水上及陸地ノ巡察ハ船舶港内ニ在ル間ハ晝夜ヲ論セス概子二時間ヲ隔テ、水上陸地交互ニ之ヲ爲サシムルヲ例トス其順位ハ船舶一隻ナルトキハ午前九時ヨリ午後四時ニ至ル間ノ三回ハ當直者三名交代シテ之ニ當ラシメ午後四時ヨリ翌日午前九時ニ至ル間ノ九回ハ宿直者三名交代シテ之ニ當ラシム其二隻以上ニ及フトキハ船舶ノ上監ニ該ラサル者ニ就キ當直者ヲ先ニシ宿直者ヲ後ニシテ順次交代セシム
- 二 上監スヘキ船舶ノ港内ニ在ラサルトキハ三時間毎ニ水上巡察ヲ爲サシム但シ夜間ノ水上巡察ハ便宜省略スルコトヲ得
- 三 税關構内ハ水上巡察若ハ陸地巡察ヲ爲ス毎ニ巡視セシメ上監スヘキ船舶ナキ時ト雖モ必ス巡視セシム

第十二條

監視部長ハ毎月始ニ於テ税關監吏補ノ前月ニ於ケル上監點數ヲ調査シ其月ノ上監者ノ順位ヲ定ム

第十三條

凡テ税關監吏及税關監吏補ノ特別ノ場合ニ於ケル勤務時限ノ特免助勤及夜勤ノ類ハ別ニ其點數ヲ調査シ其點數ノ少キ者ヨリ特別ノ勤務ニ就カシムルノ順位ヲ定ム但既往ノ點數ナキ者ハ就職ノ前後ニ因リ其順位ヲ定ム

第三章 税關監吏

第十四條

税關監吏ハ監視部長ノ定ムル計畫ニ從ヒ税關監吏補ノ船舶監視水上陸地巡察及税關構内巡視ノ事ヲ指示シ及税關水夫ノ勤務ヲ指揮監督ス

第十五條

税關監吏ハ犯則事件ニ關スル税關監吏補ノ報告ニ接シタルトキハ其取調ヲ爲ス前項ノ犯則事件カ税關監吏補ノ船舶監視點若ハ陸地巡察地點ニ於テ起リタルトキハ直

ニ現場ニ出張シ犯則物件ヲ差押ヘ及証憑書類ヲ集取スル等努メテ証憑湮滅ノ虞ナカラシムルヲ要ス

第十六條 稅關監吏ハ沿海通航船ノ船長ヨリ提出スル申告書類ヲ受付シ及船長ヨリ預入タル登簿船免狀若ハ船鑑札ヲ保管ス

前項ノ船舶ニ付テ賣買讓與アルニ因リ船長ヨリ一時登簿船免狀若ハ船鑑札ノ下付ヲ許可スルコトヲ得

第十七條 稅關監吏ハ稅關監吏補カ其任務ヲ終リ歸關後任務中ニ係ル總テノ事項ヲ報告スルトキハ之ヲ日誌ニ記載ス若シ記載スヘキ事項ナキトキハ其旨ヲ記ス又其船舶上監中ニ船積若ハ船卸セシ貨物ノ細目ヲ記スル事故記ヲ提示シタルトキハ之ヲ積卸簿ニ記載シテ事務ノ參照ニ備フ

第十八條 稅關監吏ハ稅關監吏補ノ宿直又ハ船舶監視及水上陸地巡察時間ニ關スル一切ノ事項ヲ日記ニ記載ス

第十九條 稅關監吏ハ輸出入貨物ノ包裝内ニ輸出入禁止ニ係ル物件其他法令ノ規定ニ違反スル物品ヲ隱匿シタル疑アルモ自ラ手ヲ下シテ包裝ヲ開披スルコトヲ得ス貨主ヲシテ開披セシムルコトヲ要ス若シ之ヲ拒ムトキハ稅關ニ運致スヘキヲ命シ稅關長ノ指揮ヲ請フヘシ

第四章 稅關監吏補

第二十條 稅關監吏補ハ稅關監吏ノ指揮ニ從ヒ船舶ニ上リテ貨物ノ積卸ヲ監視シ及ヒ水上陸地ノ巡察又ハ稅關構内ノ巡視ヲ爲ス

第二十一條 稅關監吏補ハ公務上ニ付キ稅關監吏ヨリ職務執行ノ指示ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ執行スルノ責務アリ若シ其指示ニ對シテ意見アルトキハ職務執行後之ヲ陳述スルコトヲ得

第二十二條 稅關監吏補ハ當直ト宿直トヲ問ハス退出時限ニ至ルモ稅關監吏ノ認許ヲ得ルニ非サレハ退出スルコトヲ得ス

第二十三條 稅關監吏補ハ其勤務中稅關監吏タルノ証票ヲ携帯スルコトヲ要ス

第五章 船舶ノ監視

第二十四條 稅關監吏補ハ船舶ノ上監中常ニ甲板上適當ノ地位ニ在リテ貨物ノ積卸ヲ監視スルコトヲ要ス

第二十五條 稅關監吏補ハ船舶ノ上監中左ノ行爲アルコトヲ得ス

- 一 故ナク己シノ監視スル船舶ヲ離ルハコト
- 二 勤務上直接ノ關係ナキ書類ヲ閱覽スルコト
- 三 故ナク船舶内ノ房室ニ入りテ横臥シ若ハ睡眠スルコト
- 四 公務ニ因ルニ非スシテ船舶ノ職員若シ海員ト談話スルコト
- 五 甲板上ニ於テ飲食物ヲ喫シ又喫烟スルコト

第二十六條 稅關監吏補ハ第三次ノ上監者ニ於テ信號旗及事故記ヲ携帯シテ船舶ニ上リ交代スル毎ニ次ノ上監者ニ引繼キ第二次ノ上監者ニ至リ其任務ヲ終リタルトキ宿直ノ稅關監吏ニ還納スルコトヲ要ス

第二十七條 凡テ己レノ監視スル船舶ニ積卸スル貨物ニ付テハ處務細則ノ規定ニ照依スルノ外仍ホ左ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 貨物ノ船卸ニ付テハ稅關ヨリ貨主ニ交付シタル陸揚免狀面ノ記號及個數ニ照シテ其船卸ヲ許可シ該免狀ニ裏書シテ貨主ニ還付ス若シ貨物ノ個數夥ナルトキハ該免狀證ヲ預リ置キ船卸ノ都度其個數ヲ陸揚送狀ニ記載シテ自ラ捺印シ貨主ニ交付シテ貨物ト俱ニ陸揚セシメ其完結スルヲ俟テ例ニ照シ陸揚免狀ニ裏書シテ貨主ニ還付ス但船舶内仍ホ幾個ノ殘餘アルトキハ内譯ノ裏書ヲ爲ス其書式ハ第一號ニ依ル貨物ノ船積ニ付テハ稅關ヨリ貨主ニ交付シタル乙號ノ船積免狀ニ裏書シテ貨主ニ還付ス若シ船積ヲ要スル貨物ノ個數乙號船積免狀面ノ個數ヨリ多キトキハ其積入ヲ拒絶シ之ニ反シテ其少キトキハ内譯ノ裏書ヲ爲ス其書式ハ第二號ニ依ル
- 二 前號乙號船積免狀ニ對シテ船積貨物ノ個數少キ場合ニ於テ其種類數種ニ分ルトキ
- 三

ハ其名種ニ對シテ内譯ノ裏書ヲ爲ス其書式ハ第三號ニ依ル
前項ノ規定ニ依リ貨物ノ船積若ハ船卸ヲ許可スルノ際犯則ノ行爲アルコトヲ認知
シタルトキハ直ニ監視部長ニ報告ス

第二十八條 硫黃、石炭、若ハ滿庵礦ノ船積量數ノ裏書ニ付テハ前上監者ハ事故記ニ其量數ヲ
掲記シ第二次ノ上監者ハ其日ニ船積セシ量數乙號船積免狀ニ裏書ス

第二十九條 内外國戰艦ニ對シテハ處務細則第二章ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス但該戰艦ト
外國通航船又ハ外國船舶トノ間ニ貨物ヲ受授スルトキハ一般ノ規定ヲ適用ス因テ

船移證ヲ提出セサル貨物ニ付テハ其船移ヲ許可スルコトヲ得ス

第三十條 内外國公使及書記官並ニ其家族若ハ從者ニ屬スル旅具及家財類ノ輸入ニ付テハ別
段ノ例規ニ照依スルコトヲ要ス

第三十一條 船客携帶ノ旅具ハ總テ陸地ニ於テ之ヲ檢査スルコトヲ要ス若シ行旅ニ必要ナラサ
ル物品又ハ賣售ヲ要スト認ムル者アルトキハ處務細則第七十二條ニ照ラシテ成規ノ手
續ヲ爲サシム

第三十二條 外國通航船又ハ外國船舶内ニ要スル船用品ハ前項ニ準シテ適宜檢査スルコトヲ要ス
本關ノ特許ヲ得テ糧食其他ノ必需品ヲ販賣シ若ハ供給スルヲ除ク外外國通航船又

ハ外國船内ニ於テ物品ヲ販賣シ若ハ其供給ヲ爲スヲ許可スルコトヲ得ス

第三十三條 船舶ニ上監中ハ事故記ヲ携帶シテ其船舶ニ積入レ又ハ船卸スルコトヲ許可セシ貨
物ノ個數及其記號番號其他特ニ注意ヲ要スル事項ヲ掲記スルヲ要ス其交代シテ歸關ス
ルトキハ次ノ上監者ニ引繼キ第二次ノ上監者ヨリ當該稅關監吏ニ提出ス

第三十四條 稅關監吏補ハ船舶ノ上監ヲ終リ歸關シタルトキハ其上監中ニ係ル一切ノ事項ヲ宿
直ノ稅關監吏ニ報告ス

第三十五條 稅關監吏補ハ船舶ノ封緘及解除ニ付テハ左ノ事項ニ注意スルコトヲ要ス
一 船口ニ封緘ヲ施スノ際ハ立會ノ職員ニ對シテ疎虞怠慢等ニ因リ封緘ヲ毀損スルコ
トナキヲ要スル旨ヲ戒諭ス

二 其解除ヲ爲スノ際若シ封緘ノ破棄スル者アルトキハ處務細則第六章ノ規定ニ依リ
立會ノ職員ニ對シテ尋問ヲ爲ス

第六章 水上陸地巡察及稅關構内巡視

第三十六條 水上巡察及陸地巡察ハ監視ヲ要スル船舶港内ニ在ルノ間ハ晝夜ヲ論セス概子二時
間ヲ隔テ、水上陸地交互ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十七條 水上巡察ハ外國通航船及外國船ノ碇泊地ノ周圍ニ就キ及海岸ニ沿フテ之ヲ爲スコ
トヲ要ス

一 陸地巡察ハ東ハ中濱町ヨリ船場町ニ至リ西ハ西濱町ヨリ幸町ニ至ルマテヲ巡回線
路トス但晝間ノ巡察ハ辨天町ヲ經テ鱈澗町ニ及フコトアルヘシ

第三十八條 稅關構内ノ巡視ハ水上巡察又ハ陸地巡察ヲ終ル毎ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ巡視ハ監視ヲ要スル船舶港内ニ在ラサルトキト雖モ必ス之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十九條 稅關監吏補ハ陸地巡察ヲ爲スノ際濫リニ迂路ヲ取り又ハ人家ニ立寄ルコトヲ得ス
第四十條 稅關監吏補ハ水上若ハ陸地ノ巡察ヲ終リ歸關シタルトキハ其巡察中ニ係ル一切ノ
事項ヲ當該稅關監吏ニ報告ス

第四十一條 稅關監吏補ハ水上若クハ陸地ノ巡察ヲ爲スノ際輸出入貨物及沿岸回漕貨物ノ解舟
遭運又ハ其車馬ノ運搬ニ注意シ隨時其貨物ヲ點檢シテ密商稅稅ヲ防クコトヲ要ス

稅關構内ノ巡視ニ付テハ火災若ハ盜難ノ豫防ニ注意スルコトヲ要ス

第四十二條 稅關監吏補ハ水上巡察ノ際沿海通航船ノ港内ニ到ルトキハ直ニ該船舶ニ上リ尋問
ヲ爲ス又ハ陸地巡察ノ際船舶ノ港内ニ向ヒ進航スル者アルトキハ歸關ノ後其旨ヲ當該
稅關監吏ニ報告ス

第四十三條 稅關監吏補ハ陸地巡察ヲ爲シタルトキハ證票國內又ハ番號札内ノ事故記ニ署名捺
印シテ巡察執行ノ旨ヲ表ス

證票函ハ船場町中川水室幸町巡查休憩所及鱈澗町三十八番地ニ設備シ番號札ハ碇泊ノ
外國航行ノ内外國船舶ニ繫置ス

第七章 各課部特別ノ勤務

第四十四條 税關長ハ船舶ノ船長若ハ貨物ノ輸入者ニ於テ税關規則第九條及第四十八條ニ因リ臨時開關ノ特許又ハ貨物積卸ノ特許ヲ申請シタルトキハ税關官吏及税關雇員備員ニ臨時登關ヲ命ス

第四十四條ニ依ル 臨時登關ノ命ヲ受ケタル税關監吏及税關雇員備員ノ勤務時間ハ申請者ノ申請時限ニ依ル

第四十五條 前項勤務時間ハ宿直ニ該ル者ノ臨時勤務ニ付テモ亦之ヲ適用ス
各官吏ノ臨時登關ニ付キ官房及各課部ニ對スル人員ノ配當ハ左ノ標準ニ依ル

- 一 官房 屬一名
- 二 檢査課 同二名 以下
- 三 鑑定課 屬及鑑定吏ヲ通シテ五名以下
- 四 徵收課 屬三名 以下
- 五 庶務課 屬一名

臨時開關及貨物積卸特許ノ休日ナルトキ又ハ平日ニ於テ日没後日出前ニ係ルトキ

六 監視部

船舶二隻以上 二時間以下ナルトキ一隻毎ニ監吏補一名
二時間以上ナルトキ一隻毎ニ監吏補二名

第四十六條 庶務課長ハ第四十五條ノ場合ニ於テ税關小使ニ臨時登關ヲ命シ監視部長ハ税關水夫ニ臨時登關ヲ命ス其人員ハ左ノ標準ニ依ル

- 一 臨時開關特許ニ係ルトキ
- 一 庶務課附屬 小使 四名以下

臨時開關及貨物積卸特許ノ休日及平日日出前若ハ日没後ニ係ルトキ

一 監視部附屬

船舶三隻ナル時ハ水夫二名
同四隻以上ナルトキハ水夫四名

第四十七條 税關監吏ハ本章ノ規定ニ因リ臨時登關ヲ爲シタルトキハ特ニ設備スル出勤簿ニ捺印シテ登關ノ旨ヲ表ス

庶務課長ハ特ニ出勤簿ヲ設備シ第四十五條ノ出務者ヲシテ之ニ捺印シ登關ノ旨ヲ表セシム

同月五日大藏省令第十一號ヲ以テ明治廿三年大藏省令第二十二號税關及税關支署臨時開關及貨物積卸特許手数料ヲ改正セラル(八月一日ヨリ施行)○同月十六日勅令第二百四十號ヲ以テ税關支署及監視署設置ニ關スル明治二十六年勅令第三百三十九號中改正セラル(八月一日ヨリ施行)

備考

築地横濱税關監視署ノ次ニ左ノ七項ヲ加フ

(中略)

稚内函館税關監視署

北見國稚内

○同月三十日大藏省令第四十六號ヲ以テ税關經費ニ屬スル物件ノ借入又ハ不用物品賣却ニ關スル契約ハ税關長ニ於テ適宜締結スルヲ得ル旨定メラル

八月一日稚内税關監視署ノ廳舍用トシテ月額拾貳圓ヲ以テ民家ヲ借入ル○同月三十日稚内監視署事務章程ヲ定ム

參照

第一條 稚内監視署事務章程

稚内監視署ノ監視區域ハ北見國枝幸郡宗谷郡禮文島利尻島及天鹽國天鹽郡ノ沿岸トス

- 第二條 監視署在勤職員ノ勤務時限ハ日出ニ始リ日没ニ終ル但シ監視事務ニ付必要アルトキハ宿直ヲ爲スコトヲ要ス
- 第三條 外國通航船及外國船避難ノ爲メ稚内港内ニ入りタルトキハ直チニ該船舶ニ上リ尋問ヲ爲スヘシ
- 前項船舶ノ尋問ニ關スル事項ニ付テハ稅關處務細則第八條ノ規定ヲ準用ス
- 第四條 外國通航船及外國船港内ニ在ルノ間ハ水上及陸地巡察ヲ爲スヘシ
- 第五條 第三條船舶ノ船長ニ於テ糧食其他船内必需品ノ船積ヲ請フトキハ檢査ノ上之ヲ許可シ尙ホ右船積ニ對シテ免狀ヲ附與スルヲ要ス
- 第六條 凡テ犯則事件ニ付キ犯則者ノ尋問其他尋問調書ノ調製等ニ關シテハ稅關處務細則第五章ヲ適用ス
- 第七條 凡テ船舶ノ海難ニ遭遇シタル者アルトキ臨機ノ處分ヲ爲シ其顛末ヲ稅關長ニ報告ス
- 第八條 前條船舶ノ遭難中監視區域内ニ起リテ出張ノ上取締ヲ要スト認ムルトキハ復路程一日ヲ超エサル場所ニ限り直ニ出張スルコトヲ得其以外ハ稅關長ニ具申シテ指揮ヲ請フヘシ
- 第九條 監視署長ハ豫メ日誌ヲ設備シ巡察其他ノ事項ヲ詳記スルヲ要ス
- 第十條 監視署長ハ毎月初ニ於テ稅關長ニ定期ノ報告ヲ爲ス其事項ハ前月中ニ係ル重要事件ノ報告及稚内港船舶ノ出入ニ關スル統計報告トス
- 前項船舶出入ニ關スル報告ノ式ハ別紙書式ニ依ル

(書式畧ス)

九月九日十月一日ヨリ貨幣法施行ニ付同日以後壹分銀壹個價格ヲ金貨參拾壹錢五厘ト定メラル

○同月十八日勅令第三百三十八號ヲ以テ三十一年四月一日限り一圓銀貨通用禁セラル

備考

十月十五日當關關稅警察事務章程ヲ左ノ通り定ム

關稅警察事務章程

第一章 總則

- 第一條 關稅警察事務ハ輸出入貨物ノ取締船舶ノ監視水上及陸地ノ巡察旅具船用品冲賣商ニ屬スル物品及上屋ノ取締ニ關スル事項トス
- 第二條 輸出入貨物ノ取締ニ關シテハ稅關處務細則ヲ適用シ船舶ノ監視水上及陸地ノ巡察ニ關シテハ稅關官吏服務規程ヲ適用シ旅具船用品冲賣商ニ屬スル物品及上屋ノ取締ニ關シテハ本章程ヲ適用ス
- 第二章 旅具
- 第三條 外國ニ航行スル内外國船舶ヨリ上陸シ又ハ該船舶ニ搭載シテ外國ニ赴ク旅客ニ屬スル旅具ハ本章ノ規定ニ依リ其檢査ヲ執行ス
- 前項船舶ノ船員カ船内ノ必需品トシテ携帯スル物品ニ付テモ亦同シ
- 第四條 凡ソ旅客ニ屬スル旅具ノ數量ニ付其行旅ニ必要ナリト認ムヘキ限度ハ旅客ノ品格ニ因リテ定ムルモノトス因テ當該官吏ハ第五條及第六條ノ物品ニ付テハ檢査執行ノ際臨機ノ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第五條 左ニ記載スルモノハ當然行旅必要ノ物品トス
但旅客ノ品格ニ相應スル數量ヲ以テ限度トス

- 一 帽、傘、及杖
- 二 長短靴及「スリッパ」ノ類
- 三 旅氈、肩掛及毛布

第六條

- 四 手巾
- 五 化粧具
- 六 衣服及粧飾品
- 七 懷中時計及附屬品
- 第八條 左ニ記載スルモノハ旅客ノ品格ニ因リテ行旅必要ノ物品ナルト否トヲ定メ仍ホ其數量ヲ限定ス

- 一 旅用自轉車 壹個
- 二 「カメラ」 壹個
- 三 望遠鏡 壹個
- 四 雙眼鏡 壹個
- 五 旅用食器具類（ピクニック、バスケット）
- 六 旅用小寢臺及椅子（ケムブベッド）
- 七 旅用製藥類 少許
- 八 婦人小兒自携ノ玩具 少許
- 九 旅用筆紙墨文具 每種壹個
- 十 旅中携帶ノ樂器 價格凡ソ五圓以下
- 十一 旅用食物 旅中飲料入及栓ヲ抜キタル瓶入ノモノニ限ル
- 十二 旅用飲料
- 十三 煙草 百本入包裝ヲ開キタルモノ
- （イ）葉卷煙草

第七條

（口）紙卷煙草
 （ハ）刻煙草
 （ニ）嗅煙草及噬煙草
 旅客ノ職業ニ因リ又ハ學術研究ノ爲メニ要スル器械器具ノ類ハ行旅必要ノ物品ト看倣ス

遠洋漁業ニ要スル潜水器具及漁具ノ類ニシテ豫メ自ラ携帶スヘキコトヲ申告シタル者亦同シ

第八條

旅客ニ屬スル旅具ノ検査ヲ執行スルニハ努メテ敏捷ヲ主トシ苛察ニ涉ル無キヲ要ス

第九條

旅客ニ屬スル旅具検査ノ際ハ左ノ事項ニ注意スルコトヲ要ス

- 一 阿片若ハ阿片吸具ヲ旅具中ニ隱匿シ又ハ旅客ノ身體ニ夾帶スルコト無キヤ否ヤ
 - 二 寶石其他貴金屬ヲ旅具中ニ隱匿シ又ハ旅客ノ身體ニ夾帶スルコト無キヤ否ヤ
 - 三 前號ノ外法令ノ規定ニ違反スル物品ヲ旅具中ニ隱匿スルコト無キヤ否ヤ
- 第十條 旅客ニ屬スル物品中行旅必要ノ物品ト認ムヘカラサル者又ハ賣售ヲ要スト認ムル者ハ豫メ其價格ヲ鑑定スルコトヲ要ス若シ其價格金五圓以上ナルトキハ課税スヘキモノト爲シ其以下ハ無税通關ヲ許可スルコトヲ得

第十一條

旅客ニ屬スル旅具中ニ輸出入禁止ニ係ル物品アルトキハ直チニ之ヲ差押フヘシ又偽造若ハ變造ノ貨幣若ハ風俗ヲ害スル猥褻ノ圖書其他ノ物品アルトキハ速ニ監視部長ニ報告スヘシ

第十二條

税關監吏ハ旅客ノ身體ニ輸出入禁止ニ係ル物品ヲ夾帶スルノ嫌疑アルトキハ其檢視ヲ要ムヘシ若シ其要ニ應セサルトキハ即時監視部長ニ報告スヘシ

第三章 船用品

第十三條 左ニ記載スル者ヲ以テ船用品トス

- 一 糧食物
- 二 燃料
- 三 設備品

第十四條 前條第一號ノ糧食物ハ現ニ船員ノ需用ニ充タスニ足ルヘキ數量ヲ以テ限度トス但其積入ニ關シテハ畧式ノ申告ニ因リ其積入ヲ許可スルコトヲ得

第二號ノ燃料ハ石炭ニ限ルモノトス其船積數量ハ現ニ積入ヲ要スル船舶ノ炭艙ニ充タスニ足ルヲ以テ限度トス但其船積ニ關シテハ正式ノ申告書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

第三號ノ設備品ハ下等船客ノ座臥若クハ積荷ノ下敷ニ供用スル筵及積荷ノ下敷ニ供用スル敷木ノ二種トス其船積數量ハ現ニ其供用ニ充タスニ足ルト認ムル者ヲ限度トス但其船積ニ關シテハ正式ノ申告書ヲ提出セシムルヲ要ス

第十五條 凡ソ船舶ノ機裝ニ用フル物品又ハ船室内ノ備品ニシテ修繕ノ爲メ一時其陸揚ヲ要シ又ハ現ニ修繕ニ供用スル爲メ其船内ニ運移スルヲ要スルトキハ輸出入税ヲ免スル者ヲ除ク外處務細則ノ規定ヲ適用ス但些少ノ物品ニシテ一時其陸揚ヲ要スル者ニ付テハ便宜處分スルコトヲ得

第四章 沖賣商ニ屬スル物品

第十六條 沖賣商ニ屬スル物品ハ其船舶ニ供給スル者ニ付テハ運送前ニ其検査ヲ執行シ其買取ニ係ル者ニ付テハ陸揚ノトキ其検査ヲ執行ス

第十七條 前條ノ物品ニシテ輸出税若クハ輸入税ヲ課スヘキ者ニ係ルトキハ其鑑定價格金四圓

以上ニ限り正式ノ申告書ヲ提出セシメ一般ノ手續ヲ履行セシム其鑑定價格金四圓未滿ハ無稅通關ヲ許可スルコトヲ得

第十八條 沖賣商ニ屬スル物品中輸出入禁止ニ係ル者アルトキ又ハ偽造貨幣若ハ風俗ヲ害スル猥褻ノ圖書其他ノ物品アルトキハ本章程第十一條ノ規定ヲ適用ス

第十九條 沖賣商ノ買取ニ係ル物品ニハ其通關ヲ許可スル前檢印ヲ爲スコトヲ要ス前項ノ檢印ハ臘納獸皮ニ付テハ必ス每個ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 沖賣商ニ屬スル物品ハ其船舶ニ供給スルト買取ニ係ルトヲ論セス正式ノ申告書ノ提出ヲ要セサル者ニ限り別ニ帳簿ヲ設備シテ其品種及價格ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十一條 沖賣商カ物品ヲ供給スル爲メ又ハ物品ノ買取ヲ爲スカタメ船舶ニ赴クコトヲ許可スルハ日出ヨリ午後四時ニ至ル迄ヲ限リトシ其餘ノ時間ニ於テスルコトヲ得ス

第二十二條 稅關官吏服務規程第三十二條ニ依ル沖商ニ屬スル物品ノ制限ハ當分ニ之ヲ施行セス

第五章 上屋

第二十三條 上屋ノ扉ハ日出ニ開キ日沒ニ至リ之ヲ閉鎖スルコトヲ要ス因テ貨物ノ寄藏及其運出ハ臨時開應ノ場合ヲ除ク外右ノ開扉時限内ニ於テスルニ非サレハ之ヲ許可スルコトヲ得

第二十四條 貨物ノ寄藏ヲ許可スルハ其寄藏ノ日ヨリ起算シテ一週日ヲ超ユルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事情ニ因リ其運出ノ延期ヲ請フ者アルトキハ更ニ一週日ヲ限リ之ヲ許可スルコトヲ得

第二十五條 上屋内ニ於テ喫煙ハ勿論一切ノ火氣ヲ使用スルコトヲ禁スヘシ但日沒後燈火ヲ要スルトキハ硝燈ヲ限リ其使用ヲ許可スルコトヲ得

第二十六條 上屋ニ寄藏スル貨物ニ付テハ稅關監吏ハ寄藏ノ際其個數及記號番號ヲ調査シ仍ホ寄

藏ノ場所ヲ指示シテ他ノ貨物ト混同セシムルコト無キヲ要ス

第二十七條 稅關監吏ハ寄藏貨物ヲ運出スル者アルトキハ輸出貨物ニ付テハ乙船積免狀輸入貨物

ニ付テハ輸入免狀ニ照シテ其個數及記號番號ヲ調査シ而シテ後其運出ヲ許可スヘシ

○同月二十七日勅令第三百八十五號ヲ以テ協定稅率ノ便益ヲ受ケントスル輸入物品ノ製産原地證明ニ關スル件ヲ公布セラル

十二月二十日外國ヨリ輸入スル酒類ノ容量換算ニ關スル件ヲ左ノ通り定ム

一、仕入書ヲ添付セサル酒類ノ容量ハ渾テ實際ヲ調査シ米「ガルロン」ニ換算シテ申告書ニ記入ス

一、英國ヨリ輸入スル酒類ニシテ申告書ニ容量ノ記載アルモノハ實際ノ容量ヲ調査シ申告書面ト符合スルトキハ「インベリヤル、ガルロン」ト申告書ニ記入ス

一、佛國ヨリ輸入スル酒量ニシテ申告書ニ「リートル」ヲ記載シアルモノハ實際ノ容量ヲ調査シ相當ナルトキハ「リートル」ノ儘ニナシ置クナリ

○同月同日外國ヨリ輸入スル物品見本取扱方ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、見本品ニシテ後ニ實用ヲ爲シ得サルモノハ多寡ヲ問ハス都テ見本品トシテ通關ヲ許可ス

一、見本品ニシテ後ニ實用ヲ爲シ得ルモノモ鑑定價格金拾圓ヲ超ヘサルトキハ前項ニ準シテ通關ヲ許可ス

○同月二十四日函館稅務管理局長ノ照會ニ依リ酒精取締方左ノ通定ム

酒精取締方

第一條 稅關監吏補ハ本港内ニ來ル沿海通航船ノ船長ニ對シ稅關處務細則ノ規定ニ依リ尋問ヲ爲

スノ際船長又ハ事務長ニ就キ酒精ヲ搭載スルコト無キヤ否ヤヲ尋問シ及船客ノ手荷物中酒精ノ現存スルコト無キヤ否ヤヲ調査スヘシ

第二條 稅關監吏補ハ前條ノ尋問又ハ調査ニ因リ酒精ノ現存スルコトヲ認知シタルトキハ其數量及荷主若ハ荷受人ノ住所氏名ヲ聞糺シ歸關ノ後監視部長ニ報告スヘシ

第三條 監視部長ハ前條ノ報告ニ接シタルトキハ直ニ其旨ヲ函館稅務署ニ内報スヘシ

第四條 外國ヨリ酒精輸入アリタルトキハ鑑定課長ハ其數量及荷受人ノ氏名ヲ函館稅務署ニ内報スヘシ

○同月三十日本關所屬天神町九十番地地所建物ヲ函館稅務管理局ニ引繼ク其目錄左ノ如シ

目錄

函館區天神町九十一番地

一 地所

壹箇所

此坪百參拾壹坪七勺

同番地所在

一 木造二階建家屋

壹棟但貳戶

内造作物品

壘

古拾四枚

襖

四拾貳枚

障子

貳拾六枚

板戸

四枚

一 板屏

參拾參間

以上

明治三十一年

一月二十日船見町四拾六番地ノ内所在官舎四棟九戸ヲ函館稅務管理局ニ引繼ク
二月一日來ル三月ヨリ本關稅關監吏補定員貳名ヲ減セラル
三月七日本關ニ於テ海關稅々關諸收入及其他ノ歲入取扱規程ヲ左ノ通り定ム
海關稅々關諸收入及其他ノ歲入取扱規程

第一章 一般ノ收入

第一條 稅關長又ハ稅關支署長ハ收入調定元帳ヲ設備シ海關稅々關諸收入及其他ノ歲入豫算ノ
令達アリタルキハ其金額ヲ豫算額ノ欄内ニ登記シ該豫算ニ對スル海關稅々關諸收入及其他
ノ歲入ノ收入スヘキ者アルキハ毎時其金額ヲ調定額欄内ニ登記ス乃チ納入告知書(第二號)ニ
金額其他ノ事項ヲ記入シ捺印ノ上調定元帳ニ割印シ之ヲ收入官吏ニ送付ス
官吏遺族扶助法ニ依ル納金及製艦費補足金ノ調定ニ付テハ通知書ヲ收入官吏ニ送付ス
前項通知書ノ書式ハ別紙第一號書式ニ依ル

第二條 收入官吏ハ納入告知書及其他ノ通知書ヲ受ケタルトキハ收入簿(明治廿六年十一月大藏省令
第三十二號ノ第十一號書式)
調定濟額ノ欄内ニ其金額ヲ登記シ納入告知書ハ直ニ納入ニ交付ス

第三條 收入官吏ハ金庫ヨリ領收濟ノ通知書及國庫納金引去高收入報告書(明治廿三年七月大藏省訓
令第三百十三號ノ第二號書式)
ヲ受ケタルトキハ收入簿收入濟額ノ欄内ニ其金額ヲ登記シ通知書及報告書ハ證書ト
シテ保存スルコトヲ要ス

第二章 現金收入

第四條 海關稅々關諸收入及其他ノ歲入ヲ現金ニテ收入スルコトヲ得ルハ金庫開庫時間外ニ在

テ其收入ヲ爲スヲ要スル時ニ限ル

第五條 前項ノ規定ニ依リ現金ノ收入ヲ要スルキ稅關長又ハ稅關支署長ニ於テ履行スヘキ記帳
其他ニ關スル手續ハ第一條ニ同シ但納入告知書ハ明治二十六年十二月大藏省訓令第四十二
號乙號書式ヲ用フルコトヲ要ス

第六條 現金出納官吏ハ現金出納簿ヲ設備シ現金ノ出納ヲ爲ス毎ニ其金額ヲ登記スヘシ現金出
納簿ノ法式ハ明治二十六年十一月大藏省令第三十二號第十四號書式ニ依ル

第七條 現金出納官吏ニ於テ受領シタル現金ハ金庫ノ開クルヲ俟テ現金拂込書(明治廿六年十一月
大藏省令第三十二號書式)
ヲ添付シテ金庫ニ拂込ミ其拂込ヲ證スル爲メ拂込書ニ接續スル別符ノ領收證書ヲ金
庫ヨリ受領シ之ヲ收入官吏ニ送付ス

第八條 本章ノ規程ニ依リ收入スル現金ノ拂込ニ付テハ特別ノ規程アル者ヲ除ク外明治二十二
年十月大藏省令第十三號出納官吏現金取扱規則第十五條ノ但書ヲ適用スルコトヲ得ス

第九條 收入官吏ハ現金拂込書ニ接續スル別符ノ領收證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其金額ヲ收
入簿ノ收入濟額欄内ニ登記ス

第十條 稅關長又ハ稅關支署長ハ現金出納官吏カ現金ヲ拂込ミタルニ因リ金庫ヨリ會計規則第
二十七條ニ依ル領收濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ收入調定元帳ニ對照シ其收入濟ノ旨ヲ證
ス

第三章 收入報告

第十一條 收入官吏ハ金庫ヨリ歲入金月計對照表(明治二十六年十一月大藏省訓令
第三十九號第六十三條第二書式)及雜部金月計對照表
(明治二十六年十一月大藏省訓令
第三十九號第六十三條第五書式)ノ送付ヲ受ケタルトキハ明治二十六年十一月大藏省訓令第六十
五號ノ旨趣ニ基キ收入簿及現金出納簿ニ對照調査シ其相違ナキヲ認メ其旨ヲ證明シテ署名

捺印シ三日以内ニ金庫ニ送付ス

第十二條 主任收入官吏及分任收入官吏ハ毎月收入報告表(明治廿六年十一月大藏省令第三十二號第四號書式)ヲ調製シ分任收入官吏ハ主任收入官吏ニ主任收入官吏ハ税關長ニ提出ス其取扱手續及提出ノ時期ハ明治二十六年十一月大藏省訓令第四十二號諸收入收納取扱規程第十三條及第十四條ニ依ル

第四章 計算書及證憑書類

第十三條 税關長ハ會計規則第五十二條第二項ニ依リ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度經過後五ヶ月以内ニ歳入調定額計算書ヲ大藏省ニ送付ス因テ徵收課長及庶務課長ハ明治二十七年四月會計検査院達第十號及明治二十七年三月會計検査院達第八號ニ依リ各々計算書ヲ調製シ税關長ニ提出スヘシ計算書ノ細目ハ左ノ如シ

- 一 徵收課長ノ調製スヘキモノ
 - 一 海關稅調定額計算書(明治二十七年四月會計検査院達第十四號ノ第二號書式)
 - 二 税關雜收入調定額計算書(明治二十七年四月會計検査院達第十四號ノ第一號書式)
 - 三 預稅明細書(明治二十七年四月會計検査院達第十四號ノ第三號書式)
 - 四 海關稅調定超過額明細書(明治二十七年四月會計検査院達第十四號ノ第四號書式)
 - 五 假預無請求品公賣代明細書(明治二十七年四月會計検査院達第十四號ノ第五號書式)
 - 六 税關雜收入調定超過額明細書(明治二十七年四月會計検査院達第十四號ノ第六號書式)
- 二 庶務課長ノ調製スヘキモノ
 - 一 歳入經常部及臨時部調定額計算書(明治二十七年三月會計検査院達第八號書式)
 - 二 歳入經常部内譯(検査院達第八號書式)
 - 三 歳入臨時部内譯(明治二十七年三月會計検査院達第八號書式)

海關稅及税關雜收入調定ニ關スル證憑書類ハ其毎月分ヲ翌々月末迄ニ又租稅外收入調定ニ關スル證憑書類ハ毎年度經過後五ヶ月以内ニ大藏省ニ送付スルモノトス因テ徵收課長ハ明治二十七年四月會計検査院達第十四號海關稅及税關雜收入調定額證明規程第七條ニ依リ證憑書類ヲ各目ニ區分シ其金員枚數ヲ表記シ尙細別ヲ要スルモノハ適宜其區分ヲ爲シ各目ノ枚數僅少ナルトキハ合冊ト爲ス等整理編纂ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條 税關支署長ハ海關稅及税關雜收入調定ニ關スル證憑書類ヲ各目ニ區分編纂シ其一箇月分ヲ翌月一日ヲ限リ本關ニ發送スヘシ

徵收課長ハ前項ノ證憑書類ヲ接受シタルトキハ各書類ニ付稅率ノ適用又計算ノ當否ヲ調査シ仍ホ調定額ノ各目ノ計ト收入報告表ノ各目トヲ對照シテ調定額ニ對スル收入額ノ符合スルヤ否ヤヲ查明シ而シテ後第十三條第二項ノ旨趣ニ基キ整理編纂ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 主任收入官吏ハ會計規則第九十五條ニ依リ會計検査院ノ檢査判決ヲ受クル爲メ一般ノ收入ニ付テハ毎年度經過後五箇月以内ニ現金ノ出納ニ付テハ毎年度二ヶ月以内ニ左ノ計算書ヲ調製シ税關長ヲ經由シテ大藏省ニ送付ス

- 一 一般ノ收入ニ係ルモノ
 - 一 海關稅收入計算書(明治二十七年四月會計検査院達第十五號ノ第一號書式)
 - 二 税關雜收入計算書(明治二十七年四月會計検査院達第十五號ノ第三號書式)
 - 三 歳入經常部及臨時部收入計算書(第廿九號書式)
- 右ノ計算書ニハ明治二十七年四月會計検査院達第十五號海關稅及税關雜收入收入證明規程第八條第二號ニ依リ税關長ノ保證書ヲ添付スルモノトス因テ徵收課長ハ税關長代理ノ資格ヲ以テ各税關支署分任收入官吏ノ提出セシ收入報告表ト收入簿及現金出納簿

トノ對照調査ヲ爲シテ其符合ヲ認ムルコトヲ要ス
二 現金ノ收入ニ係ルモノ

- 一 海關稅現金出納計算書(明治二十七年四月會計檢査院達第十五號ノ第二號書式)
 - 二 稅關雜收入現金出納計算書(明治二十七年會計檢査院達第十五號ノ第四號書式)
 - 三 歲入經常部及臨時部現金出納計算書(明治二十四年會計檢査院達第十二號書式)
- 右ハ年度經過後二ヶ月以内ニ調製シ稅關長ノ保證書ニ添付シテ大藏省ニ送付ス
第何號

調定濟額通知書

明治何年度歲入經常部(臨時部)

大藏省主管第何號(仕拂命令番號)

一金何程

但官吏遺族扶助法納金(製艦費補足金)

同 第何號

但前同斷

右之通り

明治何年何月何日

函館稅關長 氏 名 印

函館稅關主任收入官吏 氏 名 宛

○同月八日明治三十年七月九號達稅關官吏服務規程ヲ改正追加ス

參照

稅關官吏服務規程

第五條第二項中「當直者ハ」ノ次ニ「休日ヲ除ク外毎日」ノ八字ヲ加フ

第七條中監視ノ次ニ「及ヒ巡察」ノ四字ヲ加ヘ「又欲勤者多キトキ」トアルヲ「欲勤者アルトキ」ト改ム

第十一條第二項第五號中「明番者ヲ以テ補充シ仍ホ足ラサルトキハ每次ノ上監ヲ繼續セシムルコトヲ得」トアルヲ「毎上ノ上監ヲ繼續セシメ仍ホ足ラサルトキハ明番者ヲ以テ補充スルコトヲ得」ニ改ム

同 條第三項第一號中「概子二時間」トアルヲ「概子一時間」ト改メ「其ノ順位ハ」以下左ノ如ク改ム

同 其順位ハ船舶ノ上監ニ該ラサルモノニ付當直者ヲ先ニシ次ニ宿直宵番者ヲ以テシ其次ニ宿直曉番ヲ以テス但翌日日出ヨリ午前九時ニ至ルノ間ハ曉番者ヲ先ニシテ宵番者ヲ後ニシ順次交代セシム

同 條第二項第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ從前ノ七八九ヲ八九十ト爲ス

同 七、凡ソ上監勤務ニ該ル者其勤務カ二時間ニ滿タスシテ終了シテ他ニ助勤者ノ上監ヲ爲ス場合ニ於テハ當該上監者ヲ以テ助勤者ニ代ハラシム又第一次ノ上監ヲ爲ス者現ニ交代時限ニ及フモ其勤務カ一時間以内ニテ終了スヘキトキハ仍ホ其勤務ヲ繼續セシム

第十二條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘテ第十三條トナシ第十三條以下順次繰下ク

第十三條 凡ソ上監點數ハ每一次ノ上監勤務ニ對シテ一點ヲ付スルヲ例トス每一次ノ上監勤務時限ニ長短アルトキハ左ノ例ニ照シテ計算ス

一 上監勤務ニ該ルモノ其上監カ一時間ニ滿タサルモ數回ニ及フトキハ其一時間ニ滿ツルヲ俟ツテ一點ヲ付シ其五時間ニ滿ツルトキハ二點ヲ付ス

二 上監勤務ニ該ル者其上監カ一時間以上ニシテ二回以上ニ及フモ上監點數ハ仍ホ一點ヲ付ス

三 上監勤務ニ該ルモノ交代時限ニ及フモ仍ホ勤務ヲ繼續スル場合ニ於テ其上監カ

- 第十四條中「勤務時限ノ特免」トアルヲ「勤務即チ」ト改メ本項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 - 第十九條中「日記」トアルヲ「日誌」ト改メ「日記ニ記載ス」ノ次ニ「又毎月沿海通航船ノ出入港表ヲ調製シテ税關長ノ閱覽ニ供ス」ノ二十七字ヲ加フ
 - 第二十條中「税關長トアルヲ」「上官」ト改メ左ノ一項ヲ加フ
 - 第二十八條第一號中「船卸ノ都度其個數ヲ」ノ次ニ「式ノ如ク」ノ四字ヲ加ヘ「其書式ハ第一號ニ依ル」トアルヲ「船卸認許用紙及船卸證書ノ記載方式ハ第一號書式ニ依ル」ト改ム
 - 第三十條中「貨物ヲ受授スルトキハ」ノ次ニ「外國通航船又ハ外國船舶ニ對シテハ」ノ十六字ヲ加フ
 - 第三十四條「事故記」トアルヲ「上監手帳」ト改ム
 - 第三十六條第二號中「封緘ノ破毀スル者アルトキハ」ヲ「封緘ヲ破毀セシ者アルトキハ」ニ改ム
 - 第四十二條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 - 第四十三條中「直ニ該船舶ニ上リ尋問ヲ爲ス又」トアルヲ「直ニ該船舶ニ上リ尋問ヲ爲シ其他現ニ外國通航船若クハ外國船舶ノ入港シ出港スルトキカ又ハ其碇泊中ノ位置ヲ變シタリト認ムルトキ又ハ」ニ改ム
 - 第四十四條中「事故記」トアルヲ「税關監吏補巡廻票」ト改ム
- 同月同日明治三十年七月十一號達税關監吏補賞罰規則施行内規ヲ改正追加ス

參照

- 税關監吏補賞罰規則施行内規
 - 第五條第九號中「毎年七月及十二月」トアルヲ「毎年三月及九月」ト改ム
 - 第七條第四號ノ末尾ニ「又ハ水上巡察中現ニ外國通航船若クハ外國船舶ノ碇泊セシコトヲ認知セサルトキ」ノ三十五字ヲ加フ
 - 同 條第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
 - 六、證票等ニ疎漏ノ記載アリタルトキ
 - 第八條第九號中「事故記」トアルヲ「税關監吏補巡廻票」ト改メ同第十號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘテ第十一トナシ第十一ヲ第十二ト爲ス
 - 十一、上官ノ指示ニ違ヒ職務ノ執行ヲ怠リタルトキ八等乃至十等
- 同月九日日本關定員ヲ屬拾參人鑑定官補貳人監吏參人監吏補拾四人ト改定セラル○同月十八日税關經費配賦取扱順序ヲ改正セラル○同月二十六日税關臨時出務規程ヲ定メ四月一日ヨリ施行セラル
- 同月三十日當關ニ對シ申告者ノ使用スル申告書其他ノ用紙賣捌方ヲ當區渡邊政次郎ニ許可ス

命令書

北海道渡島國函館區東濱町貳番地

渡邊政次郎

今般當税關ニ對シ申告人ノ使用スル申告書其他ノ書式用紙印刷ノ上賣捌方許可候ニ付即チ左ニ命令スル條項堅ク遵守スヘシ

第一條 申告書其他ノ書式用紙ハ當税關ヨリ指示スル書式ニ從ヒ印刷スヘシ

第二條 賣捌ヲ爲スヘキ申告書其他ノ書式用紙ハ別紙目錄記載ノ種類ニシテ其賣捌定價ハ該目錄ニ掲記スル價格ヨリ超過スルコトヲ得ス